

令和2年度実施
「鳥取大学の教育力」
アンケート調査結果報告書

令和4年2月
教育支援・国際交流推進機構

目 次

調査の概要.....	1
・調査の趣旨・目的	1
・調査対象.....	1
・実施方法・回答率.....	2
・調査内容.....	2
・調査結果の分析と報告書の構成	3
第 I 部 学部卒業生に対する調査結果	4
調査概要	5
第 1 章 全学 集計結果	7
・回答者全体の属性.....	8
・総合的な満足度.....	13
・教育・研究の充実度	15
・交流活動・支援体制の充実度	23
・大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力	29
・社会に出て教育成果として役立った DP 能力	37
・修得度×役立ち度.....	45
・学んでおけば良かったこと.....	46
・H29・R2 比較	47
第 2 章 学部別 集計結果	52
・地域学部.....	53
・医学部.....	66
・工学部.....	79
・農学部.....	92
第 II 部 大学院修了生に対する調査結果.....	105
調査概要	106
・回答者全体の属性.....	107
・総合的な満足度.....	112
・教育・研究の充実度	114
・大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力	120
・社会に出て教育成果として役立った DP 能力	128
・修得度×役立ち度.....	136
・修得度×もっと学んでおけば良かったと思う DP 能力	137

第Ⅲ部 グローバル教育（該当する学生のみ）	138
・海外研修・留学プログラムの目的	139
・海外研修・留学プログラムの満足度	140
・海外研修・留学プログラムでの能力・知識等の修得度	141
・海外研修・留学プログラムに対する 具体的な事例等（自由記述）	142
第Ⅳ部 就職先企業に対する調査結果	144
調査概要	145
第1章 回答企業の属性・新卒者一般に関する回答	146
・回答企業全体の属性	147
・新卒採用時に重視する能力・態度等	149
・学部卒業生・大学院修了生に求める能力・態度等の違い	150
・学部卒業生・大学院修了生に求める能力・態度等の違い（具体的記述）	151
第2章 本学卒業生に関する回答	152
・本学卒業生の採用実績	153
・本学卒業生のイメージ	155
・本学卒業生のイメージ（具体的記述）	156
・新卒採用時に重視する能力・態度等 ×身についている DP 能力	159
・本学卒業生の DP 能力	160
・教育・学生支援に対する意見・要望等（自由記述）	162
第Ⅴ部 就職先企業・学部卒業生・大学院修了生のデータ関連性	164
・分析の観点	165
・設問項目の関係	166
・【修得度】企業の評価×学部卒業生の自己評価	167
・【修得度】企業の評価×大学院修了生の自己評価	169
・【修得度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価	171
・【要望度】企業の評価×学部卒業生の自己評価	172
・【要望度】企業の評価×大学院修了生の自己評価	174
・【要望度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価	176
・【ギャップ度】企業の評価×学部卒業生の自己評価	177
・【ギャップ度】企業の評価×大学院修了生の自己評価	179
・【ギャップ度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価	181
・【不足度】企業の評価×学部卒業生の自己評価	182
・【不足度】企業の評価×大学院修了生の自己評価	184
・【不足度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価	186

第VI部 まとめ.....	187
資料.....	198
・平成 29 年度及び令和 2 年度の比較データ	199
・「鳥取大学の教育力アンケート」調査票	203

調査の概要

1. 調査の趣旨・目的

本学は、基本理念「知と実践の融合」のもと、学則で教育の目標を定めるとともに、これを「教育グランドデザイン」として具現化し、「現代的教養と人間力を根底に置いた教育」を展開することによって、「社会の中核となり得る教養豊かな人材の育成」を目指している。

これまでに、学外者等からの客観的な意見を聴取し、本学の教育内容等の改善に活かすことを目的として、第1期（平成19年度）、第2期（平成24年度）及び第3期（平成29年度）に、本学の卒業生等へのアンケート調査を全学的に実施し、学生の本学に対する満足度、在学中に修得した能力・知識の修得度、社会に出てからの役立ち度等について分析を行い、教育改善等に活用してきた。

<参考：過去の実施状況>

実施年度	対 象	卒業・修了年度	備 考
平成 19年度	学部卒業生 大学院修了生	平成11年3月 ～平成16年3月	日経リサーチ (21世紀大学経営協会)
平成 24年度	学部卒業生 大学院修了生 卒業（修了）生の就職先企業	平成20年3月 ～平成24年3月	鳥取大学の教育力アンケート 報告書としてHPで公表
平成 29年度	学部卒業生 大学院修了生 卒業（修了）生の就職先企業	平成25年3月 ～平成29年3月	鳥取大学の教育力アンケート 報告書としてHPで公表

第3期中期目標期間においては、「学部・研究科における教育効果及び学生が身につけた能力等を検証するため、学生の成績情報等を基に学修成果を可視化するとともに、卒業生（修了生）及び就職先企業に対するアンケートを3年毎に実施し、その結果を教育プログラムの改善に活用する。」ことを明確に計画として掲げている。そこで、前回（平成29年度）調査後から3年が経過した令和2年度に、以下の3つを目的として実施し、その結果を教育プログラムの改善に活用することとする。

1. 卒業生・修了生から見た本学における教育効果とその役立ち度
2. 就職企業から見た本学学生の学修成果の把握
3. 学位授与方針に示された学修成果（DP能力）が修得されたかどうかの検証

2. 調査対象

調査対象とする学部及び大学院、就職先企業及び期間は、以下のとおりである。

学 部	地域学部，医学部，工学部，農学部
大学院	地域学研究科，医学系研究科，工学研究科，農学研究科，持続性社会創生科学研究科
就職先企業	上記の卒業生・修了生の就職先企業
卒業・修了年月	平成30年3月～令和2年3月 * 社会に出てからの教育成果の役立ち度を問うため、卒業（修了）後、1年以上が経過した学生を対象とする。

3. 実施方法・回答率

- ・学務支援システムに登録された，卒業生・修了生の保証人データを利用して，保証人先へアンケートの協力依頼を行った。
- ・教育支援・国際交流推進機構キャリアセンターが保有する卒業生・修了生の就職先企業のデータを利用して，企業へアンケートの協力依頼を行った。
- ・アンケートの実施方法は，Web アンケート方式（Google フォームを活用）とした。スマートフォンによる回答を可とするため，URLに加えQRコードを案内した。
- ・アンケートは，令和3年3月下旬に送付を行い，令和3年5月末に回答を締め切った。
回答率は以下のとおりである。

対 象	送 付 数	回 答 数	回 収 率	有効回収率
学部卒業生	3,349 (71)	443	13.2%	13.5%
大学院修了生	901 (21)	178	19.8%	20.2%
就職先企業	1,684 (74)	289	17.2%	18.0%

* 送付数の（ ）内は，住所不明等による日本郵便株式会社からの返却数を示す（内数）。

4. 調査内容（別紙調査票のとおり）

アンケート調査票は，学部卒業生用・大学院修了生用・就職先企業用の3種類とした。
主な内容及び調査項目は，次のとおりである。

【卒業生】	Q 1：基本属性（卒業時期／卒業した学部学科） Q 2：現在の職業・業種 Q 3：鳥取大学の教育と研究の充実度 Q 4：鳥取大学の交流活動とサポート体制の充実度 Q 5：鳥取大学に対する総合的な満足度 Q 6：鳥取大学での DP 能力の修得度 Q 7：鳥取大学での学修成果の役立ち度 Q 8：社会に出てから役立った具体的な事例（自由記述） Q 9：教育・学生支援の改善に対する意見・要望等（自由記述） <u>グローバル教育（該当する学生のみ）</u> Q 1：海外研修・留学プログラムの目的 Q 2：海外研修・留学プログラムの満足度 Q 3：海外研修・留学プログラムでの能力・知識等の修得度 Q 4：海外研修・留学プログラムに対する具体的な事例等（自由記述）
【大学院修了生】	Q 1：基本属性（修了時期／修了した研究科専攻） Q 2：現在の職種・業種 Q 3：鳥取大学大学院の教育や研究の充実度 Q 4：鳥取大学大学院に対する総合的な満足度 Q 5：鳥取大学大学院での DP 能力の修得度 Q 6：鳥取大学大学院での学修成果の役立ち度 Q 7：社会に出てから役立った具体的な事例（自由記述） Q 8：研究指導の改善に対する意見・要望等（自由記述）
【就職先企業】	Q 1：従業員規模

	Q 2：業種 Q 3：本社所在地 Q 4：鳥取大学卒業生の採用実績（人数） Q 5：鳥取大学卒業生の採用実績（学部・研究科） Q 6：新卒採用活動で重視する学生の能力・態度等 Q 7：学部卒業生・大学院修了生に求める能力・態度等の違い Q 8：鳥取大学卒業生のイメージ Q 9：鳥取大学卒業生の DP 能力 Q10：教育・学生支援に対する意見・要望等（自由記述）
--	---

5. 調査結果の分析と報告書の構成

調査結果については、第Ⅰ部（学部卒業生）は高等教育開発センター武田教授，小林教授，瀬戸准教授，田鍋准教授，第Ⅱ部（大学院修了生）はデータサイエンス教育センター井上教授，第Ⅲ部（グローバル教育）は教養教育センター箕輪准教授，第Ⅳ部（就職先企業）についてはキャリアセンター長尾准教授，前回調査との比較については，学長室大野教授が中心となり，それぞれ分析・とりまとめを行った。

第Ⅰ部は、「学部卒業生」に対する調査結果であり，主に本学の教育・研究等に対する満足度，大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力，卒業後に役立った DP 能力について，第 1 章では大学全体，第 2 章では各学部毎の結果について分析を行っている。併せて，平成 29 年度のアンケート結果との比較も行っている。

第Ⅱ部は、「大学院修了生」に対する調査結果であり，学部卒業生と同様に，主に本学大学院の教育・研究内容の充実度，大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力，社会へ出てから役立った DP 能力について分析を行っている。

第Ⅲ部は、「グローバル教育」に対する調査結果であり，海外研修・留学プログラムに参加した目的，満足度，修得した能力・知識等について分析を行っている。

第Ⅳ部は、「就職先企業」に対する調査結果であり，第 1 章として企業が一般的に採用時に重視する学生の能力・態度等について，第 2 章では，企業から見た本学卒業生の印象，DP 能力等について分析を行っている。

第Ⅴ部は，就職先企業・学部卒業生・大学院修了生への調査で共通する学部・研究科における教育成果について，関連性の分析を行っている。

なお，各グラフに記載の構成比の数値は，小数点以下第 2 位を四捨五入しているため，個々の集計値の合計は必ずしも 100%とならない場合がある。

第 I 部

学部卒業生に対する

調査結果

調査概要(1/2)

1. 目的

学部卒業生を対象として、本学が実施した教育の効果ならびに学生が身につけた学習の成果等を把握する。

2. 対象

平成30年3月～令和2年3月卒業生（過去3か年）

3. 実施・回答時期

令和3年3月下旬に対象者へ依頼、5月末回答締切

4. 実施方法

卒業生の保証人先にアンケート協力依頼文書を送付。アンケートの実施方法は、Webアンケート方式（Google フォームを活用）とした。

5. サンプル件数

3,349件送付、443件回収（回収率13.2%）

調査概要(2/2)

6. アンケート項目

- Q 1 : 基本属性 (卒業時期 / 卒業した学部学科)
- Q 2 : 現在の職業・業種
- Q 3 : 鳥取大学の教育と研究の充実度
- Q 4 : 鳥取大学の交流活動とサポート体制の充実度
- Q 5 : 鳥取大学に対する総合的な満足度
- Q 6 : 鳥取大学での DP 能力の修得度
- Q 7 : 鳥取大学での学修成果の役立ち度
- Q 8 : 社会に出てから役立った具体的な事例 (自由記述)
- Q 9 : 教育・学生支援の改善に対する意見・要望等 (自由記述)

<グローバル教育 (該当する学生のみ) >

- Q 1 : 海外研修・留学プログラムの目的
- Q 2 : 海外研修・留学プログラムの満足度
- Q 3 : 海外研修・留学プログラムでの能力・知識等の修得度
- Q 4 : 海外研修・留学プログラムに対する具体的な事例等 (自由記述)

第1章

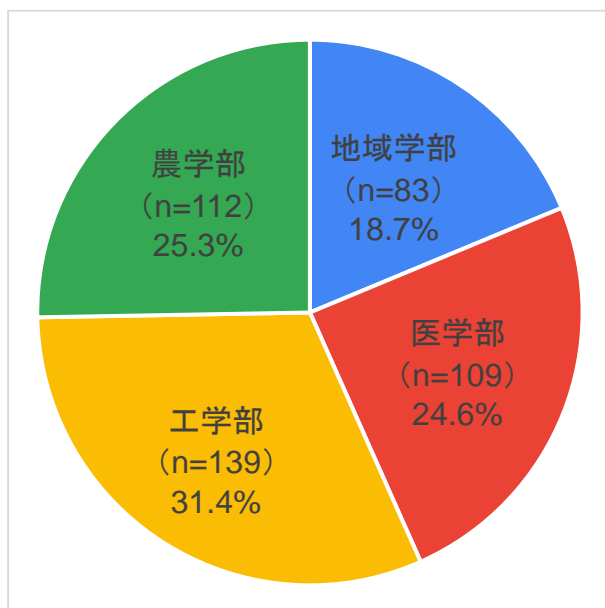
全学 集計結果

回答者全体の属性(1/5)

<学部学科>

【学部別・全体】

地域学部	医学部	工学部	農学部	計
83	109	139	112	443
18.7%	24.6%	31.4%	25.3%	100.0%



【学部別×学科別】

地域学部	政策	教育	文化	環境	計
	26	24	20	13	83
	31.3%	28.9%	24.1%	15.7%	100.0%

医学部	医	生命	看護	検査	計
	31	21	32	25	109
	28.4%	19.3%	29.4%	22.9%	100.0%

工学部	機械物理	電気情報	化学バイオ	社シス土木	機械	知能情報	計
	21	15	32	23	6	2	
	15.1%	10.8%	23.0%	16.5%	4.3%	1.4%	100.0%
工学部	電気電子	物質	生物応用	土木	社シス	応用数理	計
	8	6	7	10	4	5	139
	5.8%	4.3%	5.0%	7.2%	2.9%	3.6%	100.0%

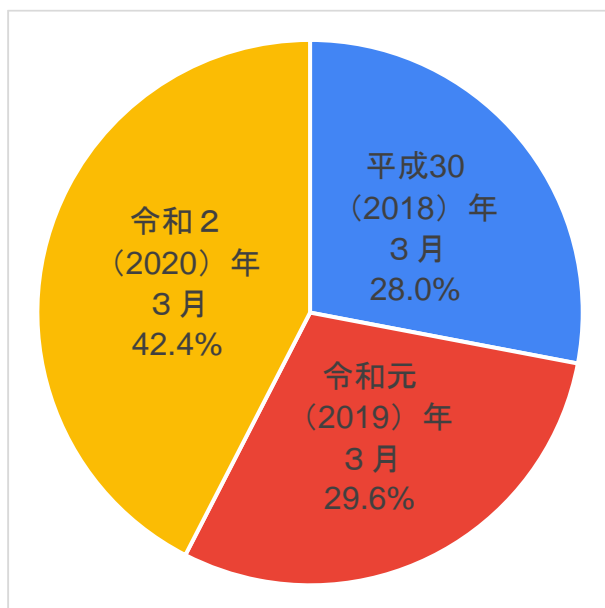
農学部	共同獣医	生物	獣医	計
	13	92	7	112
	11.6%	82.1%	6.3%	100.0%

回答者全体の属性(2/5)

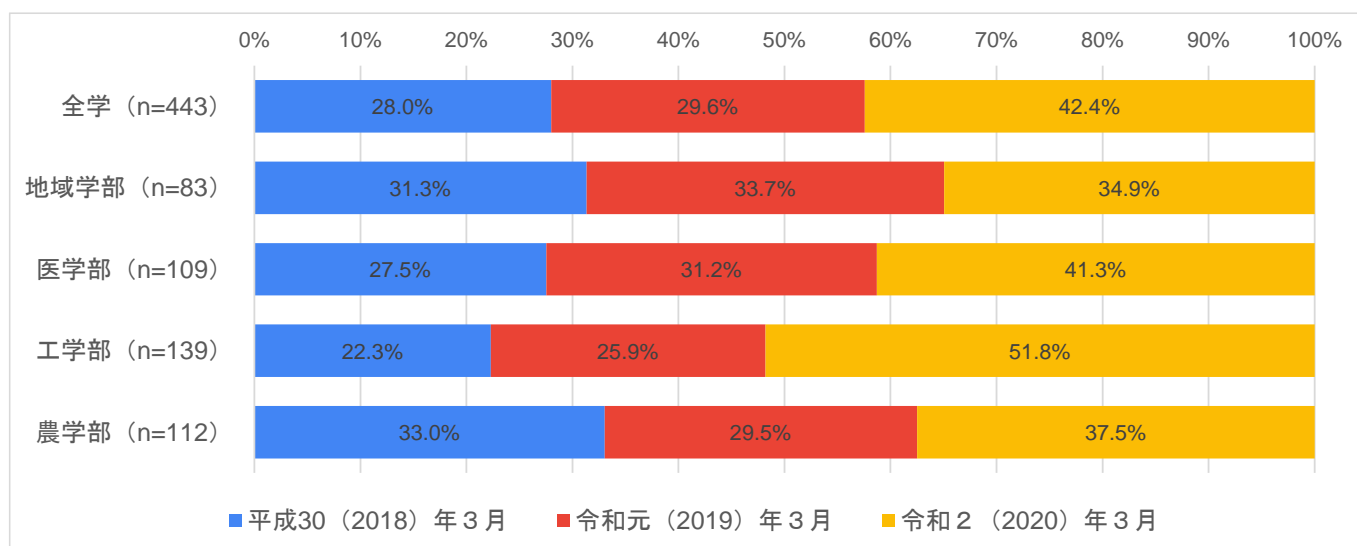
<卒年>

【卒年別・全体】

平成30年3月	令和元年3月	令和2年3月	計
124	131	188	443
28.0%	29.6%	42.4%	100.0%



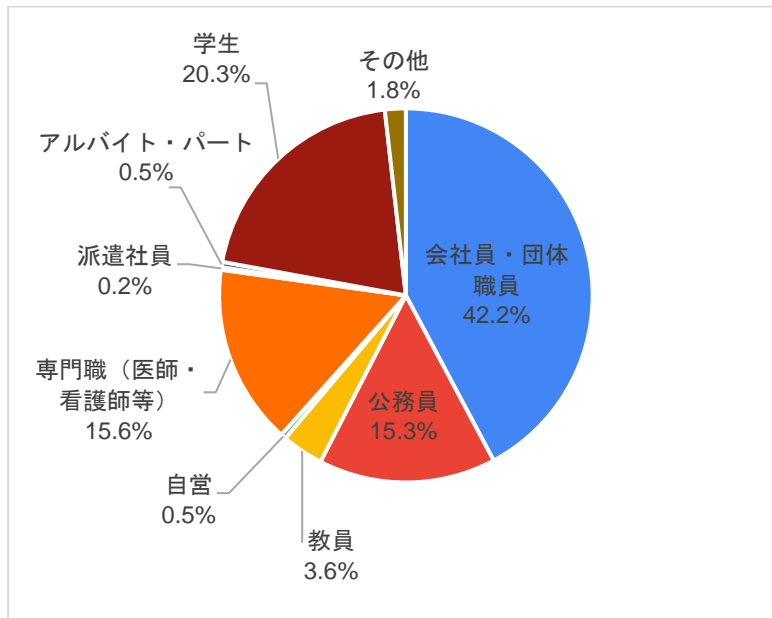
【卒年別×学部別】



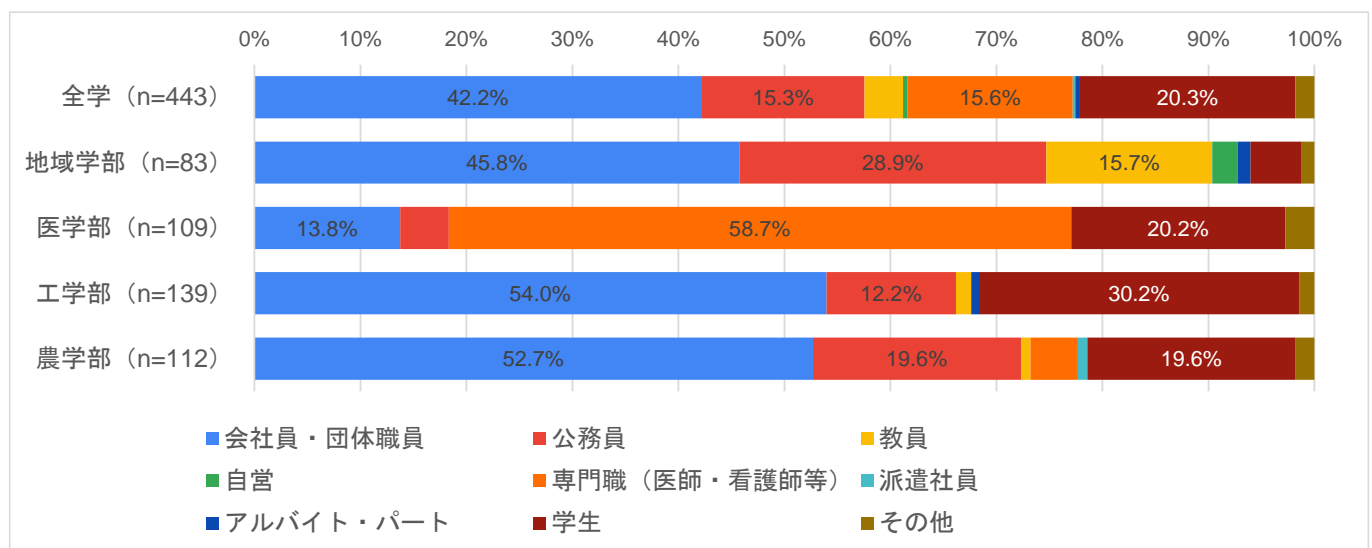
回答者全体の属性(3/5)

<現在の職業>

【現在の職業・全体】



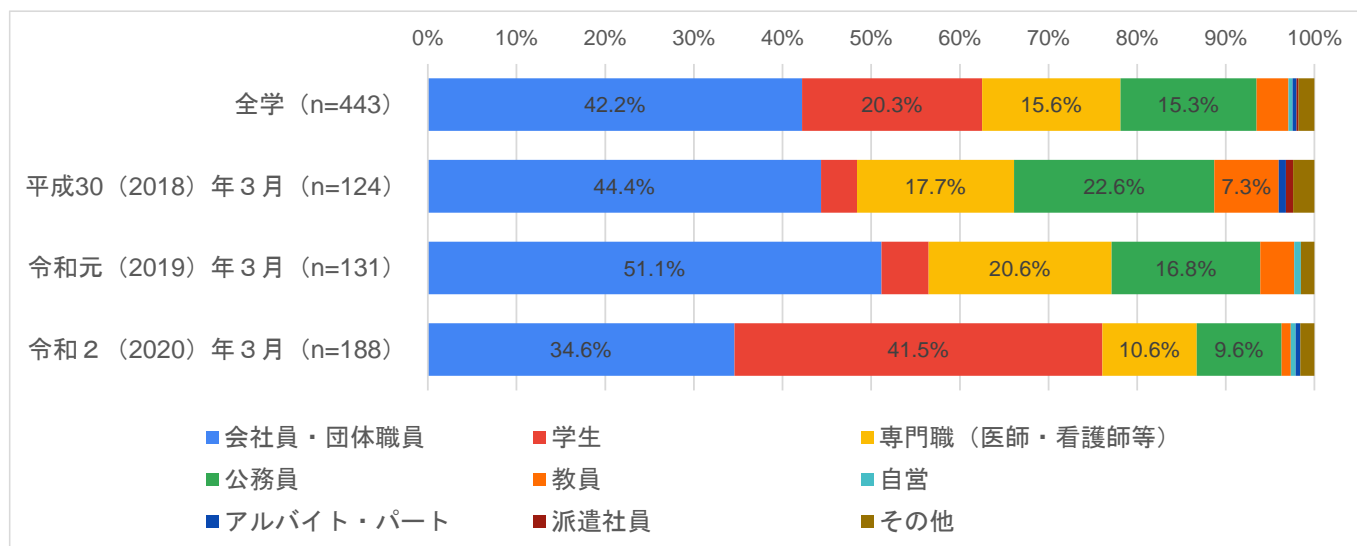
【現在の職業×学部別】



回答者全体の属性(4/5)

<現在の職業>

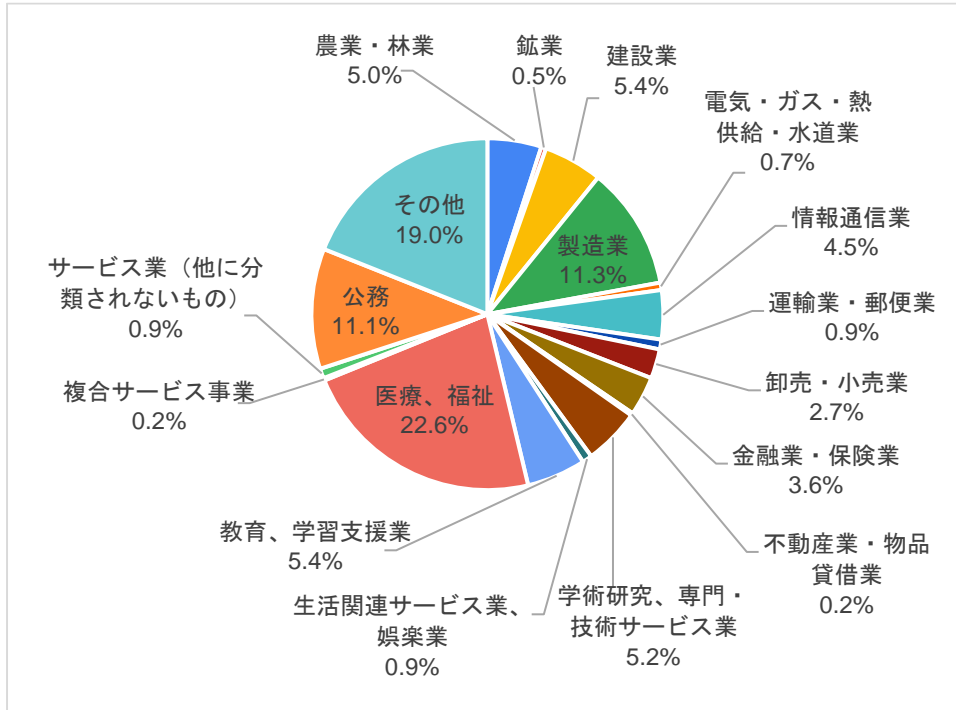
【現在の職業×卒年別】



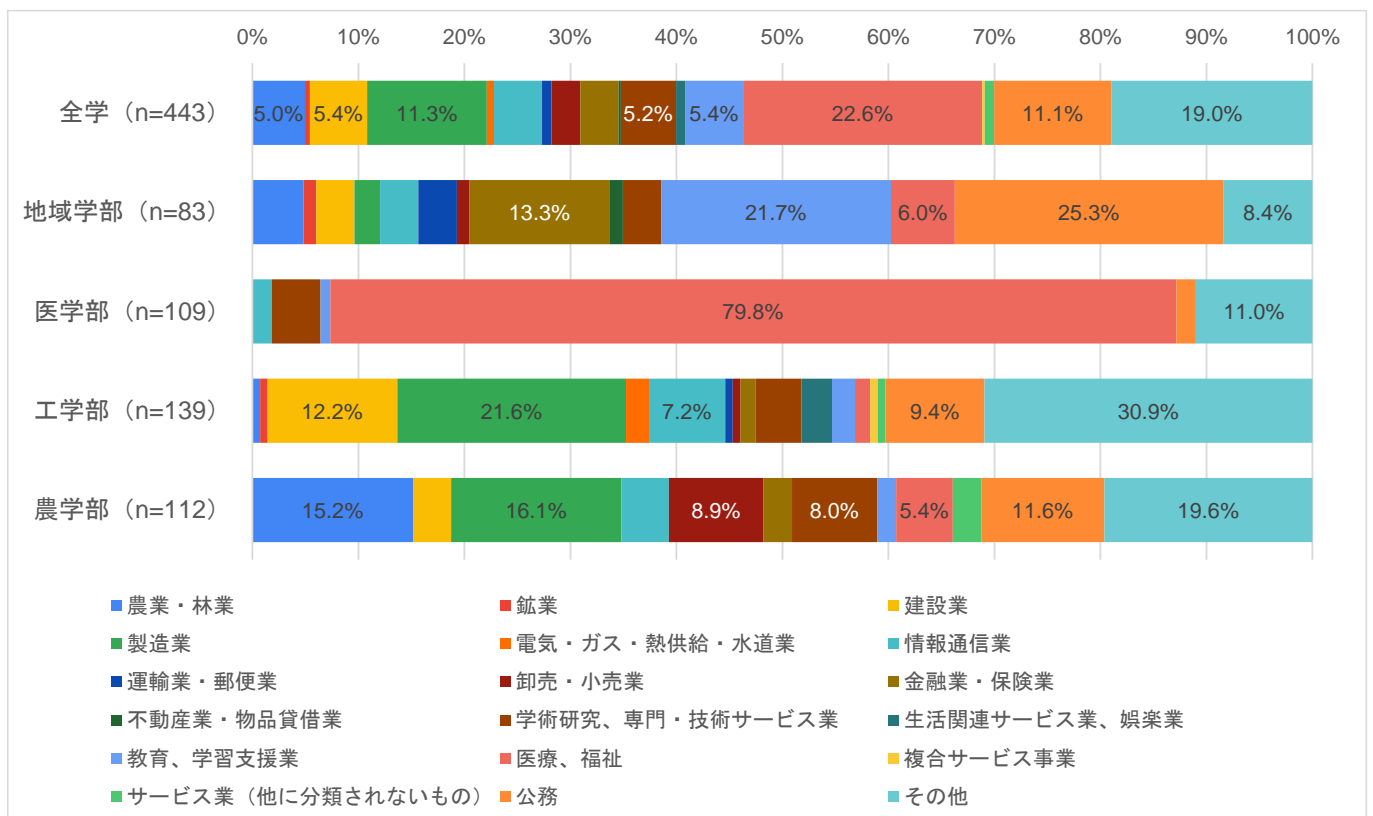
回答者全体の属性(5/5)

<現在の業種>

【現在の業種・全体】



【現在の業種×学部別】



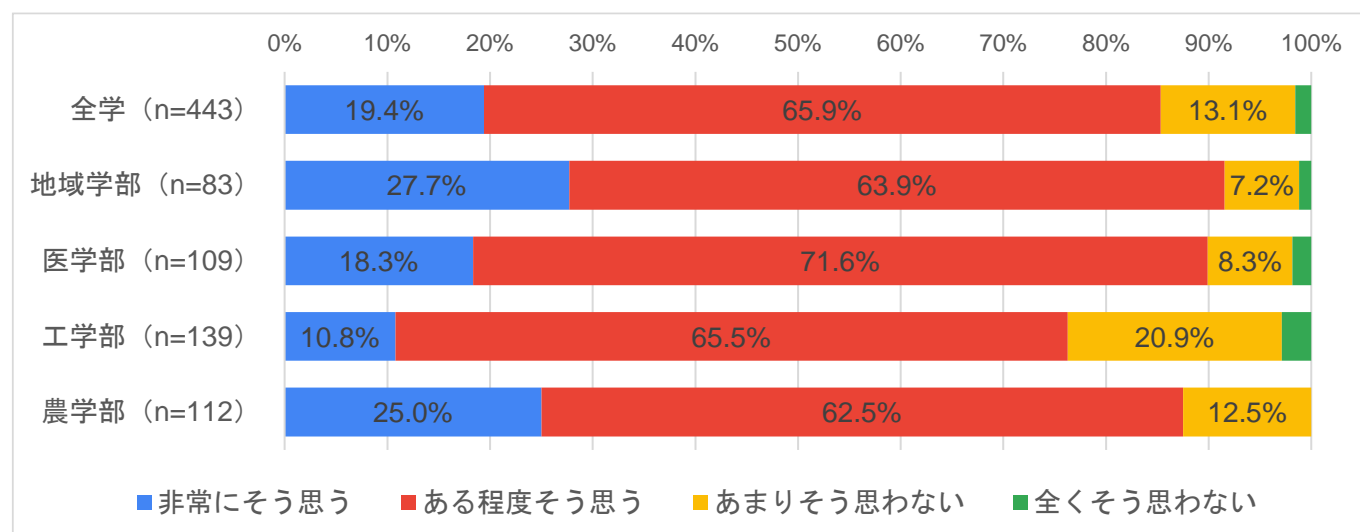
総合的な満足度(1/2)

<教育内容> <卒業後の役立ち度>

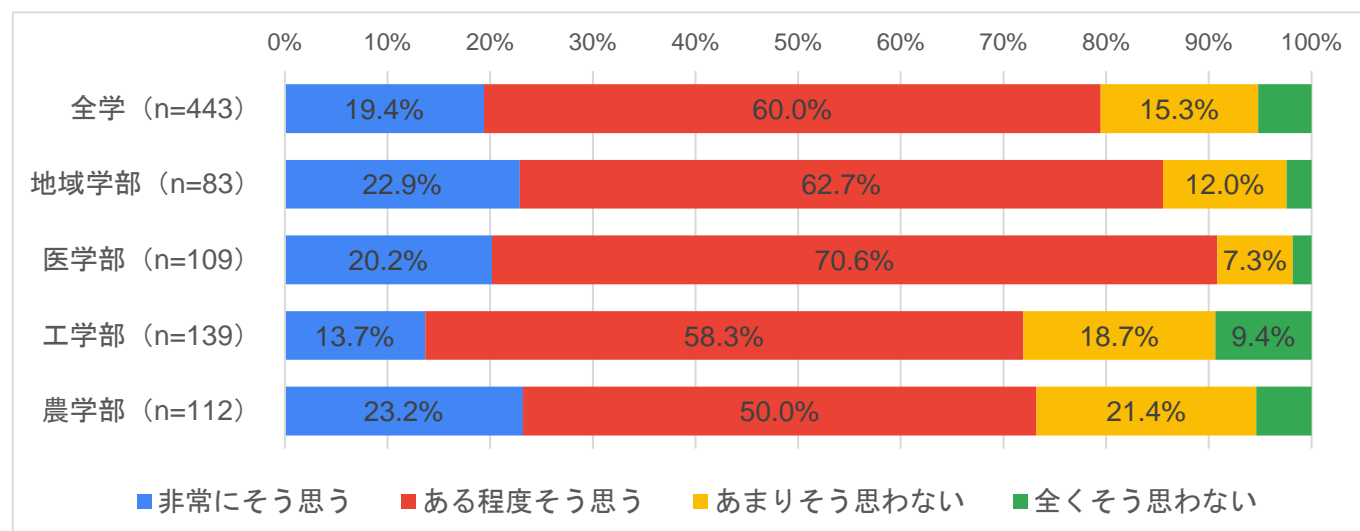
・「鳥取大学の教育内容に対する全体的な満足度」は、全学で 85.3%が肯定的回答（「非常にそう思う」+「ある程度そう思う」、以下本調査結果において同じ）をした。学部別では地域学部 91.6%，医学部 89.9%，工学部 76.3%，農学部 67.5%で、地域学部と医学部では約 9 割と高い肯定的回答であった。

・「大学教育の卒業後の仕事や生活への役立ち度」は、全学で 79.5%と比較的高い肯定的回答をした。学部別では医学部が最も多く 90.8%だった。次いで地域学部 85.5%，農学部 73.2%，工学部 71.9%だった。

鳥取大学の教育内容に、全体として満足している



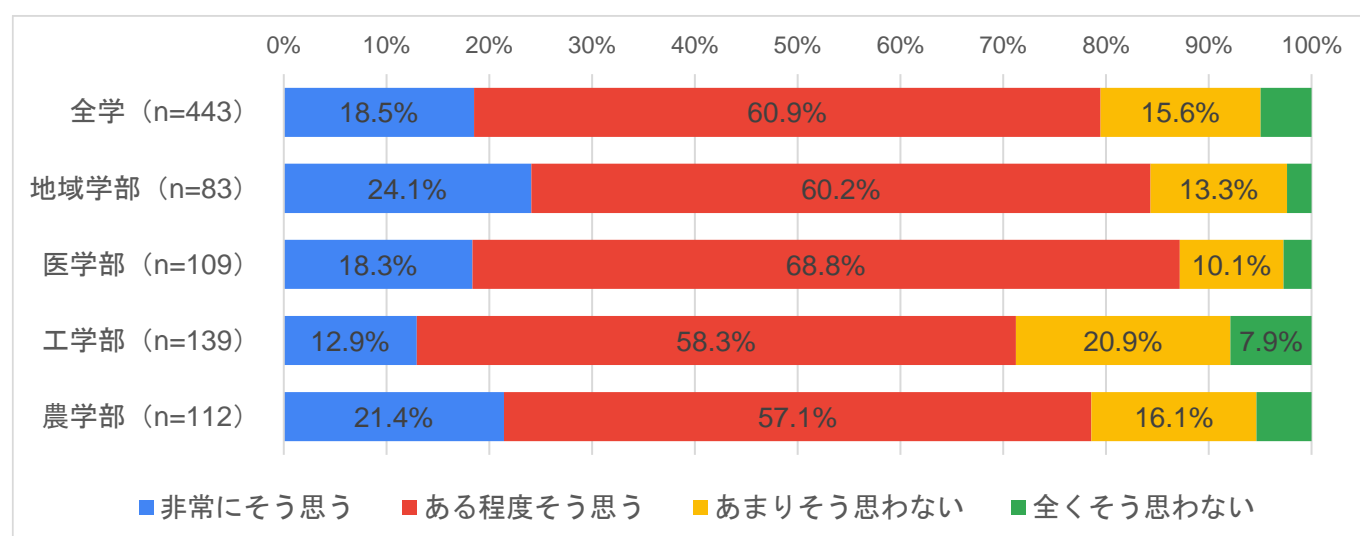
鳥取大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている



総合的な満足度(2/2) 〈高校生への受験推奨度〉

・「高校生に対する本学受験の推奨度」は、全学で 79.5 %が肯定的回答をした。学部別では、医学部 87.2%、地域学部 84.3%で 2 学部が 8 割を超える肯定的回答をした。農学部は 78.6%で、工学部は 71.2%で約 7 割の肯定的回答であった。工学部は他学部と比較して少し低めの肯定的回答であった。

鳥取大学への受験を高校生に薦めたい

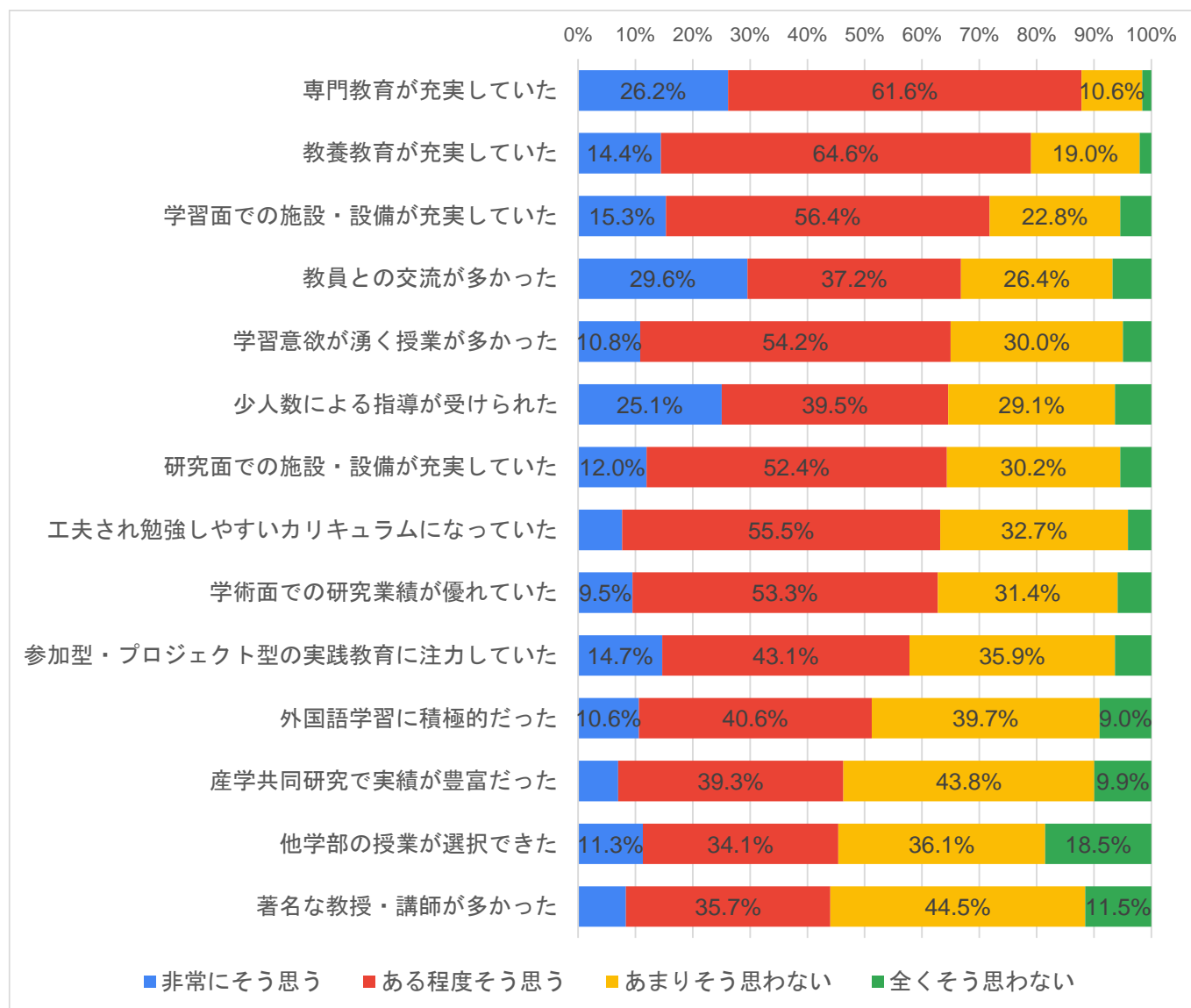


教育・研究の充実度(1/8)

<全体>

- ・大学の教育・研究の充実度に関する 14 項目のうち、肯定的回答は「専門教育が充実していた」(87.8%)で最も多かった。最も少なかったものは「著名な教授・講師が多かった」(44%)で、14 項目の全てにおいて 4 割以上の肯定的回答を得た。
- ・「非常にそう思う」という強い肯定的回答が 2 割を超えるものは、「教員との交流が多かった」(29.6%)、「専門教育が充実していた」(26.2%)、「少人数による指導が受けられた」(25.1%)の 3 項目だった。

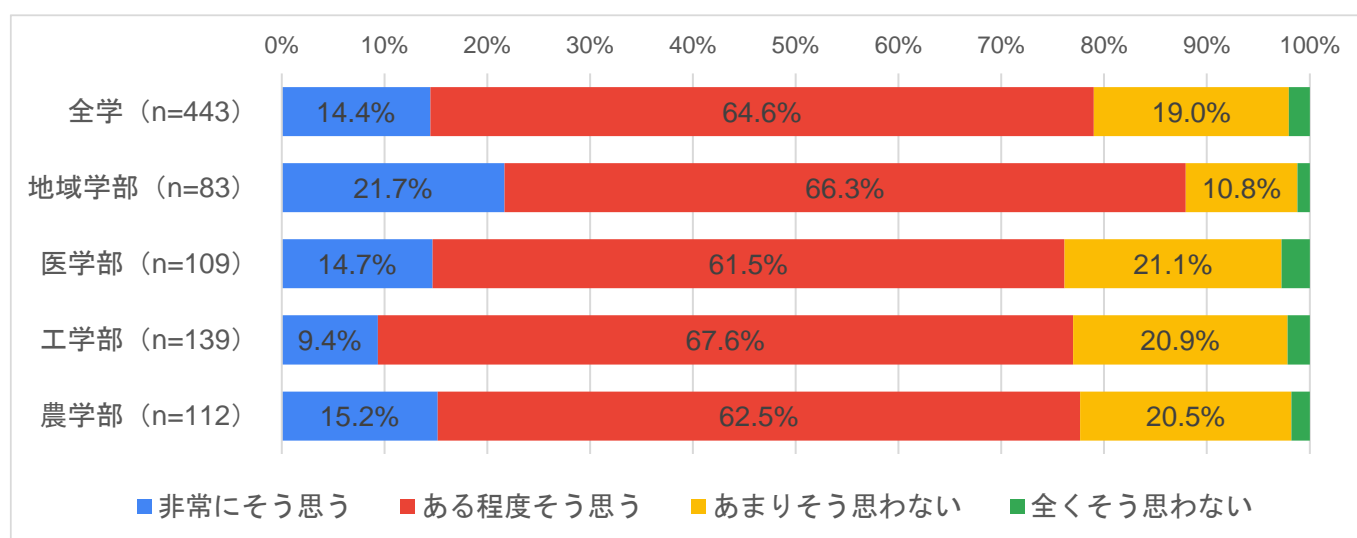
大学の教育・研究の充実度



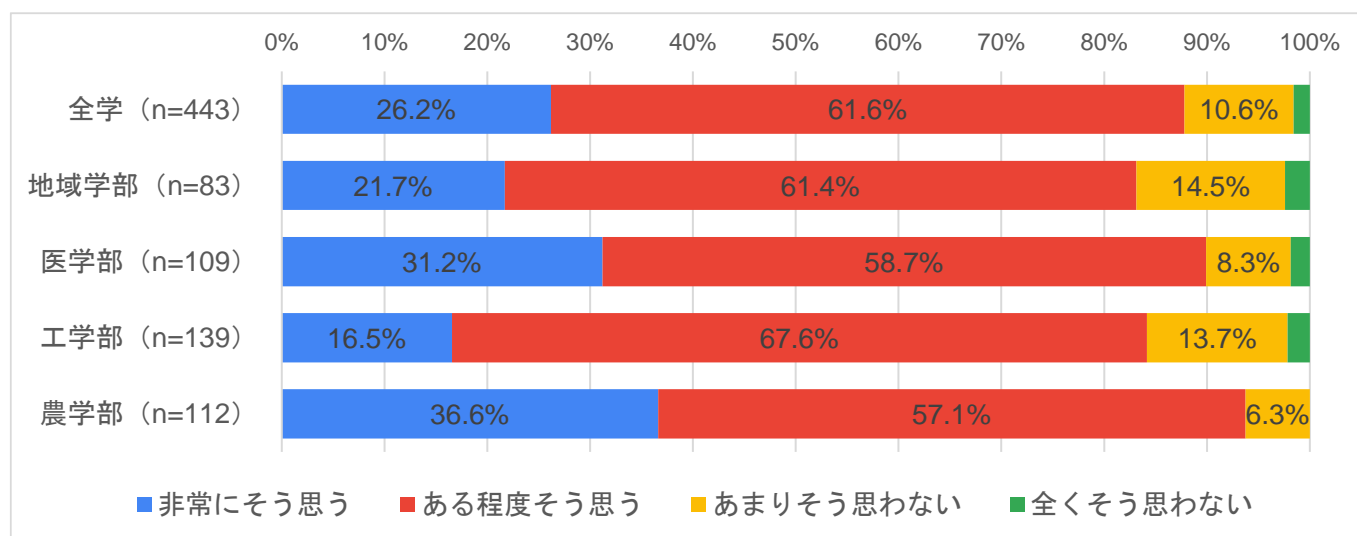
教育・研究の充実度(2/8) <教養教育> <専門教育>

- ・「教養教育の充実」に関して、全学では約 8 割が肯定的回答であり、地域学部では 88%が肯定的回答であった。一番少ない医学部でも 76.1%であった。全体的に高い肯定的回答率であった。
- ・「専門教育の充実」については、農学部で 93.8%，医学部でも約 9 割の肯定的回答で、地域学部と工学部でも 8 割を超える肯定的回答であり、全学的に専門教育が充実していたという結果であった。

教養教育が充実していた



専門教育が充実していた



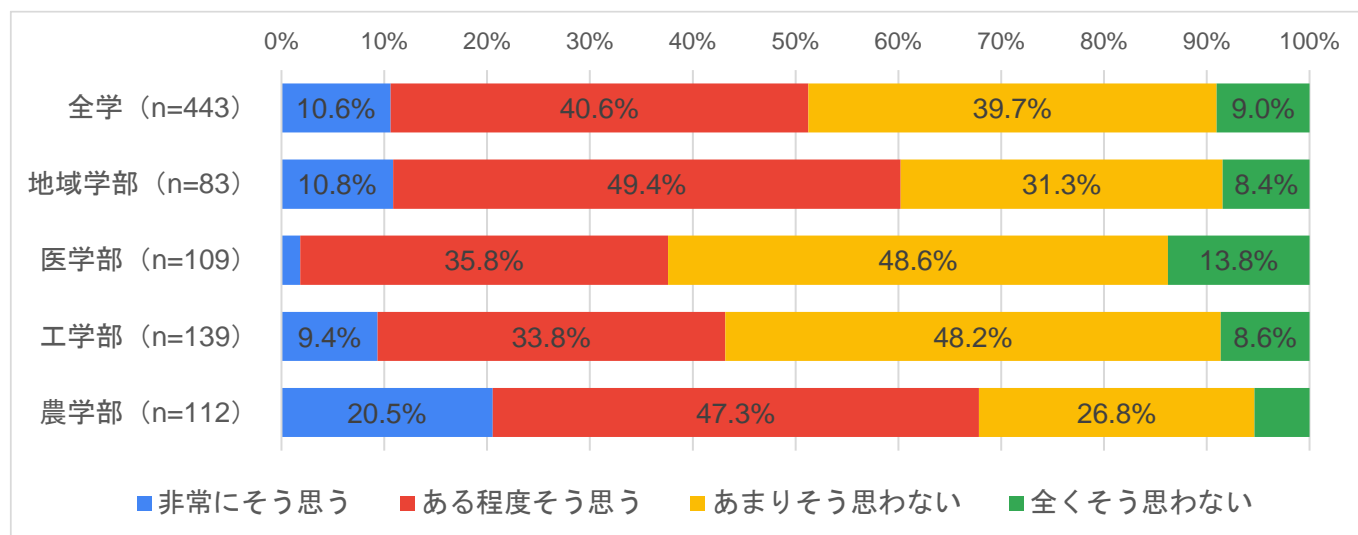
教育・研究の充実度(3/8)

<外国語学習> <カリキュラム>

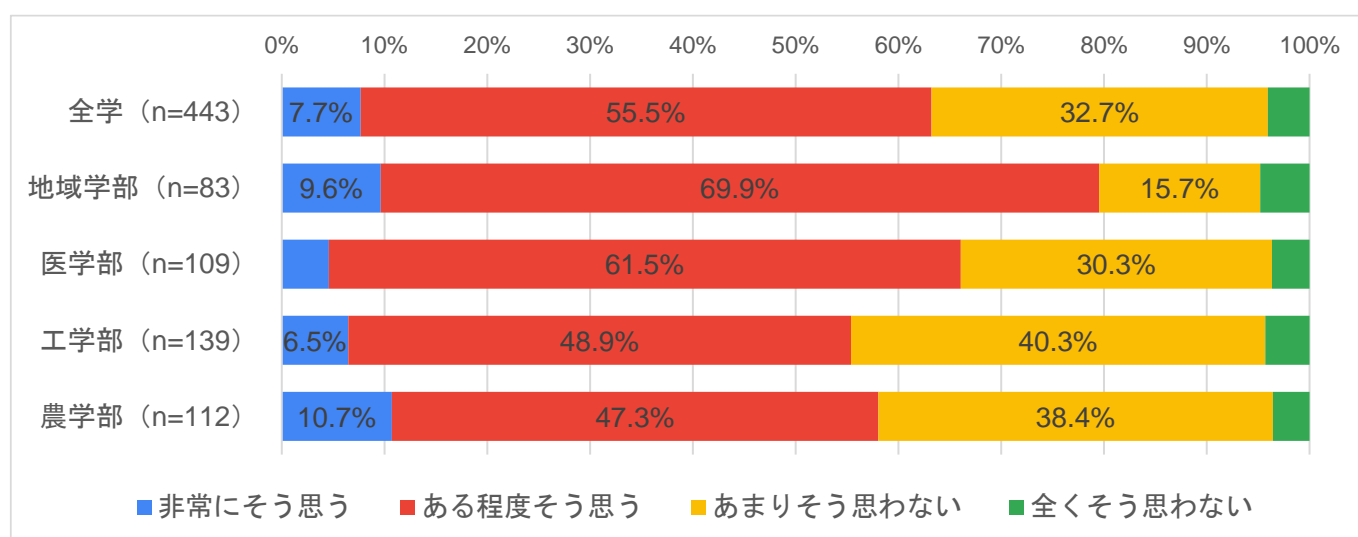
・「外国語学習に積極的」であったかどうかの質問には、農学部と地域学部では肯定的回答が6割を超えていた。医学部では37.6%、工学部では43.2%と低めの肯定的回答であり、学部間で差が見られた。

・「工夫され勉強しやすいカリキュラムになっていた」について、全学では63.2%の肯定的回答であった。地域学部で最も高く約8割の肯定的回答で、医学部66.1%、農学部58%、工学部55.4%の肯定的回答であった。工学部と農学部では6割を下回っており、改善の余地が見られた。

外国語学習に積極的だった



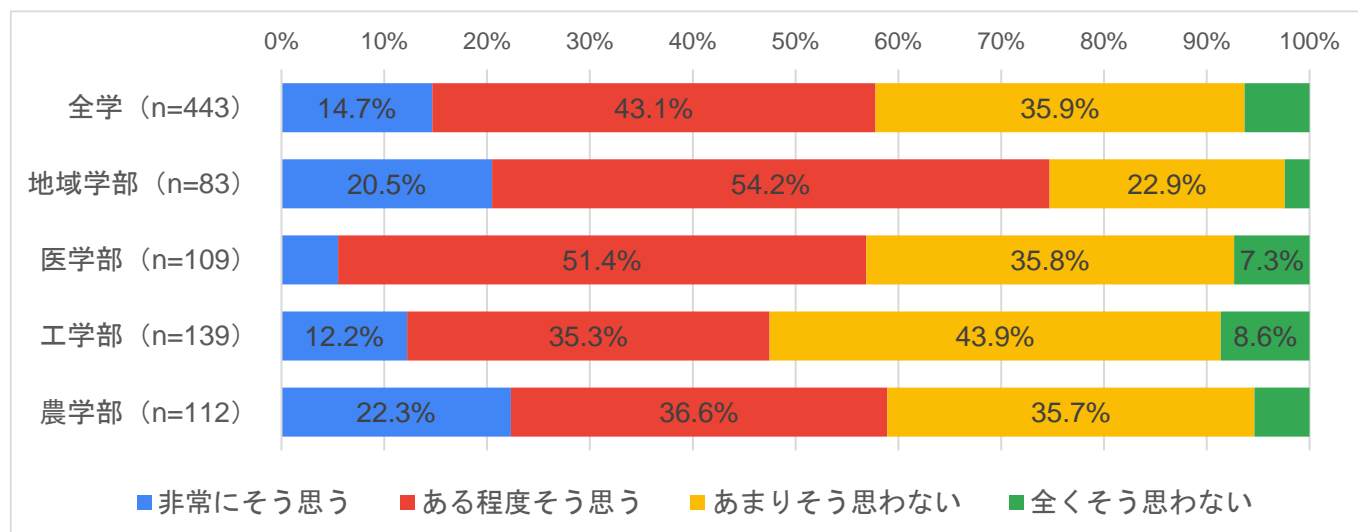
工夫され勉強しやすいカリキュラムになっていた



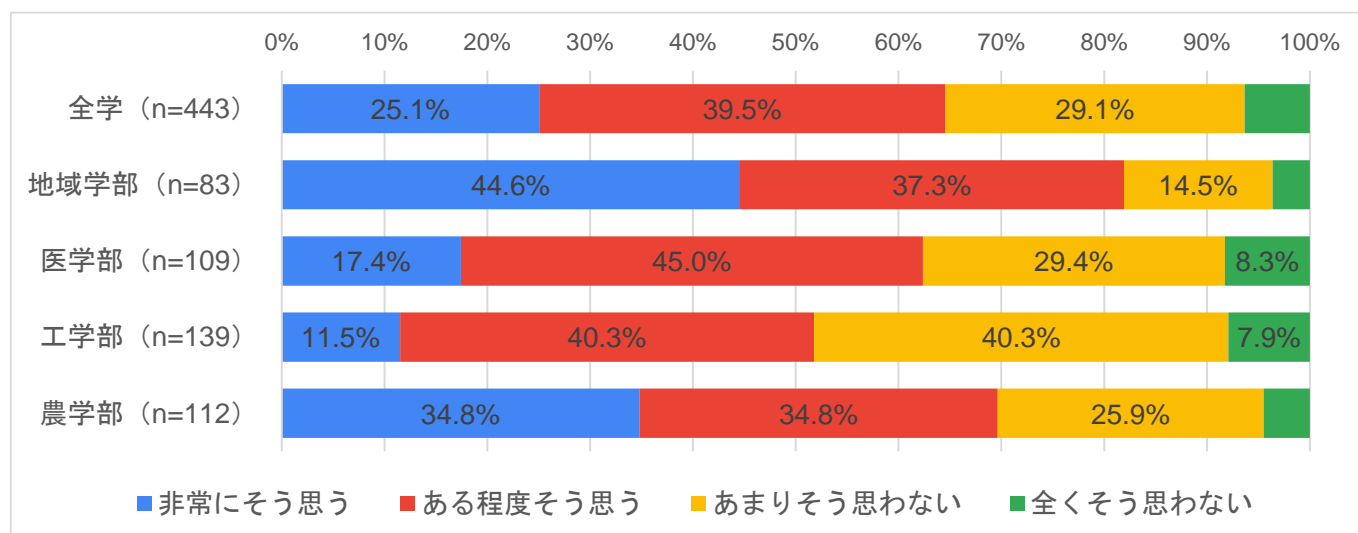
教育・研究の充実度(4/8) <実践教育> <少人数の指導>

- ・「参加型・プロジェクト型の実践教育に注力」に関しては、地域学部で74.7%の肯定的回答であったのに対し、医学部、工学部、農学部の3学部では6割を下回る肯定的回答となった。
- ・「少人数による指導が受けられた」に関しては、学部間で差がみられる。地域学部で最も多く8割を超え、工学部で一番少なく約5割であった。医学部が62.4%，農学部69.6%であった。
- ・「実践教育」と「少人数の指導」という観点では、地域学部が他学部より目立って高い肯定的回答率となった。

参加型・プロジェクト型の実践教育に注力していた



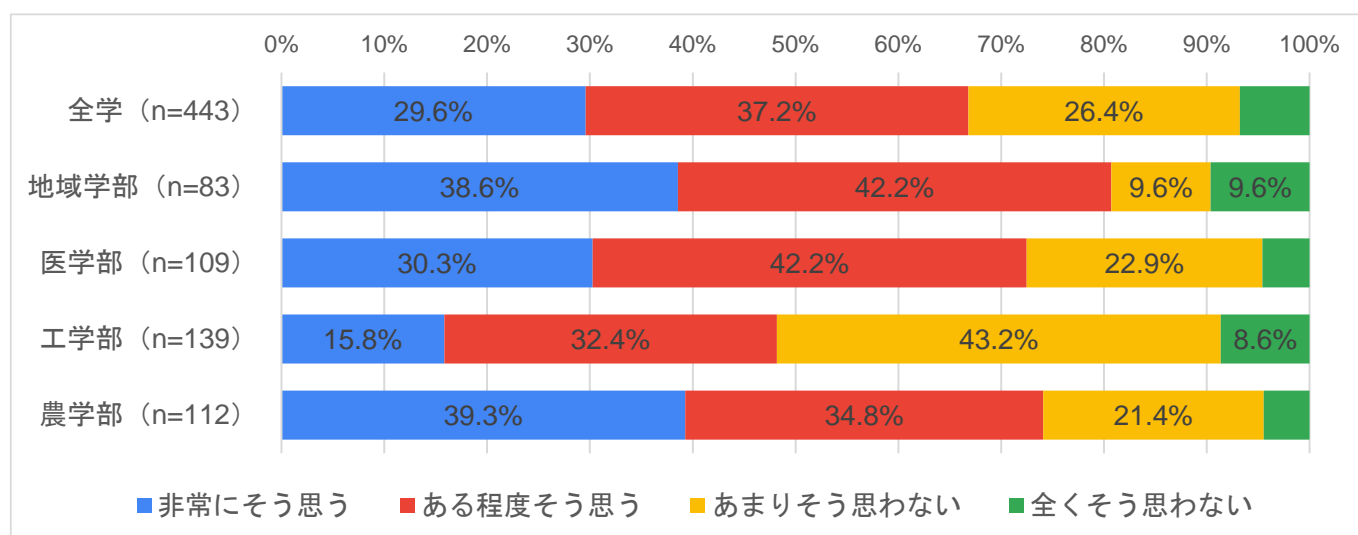
少人数による指導が受けられた



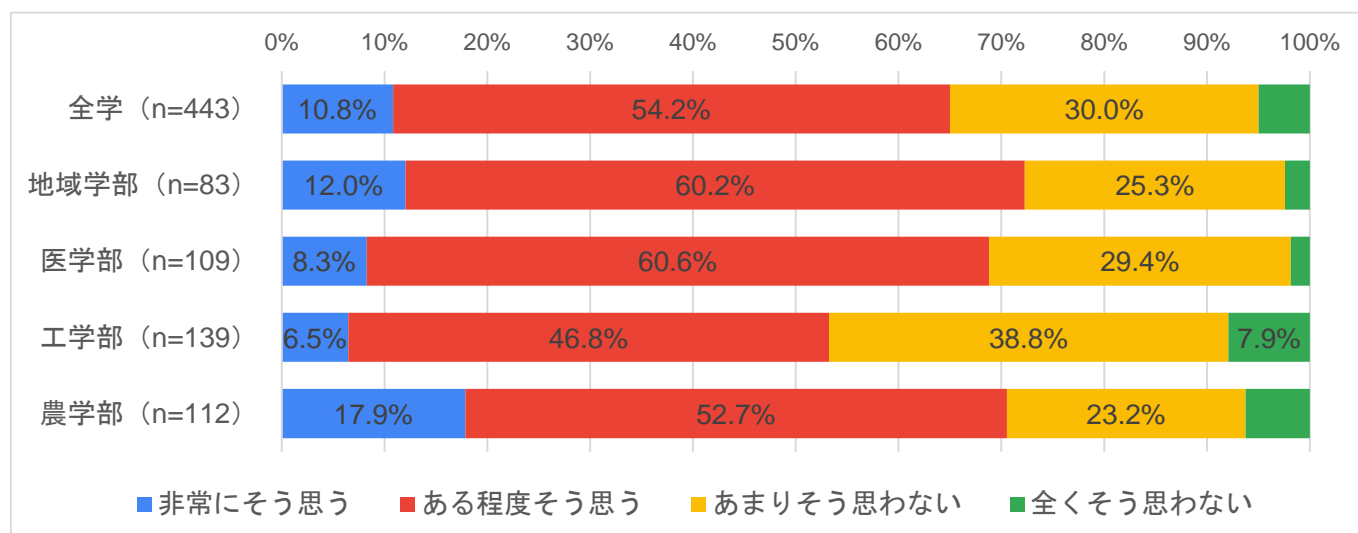
教育・研究の充実度(5/8) <教員との交流> <学習意欲>

- ・「教員との交流が多かった」に関しては、学部間の差がみられた。地域学部で約 8 割，工学部では 5 割を下回った。農学部と医学部ではほぼ同じで約 7 割の肯定的回答であった。
- ・「学習意欲が湧く授業が多かった」について，地域学部と農学部で 7 割を超えており，次いで医学部が 68.8%の肯定的回答であったが，工学部は 53.2%と低めの肯定的回答であった。
- ・「教員との交流」と「学習意欲」の点では，工学部が低めの肯定的回答率であり，改善の余地がある。

教員との交流が多かった



学習意欲が湧く授業が多かった

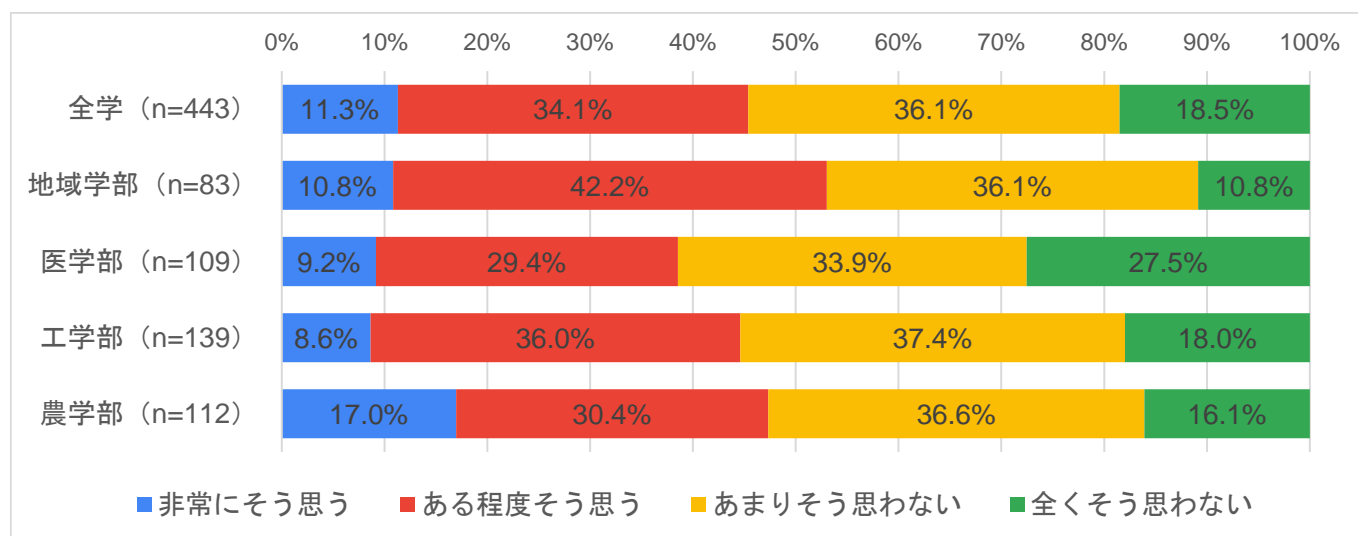


教育・研究の充実度(6/8)

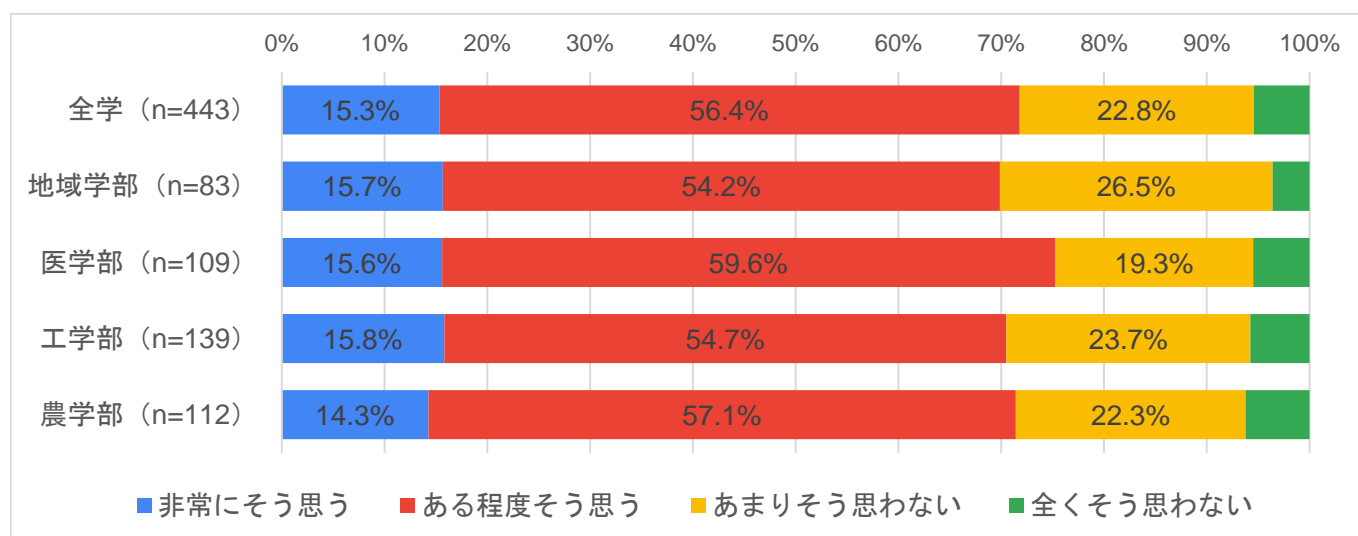
＜他学部授業＞ ＜施設・設備＞

・「他学部の授業が選択できた」について、地域学部で 53%，農学部で 47.3%，工学部で 44.6%，医学部では 38.5%の肯定的回答であった。
・「学習面での施設・設備が充実していた」について、各学部約 7 割の肯定的回答であった。医学部が最も多く 75.2%，地域学部で 69.9%であり，学部間で大きな差はなかった。

他学部の授業が選択できた



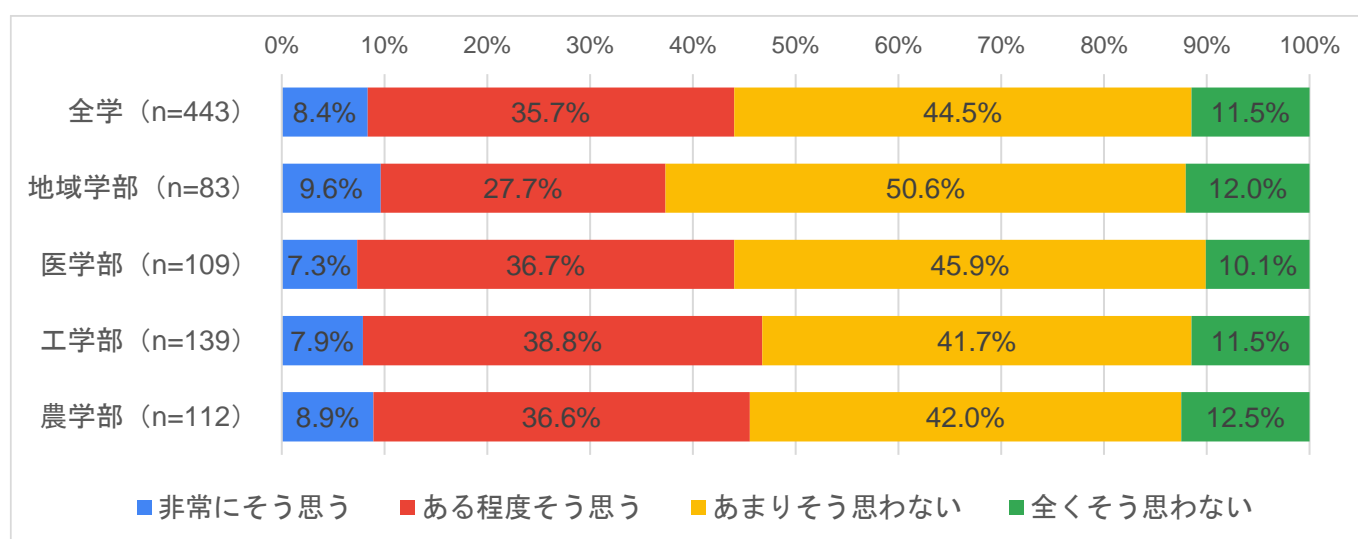
学習面での施設・設備が充実していた



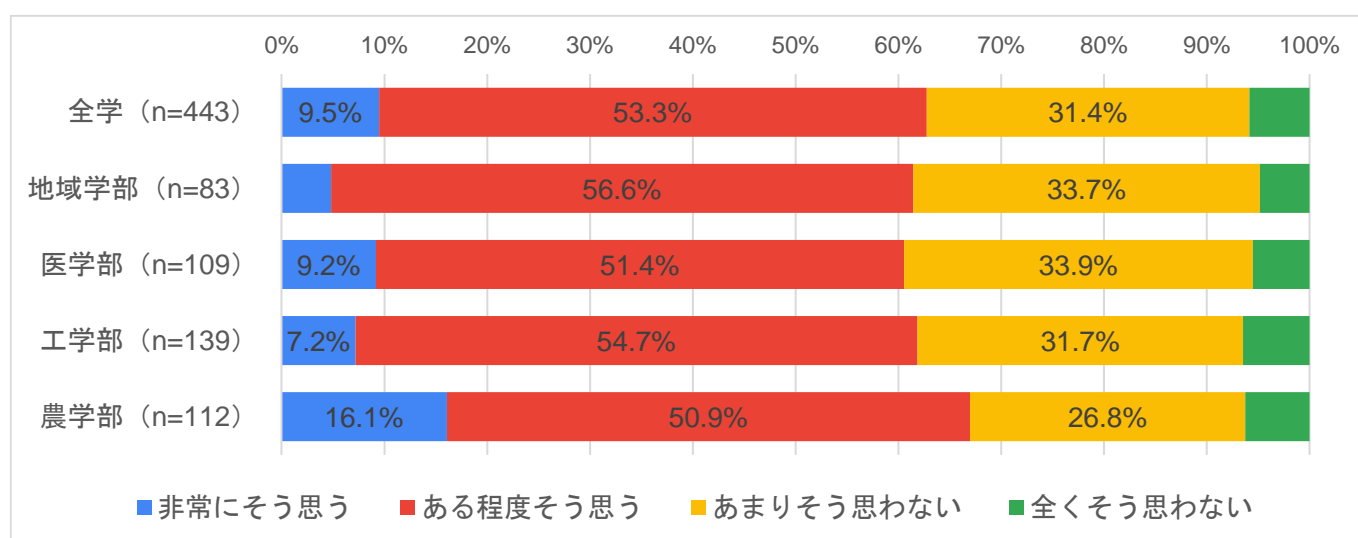
教育・研究の充実度(7/8) <著名な教員> <研究業績>

- ・「著名な教授・講師が多かった」について、地域学部のみが3割台の肯定的回答にとどまったが、全学平均では44.0%が肯定的回答をしている。
- ・「学術面での研究業績が優れていた」について、全学では62.8%で、全学部でも6割を超える肯定的回答であった。農学部が一番多く67%であり、学部間で大きな差はなかった。

著名な教授・講師が多かった



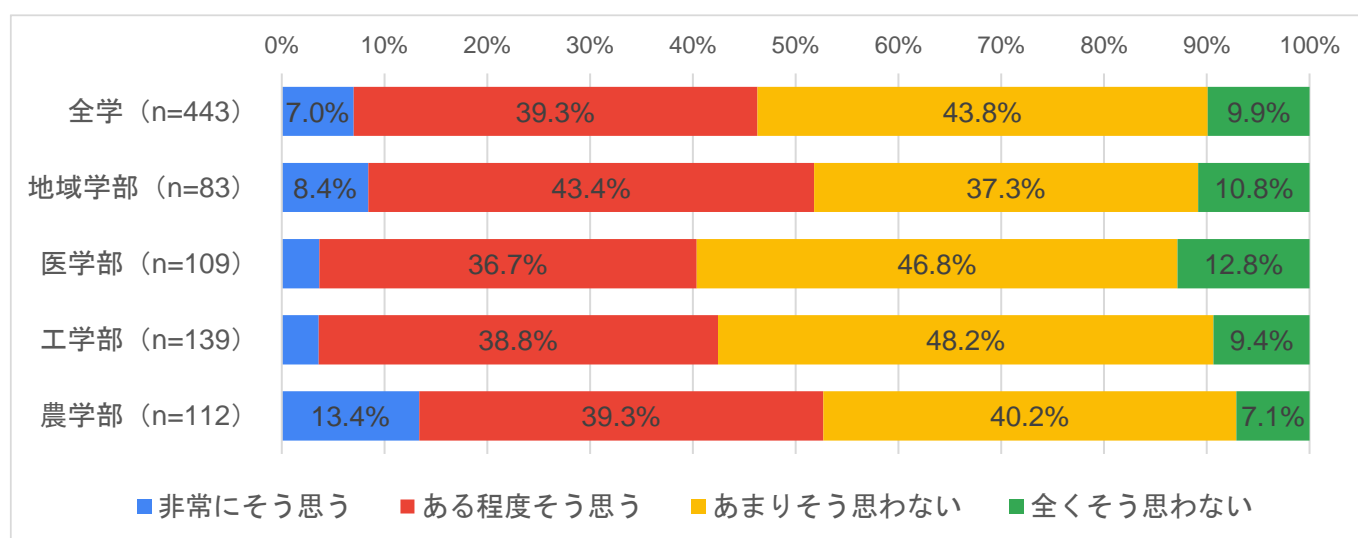
学術面での研究業績が優れていた



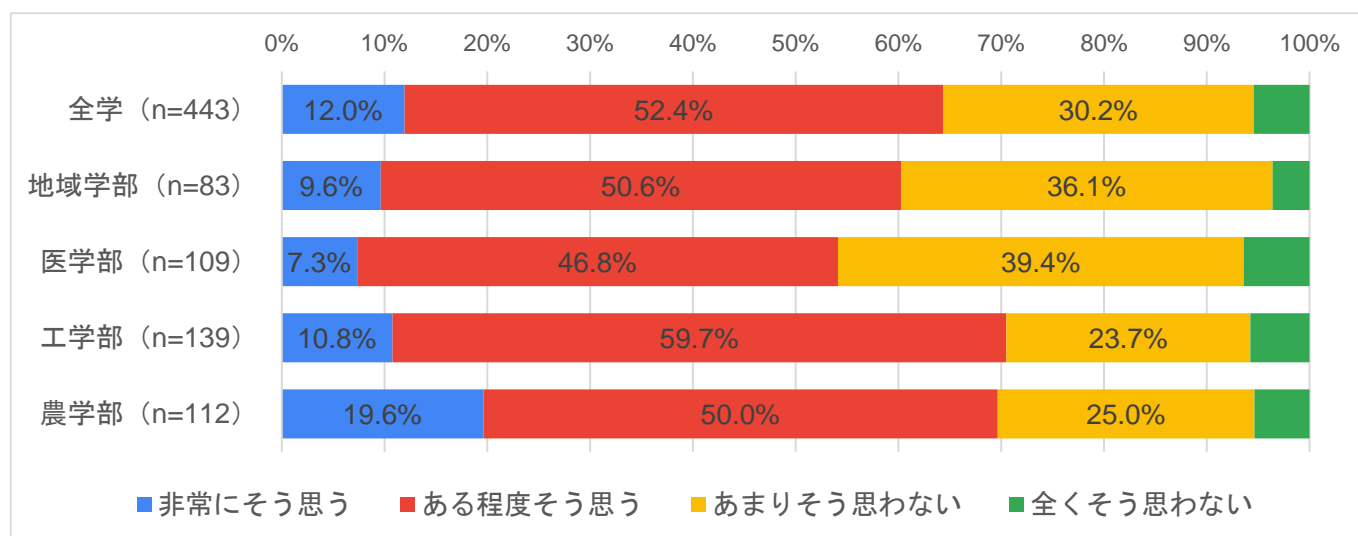
教育・研究の充実度(8/8) <産学共同研究> <施設・設備>

- ・「産学共同研究で実績が豊富だった」に関して、全学で 46.3%，農学部 52.7%，地域学部で 51.8%，工学部で 42.4%であり、各学部で 4 割から 5 割台の肯定的回答であった。
- ・「研究面での施設・設備が充実していた」については、学部間でやや差がみられる。工学部と農学部は約 7 割の肯定的回答であったが、地域学部では約 6 割、医学部では 54.1%と低めの肯定的回答であった。

産学共同研究で実績が豊富だった



研究面での施設・設備が充実していた

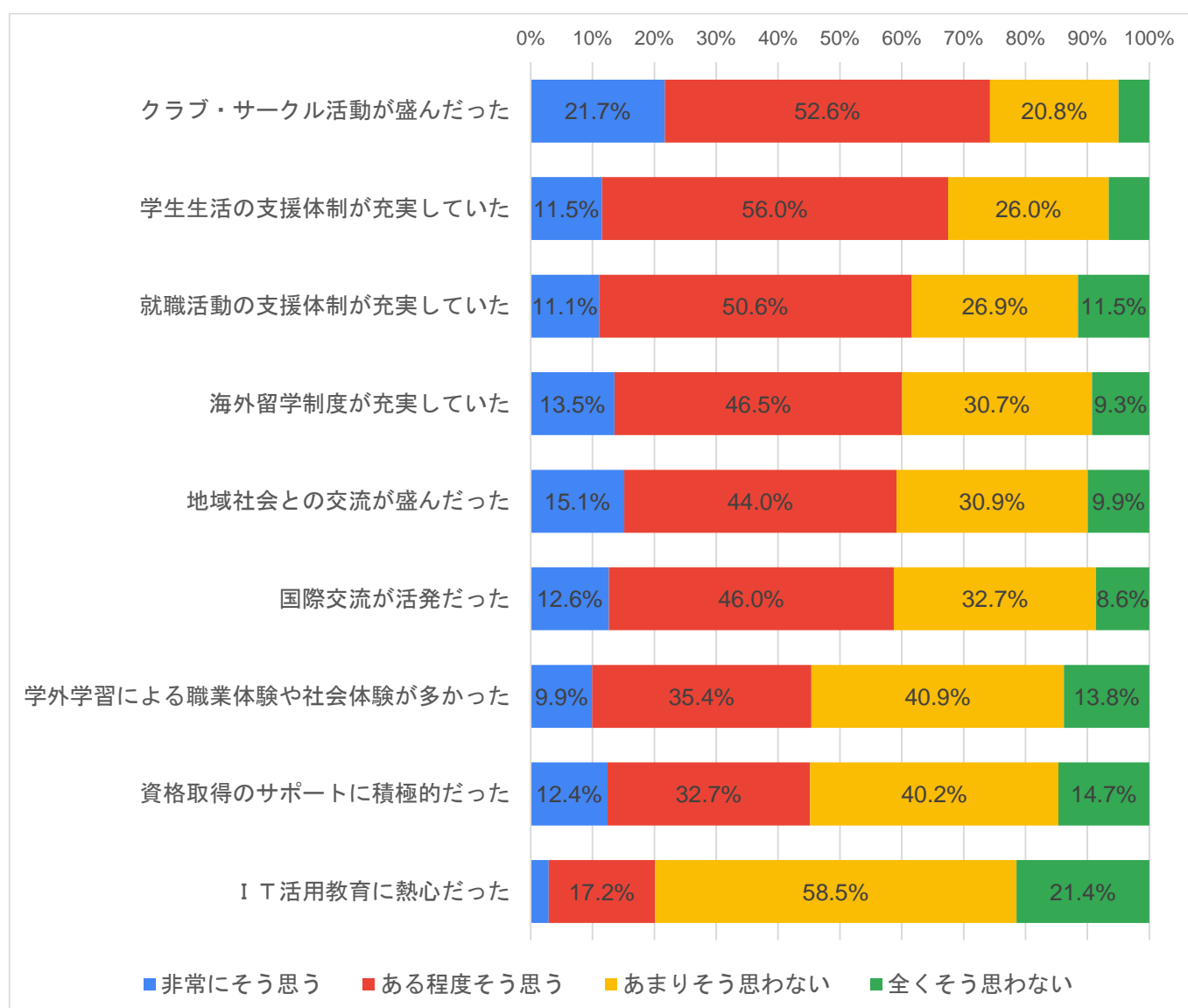


交流活動・支援体制の充実度(1/6)

<全体>

・「大学の交流活動・サポート体制に対する肯定的回答」について問う 9 項目のうち、肯定的回答の多い順でみると「クラブ・サークル活動が盛んだった」(74.3%) が最も多く、「IT 活用教育に熱心だった」(20.1%) が最も少なくなっており、今後改善の余地がある。
 「就職活動の支援体制」と「海外留学制度」の充実度、「地域社会との交流」と「国際交流」の活発さに関しては約 6 割が肯定的回答であった。

大学の交流活動・サポート体制に対する肯定的回答



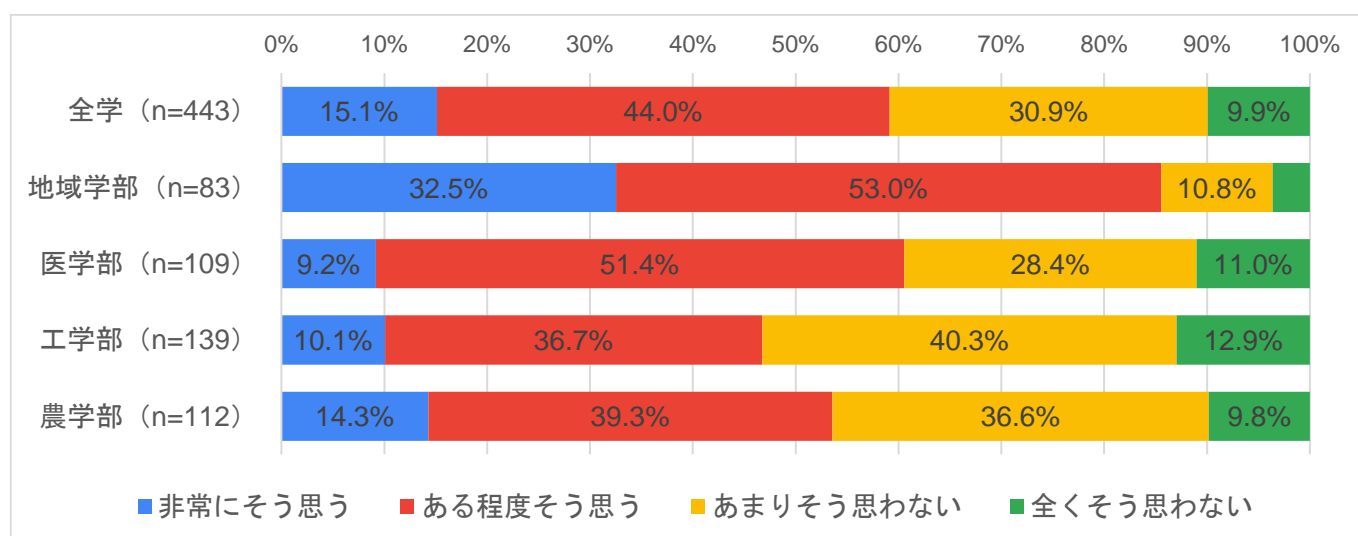
交流活動・支援体制の充実度(2/6)

<地域交流> <国際交流>

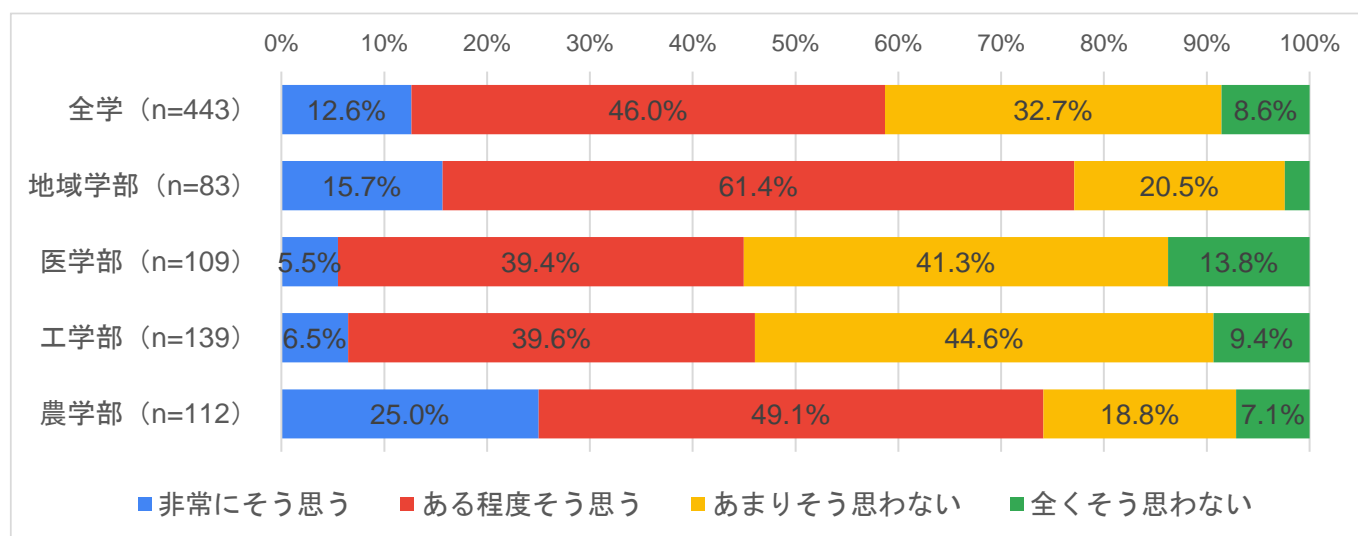
・「地域社会との交流が盛んだった」について、地域学部が圧倒的に高く85%を超える肯定的回答であった。医学部で約6割、農学部で53.6%、工学部では5割未満であった。学部間で差が見られた。

・「国際交流が活発だった」について、全学では58.7%の肯定的回答であった。地域学部と農学部では約7割5分だったが、医学部と工学部では低く約4割5分の肯定的回答であった。

地域社会との交流が盛んだった



国際交流が活発だった

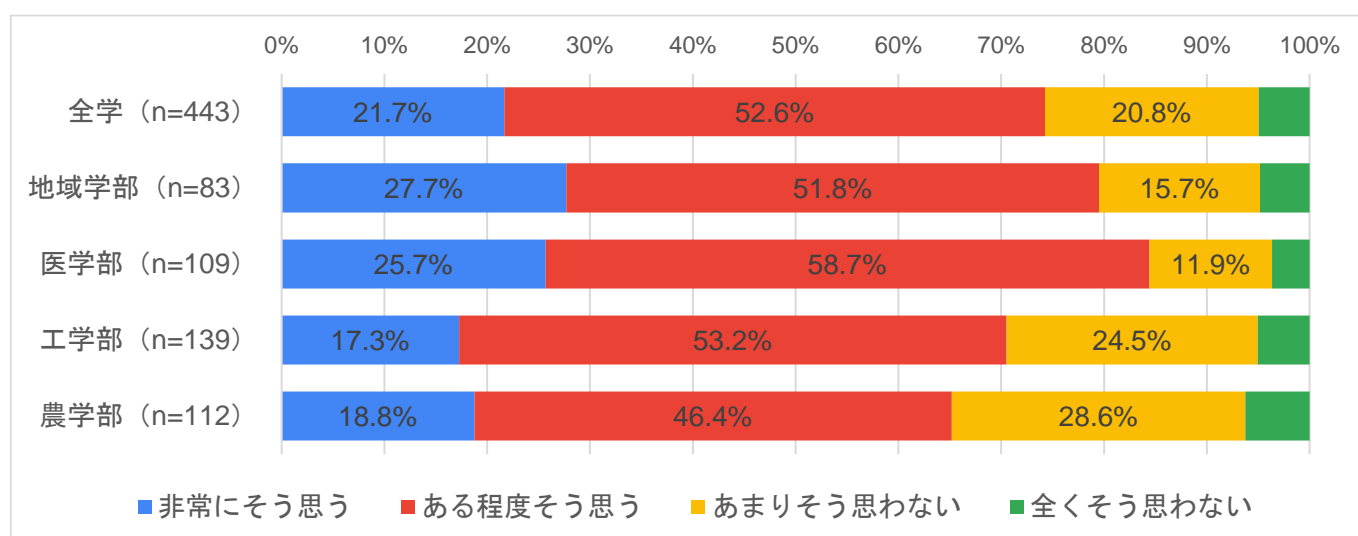


交流活動・支援体制の充実度(3/6) <クラブ・サークル> <学外学習>

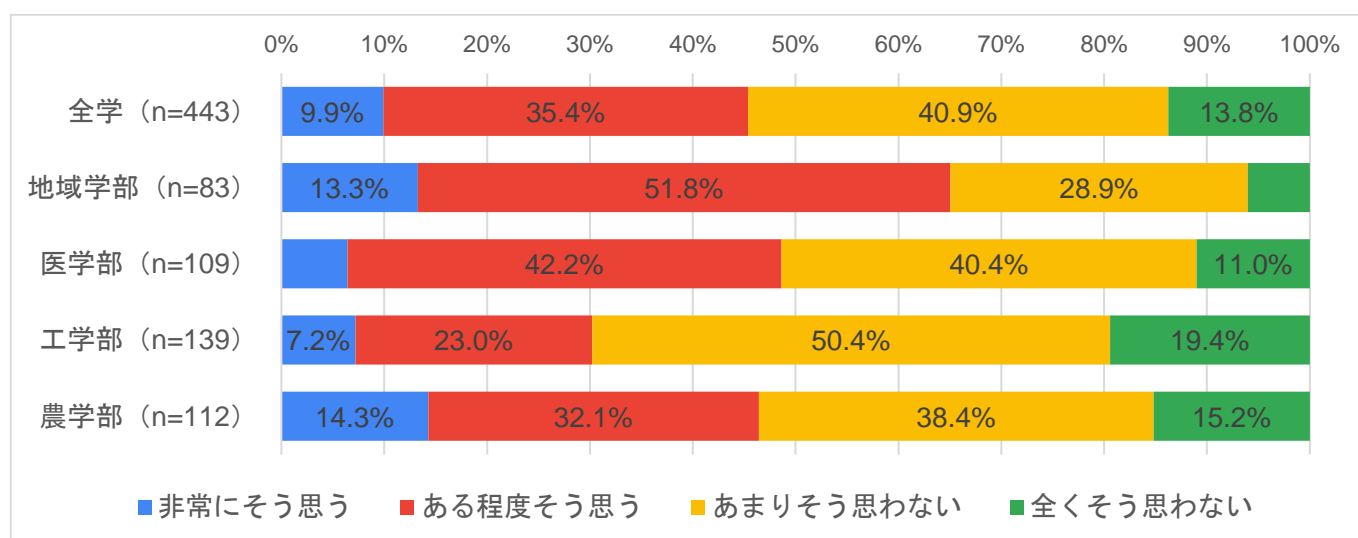
・「クラブ・サークル活動が盛んだった」について、全学で 74.3%の肯定的回答であった。医学部で最も多く 84.4%で、農学部で最も少なく 65.2%であった。

・「学外学習による職業体験や社会体験が多かった」に関しては、学部間で差がみられ、地域学部では 65.1%で一番多く、工学部では約 30.2%で一番少なかった。医学部と農学部では 5 割未満であった。

クラブ・サークル活動が盛んだった



学外学習による職業体験や社会体験が多かった



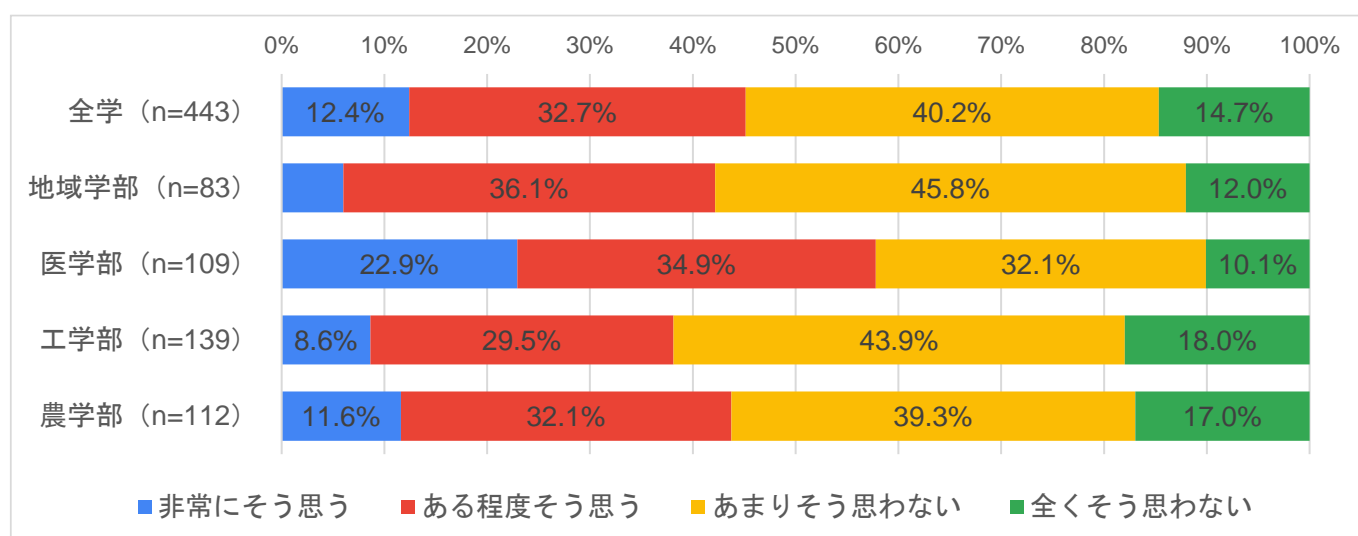
交流活動・支援体制の充実度(4/6)

<資格取得> <IT 教育>

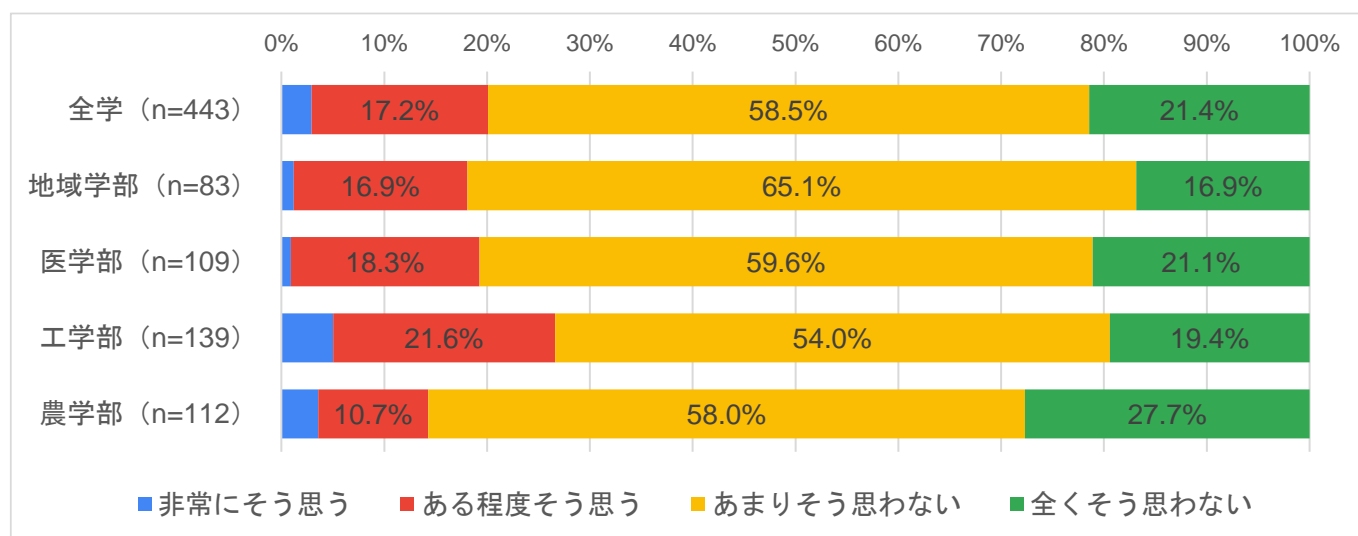
・「資格取得のサポートに積極的だった」について、医学部で最も多く 57.8% の肯定的回答であった。地域学部と農学部では 4 割を超え、工学部では 4 割を少し下回った。

・「IT 活用教育に熱心だった」について、全学的に 20.1% と肯定的回答が低く、工学部では 26.6% だったものの、地域学部、医学部、農学部では、2 割を下回った。全体的に肯定的回答率が低く、改善の余地が見られる。

資格取得のサポートに積極的だった



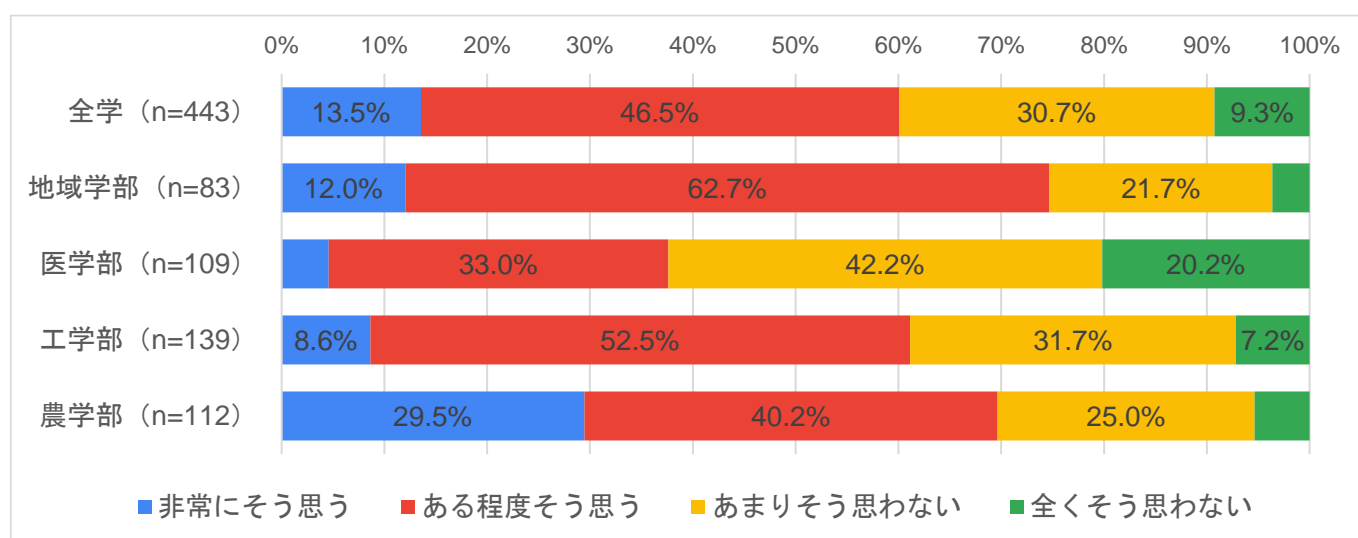
IT 活用教育に熱心だった



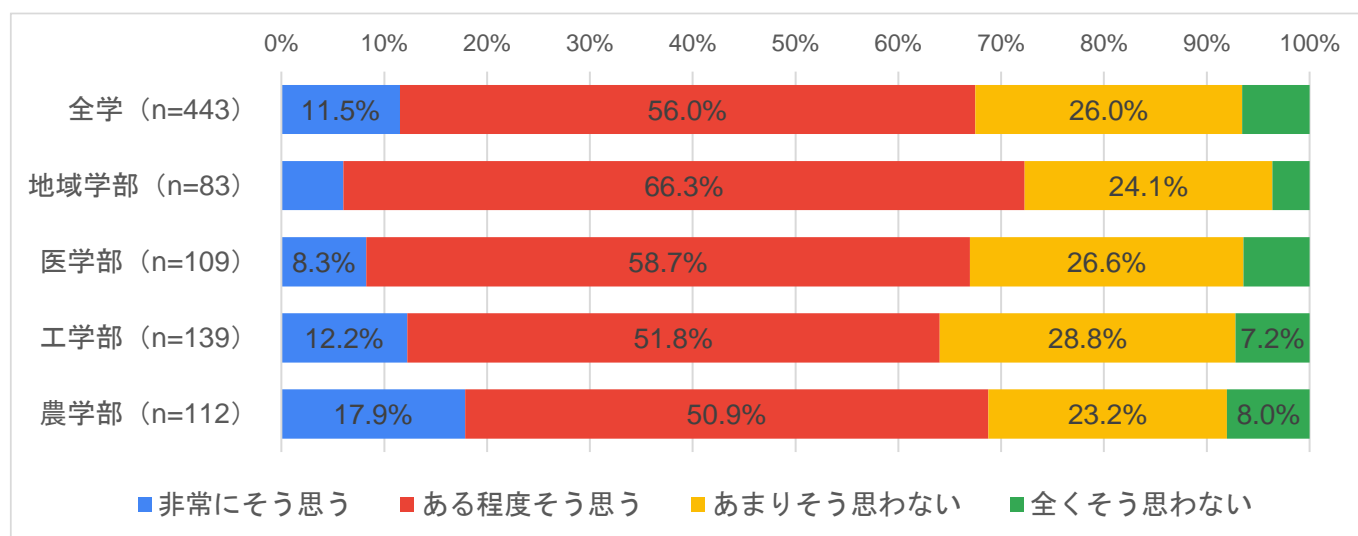
交流活動・支援体制の充実度(5/6) <海外留学> <学生生活>

- ・「海外留学制度が充実していた」に関しては、学部間で差が見られた。地域学部で最も多く74.7%が肯定的回答で、農学部で7割弱、工学部で6割強、医学部で最も少なく37.6%であった。
- ・「学生生活の支援体制が充実していた」について、全学平均が67.5%，地域学部で最も多く72.3%，工学部で最も少なく64%であった。学部間で大きな差は見られなかった。

海外留学制度が充実していた



学生生活の支援体制が充実していた

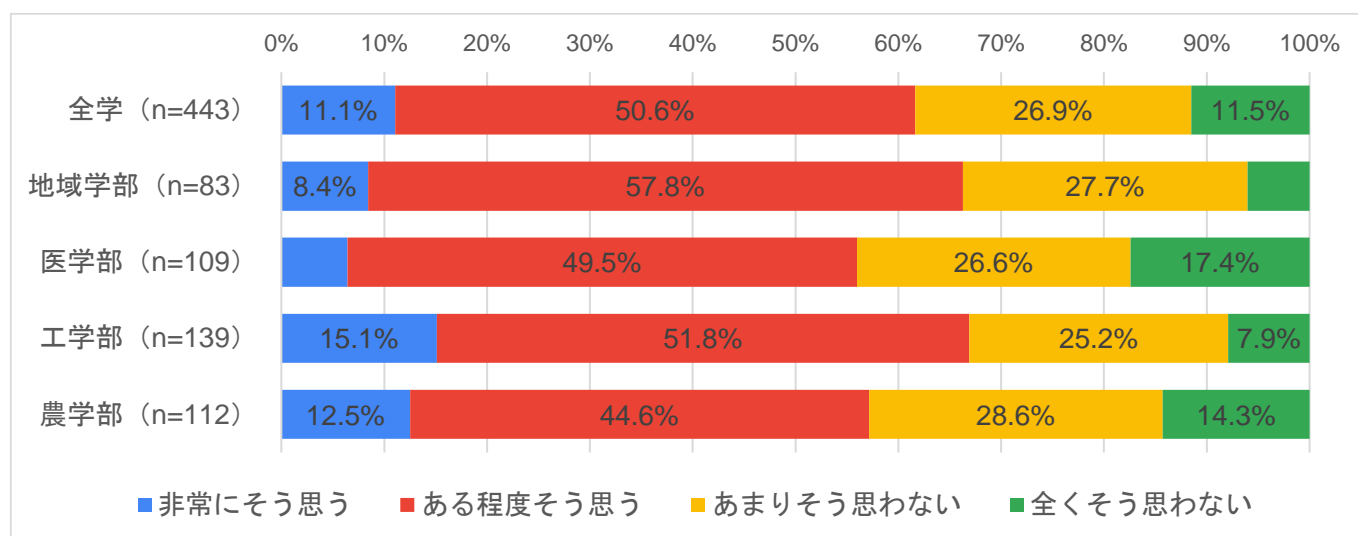


交流活動・支援体制の充実度(6/6)

<就職活動>

・「就職活動の支援体制が充実していた」に関しては、全学では61.6%の肯定的回答であった。地域学部と工学部の2学部では約6割5分、医学部と農学部では約5割5分の肯定的回答であった。7割の肯定的回答率を持つ学部はなく、今後改善の余地があると思われる。

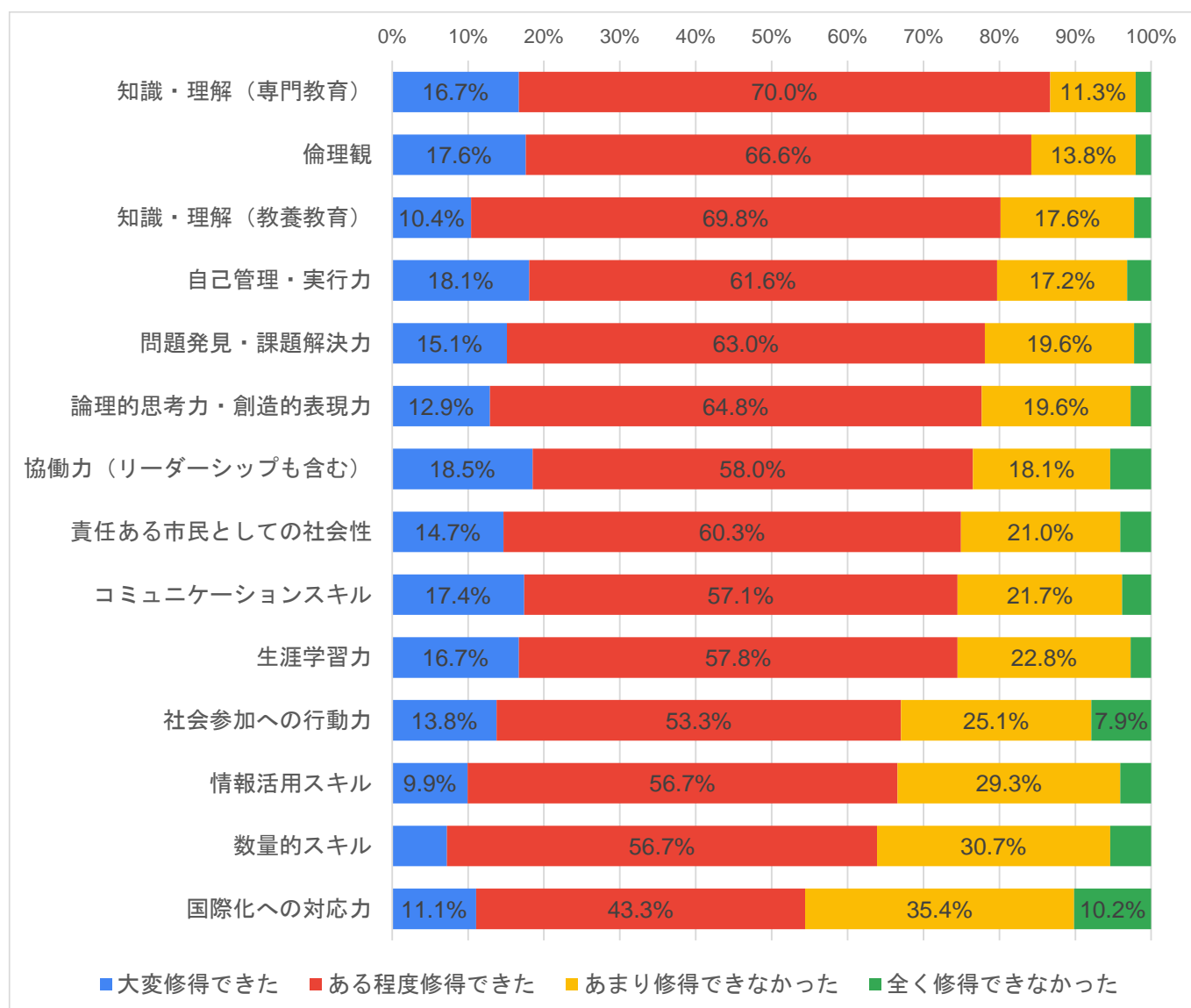
就職活動の支援体制が充実していた



大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力(1/8) <全体>

- ・大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力 14 項目の中で、「知識・理解（専門教育）」（86.7%）が最も高い修得度だった。「倫理観」と「知識・理解（教養教育）」で 8 割を超える肯定的回答であった。「自己管理・実行力」「問題発見・課題解決力」「論理的思考力・創造的表現力」「協同力」「責任ある市民としての社会性」「コミュニケーションスキル」「生涯学習力」の 7 項目で 7 割台の肯定的回答であった。
- ・「社会参加への行動力」「情報活用スキル」「数量的スキル」の 3 項目で肯定的回答は 6 割台、「国際化への対応力」は 54.4%で肯定的回答が最も低い。

大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力

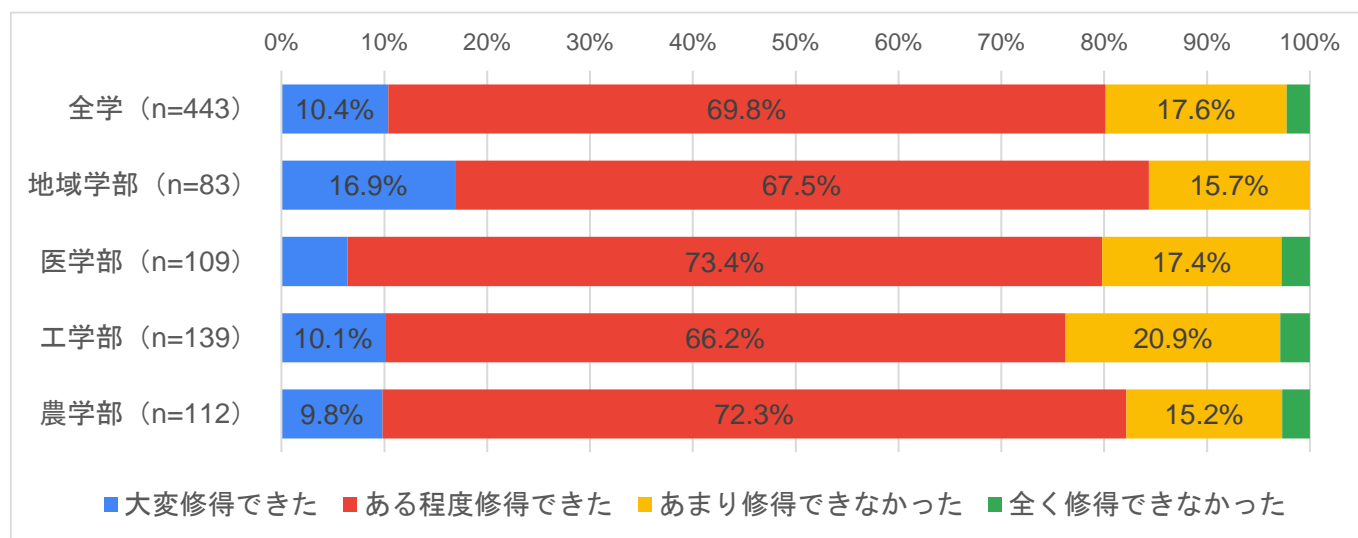


大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力(2/8)

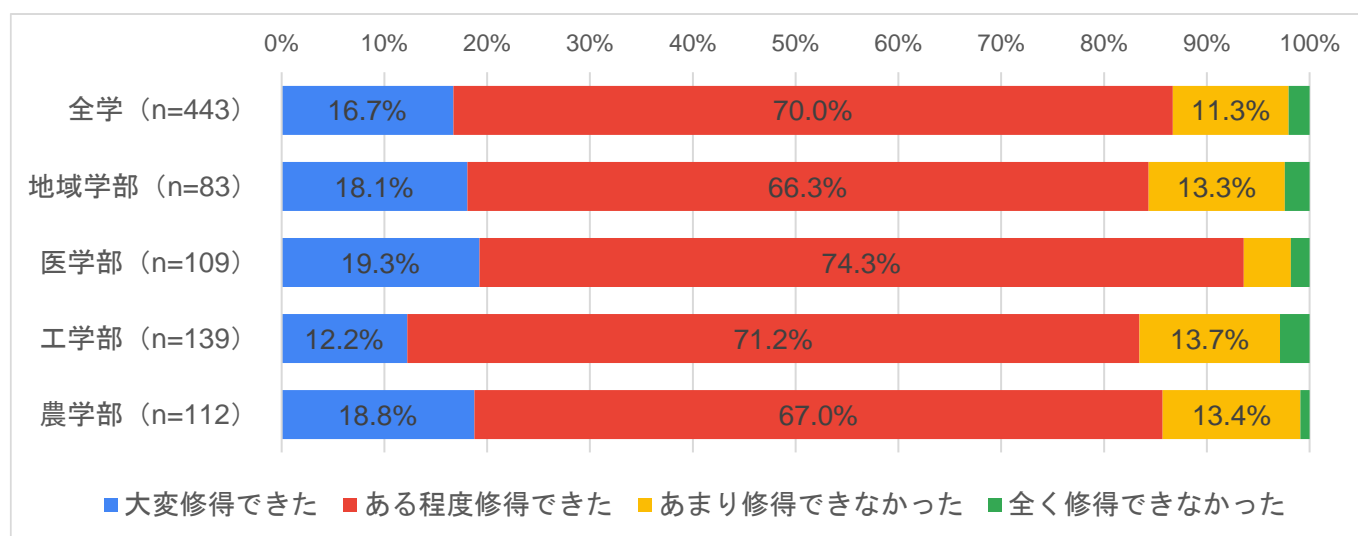
<知識・理解（教養教育）> <知識・理解（専門教育）>

- ・「知識・理解（教養教育）」について、全学で約 8 割の高い肯定的回答であった。地域学部で最も多く 84.3%，工学部で最も少なく 76.3%であった。
- ・「知識・理解（専門教育）」についても全学平均で 8 割 5 分を超える肯定的回答であった。特に医学部では 93.6%と高い肯定的回答であった。他の 3 学部でも 8 割を超える肯定的回答であった。

知識・理解（教養教育）



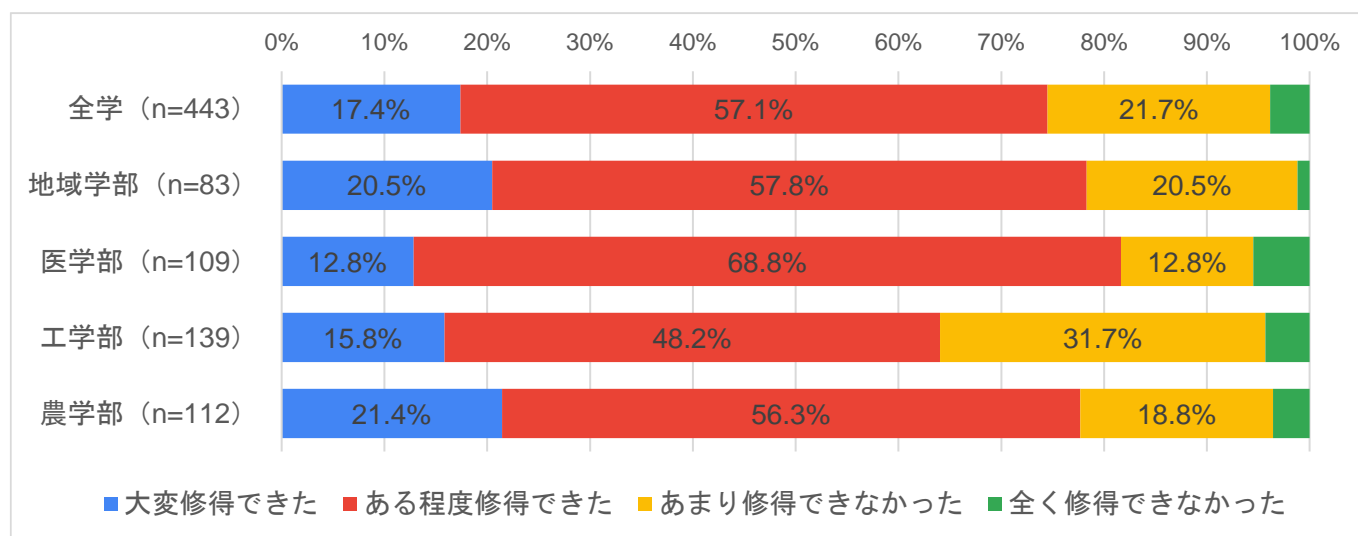
知識・理解（専門教育）



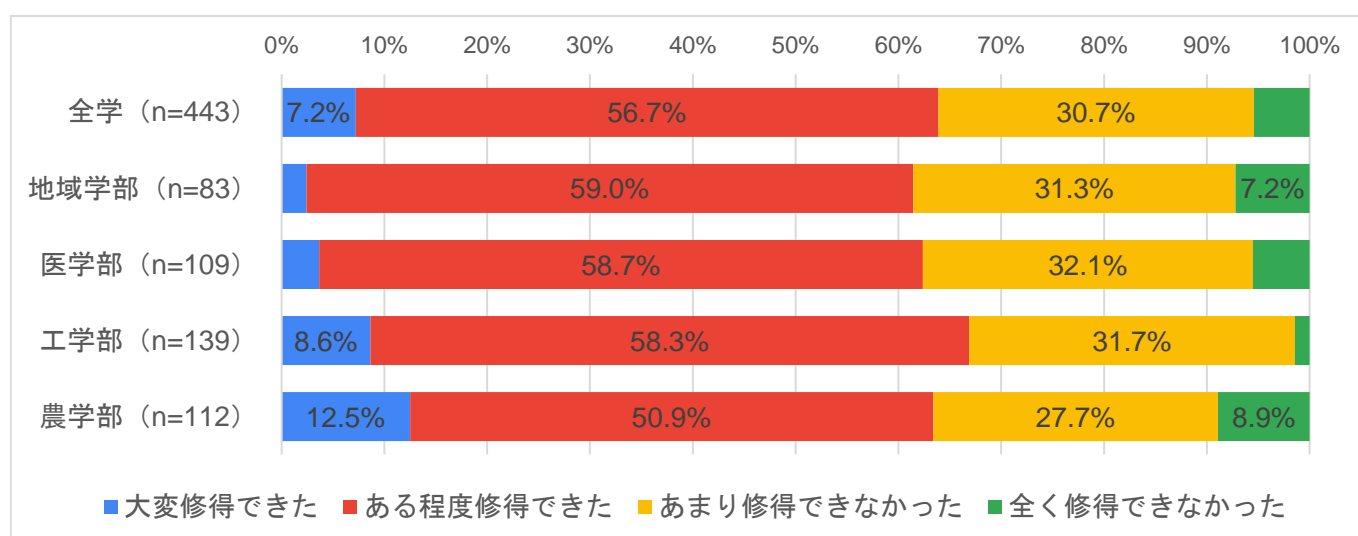
大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力(3/8) <コミュニケーションスキル> <数量的スキル>

- ・「コミュニケーションスキル」について、医学部では 8 割を超える肯定的回答であった。地域学部と農学部で約 8 割弱，工学部では 64%と低めの回答であった。
- ・「数量的スキル」について、全学で 63.9%の肯定的回答であった。全ての学部において、6 割台の肯定的回答であった。

コミュニケーションスキル



数量的スキル

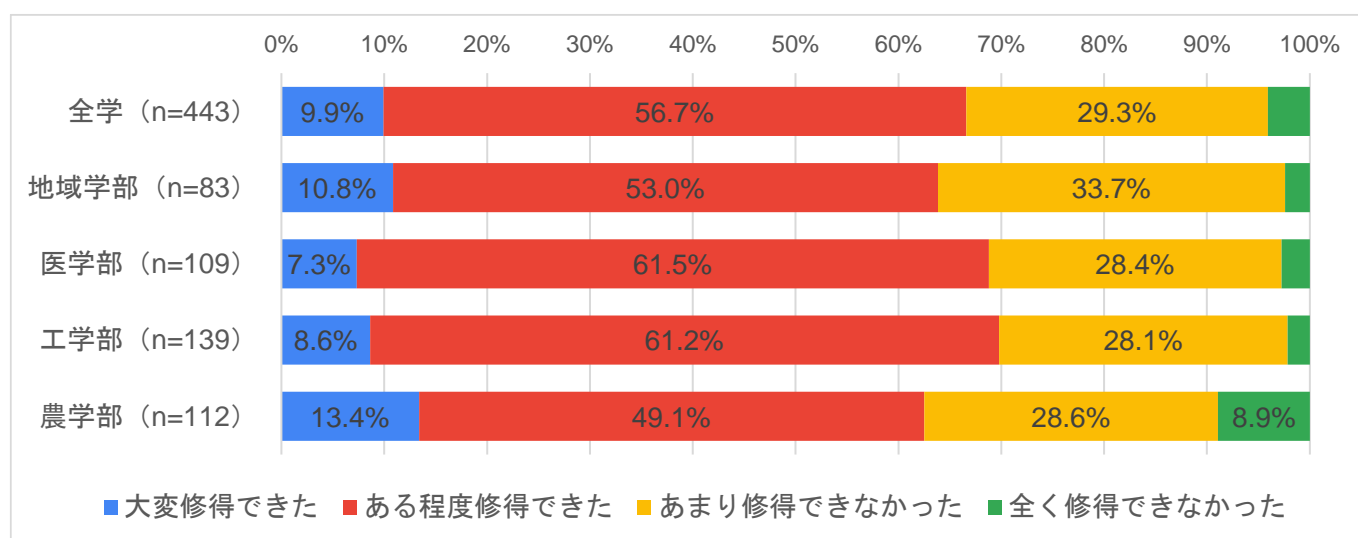


大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力(4/8) <情報活用スキル> <論理的思考力・創造的表現力>

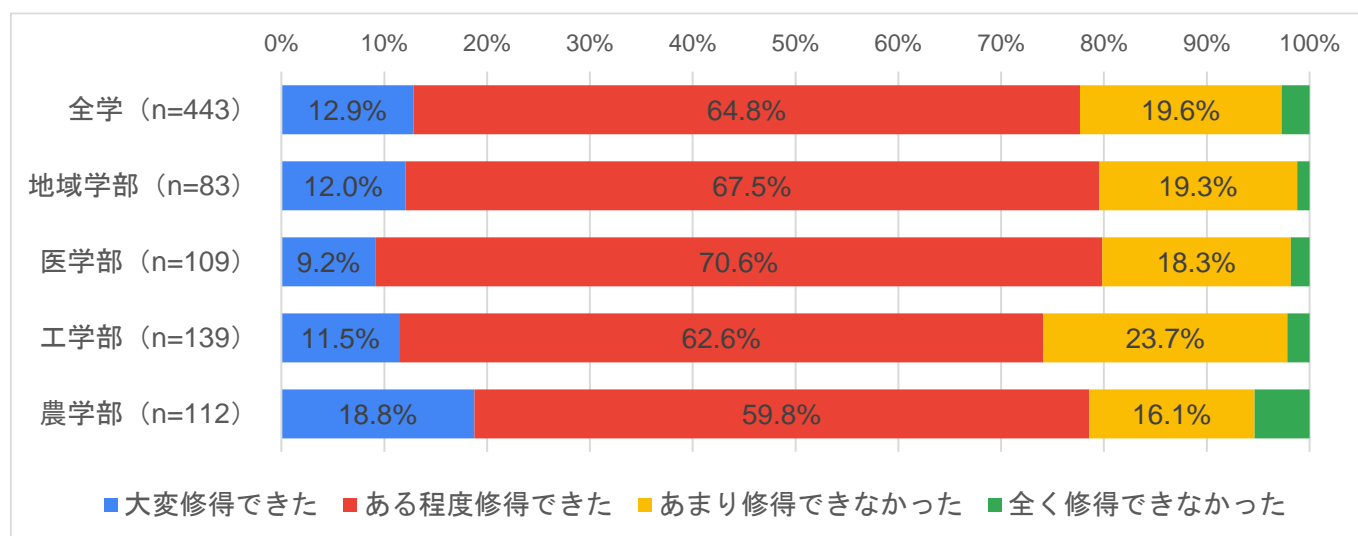
・「情報活用スキル」について、全学で 66.6%の肯定的回答であった。工学部で 69.8%，医学部で 68.8%，地域学部で 63.8%，農学部で 62.5%であった。

・「論理的思考力・創造的表現力」では、地域学部，医学部，農学部の 3 学部で 8 割近い肯定的回答であった。工学部では 74.1%であった。各学部とも比較的高めの肯定的回答率であった。

情報活用スキル



論理的思考力・創造的表現力

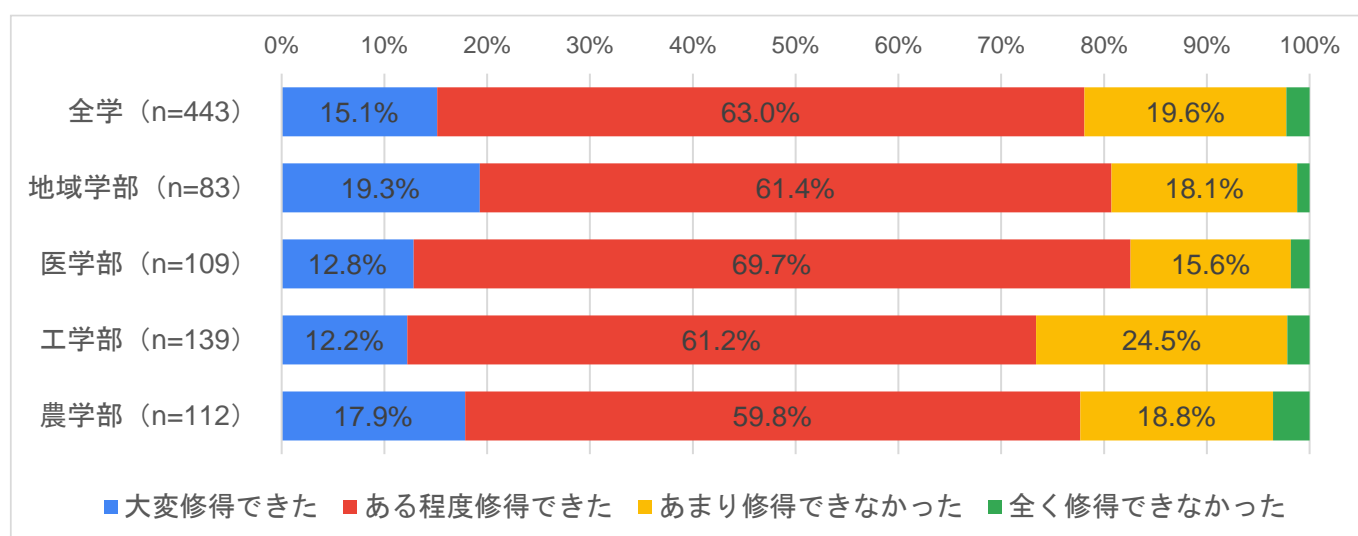


大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力(5/8) <問題発見・課題解決力> <自己管理・実行力>

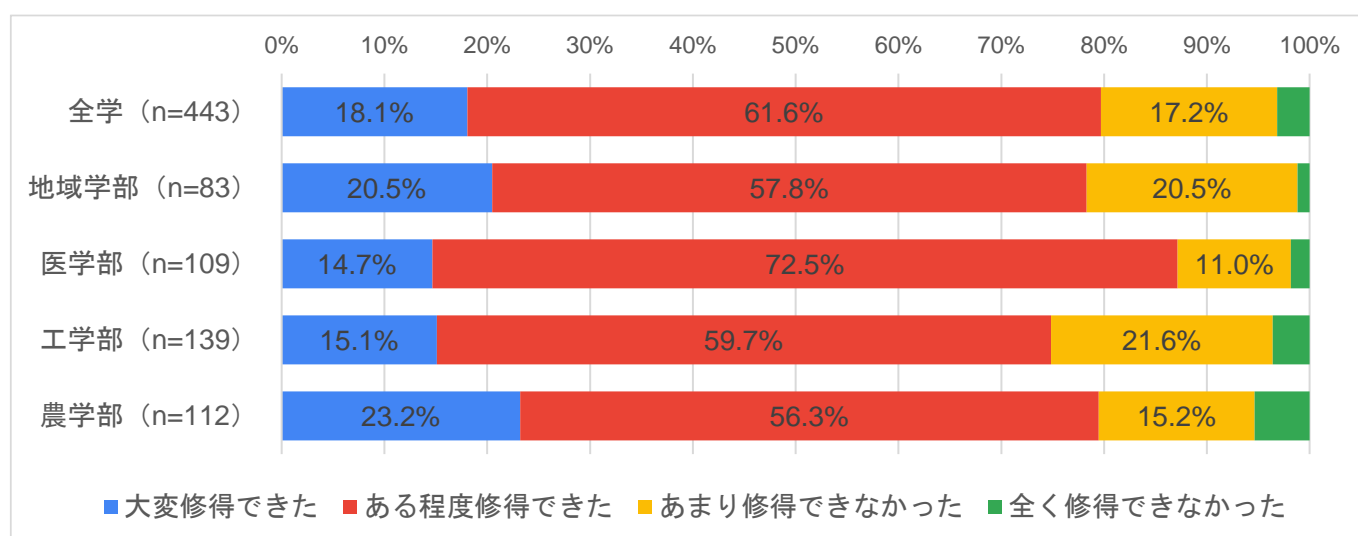
・「問題発見・課題解決力」について、全学で 78.1%の肯定的回答であった。地域学部と医学部では 8 割を超え、農学部では 77.7%，工学部では 73.4%であった。

・「自己管理・実行力」について、全学平均で 79.7%の肯定的回答，なかでも医学部で 87.2%と高い肯定的回答であった。農学部で 79.5%，地域学部では 78.3%，工学部で 74.8%であった。

問題発見・課題解決力



自己管理・実行力

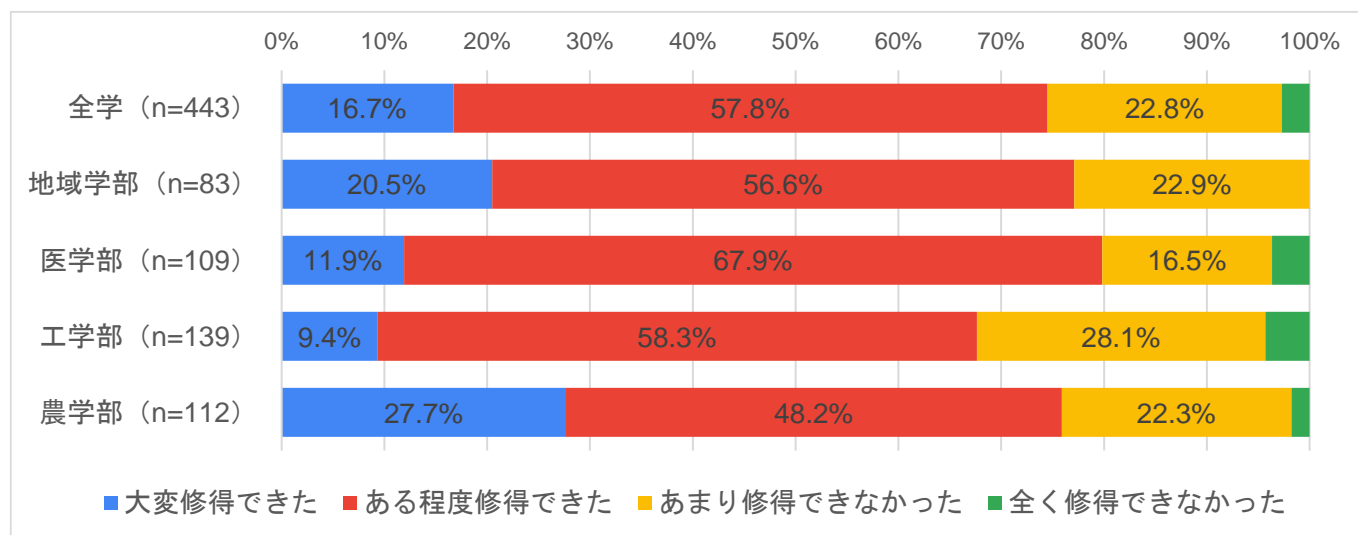


大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力(6/8) <生涯学習力> <協働力>

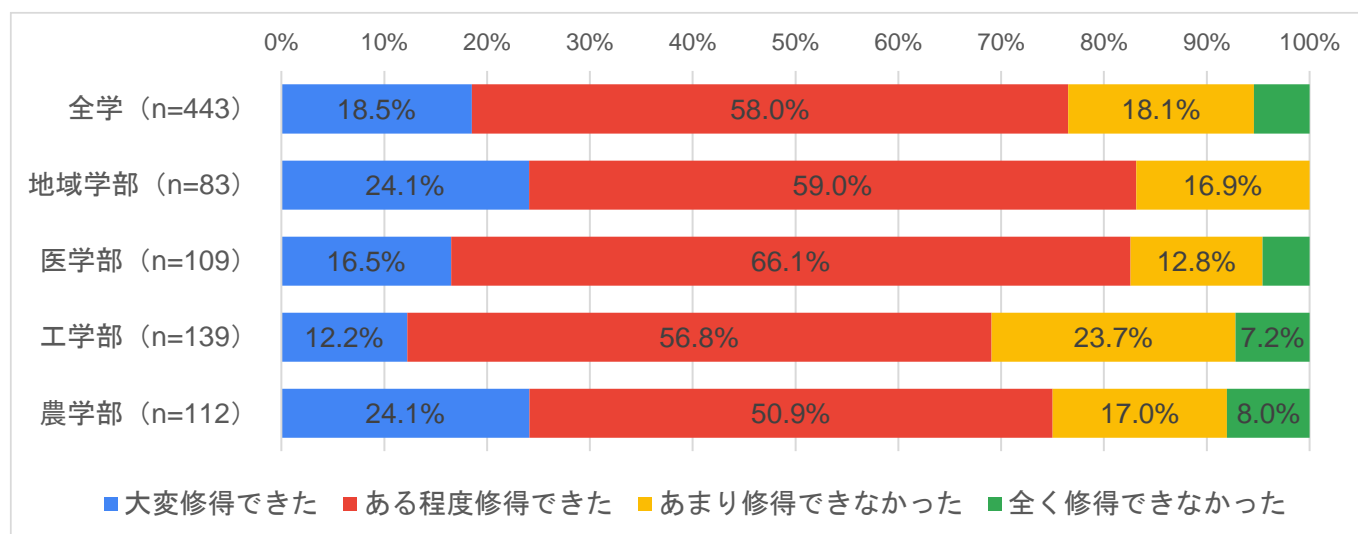
・「生涯学習力」について、全学で 74.5%の肯定的回答であった。医学部で約 8 割、地域学部で 77.1%，農学部では 75.9%，工学部では 67.8%と低めの肯定的回答であった。

・「協働力（リーダーシップも含む）」について、全学平均では 76.5%の肯定的回答であった。地域学部と医学部では約 83%であったが、農学部では 75%，工学部では 69.1%であった。工学部で 7 割を下回っており、改善の余地がある。

生涯学習力



協働力（リーダーシップも含む）

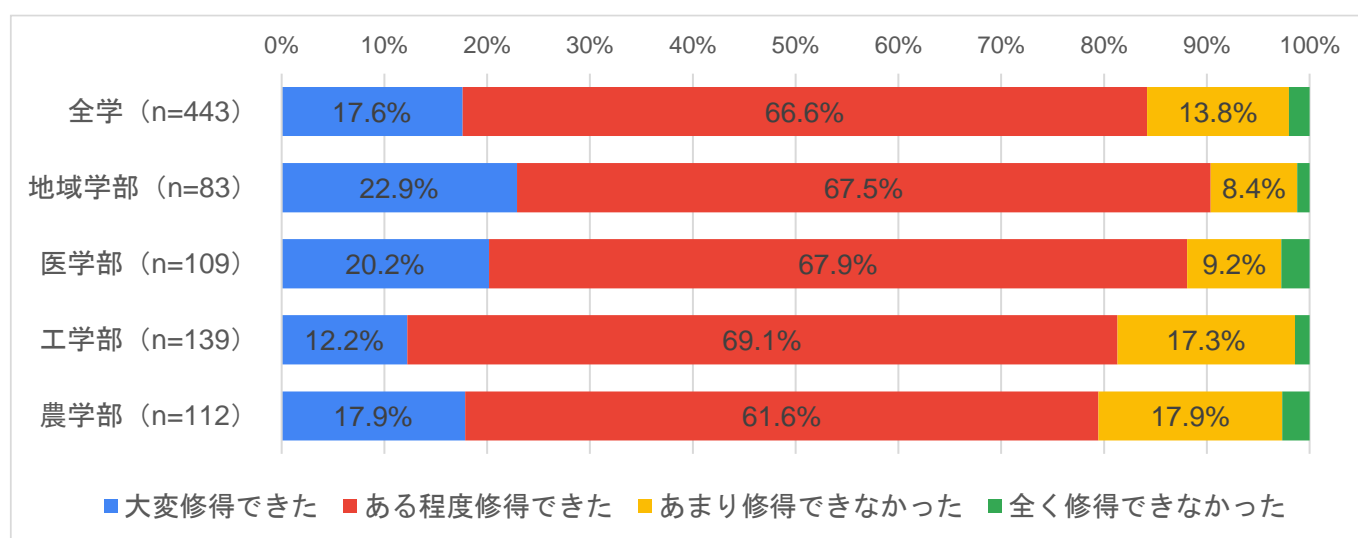


大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力(7/8) <倫理観> <社会性>

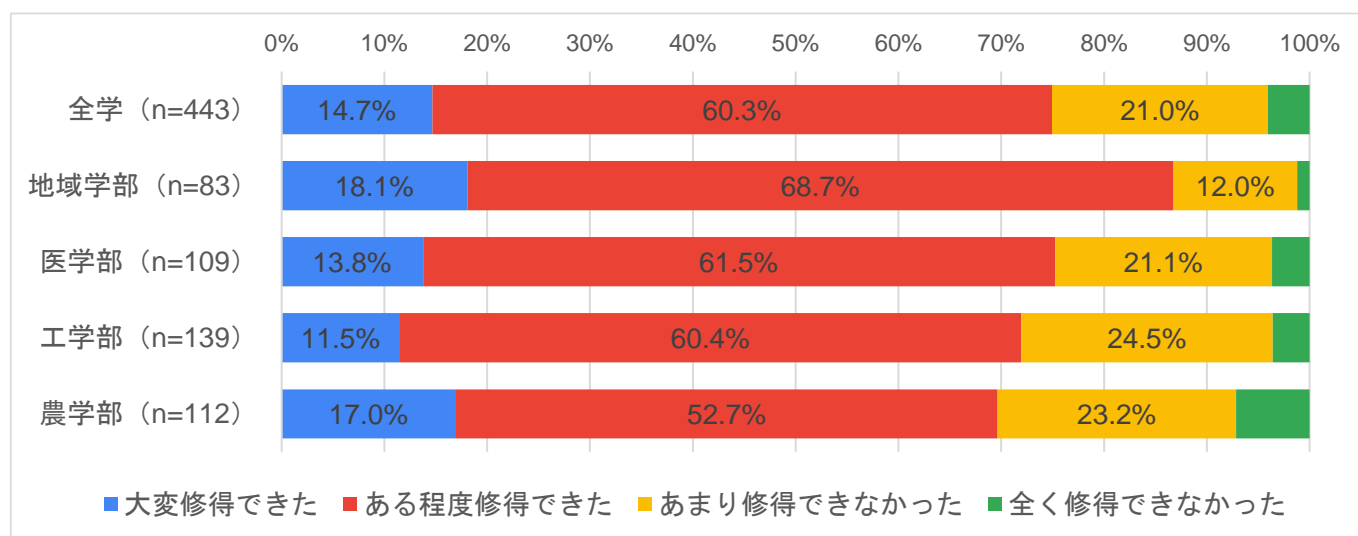
・「倫理観」について、全学平均では 84.2%，なかでも地域学部では約 9 割の肯定的回答であった。また医学部 88.1%，工学部 81.3%，農学部 79.5%で、全体的に高い肯定的回答であった。

・「責任ある市民としての社会性」について、全学平均は 74.9%であった。地域学部で最も多く、86.7%の肯定的回答であった。医学部で 75.2%，工学部では 71.9%，農学部では 69.6%であった。

倫理観



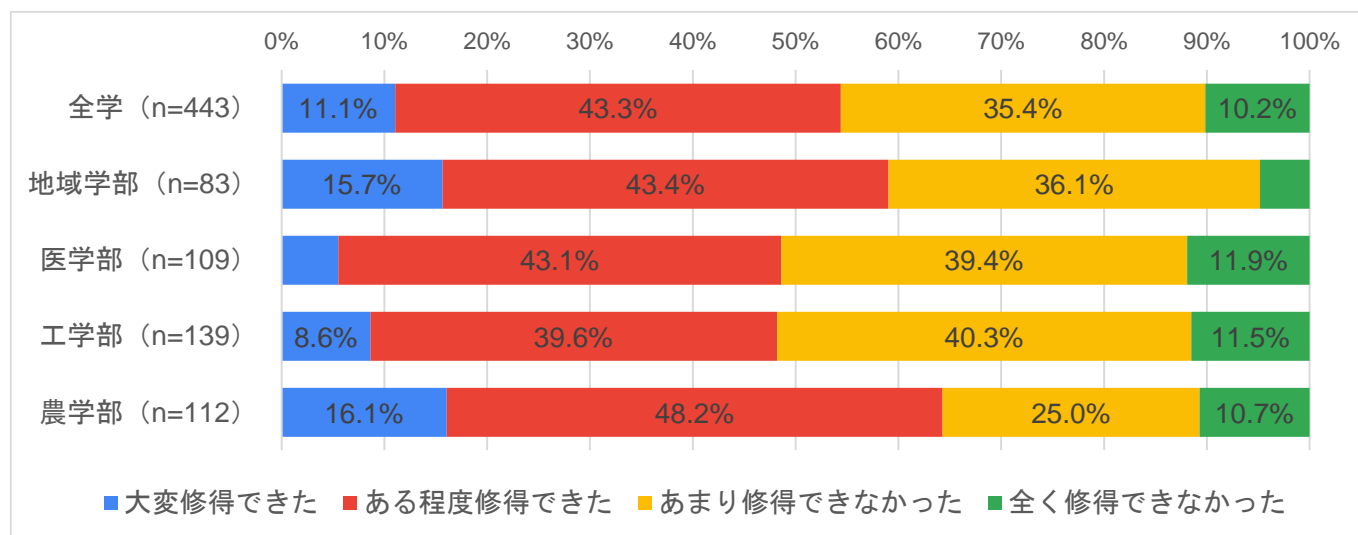
責任ある市民としての社会性



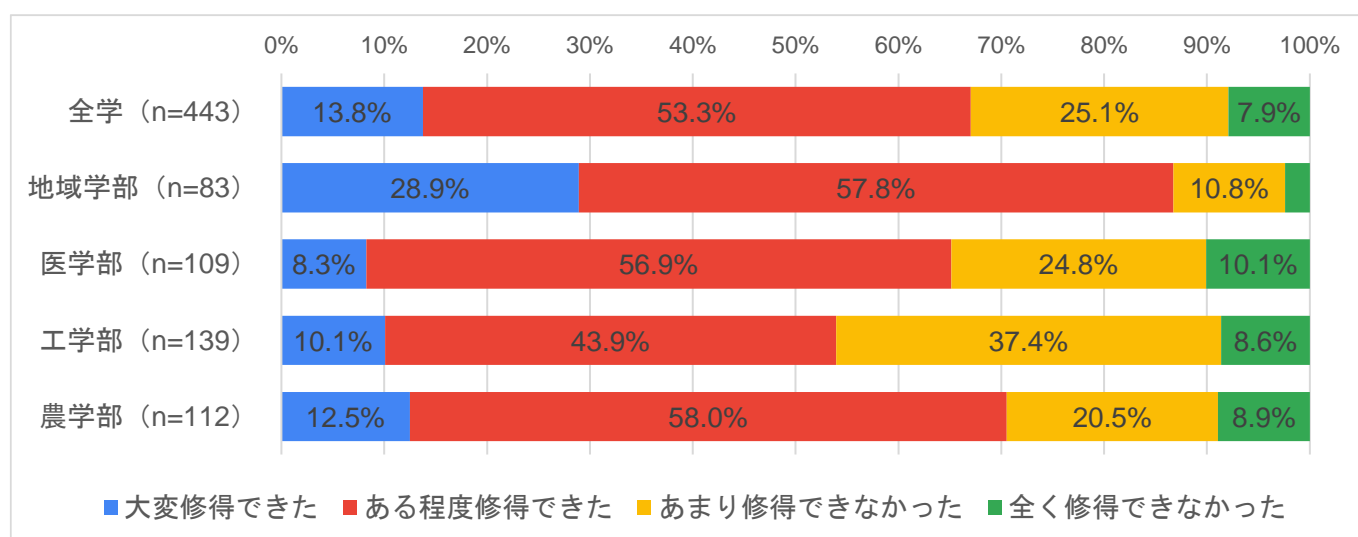
大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力(8/8) <国際対応力> <社会参加>

- ・「国際化への対応力」について、全学で 54.4%の肯定的回答であった。農学部で一番多い 64.3%の回答で、次いで地域学部の 59.0%，医学部と工学部でともに 5 割未満の肯定的回答となった。
- ・「社会参加への行動力」に関しては、全学平均では 67%の肯定的回答であるが、学部間で差が見られた。地域学部で最も多く 86.7%の肯定的回答であった。農学部では約 7 割，医学部では 65.1%，工学部で一番少なく，54%となった。

国際化への対応力



社会参加への行動力

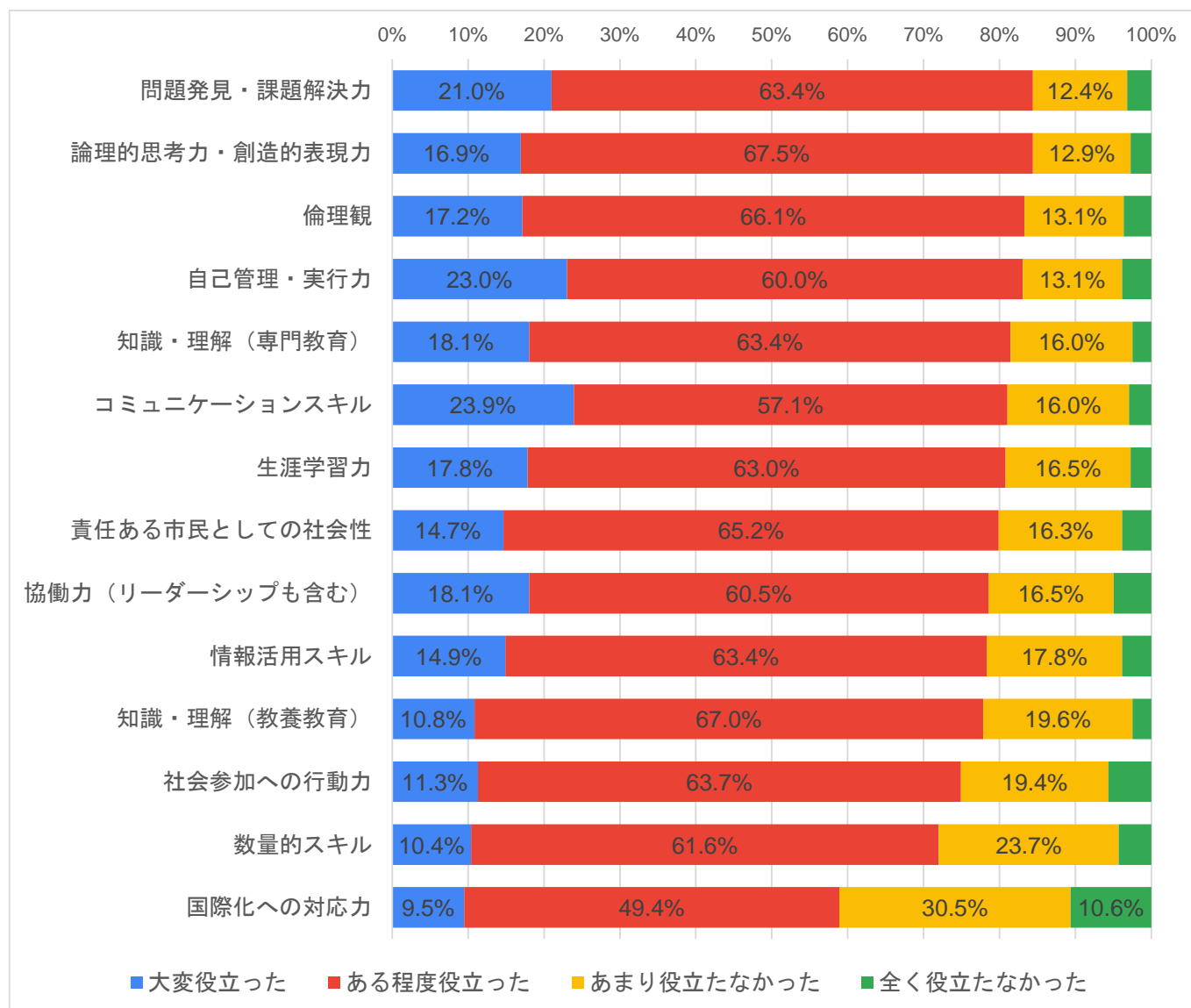


社会に出て教育成果として役立った DP 能力(1/8)

<全体>

・社会に出て教育成果として役立った DP 能力は、「大変役立った」・「ある程度役立った」を合計すると、「問題発見・課題解決力」・「論理的思考力・創造的表現力」がともに 84.4% で最も高く、「倫理観」(83.3%)、「自己管理・実行力」(83.1%)、「知識・理解(専門教育)」(81.5%)、「コミュニケーションスキル」・「生涯学習力」(それぞれ 81.0%, 80.8%)、以上の能力について、80%以上の卒業生が役に立ったと回答している。逆に低いのは「国際化への対応力」(58.9%)であり、今後の改善が期待される。

社会に出て教育成果として役立った DP 能力



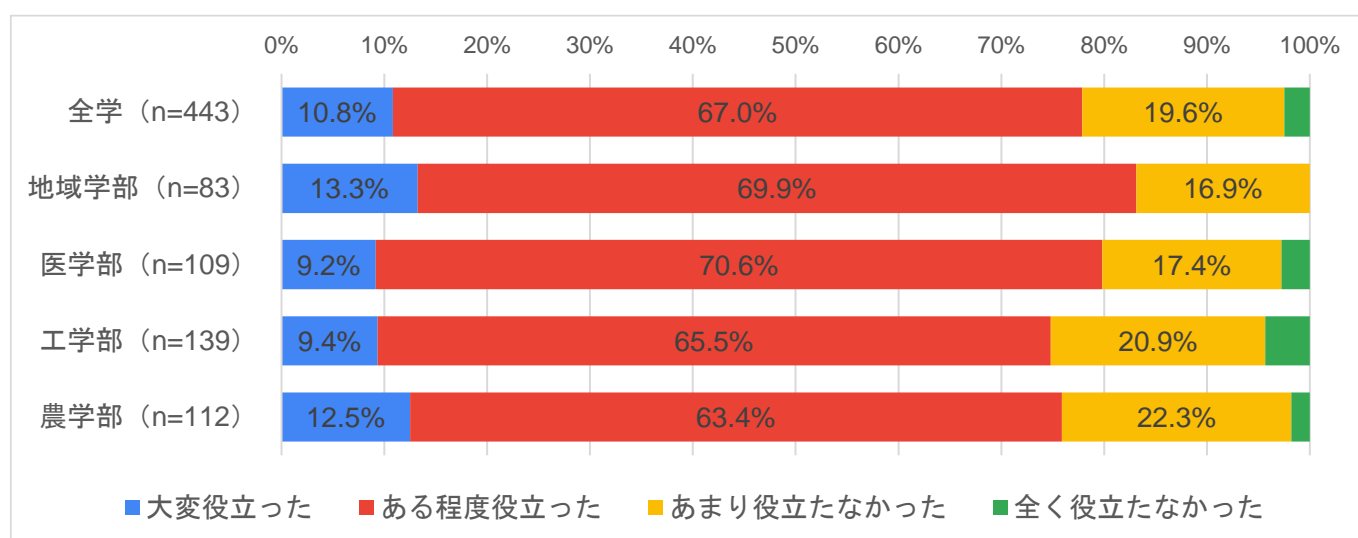
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(2/8)

<知識・理解（教養教育）> <知識・理解（専門教育）>

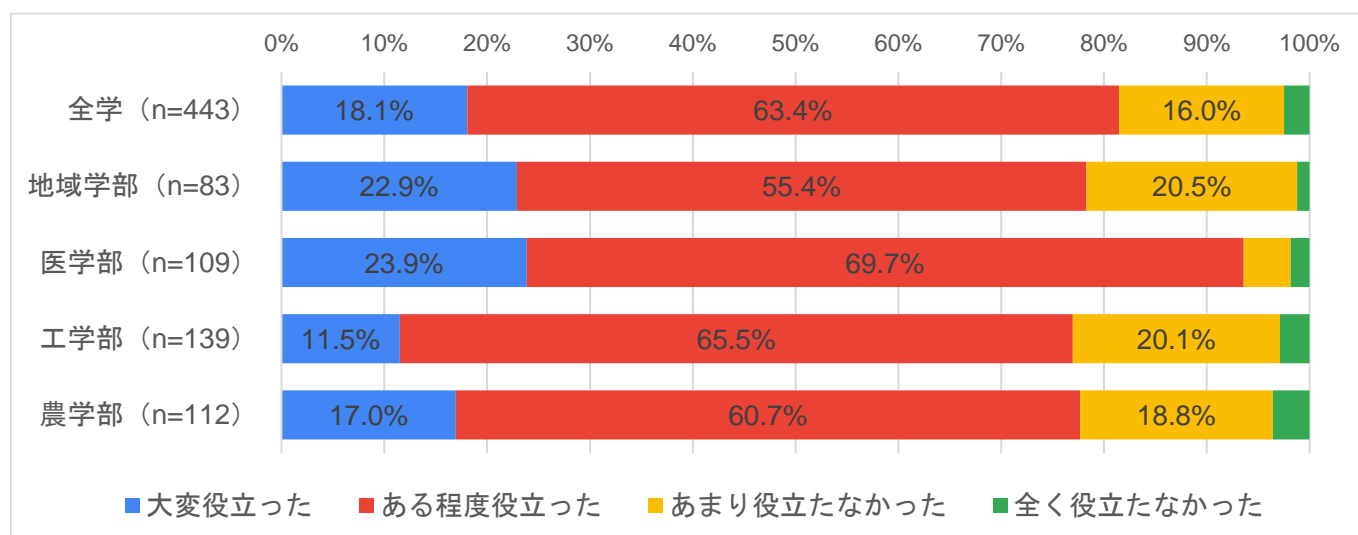
・「知識・理解（教養教育）」に関しては、全学で卒業生の 77.9%が役に立ったとしている。このうち地域学部が 83.1%で最も高く、医学部が 79.8%，工学部・農学部は概ね 75%となっている。ただし「大変役立った」はいずれも 10%前後であり、改善の余地を残している。

・「知識・理解（専門教育）」に関しては、全学で卒業生の 81.5%が役に立ったとしており、教養教育の知識・理解より高い。なかでも医学部は 93.6%となっており、他の 3 学部も概ね 78%程度の水準となっている。なお工学部では「大変役立った」が 1 割程度にとどまる。

知識・理解（教養教育）



知識・理解（専門教育）

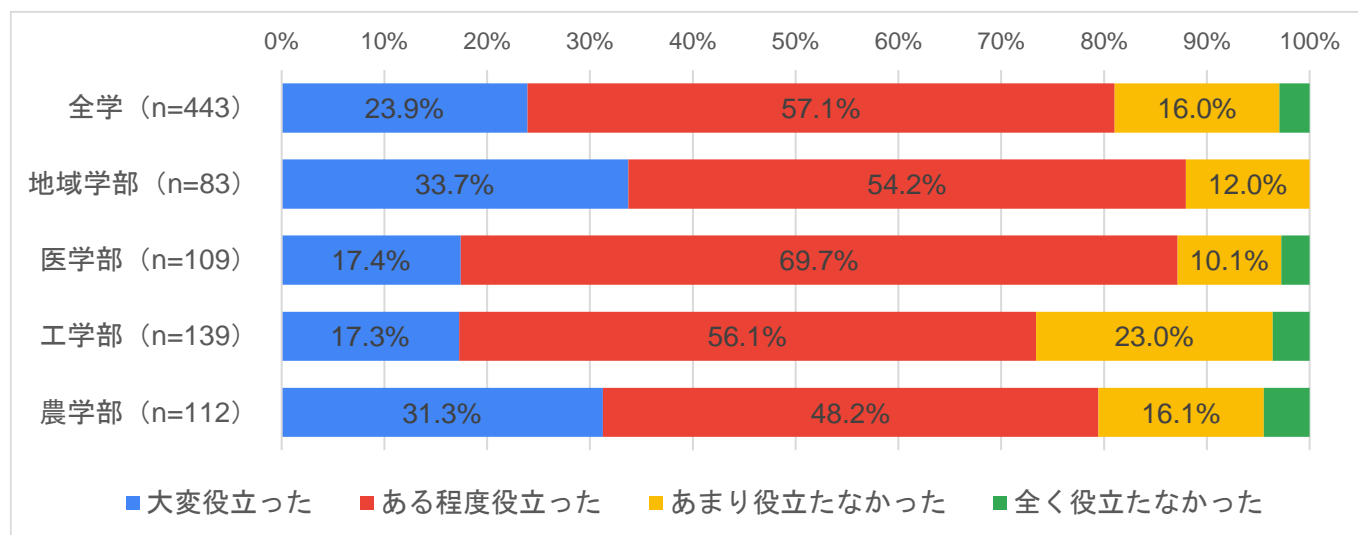


社会に出て教育成果として役立った DP 能力(3/8)

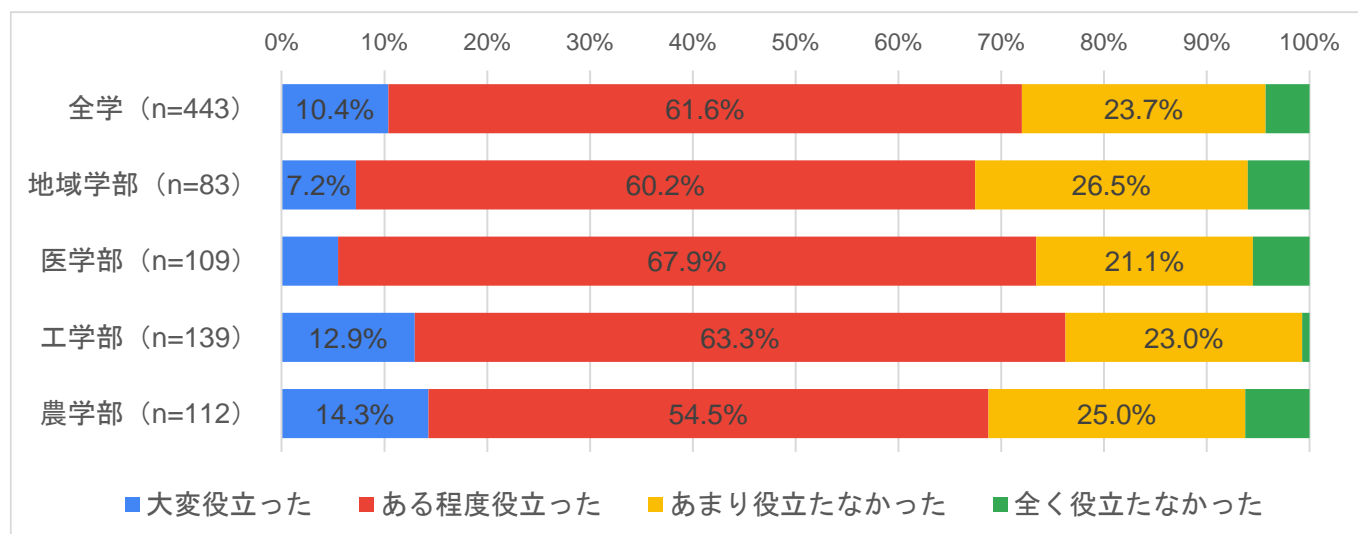
<コミュニケーションスキル> <数量的スキル>

- ・「コミュニケーションスキル」については、全学の 81%が役立ったと回答している。学部別では地域学部が 88.0%，医学部が 87.2%で高く、工学部が 73.4%で最も低くなっている。農学部は 79.5%で平均並みだが、「大変役立った」は地域学部とともに 30%を超えている。
- ・「数量的スキル」については、全学の 72%が役立ったと回答している。学部別では工学部が 76.3%で最も高く、医学部が 73.4%で続く。文系を含む地域学部が 67.5%で最も低いですが、理系の農学部でも 68.8%にとどまっている。

コミュニケーションスキル



数量的スキル



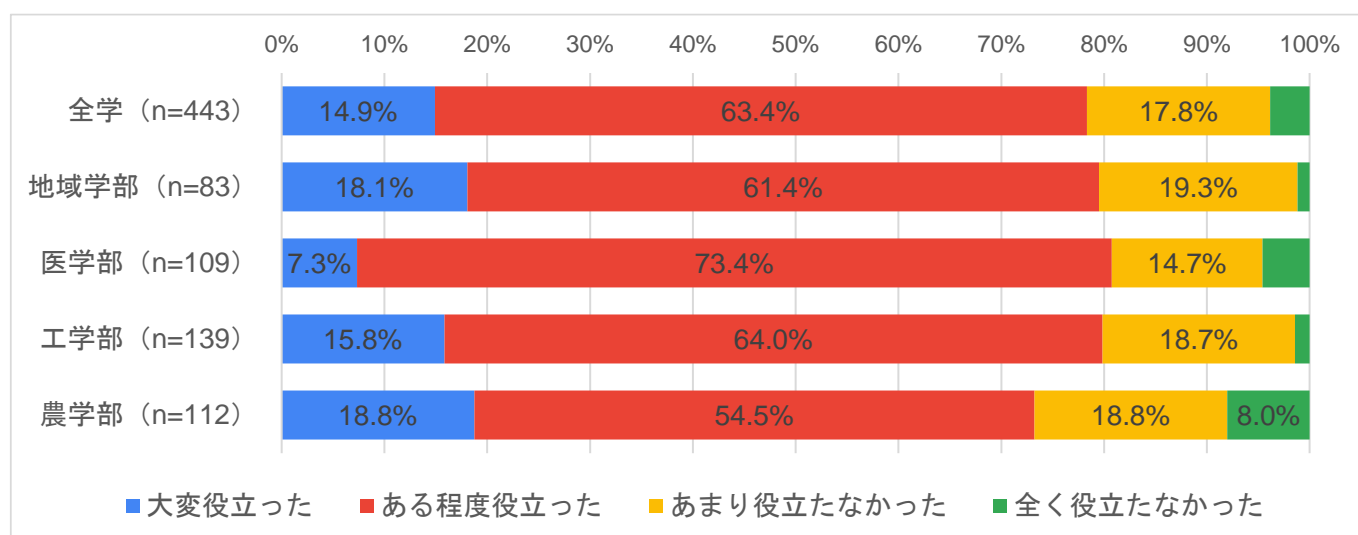
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(4/8)

<情報活用スキル> <論理的思考力・創造的表現力>

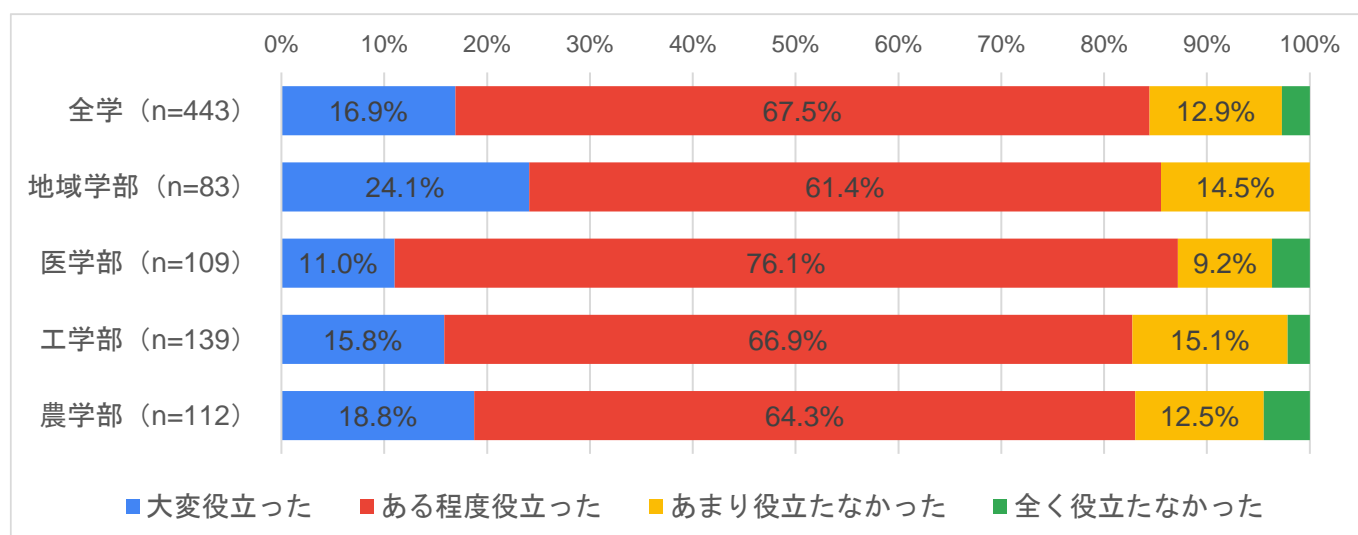
・「情報活用スキル」については、全学では 78.3%，学部別では地域学部・医学部・工学部とも概ね 80%前後で大差が無いが、農学部では 73.2%となっており、やや低い。なお「大変役立った」だけを見れば、医学部が 7.3%で他の学部の半分程度にとどまっている。

・「論理的思考力・創造的表現力」については、全学では能力別で最も高い 84.4%を示し、各学部とも概ね 85%前後の高い水準を示す。なお「大変役立った」の割合はやはり医学部で最も低くなっており、より充実した教育の実現が期待される。

情報活用スキル



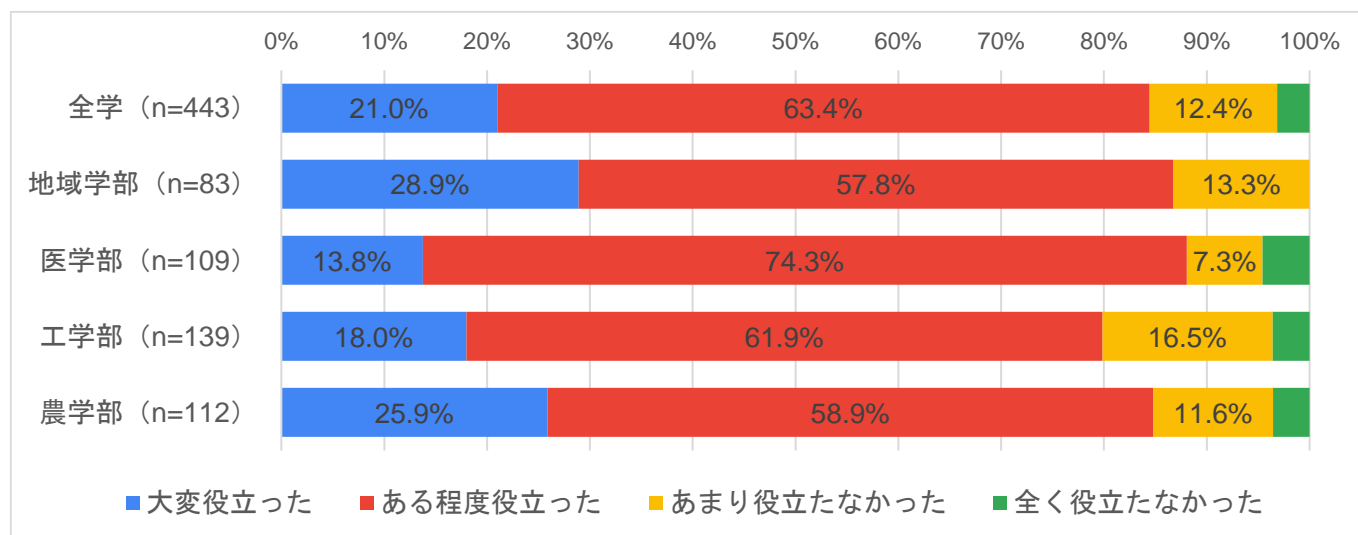
論理的思考力・創造的表現力



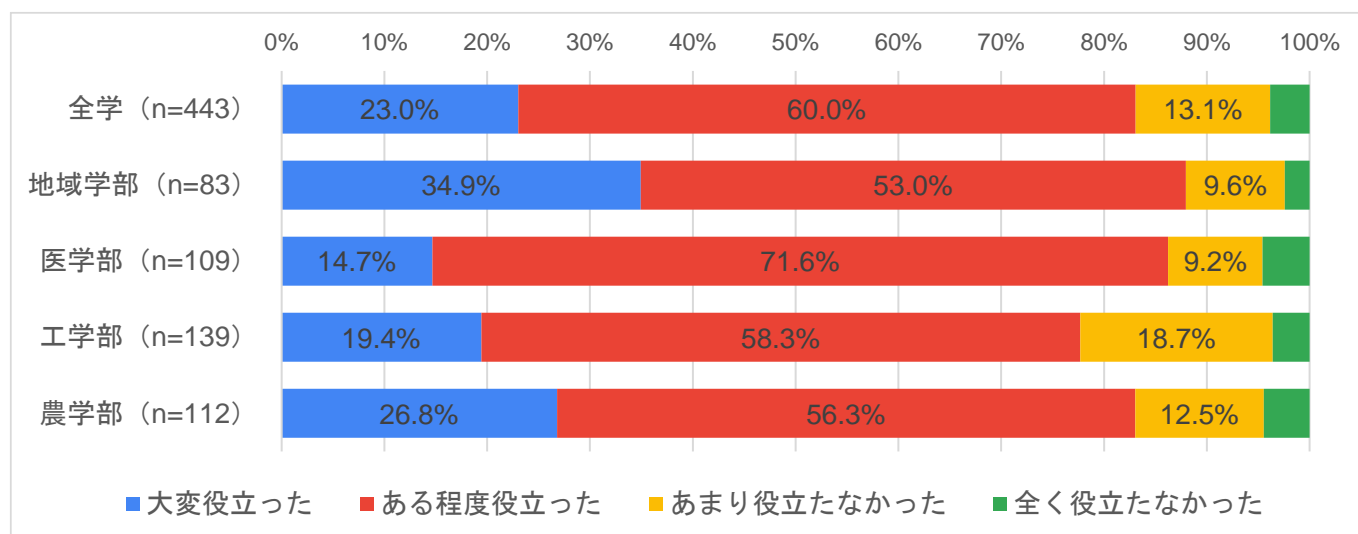
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(5/8) <問題発見・課題解決力> <自己管理・実行力>

- ・「問題発見・課題解決力」については、全学で能力別では最多となる84.4%の卒業生が役立ったと回答しているが、学部別では医学部が88.1%で最も高いが、地域学部も86.7%，農学部も84.8%で高く、最も低い工学部でも79.9%に達する。
- ・「自己管理・実行力」については、全学で83.1%，学部別では地域学部が88.0%で最も高いが、医学部も86.2%，農学部も83%で続いており、工学部が77.7%で最も低くなっている。

問題発見・課題解決力



自己管理・実行力



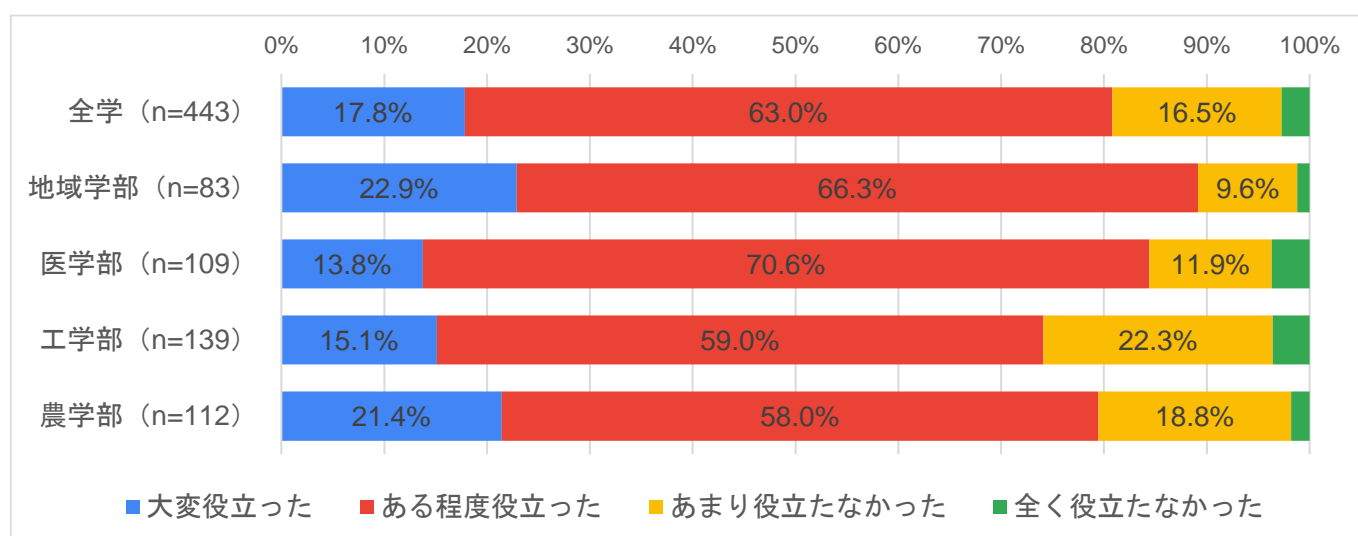
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(6/8)

<生涯学習力> <協働力>

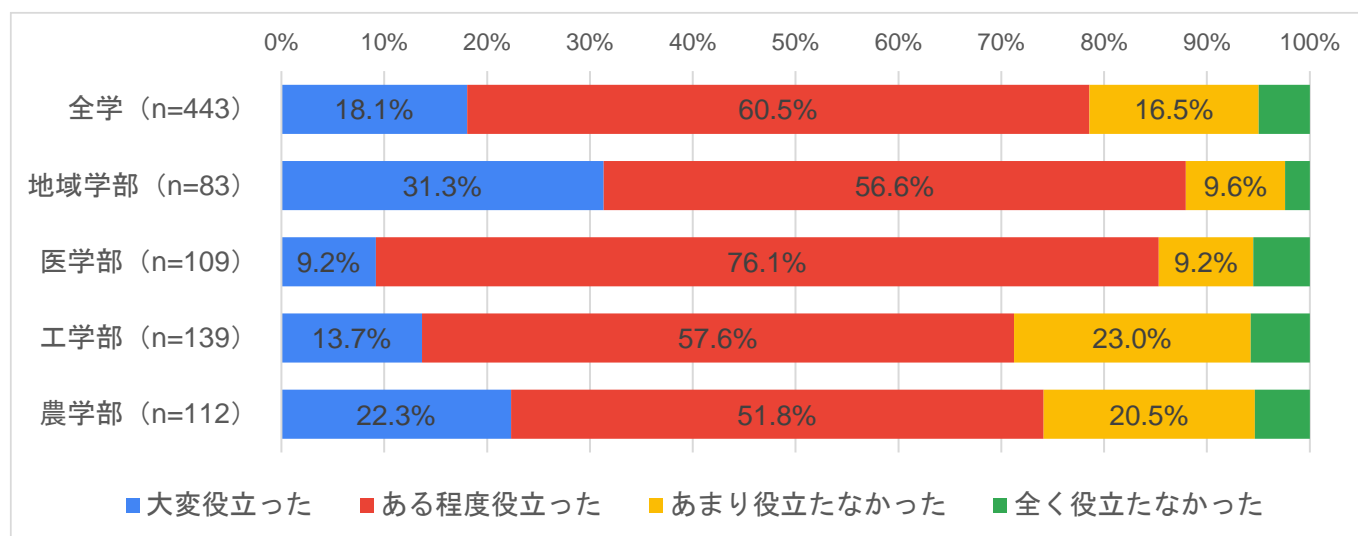
・「生涯学習力」については、全学で 80.8%の卒業生が役立ったと回答しており、学部別では地域学部が 9 割近い 89.2%で最も高くなっており、以下、医学部 84.4%、農学部 79.5%、工学部 74.1%と続いている。

・「協働力（リーダーシップも含む）」については、全学では 78.6%の卒業生が役立ったと回答しており、学部別では地域学部が 88.0%で最も高いが、医学部も 85.3%で高く、工学部・農学部では 70%程度にとどまっている。

生涯学習力



協働力（リーダーシップも含む）

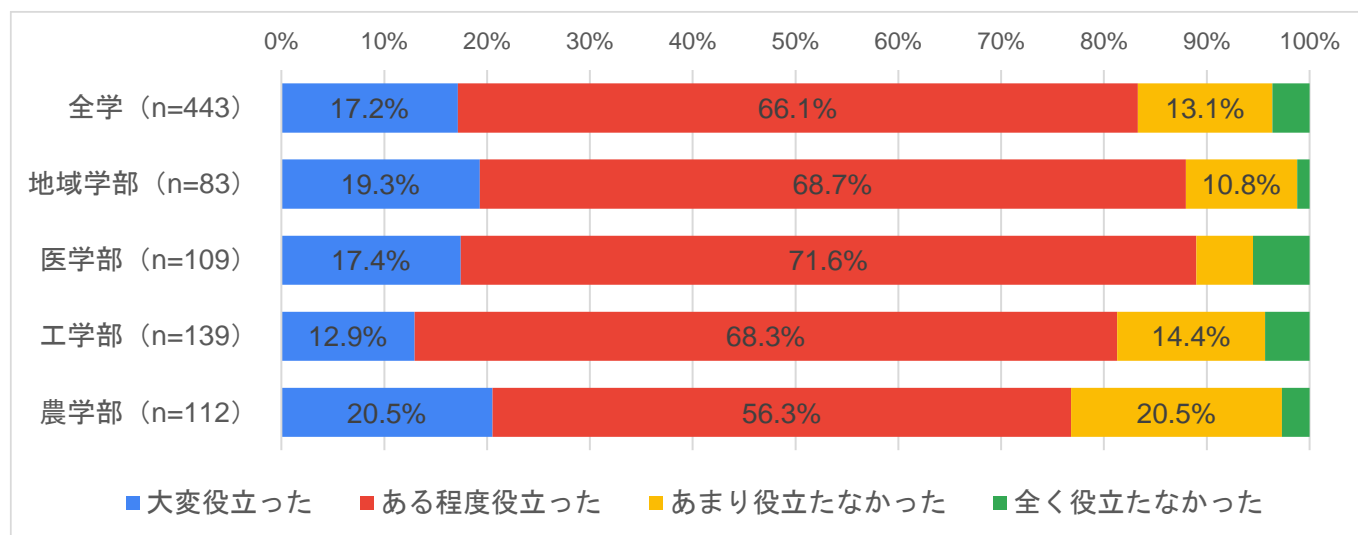


社会に出て教育成果として役立った DP 能力(7/8)

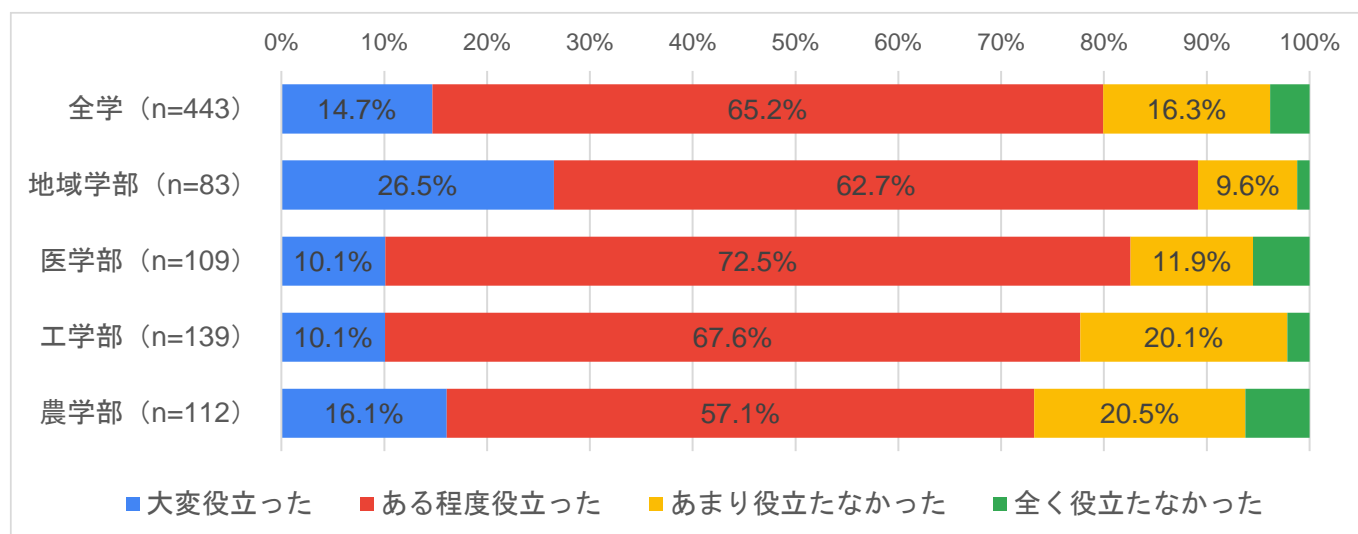
<倫理観> <社会性>

- ・「倫理観」については、全学で卒業生の 83.3%が役立ったと回答しており、学部別では生命にかかわる医学部が 89.0%で最も高いが、地域学部も 88.0%と高く、最も低い農学部でも 76.8%に達している。
- ・「責任ある市民としての社会性」については、全学では 79.9%の卒業生が役立ったと回答しており、学部別では地域社会の問題を扱う地域学部が 89.2%で最も高く、以下、医学部 82.6%，工学部 77.7%，農学部 73.2%で続いている。

倫理観



責任ある市民としての社会性

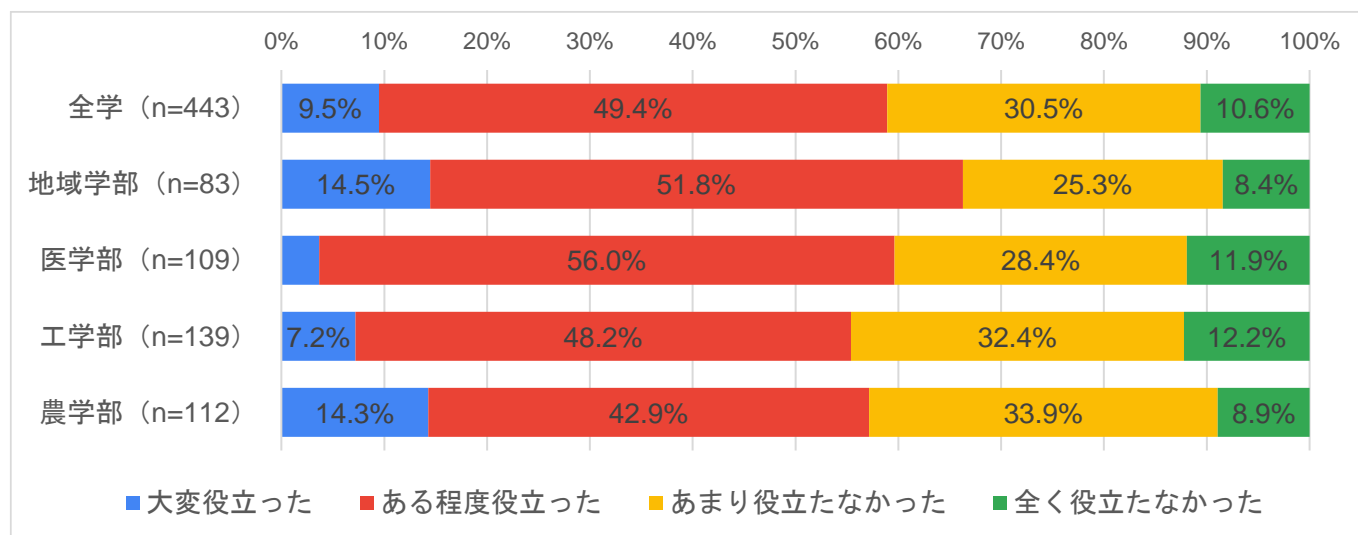


社会に出て教育成果として役立った DP 能力(8/8)

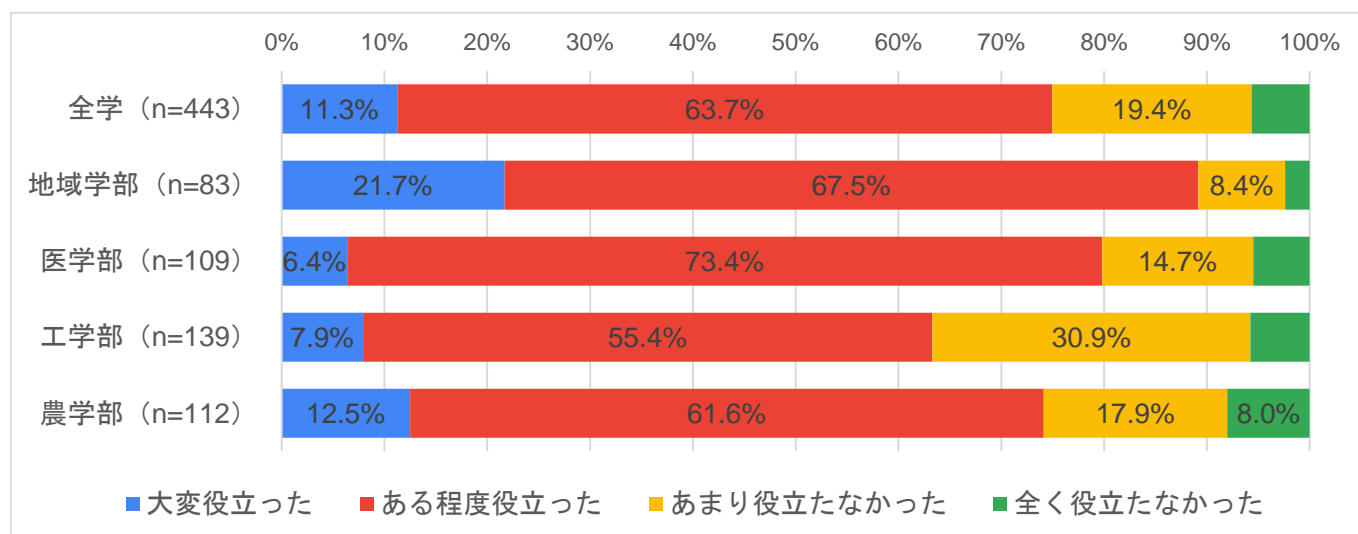
<国際対応力> <社会参加>

- ・「国際対応力」に関しては、全学で6割未満の58.9%が役に立ったと回答するにとどまっている。そのなかで最も高いのは地域学部であるが、それでも66.3%の水準にとどまる。最も低いのは工学部で55.4%，医学部・農学部も6割未満となっている。
- ・「社会参加への行動力」については、全学で74.9%，学部別では地域社会の問題を扱う地域学部が89.2%で突出しており，医学部が79.8%，農学部が74.1%で続き，工学部が63.3%で最も低い。

国際化への対応力

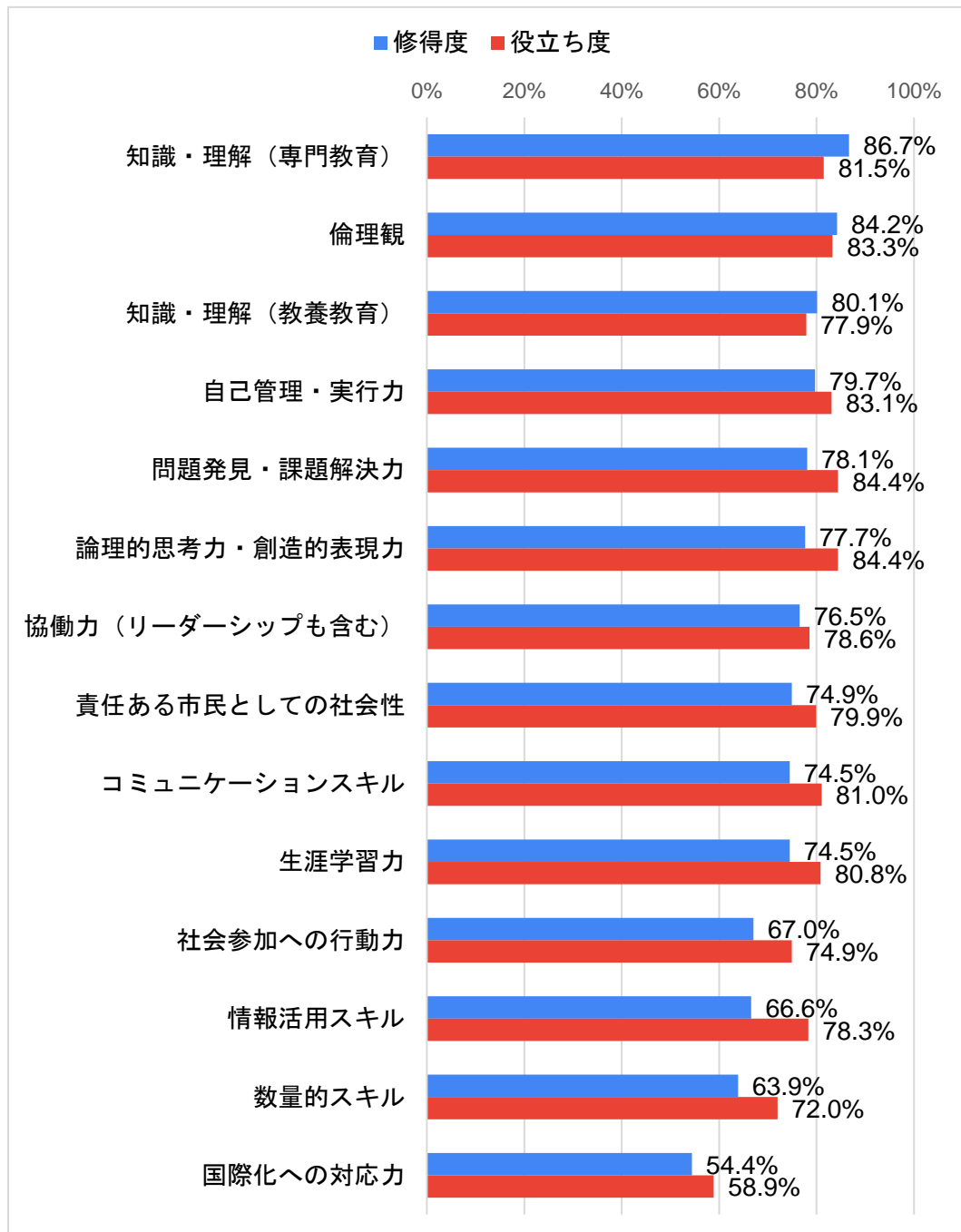


社会参加への行動力



修得度×役立ち度

・「修得度」（「大変」+「ある程度」）と学修成果としての「役立ち度」（「大変」+「ある程度」）を比較すると、概ね両者には相関関係が認められる。また全体として、多くの能力で「修得度」を「役立ち度」が上回り、修得した以上に役立ったと考えられているが、逆に「知識・理解」（専門・教養教育とも）・「倫理観」については「修得度」が「役立ち度」をやや上回っており、修得したほどには役立っていないようである。

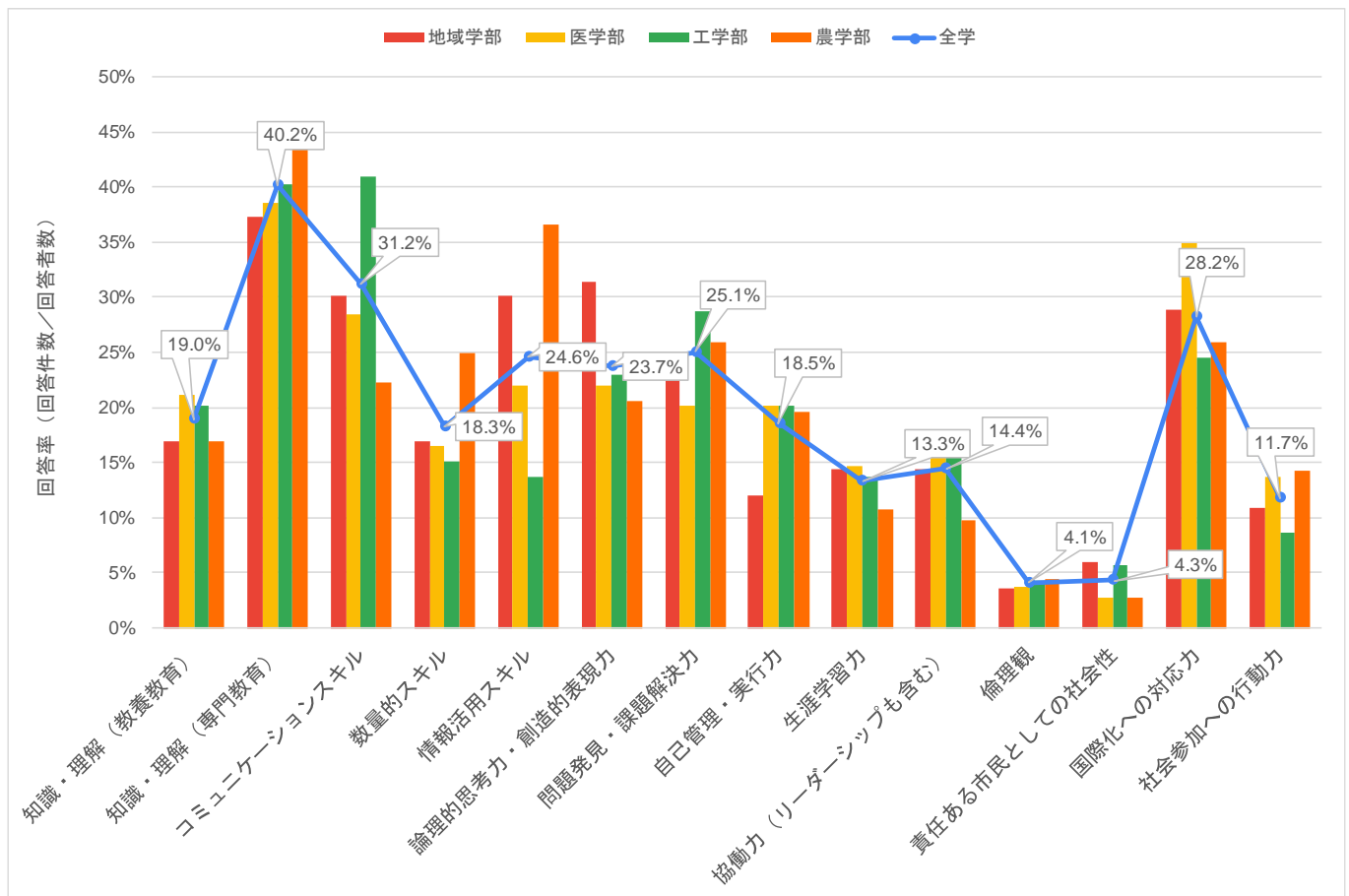


学んでおけば良かったこと

・「在学中にもっと学んでおけば良かったと思うDP能力」としては、全学平均では「知識・理解（専門教育）」が40.2%で最も高く、また「国際化への対応力」が28.2%で次ぐ。このうち「知識・理解（専門教育）」は、修得度では、全学の86.7%が「十分」・「ある程度」修得したと回答しているため、高い修得度に飽き足らずに、さらになお専門教育を深めたい意識が強いと思われるが、「国際化への対応力」については、全学で最低の54.4%しか修得したと回答しておらず、低い修得度への自覚がもっと学んでおけば良かったという後悔につながっていると思われる。なお「倫理観」・「責任ある市民としての社会性」がともに5%未満で最も低くなっている。

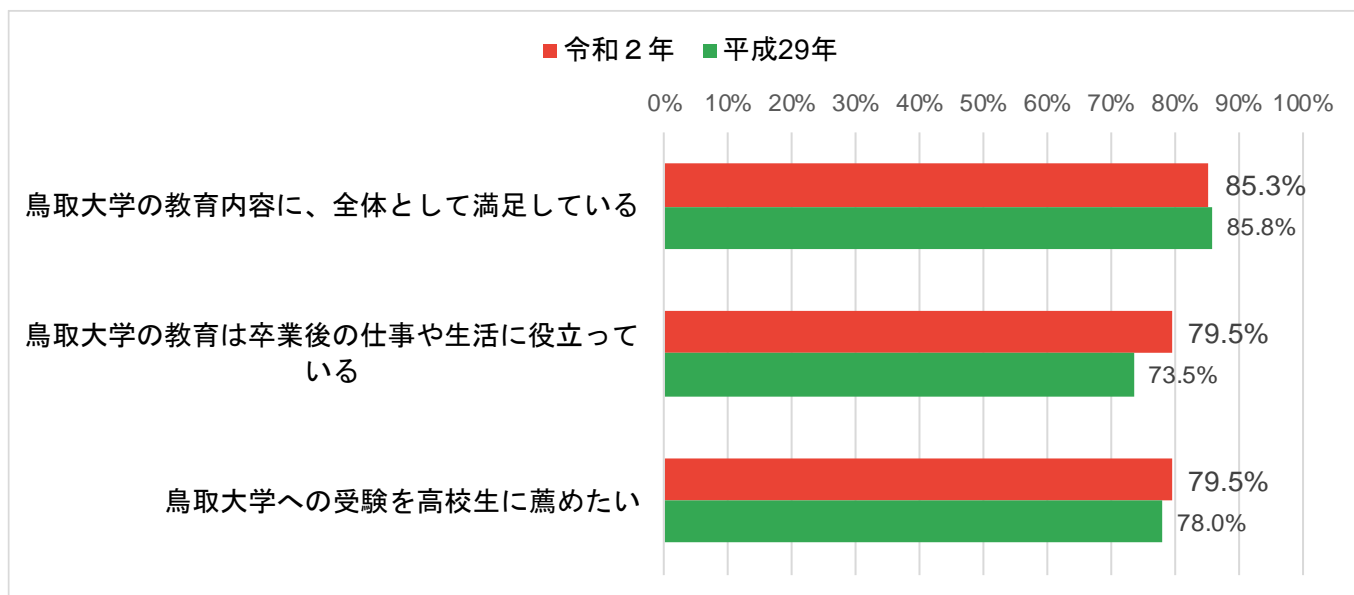
学部別で見ると、地域学部では「論理的思考力・創造的表現力」、工学部では「コミュニケーションスキル」、農学部では「数量的スキル」・「情報活用スキル」において、他学部より高い回答を示している。

在学中にもっと学んでおけば良かったと思う DP 能力



H29・R2 比較(1/3) ＜総合的な満足度＞

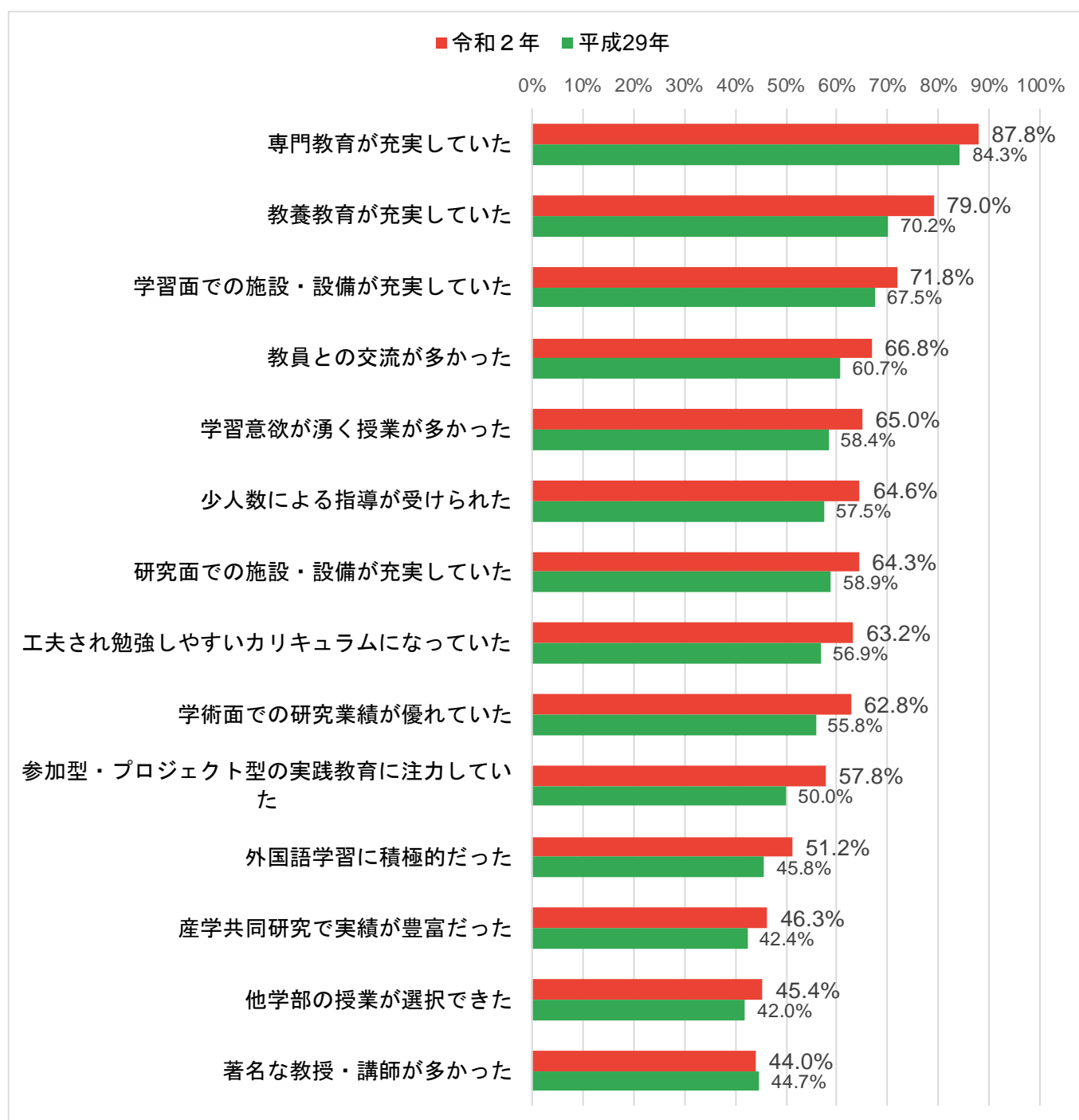
・前回の平成 29 年度調査と今回の令和 2 年度調査を比較すると、「総合的な満足度」については、「全体として満足」の肯定的な回答率が 85.8%から 85.3%へとわずかに下落しているものの、「卒業後に役立っている」は 73.5%から 79.5%へと、また「受験を高校生に薦めたい」は 78.0%から 79.5%へと、いずれも上昇している。なお、前々回の平成 24 年度調査から、前回の平成 29 年度調査にかけては、これら 3 項目の全てで上昇を記録しており、満足度は着実に上昇する傾向にあるが、「全体として満足」は伸び悩んでいるようにも見える。



H29・R2 比較(2/3)

<教育・研究の充実度>

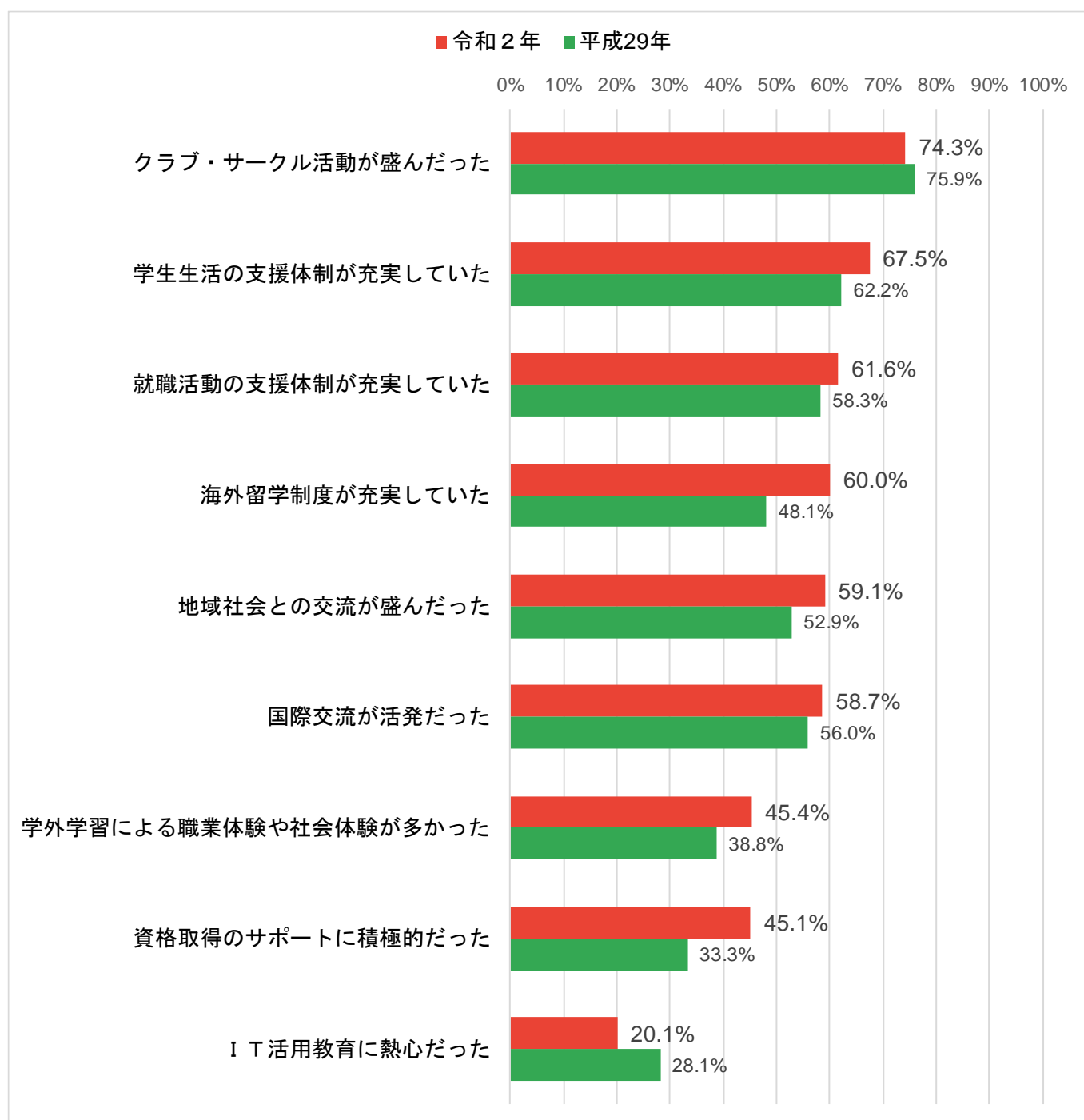
・「教育・研究の充実度」については、前回平成 29 年度調査から今回令和 2 年度調査にかけて、ほぼ全ての項目で肯定的回答率が上昇している。唯一下落しているのは、「著名な教授が多い」の項目で、44.7%から44.0%へと下降しているが、この項目はそもそも肯定的回答率の割合が全体のなかで低い。なお前々回平成 24 年度調査から前回平成 29 年度調査にかけては、「教員との交流が多い」、「他学部の授業が選択できた」が下落したが、今回ともに上昇に転じた。



H29・R2 比較(3/3)

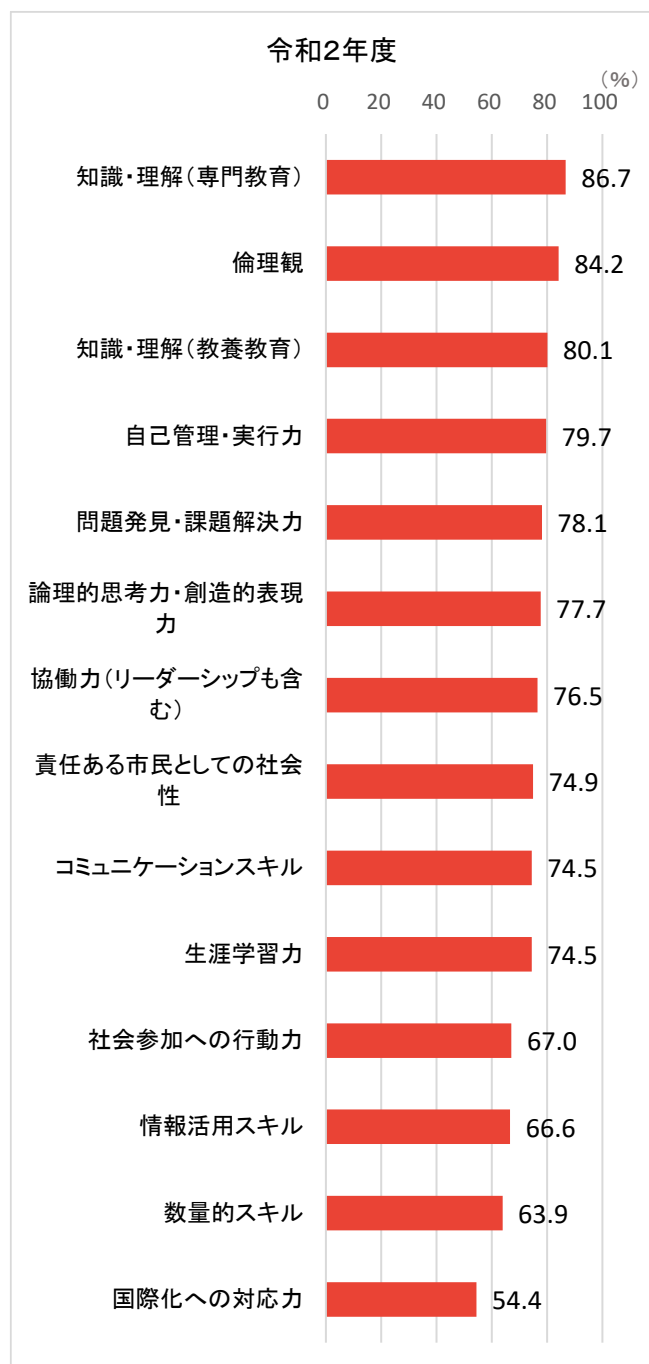
<交流活動・支援体制の充実度>

・「交流活動・支援体制」については、前回平成 29 年度調査から今回令和 2 年度調査にかけてほぼ全ての項目で肯定的回答率が上昇しているが、例外として「クラブ・サークル活動」「I T 活用教育」は肯定的回答率が下落している。このうち「クラブ・サークル活動」はそもそも肯定的回答率が最大であるから、現実の満足度は高いと思われる。これに対して「I T 活用教育」は肯定的回答率が最低であるから、低い満足度がさらに低下した可能性があり、今後の対応が期待される。



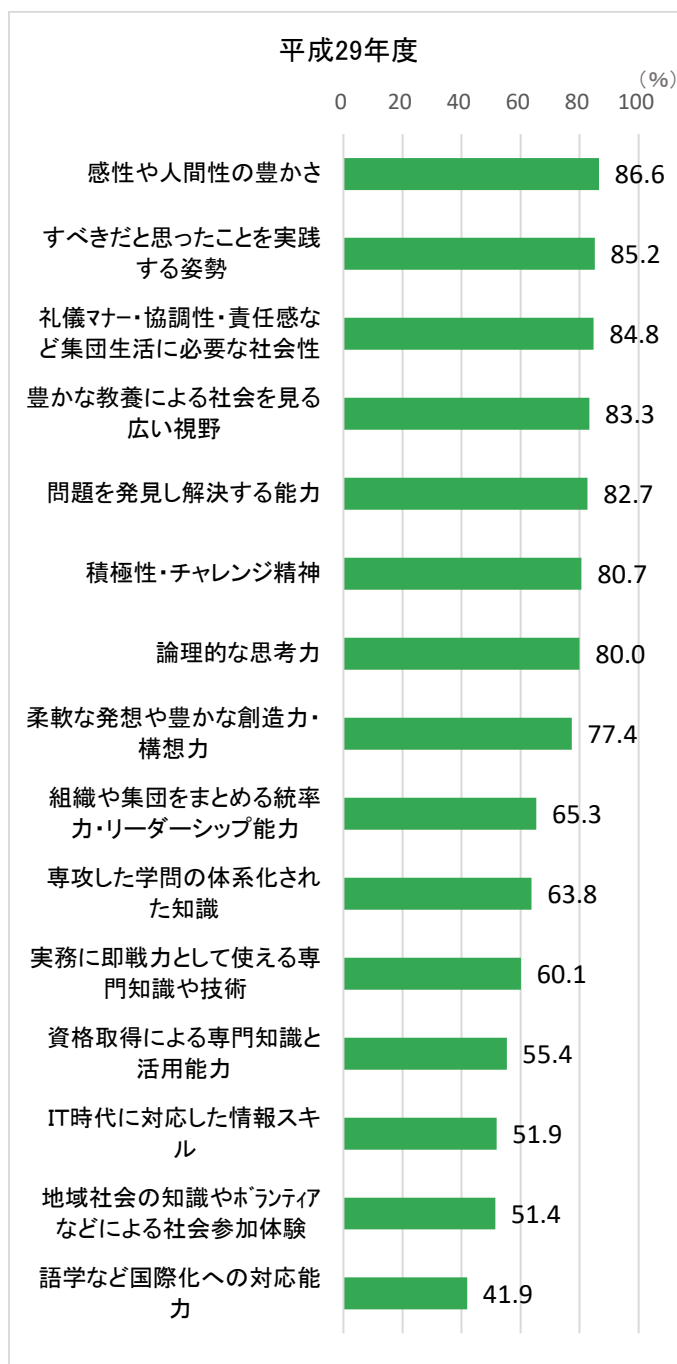
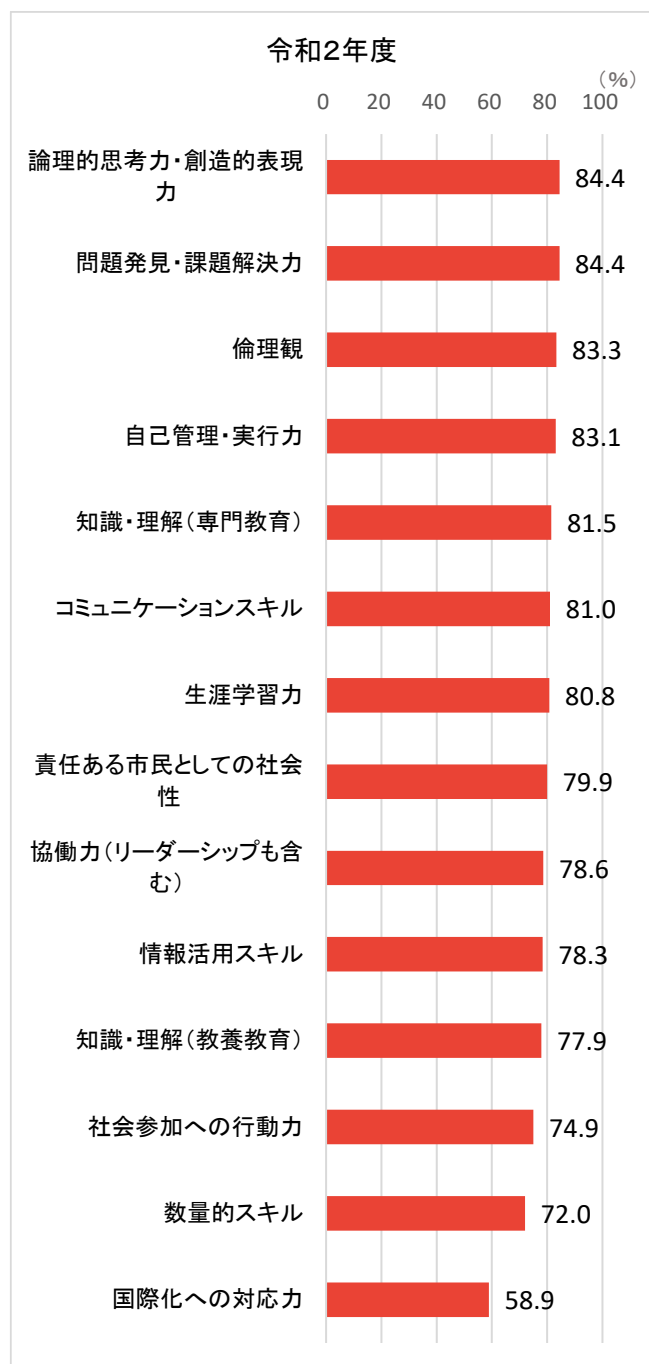
令和2年度調査「大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力」と、
平成29年度調査「修得した能力・技術・知識等」

今回調査（令和2年度）と前回調査（平成29年度）とでは異なる設問であるため単純に比較できないが、参考のために掲載する。



令和2年度調査「社会に出て教育成果として役立った DP 能力」と、
平成29年度調査「役立った能力・技術・知識等」

今回調査（令和2年度）と前回調査（平成29年度）とでは異なる設問であるため単純に比較できないが、参考のために掲載する。



第2章

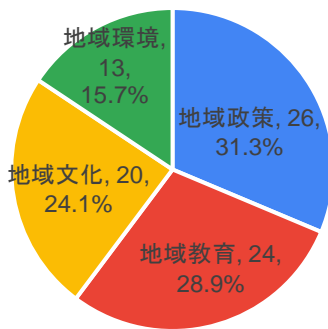
学部別 集計結果

地域学部

地域学部 回答者の属性

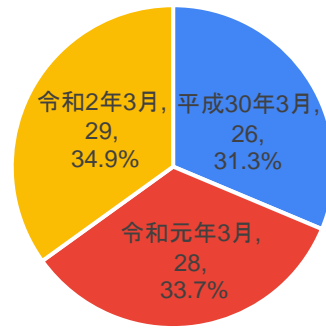
【学部・学科】

地域政策	地域教育	地域文化	地域環境	計
26	24	20	13	83
31.3%	28.9%	24.1%	15.7%	100.0%

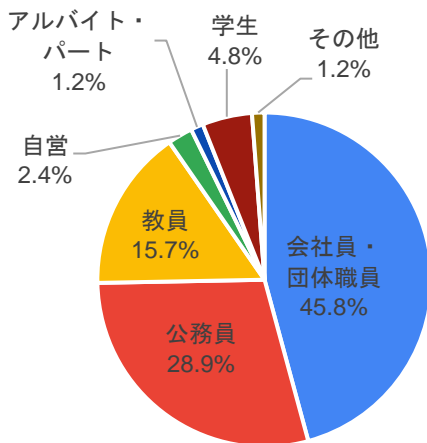


【学部・卒年】

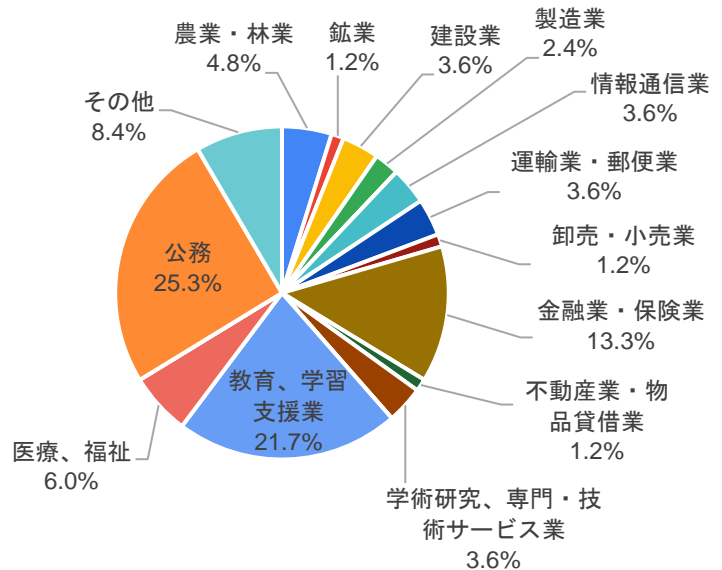
平成30年3月	令和元年3月	令和2年3月	計
26	28	29	83
31.3%	33.7%	34.9%	100.0%



【学部・職業】



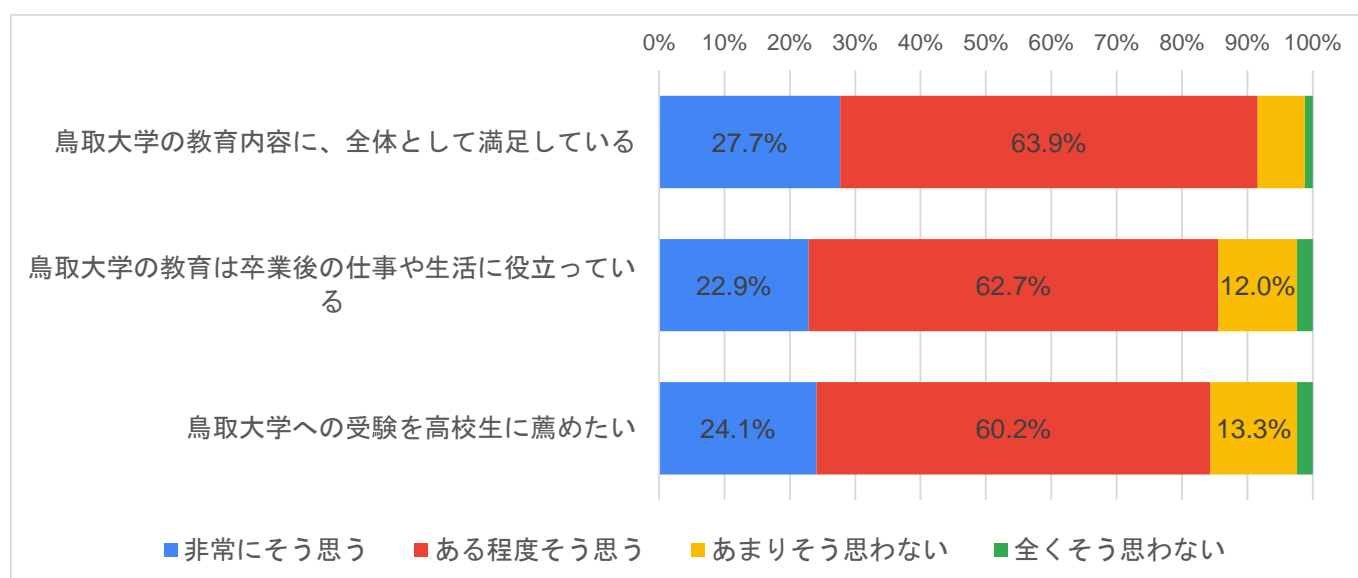
【学部・業種】



地域学部

総合的な満足度

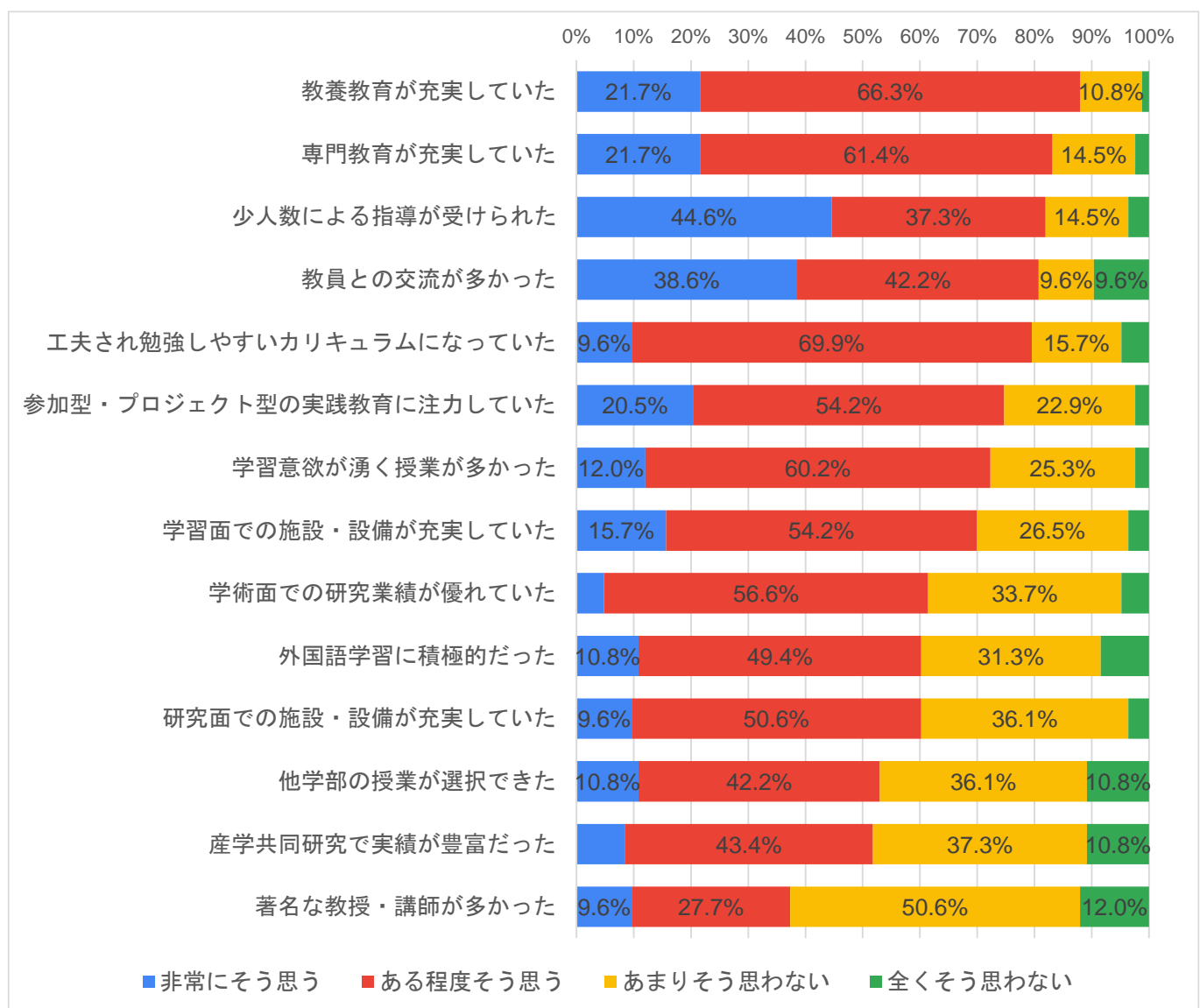
- ・「鳥取大学の教育内容に対する全体的な満足度」は、「非常にそう思う」27.7%、「ある程度そう思う」63.9%で、9割以上が肯定的回答だった。
- ・「鳥取大学の教育の卒業後の仕事や生活への役立ち度」は、「非常にそう思う」22.9%、「ある程度そう思う」62.7%で、8割以上が肯定的回答だった。
- ・「鳥取大学への受験を高校生に薦めたい」は、「非常にそう思う」が24.1%であり約4人に1人が強い肯定的回答だった。また「ある程度そう思う」60.2%とあわせると、8割以上が肯定的回答だった。
- ・以上の回答結果から、総合的な満足度は高いといえる。



地域学部

教育・研究の充実度

- ・「教養教育が充実」「専門教育が充実」はともに 8 割以上の肯定的回答を得ており、教育面の充実度は高い。
- ・「少人数による指導」は 81.9%の肯定的回答であり、「非常にそう思う」の回答が 4 割以上を占め、注目に値する。また「教員との交流」は 80.8%の肯定的回答であり、4 割近くが「非常にそう思う」と強い肯定的回答だった。これは「少人数による指導」の結果と連動したものでしょう。
- ・「工夫され勉強しやすいカリキュラム」は 8 割近く、「参加型・プロジェクト型の実践教育」「学習意欲が湧く授業」「学習面での施設・設備の充実」は約 7 割以上が肯定的回答であり、学習面の充実度も高いと評価できる。



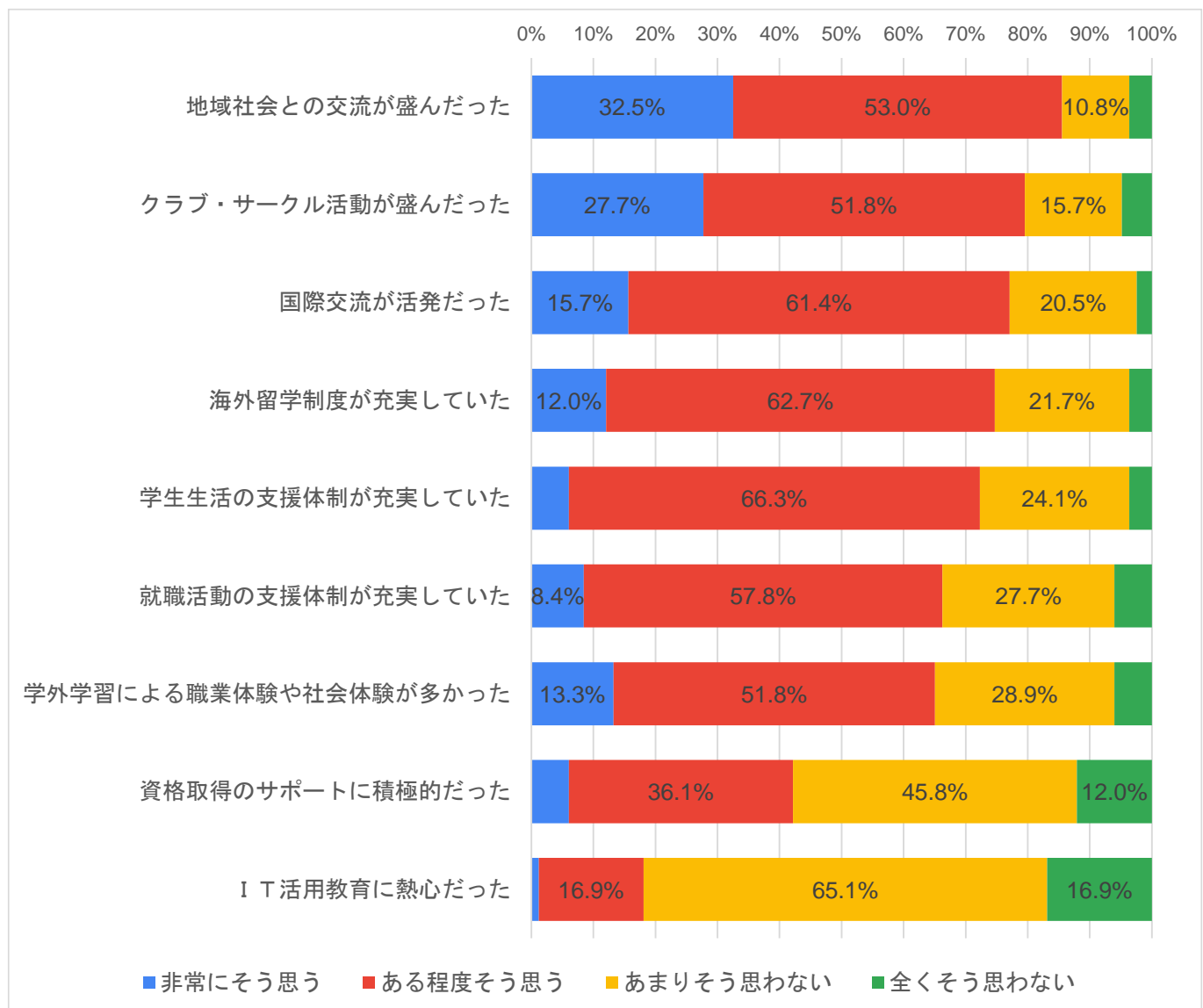
地域学部

交流活動・支援体制の充実度

・「地域社会との交流」は 85.5%が肯定的回答で、「非常にそう思う」は 3 割以上だった。「クラブ・サークル活動」および「国際交流」は 8 割近くが肯定的回答だった。これらから、交流活動の充実度の高さがうかがえる。また「海外留学制度」の肯定的回答が 74.7%と高いのは、「国際交流」の充実度と関係があると思われる。

・「学生生活の支援体制」は 7 割以上、「就職活動の支援体制」および「学外学習による職業体験や社会体験」は 6 割以上の肯定的回答であり、支援体制の充実度も高いといえる。

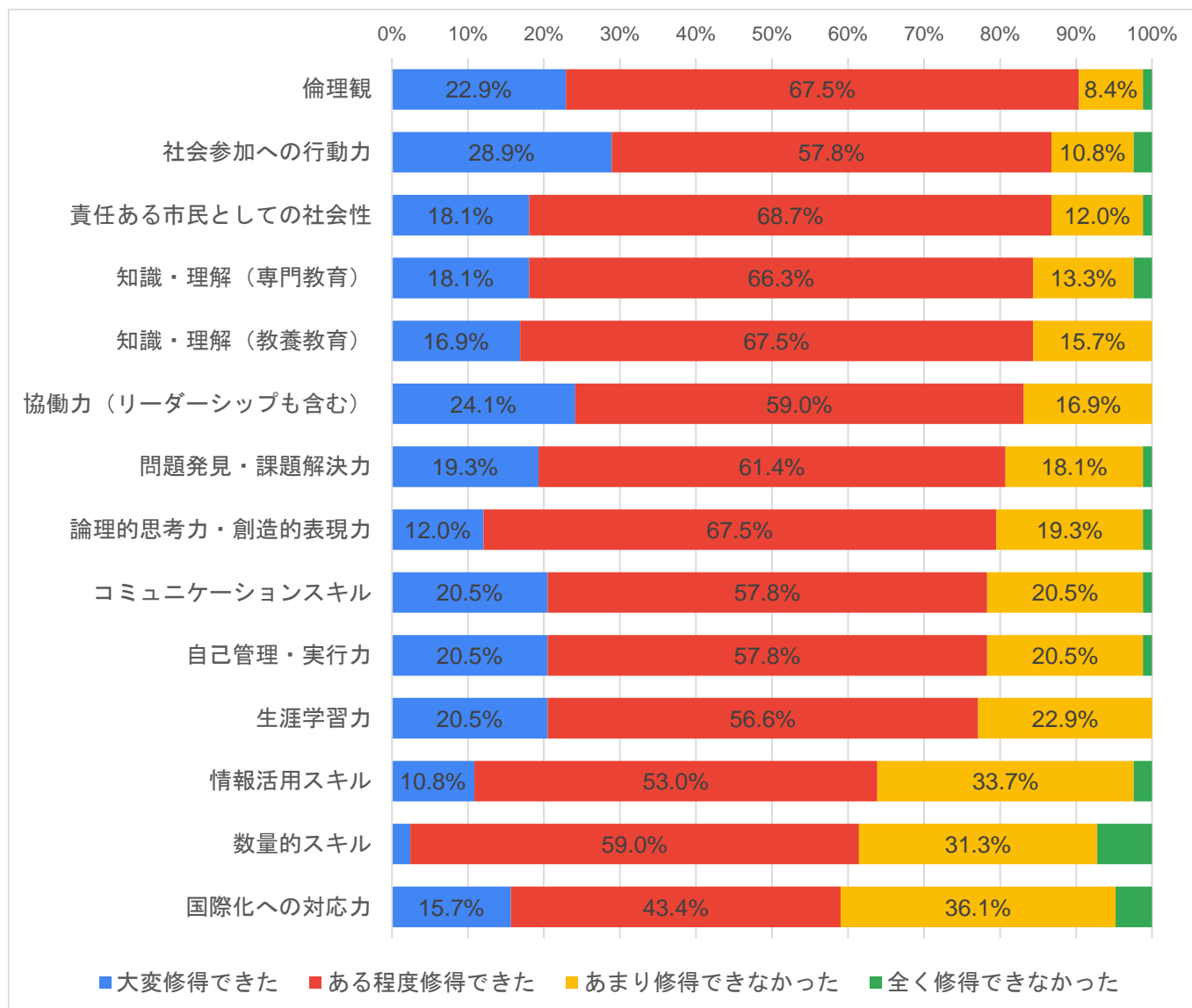
・「IT 活用教育に熱心」は否定的な回答が 8 割以上を占め、改善が求められる。



地域学部

大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力

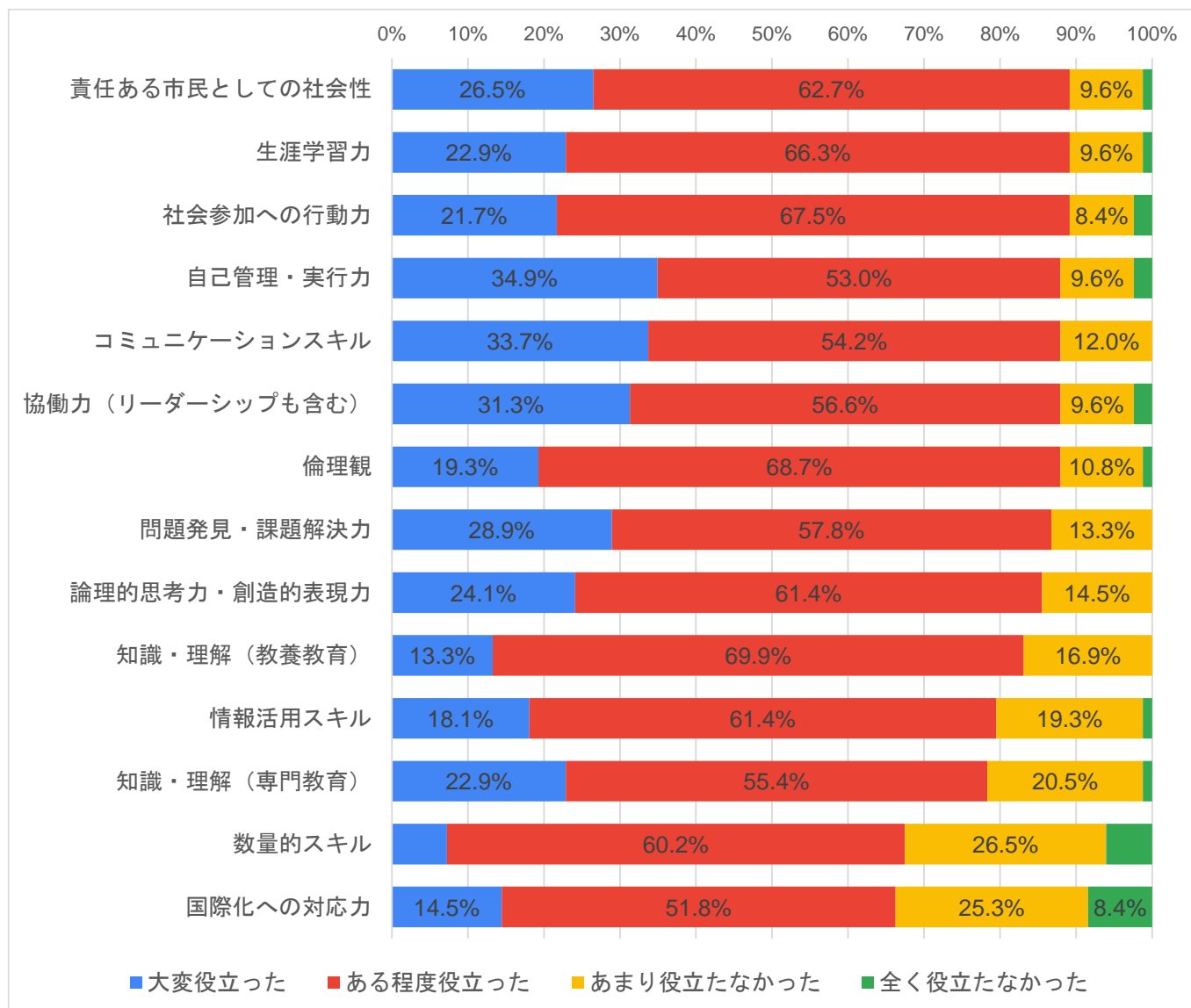
- ・「倫理観」(90.4%)、「社会参加への行動力」(86.7%)、「責任ある市民としての社会性」(86.8%)といった地域社会との関連の深い項目で高い修得度であった。
- ・「知識・理解」は専門教育，教養教育ともに8割以上が修得できたと回答した。
- ・「協働力」「問題発見・課題解決力」「論理的思考力・創造的表現力」「コミュニケーションスキル」「自己管理・実行力」「生涯学習力」は8割前後の高い肯定的回答だった。
- ・以上から，倫理性，知識，各種能力については十分に身についたものと考えられる。



地域学部

社会に出て教育成果として役立った DP 能力

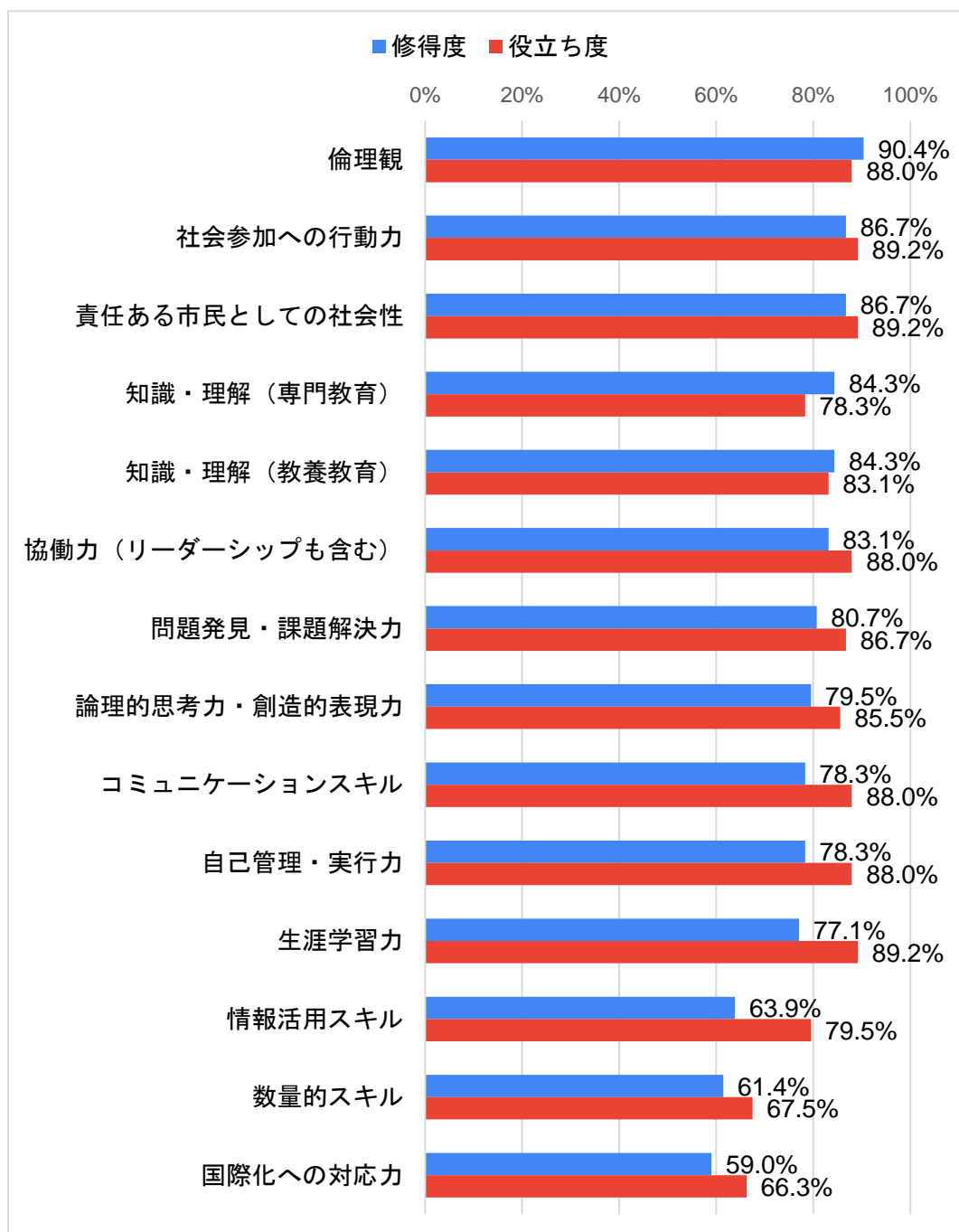
- ・「責任ある市民としての社会性」「生涯学習力」「社会参加への行動力」はいずれも 9 割近くが肯定的回答だった。
- ・「自己管理・実行力」「コミュニケーションスキル」「協働力」「倫理観」「問題発見・課題解決力」「論理的思考力・創造的表現力」「知識・理解（教養教育）」は 8 割以上が肯定的回答だった。なかでも「自己管理・実行力」「コミュニケーションスキル」「協働力」は、3 割以上が「大変役立った」と回答した。
- ・「情報活用スキル」「知識・理解（専門教育）」は 8 割近くが肯定的回答だった。
- ・以上から、大学で身につけた能力の多くが社会に出て十分役立っていることがわかる。



地域学部

修得度×役立ち度

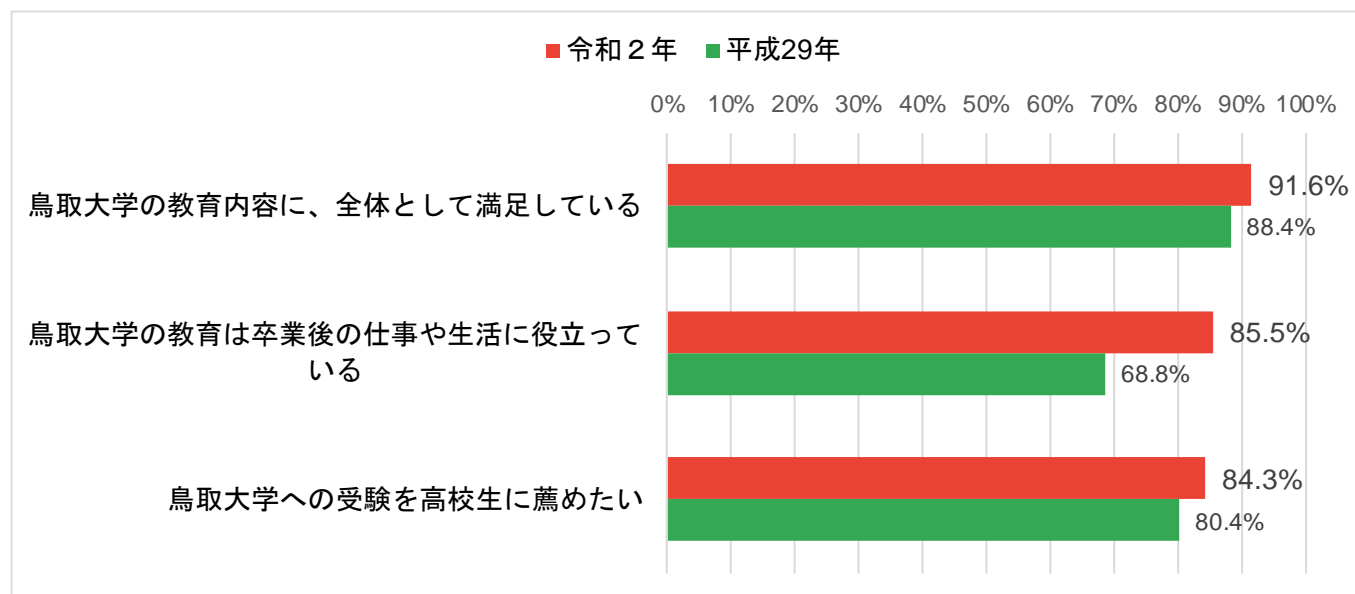
- ・多くの項目で、大学での修得度に対し、社会での役立ち度の値が高かった。逆に、修得度の方が値の大きいものは「倫理観」「知識・理解（専門教育）」「知識・理解（教養教育）」の3項目である。ただし、これらについてもあまり差はない。
- ・以上の結果から、大学で修得した能力が、社会での活動を通じて十分に発揮され、活用されていることがうかがえる。



地域学部 H29・R2 比較(1/3)

<総合的な満足度>

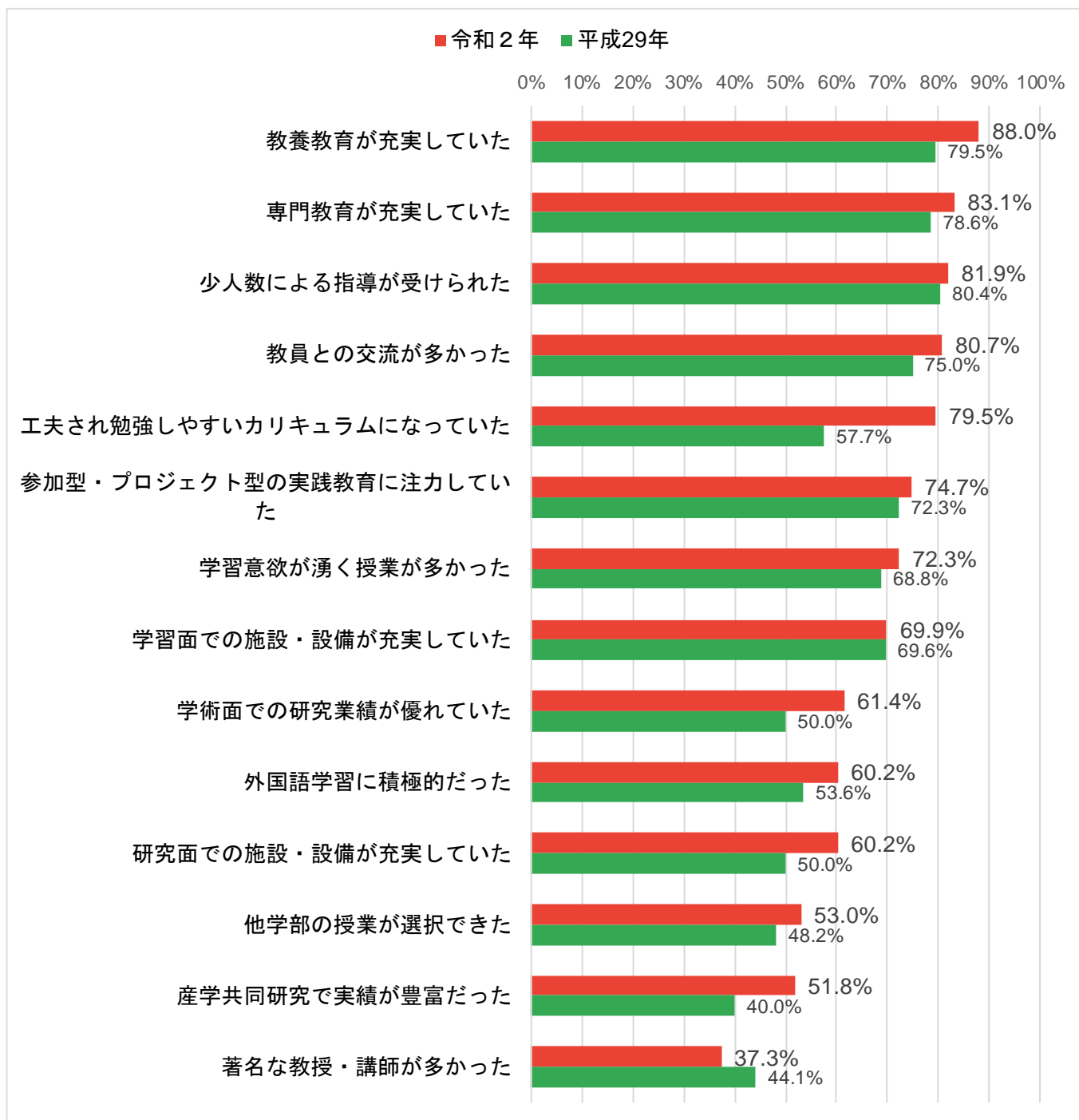
・平成 29 年度調査と令和 2 年度調査の「総合的な満足度」を比較すると 3 項目とも令和 2 年度の値の方が大きかった。とくに「鳥取大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている」に関しては、16.7%の肯定的回答率の伸びが認められる。



地域学部 H29・R2 比較(2/3)

＜教育・研究の充実度＞

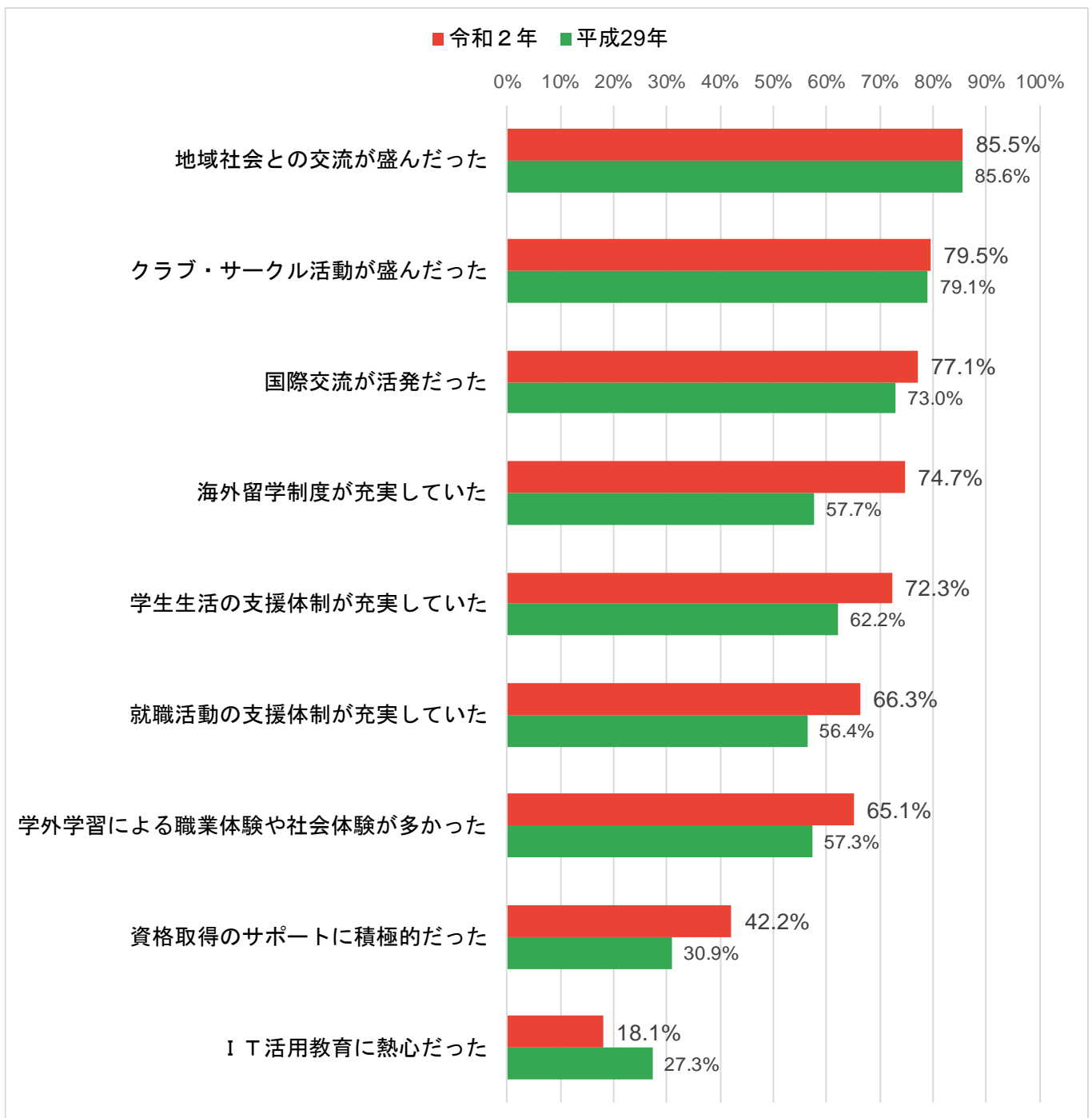
・平成 29 年度調査と令和 2 年度調査の「教育・研究の充実度」を比較すると、14 項目中 12 項目で令和 2 年度の値が大きかった。とくに「工夫され勉強しやすいカリキュラム」は 21.8%の肯定的回答率の上昇が認められた。「学習面での施設・設備」はほぼ同じ値であり、「著名な教授・講師」のみ平成 29 年度の方が高い肯定的回答率だった。



地域学部 H29・R2 比較(3/3)

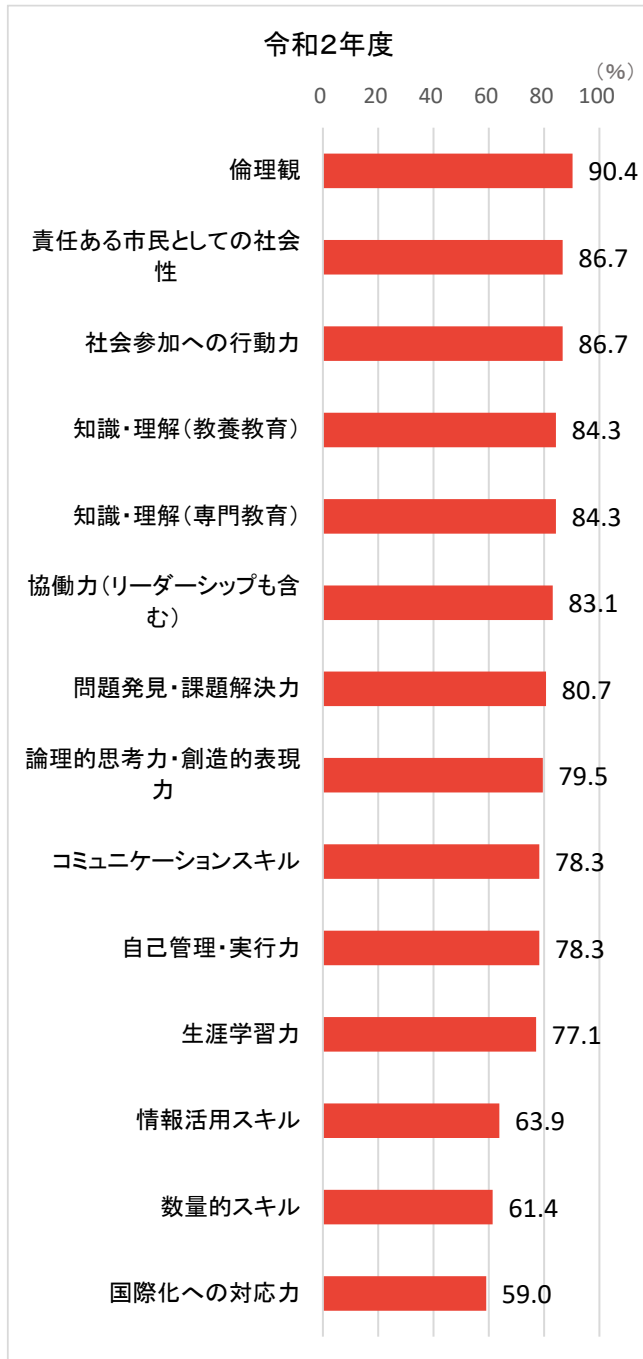
<交流活動・支援体制の充実度>

- ・平成 29 年度調査と令和 2 年度調査の「交流活動・支援体制の充実度」を比較すると、9 項目中 7 項目で令和 2 年度の方が高い肯定的回答率を得られた。ただ、「地域社会との交流」「クラブ・サークル活動」に関しては 8 割前後の高い肯定的回答率であるものの、年度間の変化はあまりなかった。
- ・「IT 活用教育」のみ平成 29 年度の方が高い肯定的回答率であった。この項目は両年度で最も低い値であるため、改善が求められる。



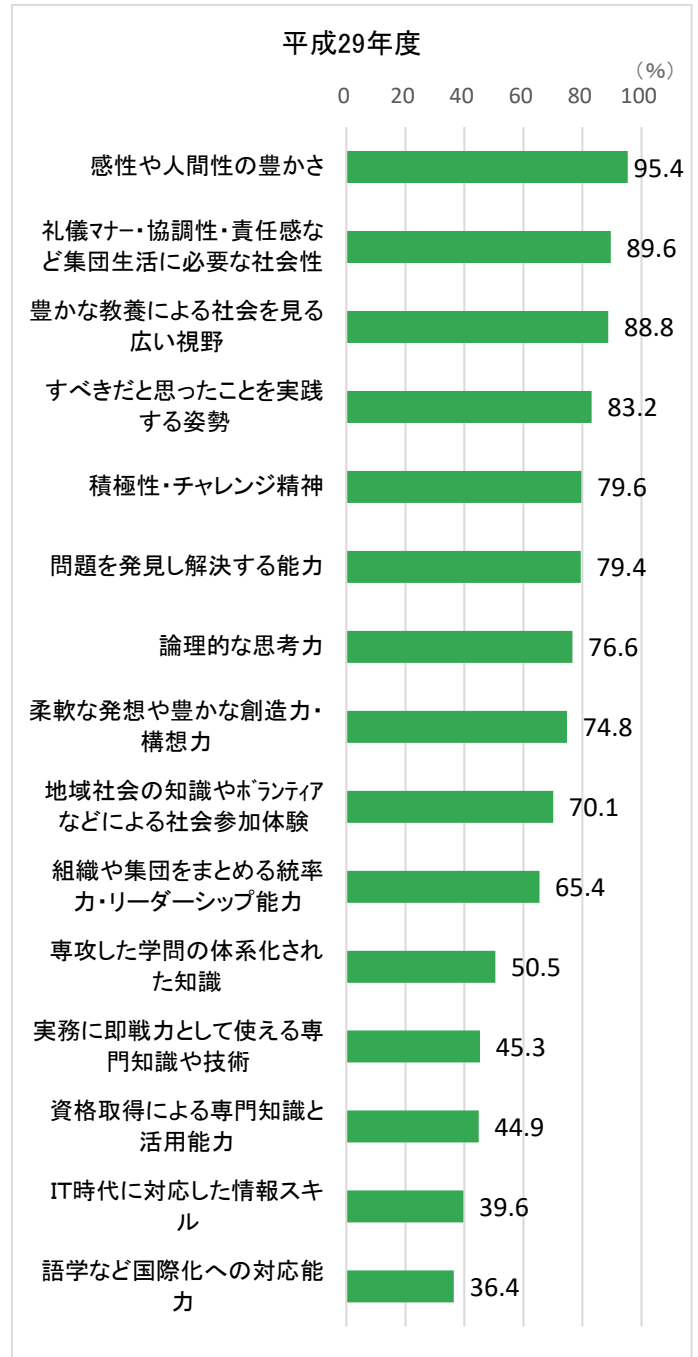
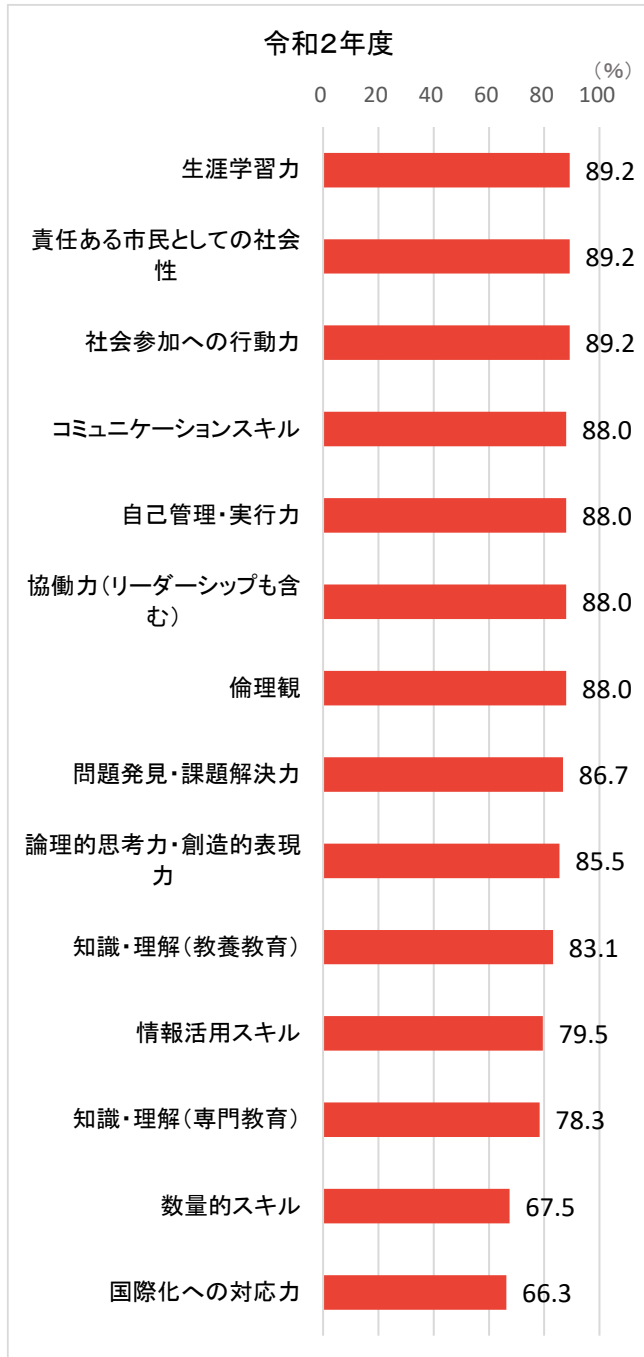
地域学部 令和2年度調査「大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力」と、
平成29年度調査「修得した能力・技術・知識等」

今回調査（令和2年度）と前回調査（平成29年度）とでは異なる設問であるため単純に比較できないが、参考のために掲載する。



地域学部 令和2年度調査「社会に出て教育成果として役立った DP 能力」と、
平成29年度調査「役立った能力・技術・知識等」

今回調査（令和2年度）と前回調査（平成29年度）とでは異なる設問であるため単純に比較できないが、参考のために掲載する。

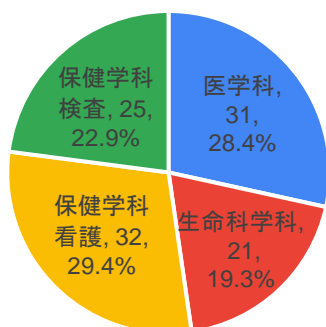


医学部

医学部 回答者の属性

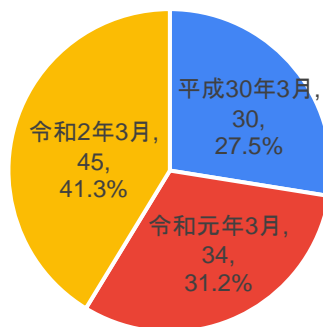
【学部・学科】

医学科	生命科学 学科	保健学科 看護	保健学科 検査	計
31	21	32	25	109
28.4%	19.3%	29.4%	22.9%	100.0%

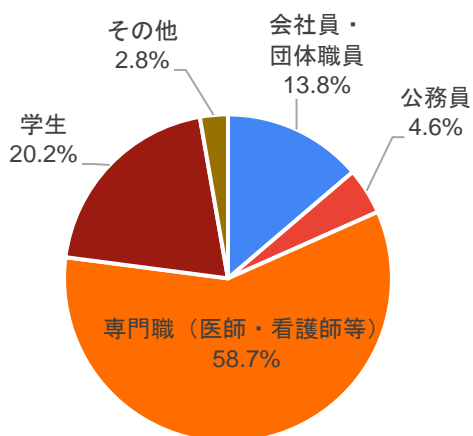


【学部・卒年】

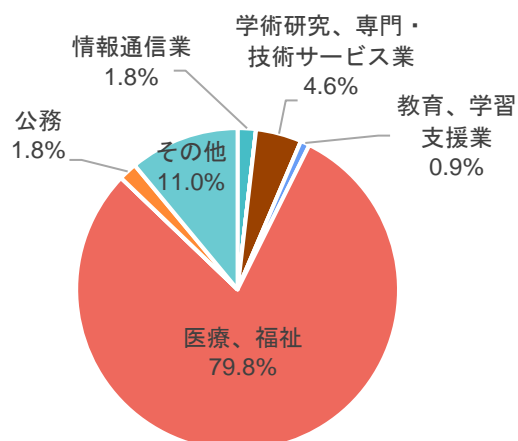
平成30年3月	令和元年3月	令和2年3月	計
30	34	45	109
27.5%	31.2%	41.3%	100.0%



【学部・職業】



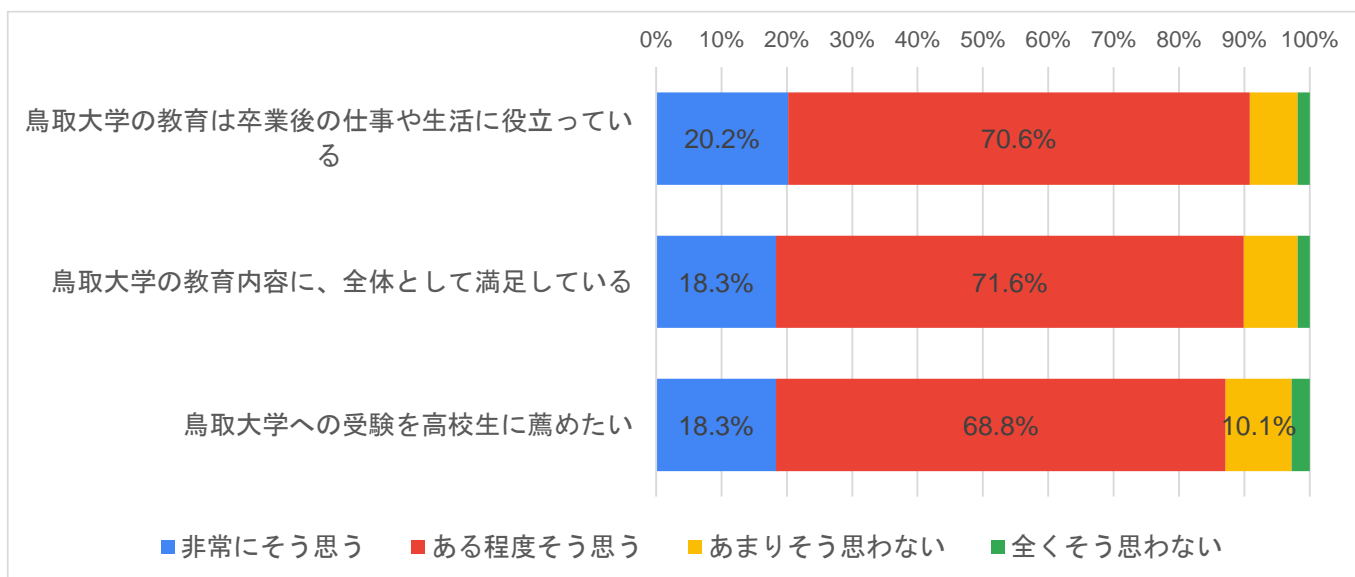
【学部・業種】



医学部

総合的な満足度

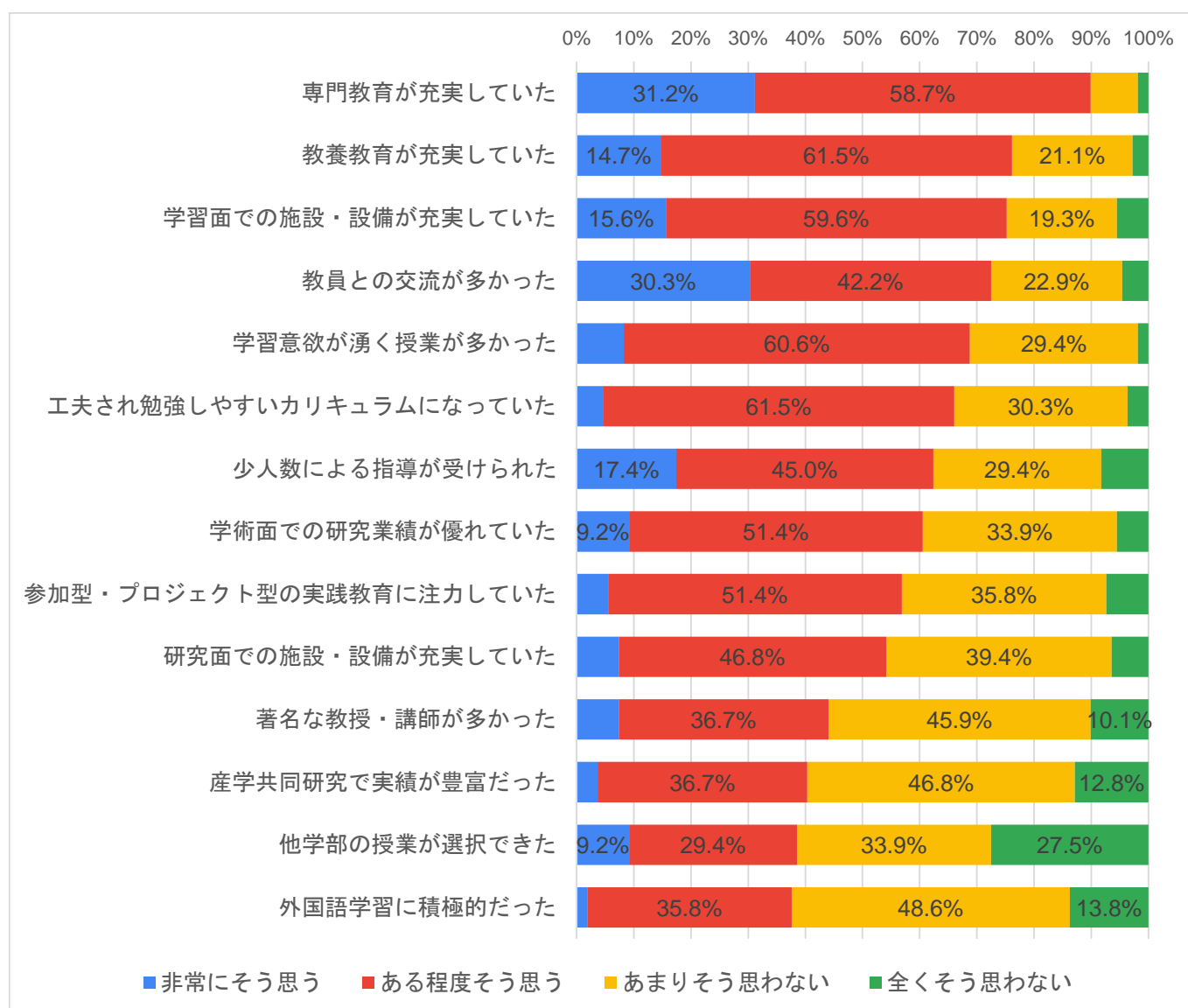
- ・「鳥取大学の教育の卒業後の仕事や生活への役立ち度」は、「非常にそう思う」20.2%、「ある程度そう思う」70.6%で、約 9 割が肯定的回答だった。
- ・「鳥取大学の教育内容に対する全体的な満足度」は、「非常にそう思う」18.3%、「ある程度そう思う」71.6%で、約 9 割が肯定的回答だった。
- ・「鳥取大学への受験を高校生に薦めたい」は、「非常にそう思う」18.3%、「ある程度そう思う」68.8%で、87.1%が肯定的回答だった。
- ・以上の結果から、総合的な満足度は高いといえる。



医学部

教育・研究の充実度

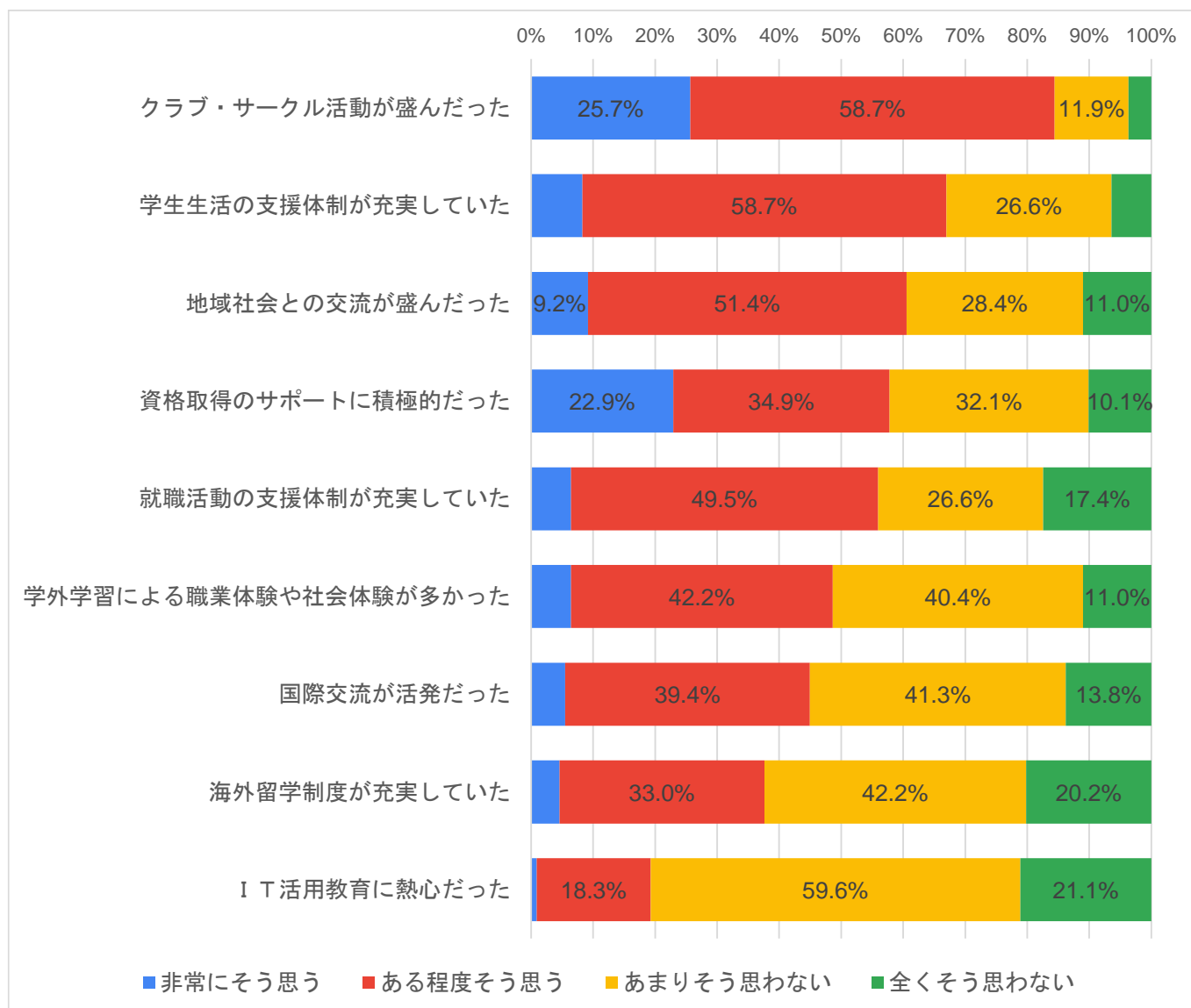
- ・「専門教育の充実」の肯定的回答は約 9 割で、最も高いものだった。
- ・「教養教育の充実」「学習面での施設・設備の充実」「教員との交流」が 7 割以上の肯定的回答、「学習意欲が湧く授業が多い」は 7 割近くの肯定的回答だった。
- ・「工夫され勉強しやすいカリキュラム」「少人数による指導」「学術面での研究業績が優れていた」は 6 割以上の肯定的回答だった。
- ・「他学部の授業が選択できた」は「全くそう思わない」が 27.5%であり、他の項目に比べて顕著であった。



医学部

交流活動・支援体制の充実度

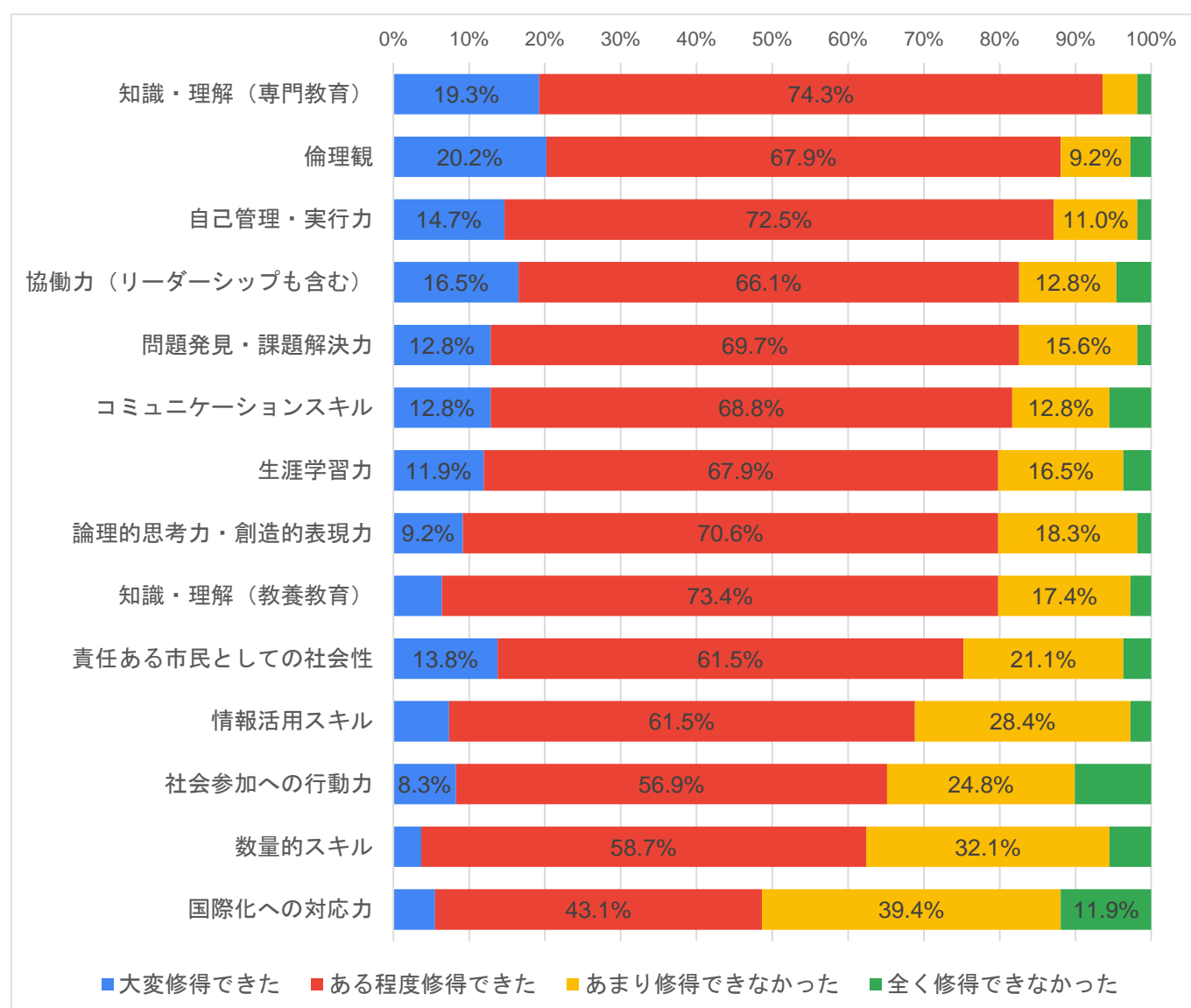
- ・「クラブ・サークル活動」は 84.4%が肯定的回答だった。
- ・「学生生活の支援体制」「地域社会との交流」「資格取得のサポート」「就職活動の支援体制」は 6 割前後の肯定的回答だった。
- ・「IT 活用教育」は否定的回答率が最も高く、80.7%であった。改善が求められる。



医学部

大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力

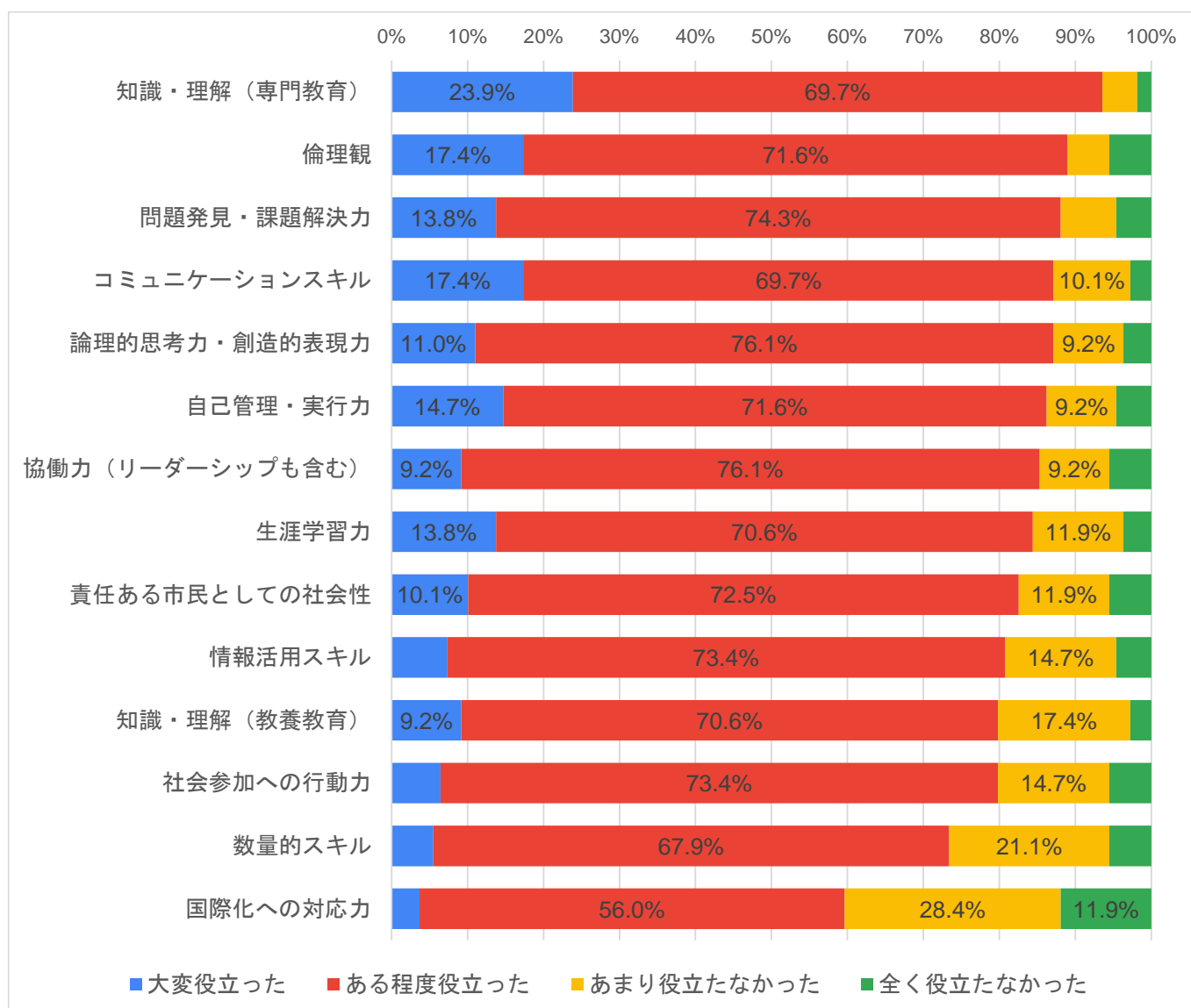
- ・「知識・理解」に関しては専門教育が 93.6%，教養教育が約 8 割の肯定的回答だった。
- ・「倫理観」および「責任ある市民としての社会性」といった倫理性に関する項目はそれぞれ 88.1%，75.3%の肯定的回答であった。
- ・「自己管理・実行力」「協働力」「問題発見・課題解決力」「コミュニケーションスキル」は 8 割以上，「生涯学習力」「論理的思考・創造的表現力」は約 8 割の肯定的回答だった。
- ・以上から，知識，倫理性，各種能力については十分身についたものと考えられる。



医学部

社会に出て教育成果として役立った DP 能力

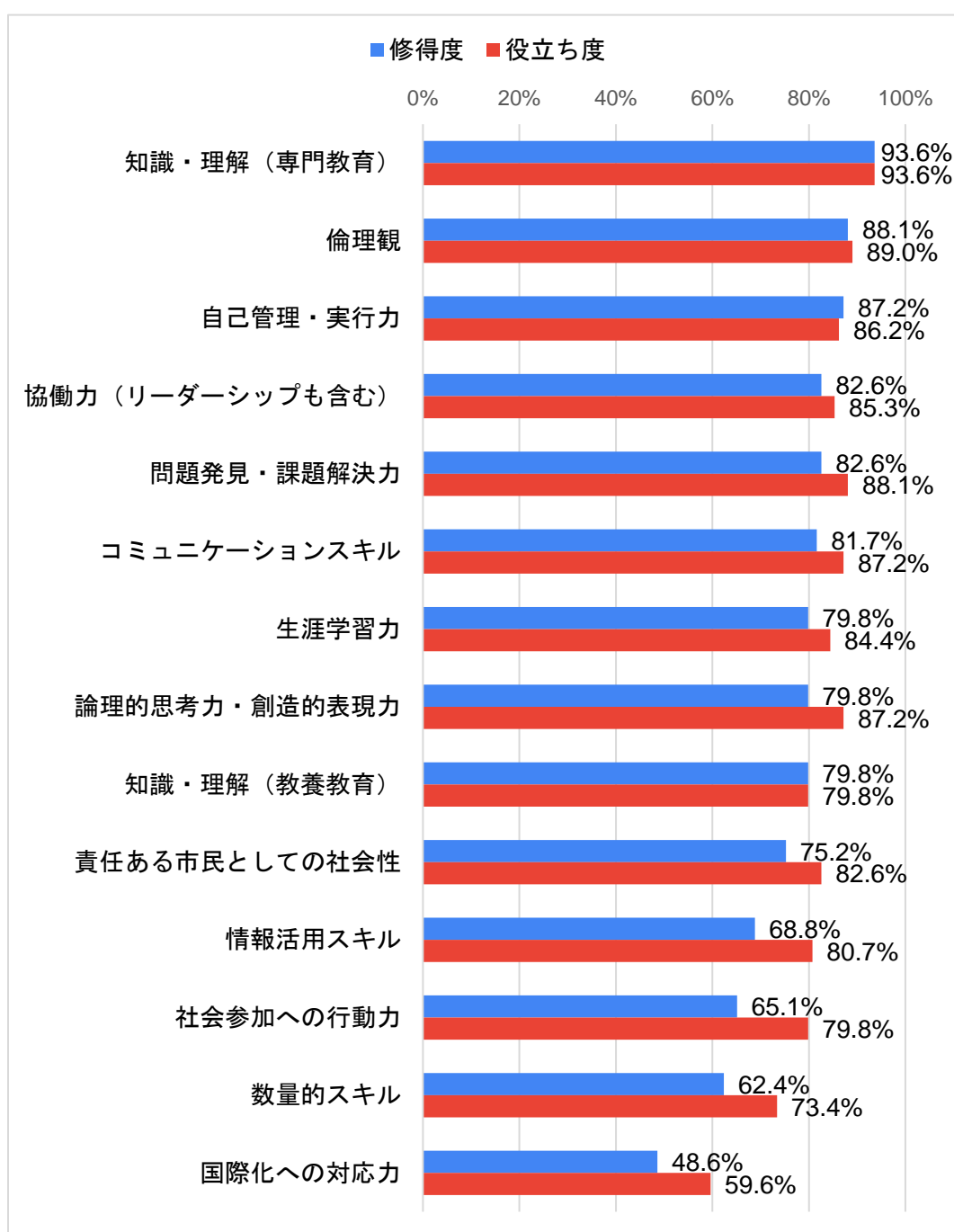
- ・14 項目中 12 項目の肯定的回答率がおよそ 8 割以上と高い役立ち度だった。
- ・「知識・理解（専門教育）」が最も高く、93.6%の肯定的回答だった。
- ・「数量的スキル」は 7 割強の肯定的回答、「国際化への対応力」はほぼ 6 割の肯定的回答だった。
- ・以上から、大学で身につけた多くの能力が社会に出て役に立っていることがわかる。



医学部

修得度×役立ち度

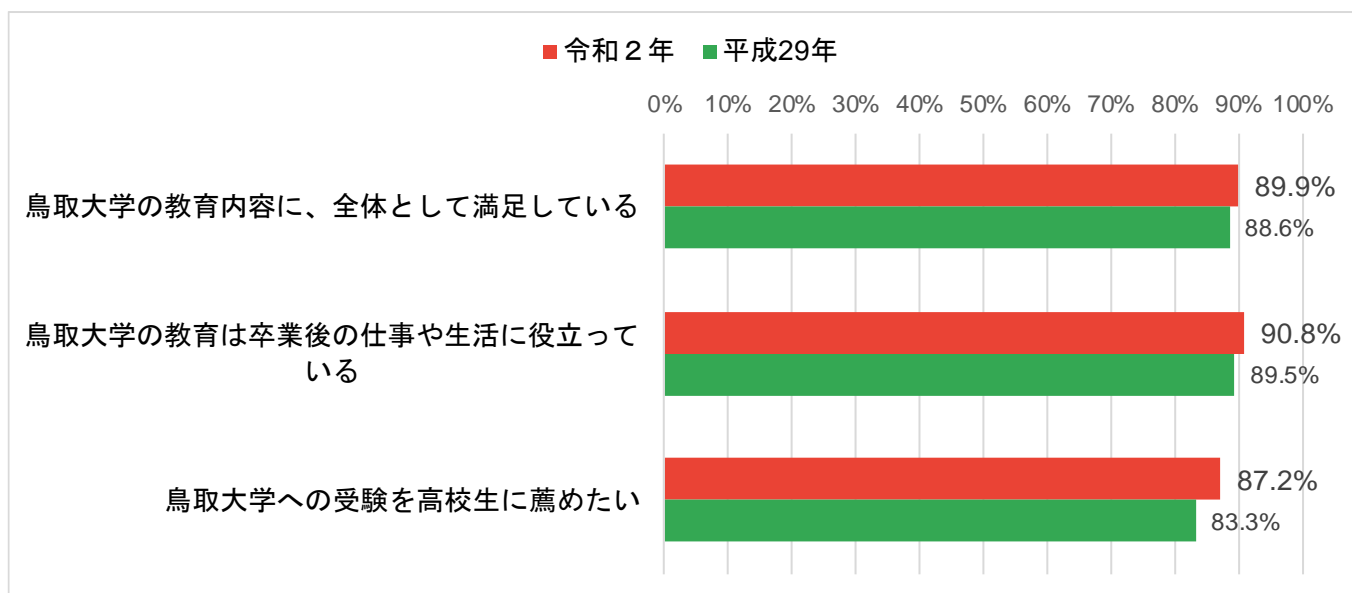
- ・全体的に修得度よりも役立ち度の方が高い値を示した。とくに「情報活用スキル」「社会参加への行動力」「数量的スキル」「国際化への対応力」では、修得度に対し役立ち度が10%程度高い値となっている。
- ・「知識・理解」については専門教育，教養教育ともに修得度と役立ち度は同値であり、「倫理観」「自己管理・実行力」はほぼ同値だった。
- ・以上の結果から，大学で修得した能力が，社会での活動を通じて十分に発揮され，活用されていることがうかがえる。



医学部 H29・R2 比較(1/3)

<総合的な満足度>

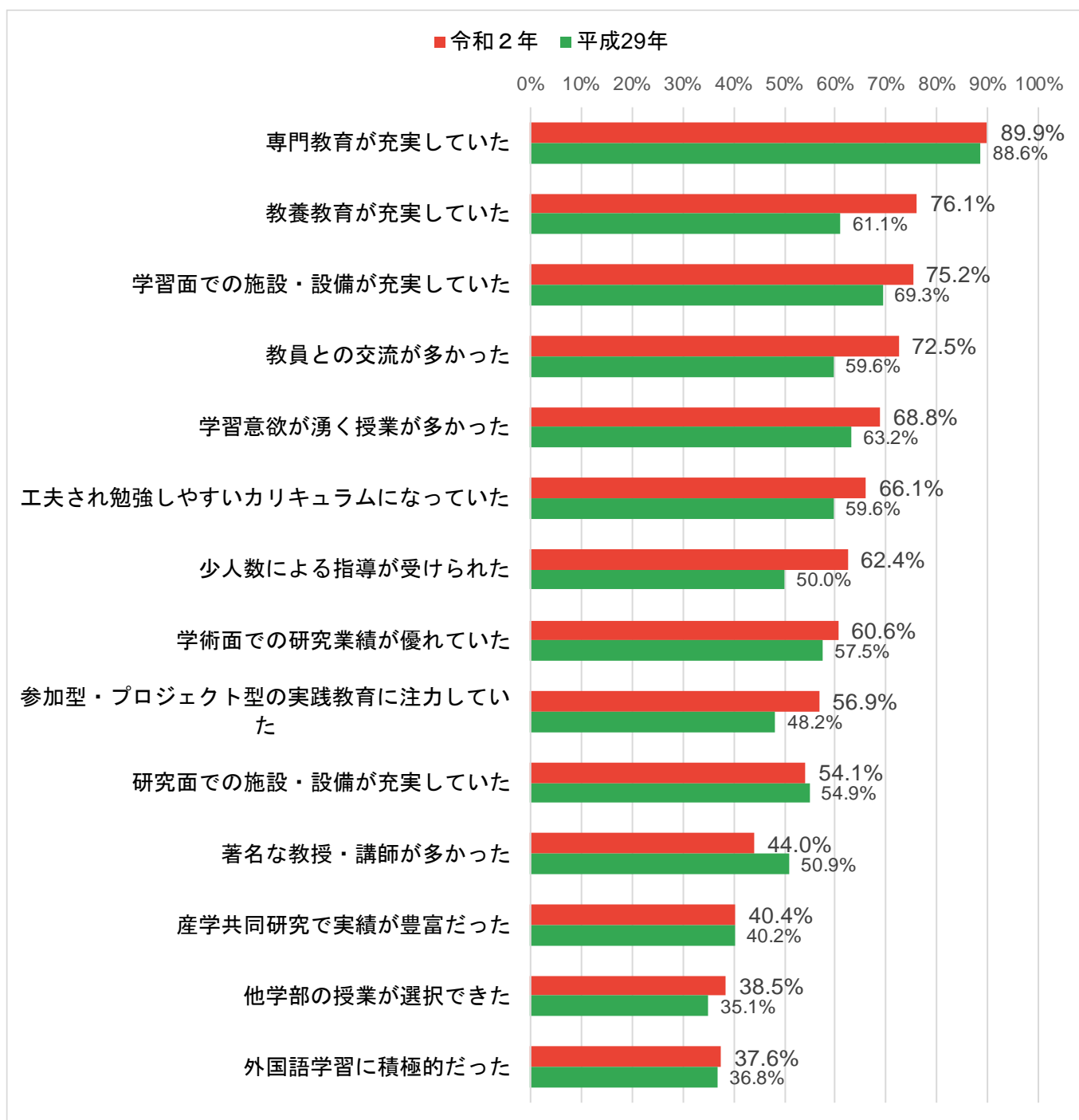
・平成 29 年度調査と令和 2 年度調査の「総合的な満足度」を比較すると、3 項目ともに平成 29 年度よりも令和 2 年度の方がやや高い肯定的回答率であったが、大きな変化は見られない。



医学部 H29・R2 比較(2/3)

＜教育・研究の充実度＞

- ・平成 29 年度調査と令和 2 年度調査の「教育・研究の充実度」を比較すると、「教養教育」「教員との交流」「少人数による指導」の 3 項目で 10%を超える肯定的回答率の伸びが認められた。
- ・「専門教育」「研究面での施設・設備」「産学共同研究」「外国語学習」についてはほぼ変化がなかった。

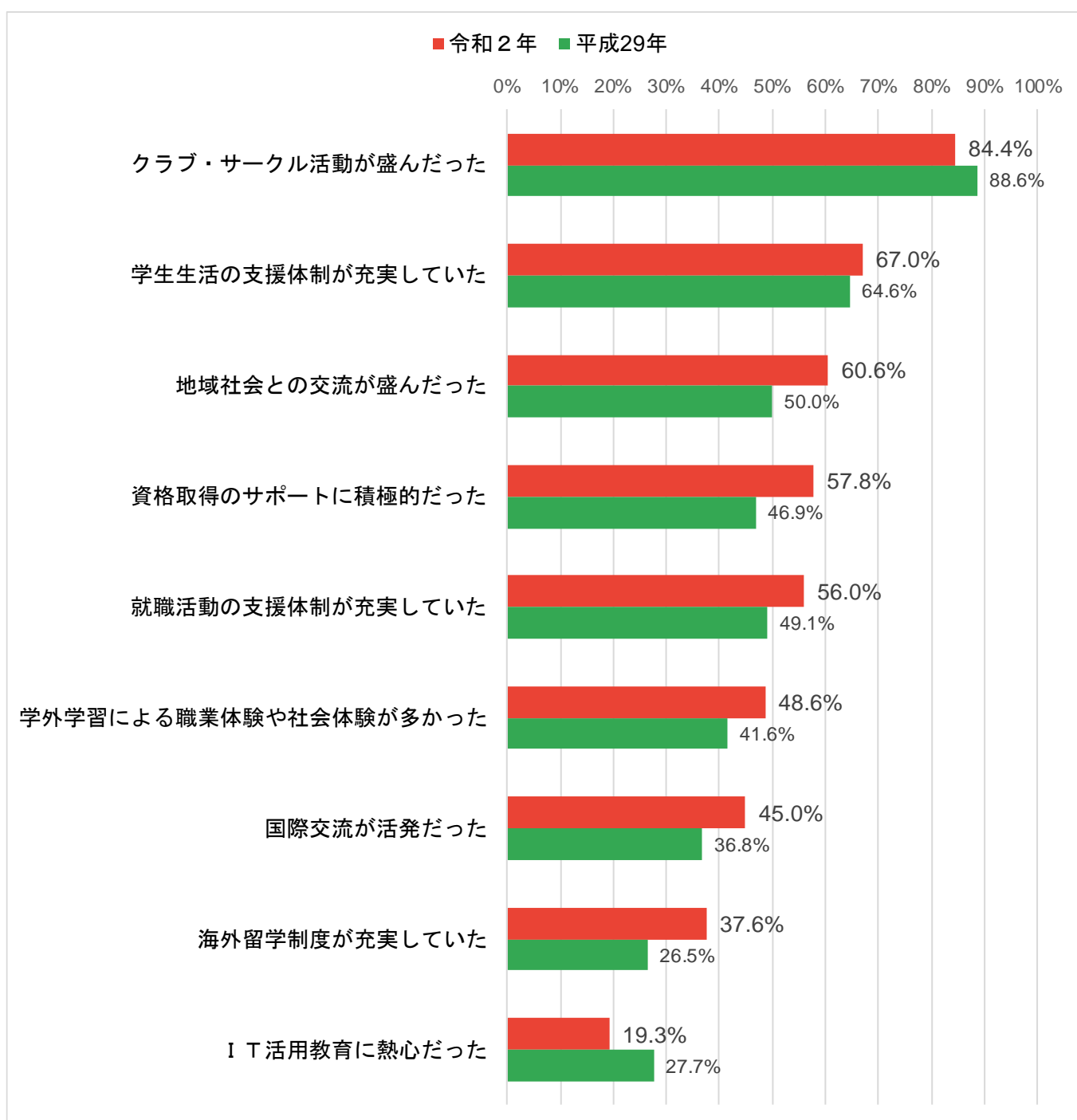


医学部 H29・R2 比較(3/3)

<交流活動・支援体制の充実度>

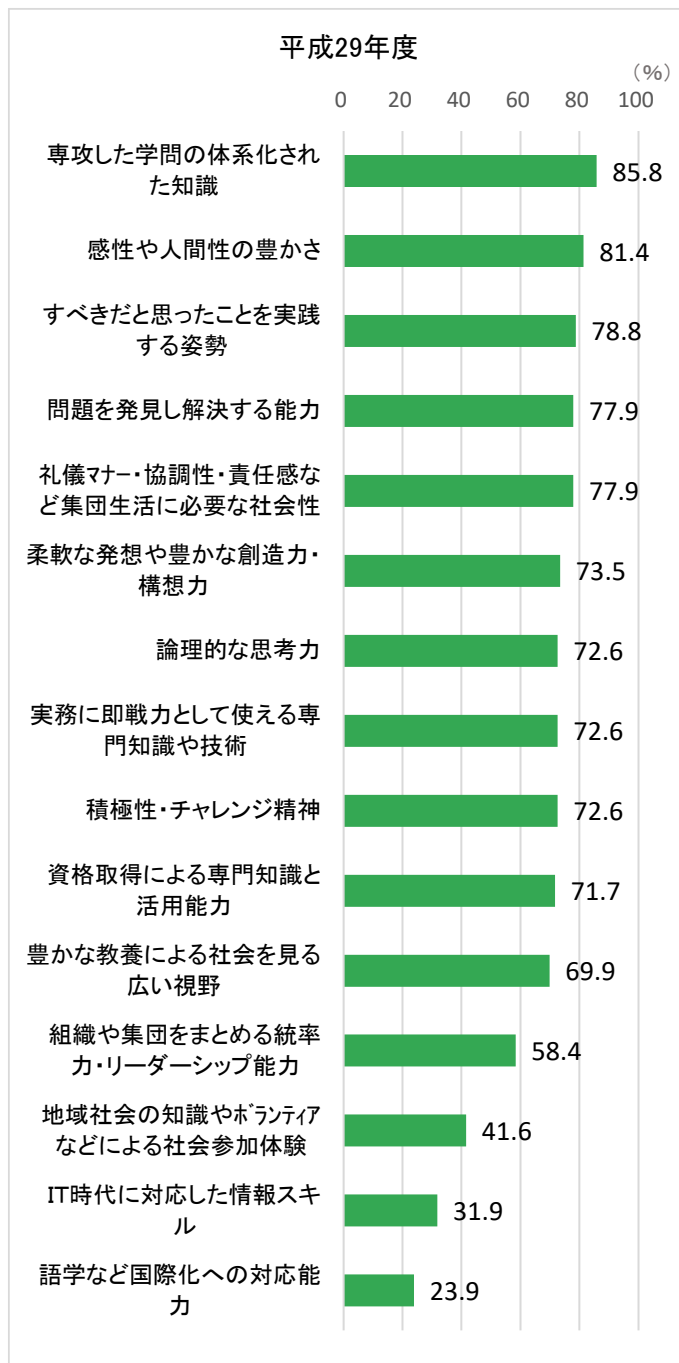
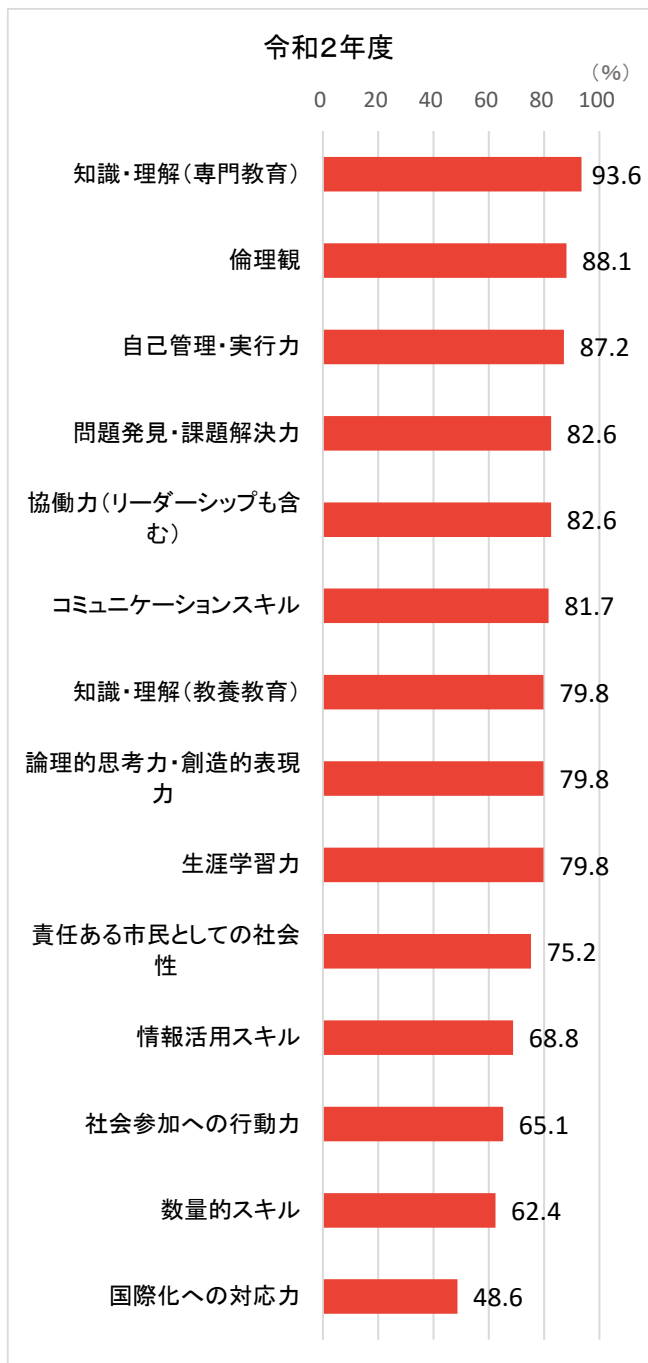
・平成 29 年度調査と令和 2 年度調査の「交流活動・支援体制の充実度」を比較すると、多くの項目で令和 2 年度の方が高い肯定的回答であった。とくに「地域社会との交流」「資格取得のサポート」「海外留学制度」の 3 項目に関して 10%を超える肯定的回答率の伸びが認められた。

・「クラブ・サークル活動」と「IT 活用教育」の 2 項目は、平成 29 年度の方が高い肯定的回答率であった。



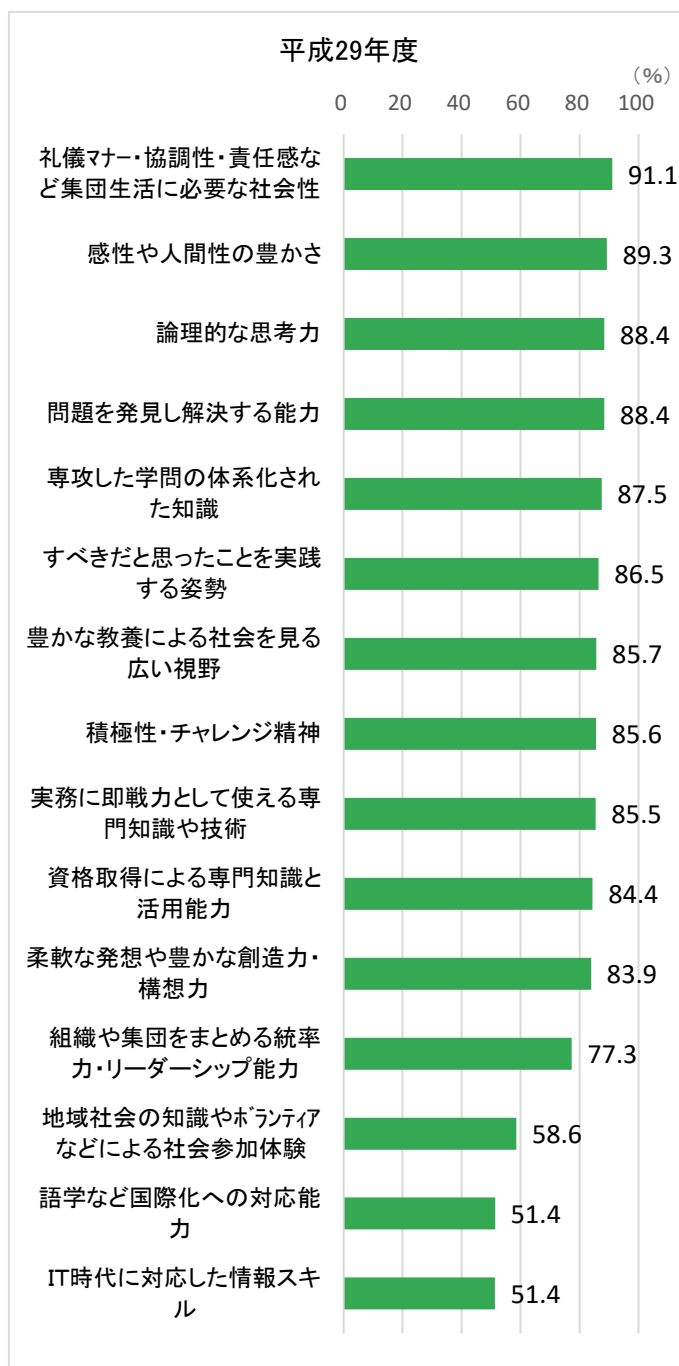
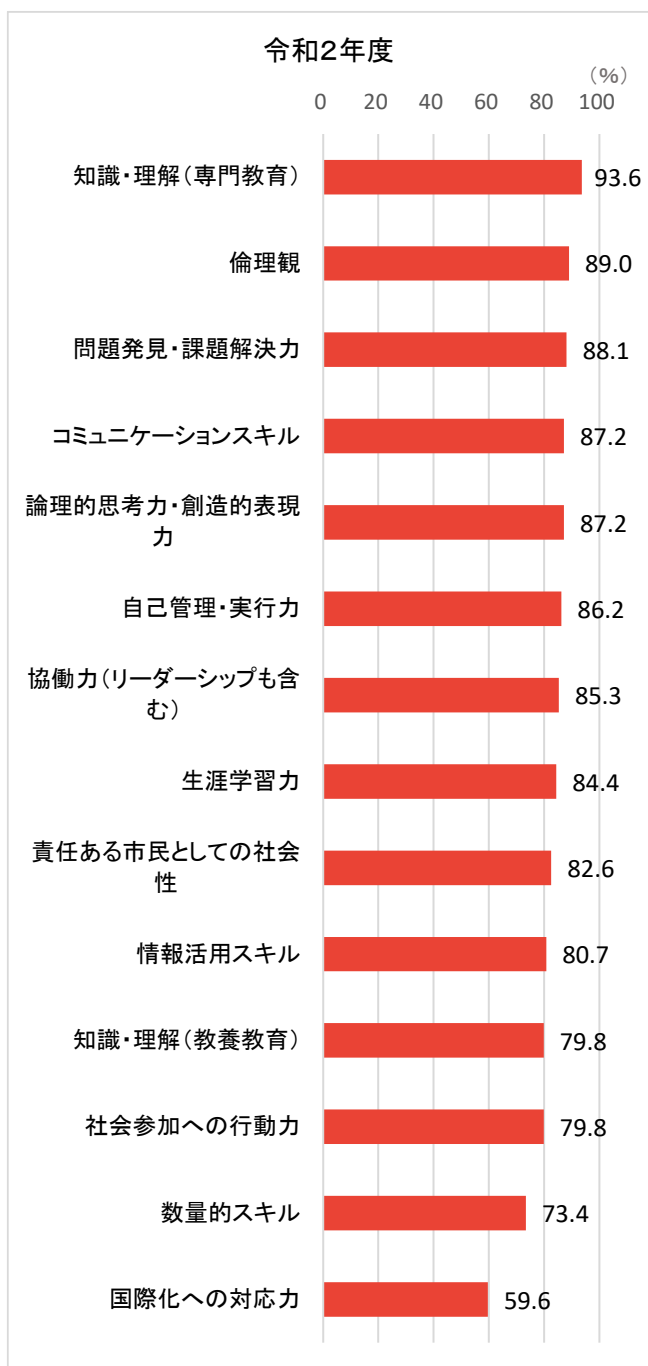
医学部 令和2年度調査「大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力」と、平成29年度調査「修得した能力・技術・知識等」

今回調査（令和2年度）と前回調査（平成29年度）とでは異なる設問であるため単純に比較できないが、参考のために掲載する。



医学部 令和2年度調査「社会に出て教育成果として役立った DP 能力」と、平成29年度調査「役立った能力・技術・知識等」

今回調査（令和2年度）と前回調査（平成29年度）とでは異なる設問であるため単純に比較できないが、参考のために掲載する。



工学部

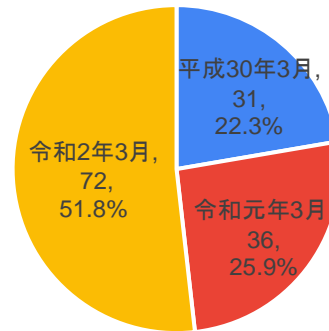
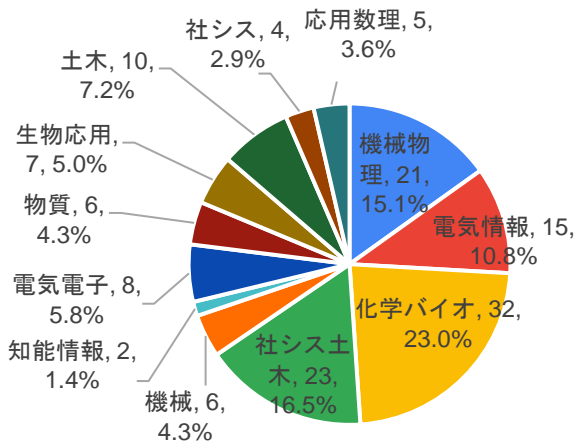
工学部 回答者の属性

【学部・学科】

機械物理	電気情報	化学 バイオ	社シス 土木	機械	知能情報	
21	15	32	23	6	2	
15.1%	10.8%	23.0%	16.5%	4.3%	1.4%	
電気電子	物質	生物応用	土木	社シス	応用数理	計
8	6	7	10	4	5	139
5.8%	4.3%	5.0%	7.2%	2.9%	3.6%	100.0%

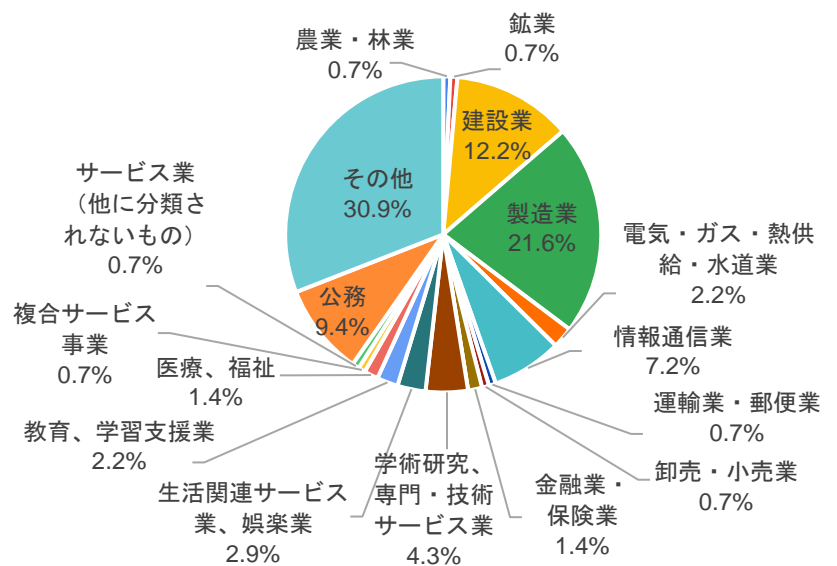
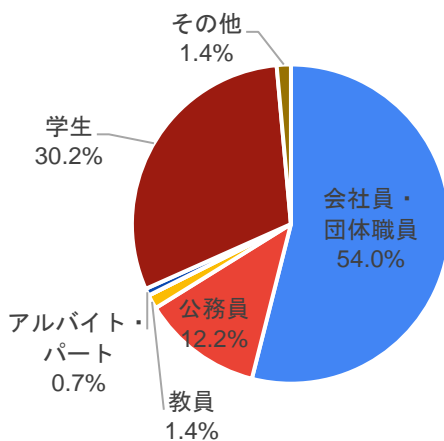
【学部・卒年】

平成30年3月	令和元年3月	令和2年3月	計
31	36	72	139
22.3%	25.9%	51.8%	100.0%



【学部・職業】

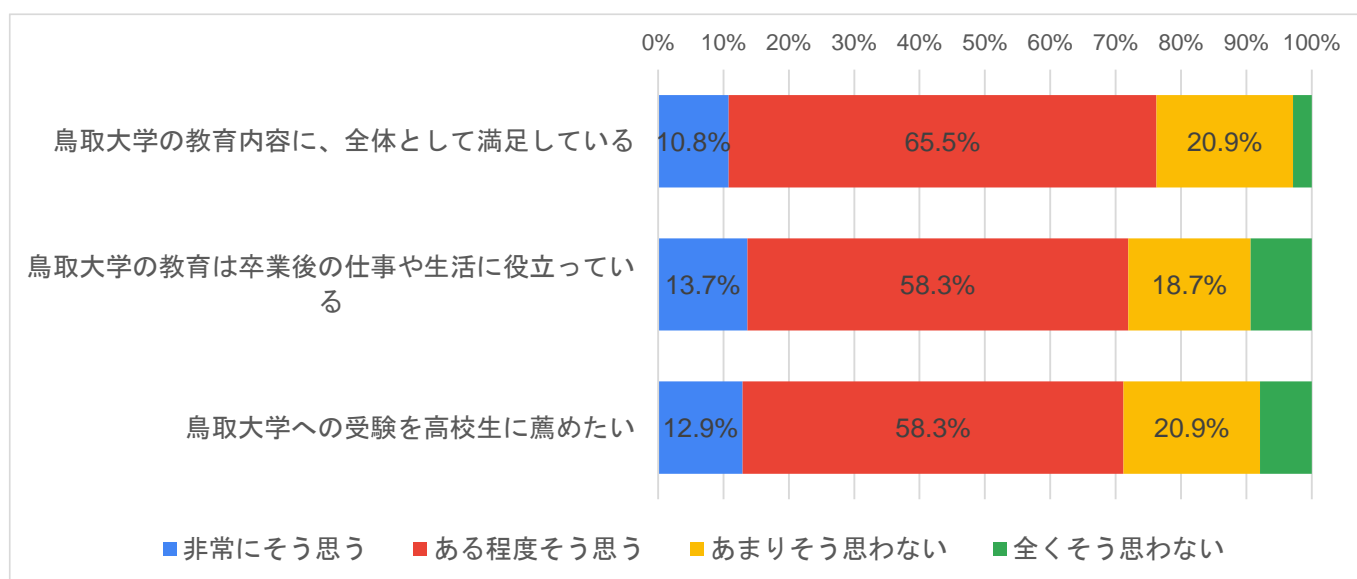
【学部・業種】



工学部

総合的な満足度

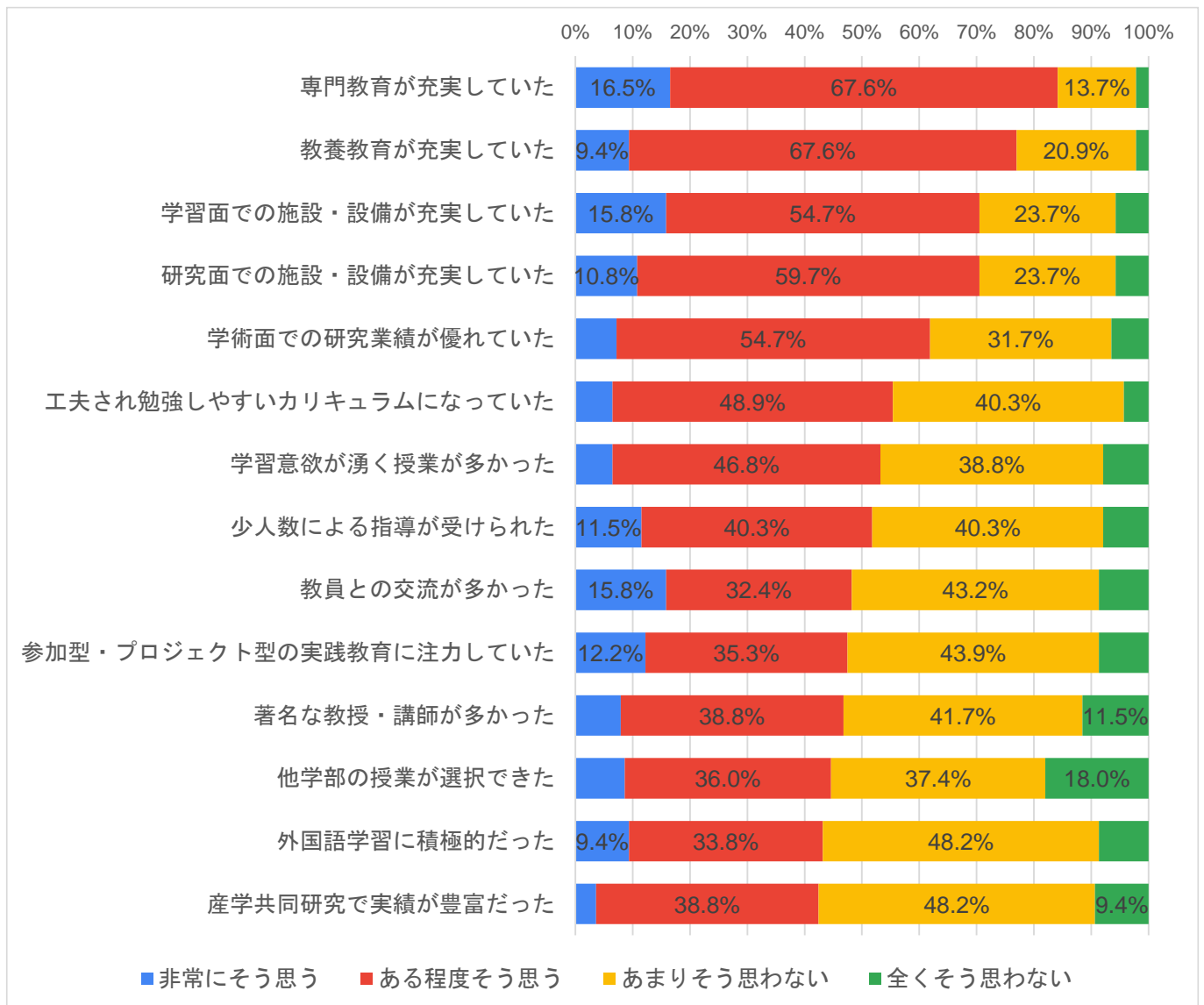
「大学における教育内容」への満足度は、ある程度そう思う 65.5%、非常にそう思う 10.8%、「卒業後の仕事への役立ち度」への満足度はある程度そう思う 58.3%、非常にそう思う 13.7%であり、それぞれ 70%以上の肯定的回答を得ており、総合的な満足度は高水準にある。また、その傾向は「受験生へ本学を推薦したい（できる）」という評価にも表れており、こちらもある程度そう思う 58.3%、非常にそう思う 12.9%の肯定的回答を得ている。



工学部

教育・研究の充実度

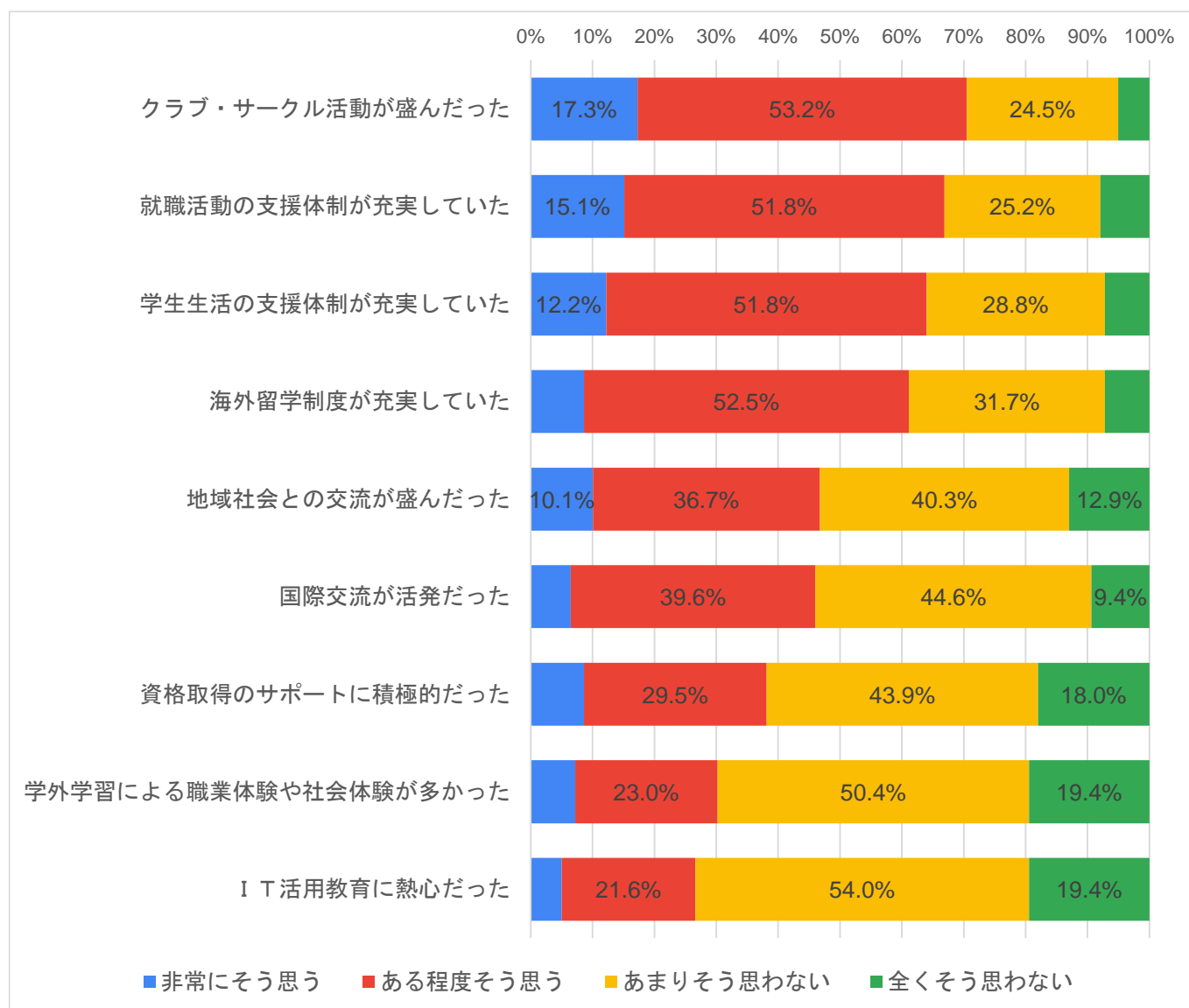
大学教育の要である「専門教育が充実していた」はある程度そう思う 67.6%、非常にそう思う 16.5%の評価を得ている。また、教養教育の充実度もある程度そう思う 67.6%、非常にそう思う 9.4%と肯定的回答が大半を占めている。またそれは「学習面での施設・設備」の評価に繋がり、こちらも、ある程度そう思う 54.7%、非常にそう思う 15.8%と 70%以上の肯定的回答を得ている。一方で「産学協同研究」や「他学部での学び」は 50%以上の否定的回答を得ており、改善の余地が残されている。



工学部

交流活動・支援体制の充実度

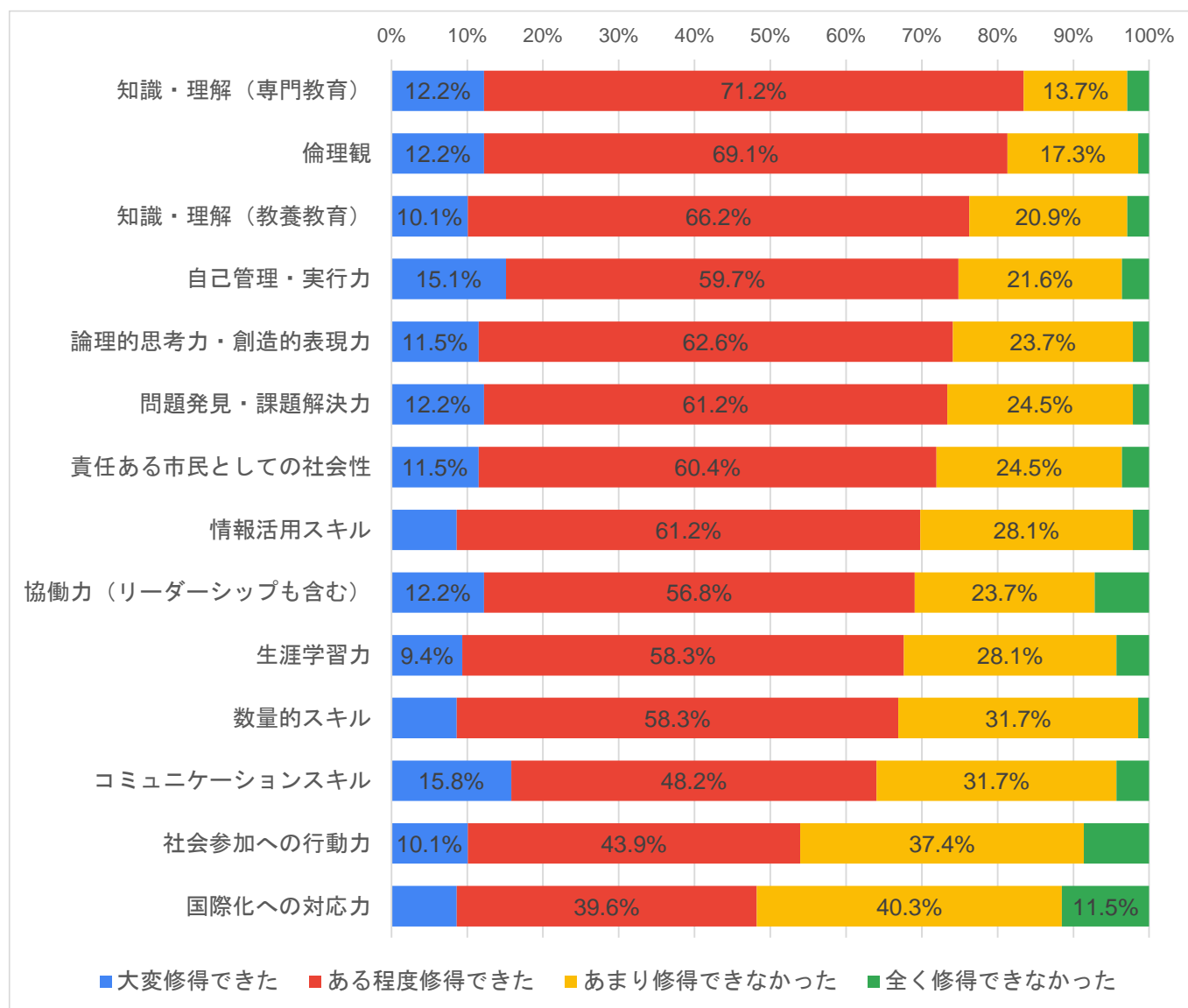
「クラブ・サークル活動」や「就職支援」などに関しては概ね 70%の肯定的回答を得ている。一方で、例えば、「海外留学制度」の充実度は概ね 60%の肯定的回答を得るも、「国際交流」や「学外学習」「地域社会との交流」など、実際の学外での学びに関する肯定的回答は概ね 50%以下であり、また、IT 活用に関してはある程度そう思う、非常にそう思う、を加算しても肯定的回答が 30%以下となり大きな課題となっている。



工学部

大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力

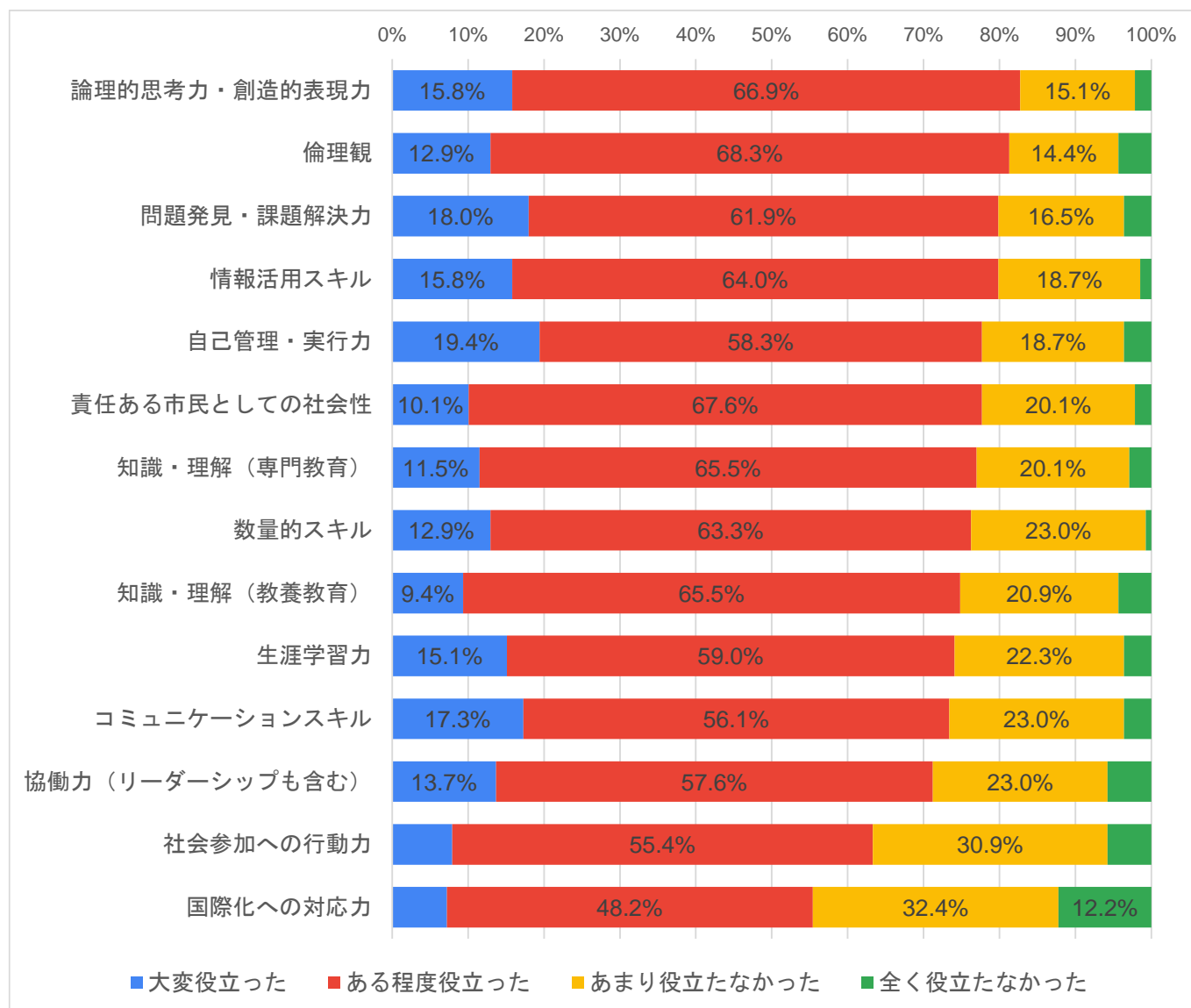
「専門教育に関する知識や理解」、そして社会一般における「倫理観」の修得に関して 80%以上の肯定的回答を得ており、評価されるべき点といえよう。一方で、「国際化への対応力」に関しては、ある程度そう思う、非常にそう思う、を合算しても肯定的回答が 50%に満たず、改善点といえる。



工学部

社会に出て教育成果として役立った DP 能力

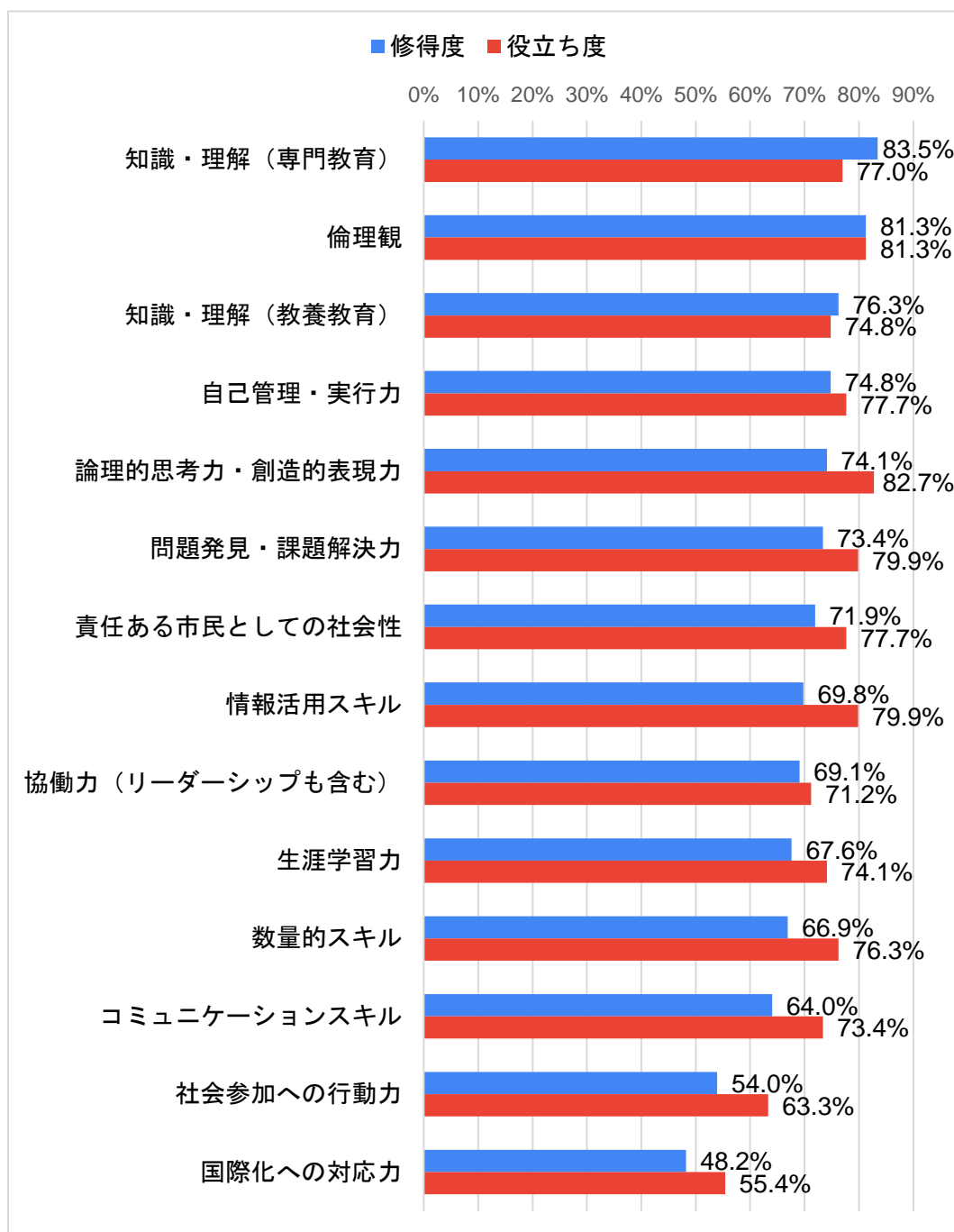
本質問で問われた DP 能力に関しては全般的に高評価が下されている。例えば「論理的思考力・創造的表現力」、「倫理観」などは肯定的回答（ある程度そう思う、非常にそう思う）が 80%を超えており、評価できる。一方で「社会参加」や「国際化」等に関する肯定的回答はいずれも 70%に届かず、決して低い水準とはいえないが、今後改善の余地があるといえる。



工学部

修得度×役立ち度

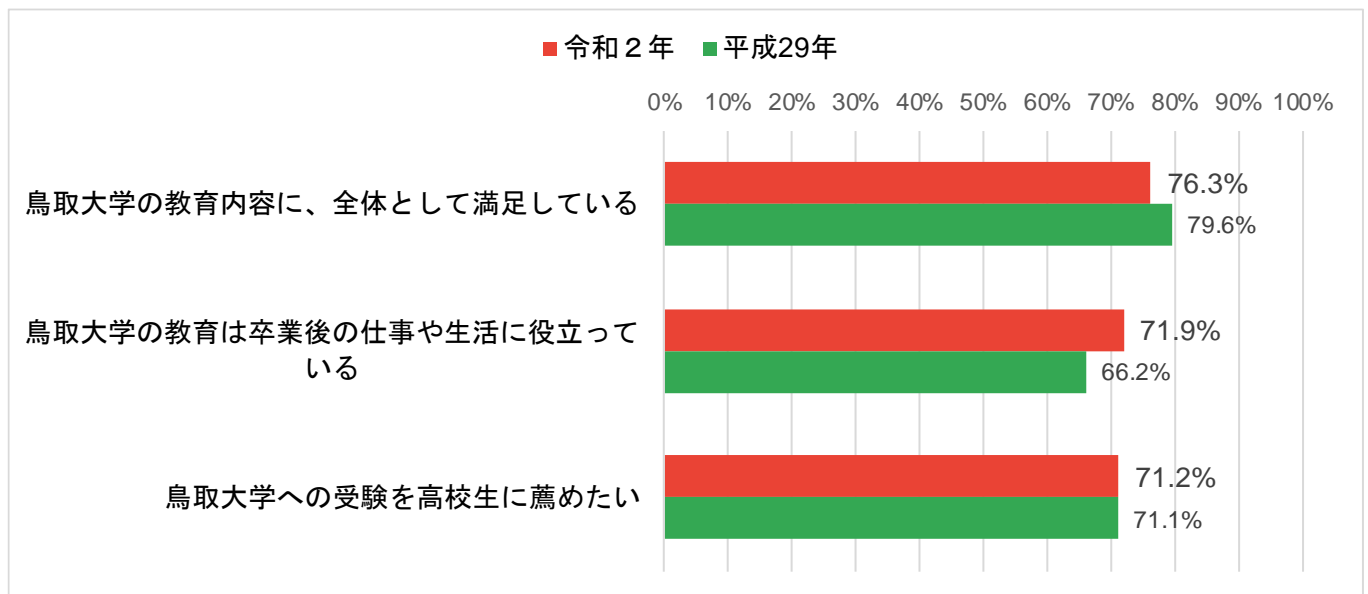
「知識理解（専門教育）」や「倫理観」は修得度、役立ち度ともに概ね 80% の肯定的回答を得ており評価できる。一方で、「社会参加への行動力」修得度 54.0%、役立ち度 63.3%や「国際化への対応力」修得度 48.2%、役立ち度 55.4%などは低い水準にあり、改善する必要がある。



工学部 H29・R2 比較(1/3)

<総合的な満足度>

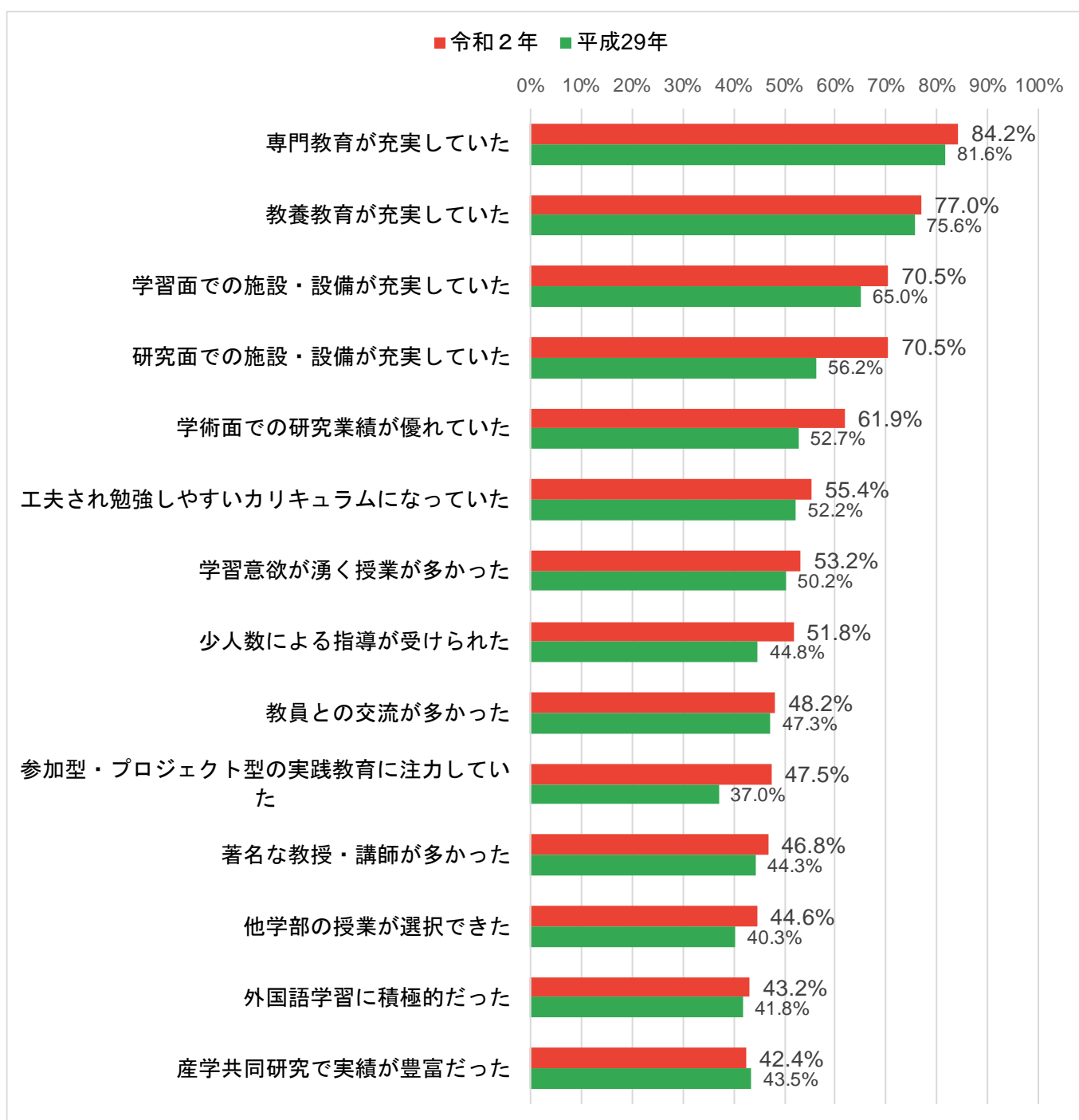
教育への満足度は高水準ながらやや減退気味ともいえる（H29 年度 79.6%⇒R2 年度 76.3%）が、卒業後の社会における実用度への評価は 5%上昇しており、「実学」としての工学の位置はかえって上昇しているといえよう（H29 年度 66.2%⇒R2 年度 71.9%）。



工学部 H29・R2 比較(2/3)

＜教育・研究の充実度＞

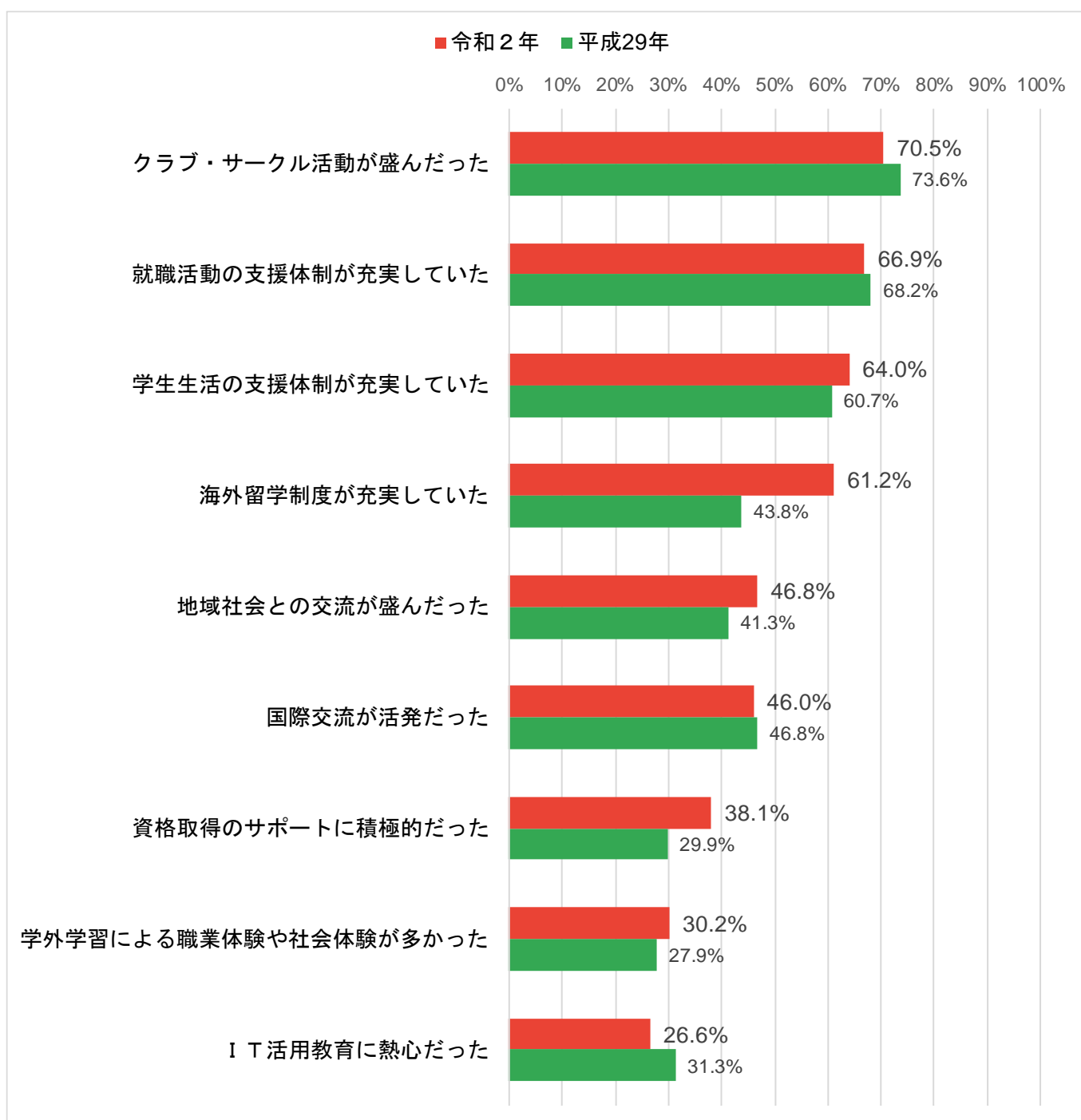
二か年の結果を比較するも、傾向に大きな変化はなくほぼ同じ状況と考えてよい。「専門・教養教育」は肯定的回答が多く75%を超えるところである。また、改善傾向として「参加型・プロジェクト型の実践教育」への評価は10ポイント以上の上昇がみられ（H29年度37.0%⇒R2年度47.5%）、この点は特筆に値する。一方で、「他学部の授業受講」や「産学協同研究」など学部外部との接点に関しては改善されていない状況が継続しており、肯定的回答が40%台と低い水準にある。



工学部 H29・R2 比較(3/3)

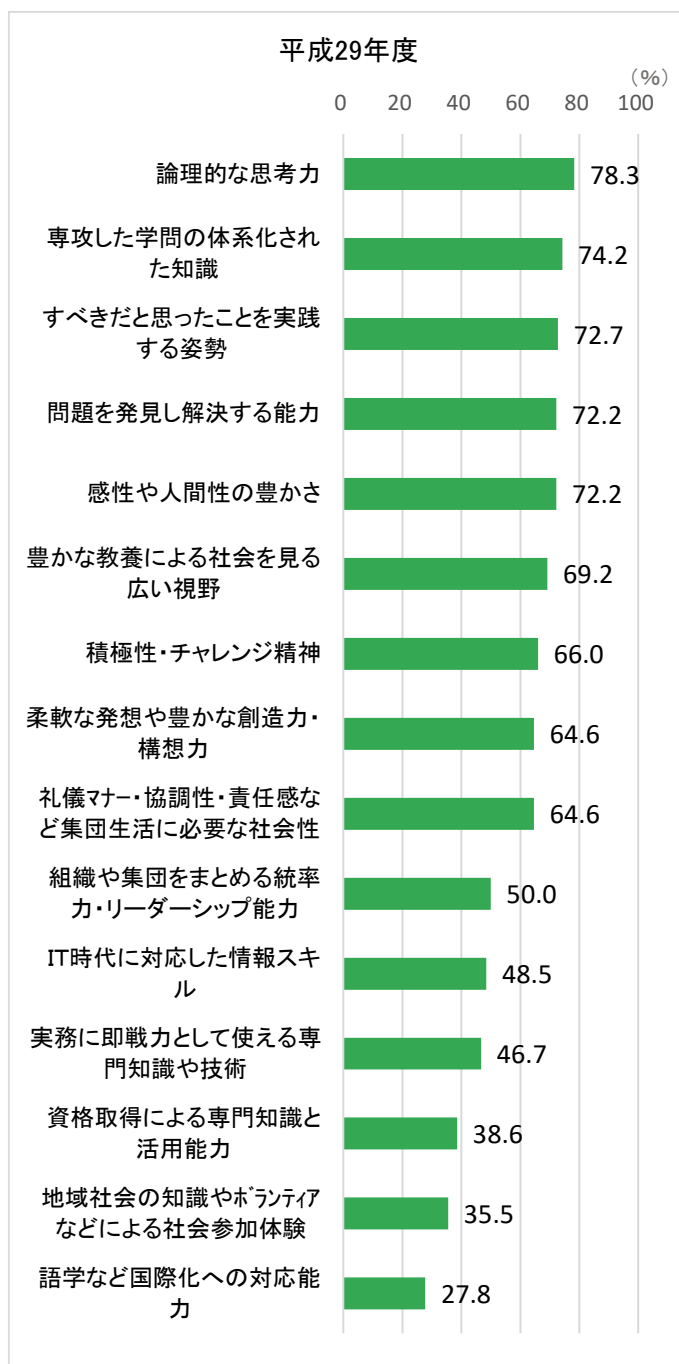
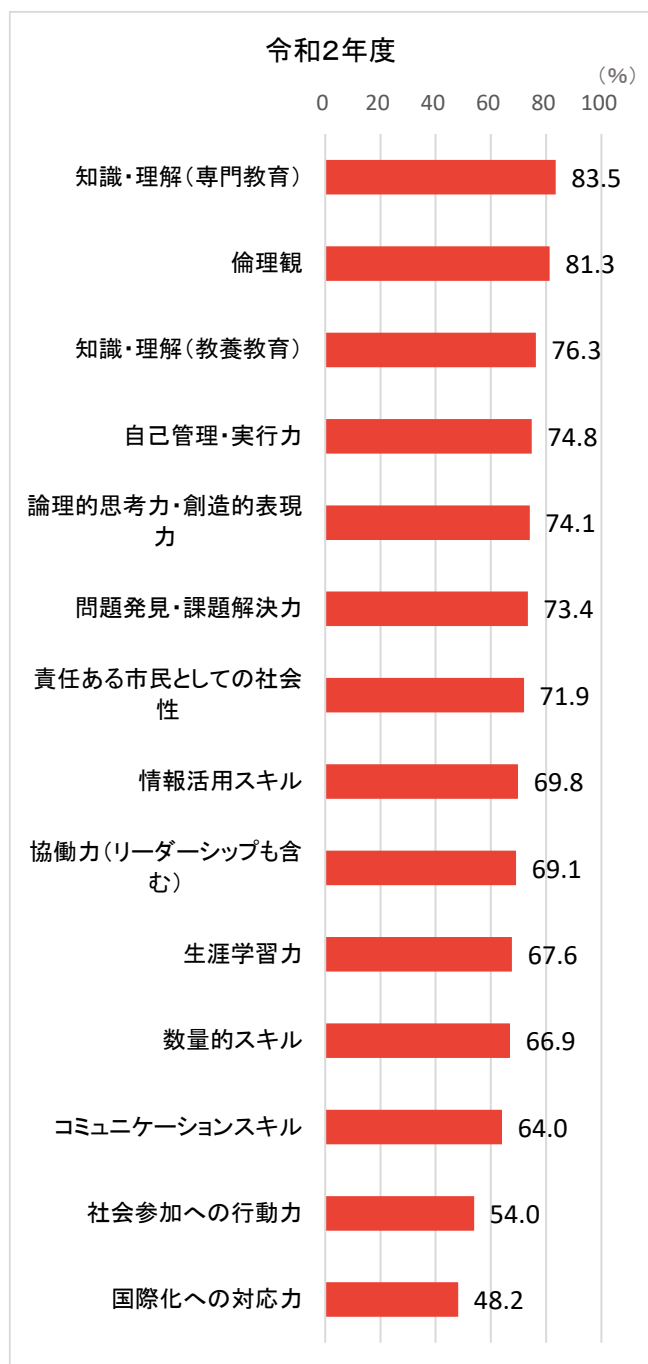
<交流活動・支援体制の充実度>

傾向に大きな変化はなく、ほぼ同じ状況と考えてよい。「クラブ・サークル活動の盛り上がり」はやや減退傾向にあるも H29 年度 73.6%⇒R2 年度 70.5%と高止まっており、その点評価できる。また、改善傾向として「海外留学制度の充実」への評価は 15 ポイント以上の上昇がみられ(H29 年度 43.8%⇒R2 年度 61.2%), この点は特筆に値する。一方で「IT 活用教育」(H29 年度 31.3%⇒R2 年度 26.6%)と肯定的回答が安定的に低く、また減退傾向にあり改善の余地がある。



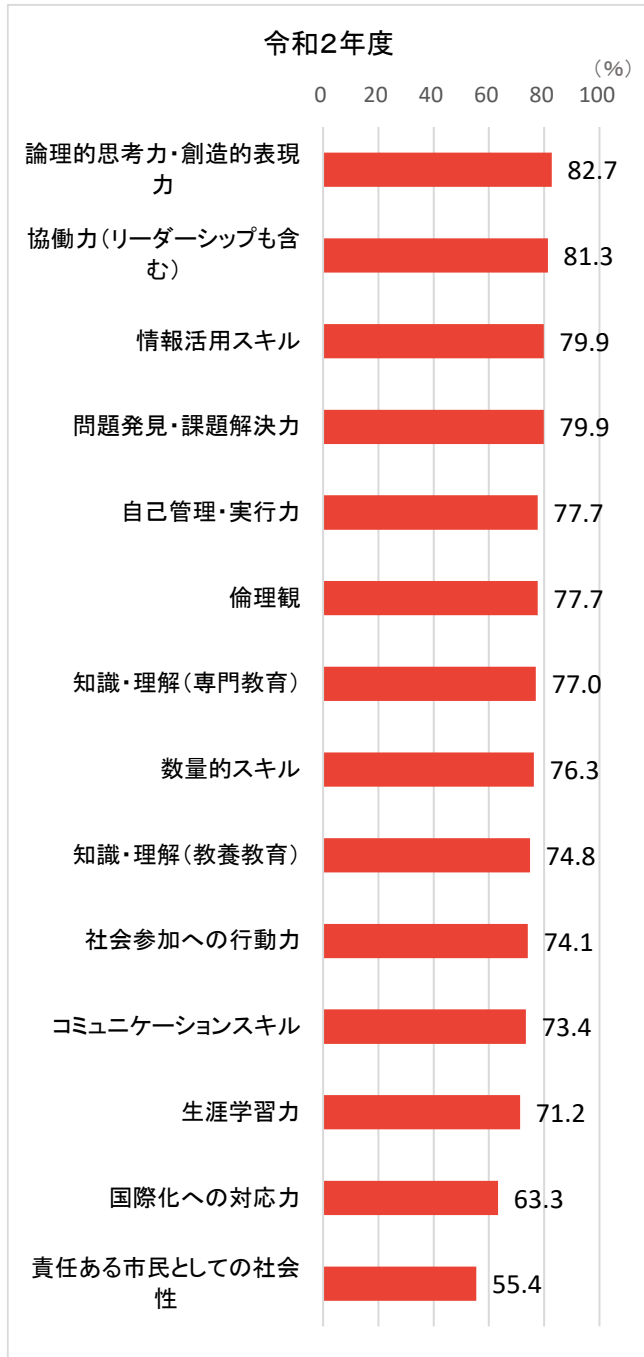
工学部 令和2年度調査「大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力」と、
平成29年度調査「修得した能力・技術・知識等」

今回調査（令和2年度）と前回調査（平成29年度）とでは異なる設問であるため単純に比較できないが、参考のために掲載する。



工学部 令和2年度調査「社会に出て教育成果として役立った DP 能力」と、
平成29年度調査「役立った能力・技術・知識等」

今回調査（令和2年度）と前回調査（平成29年度）とでは異なる設問であるため単純に比較できないが、参考のために掲載する。



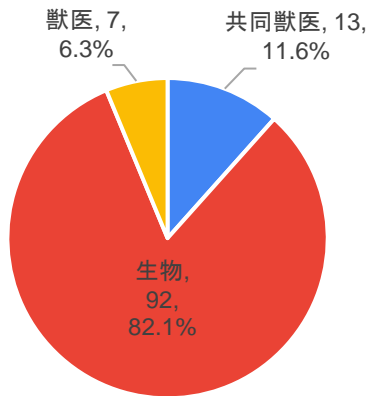
農学部

農学部

回答者の属性

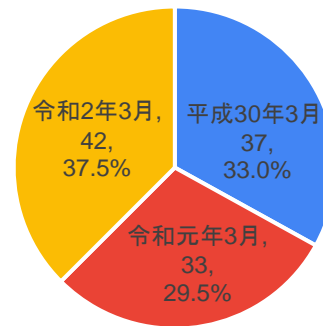
【学部・学科】

共同獣医	生物	獣医	計
13	92	7	112
11.6%	82.1%	6.3%	100.0%

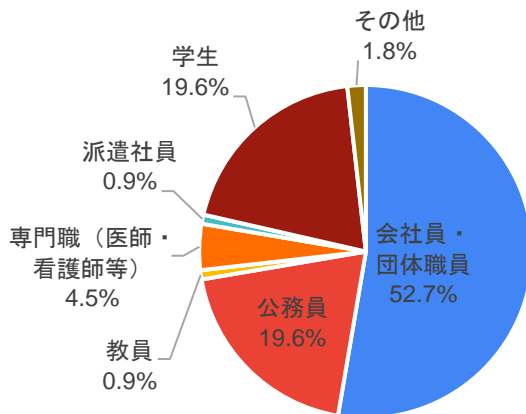


【学部・卒年】

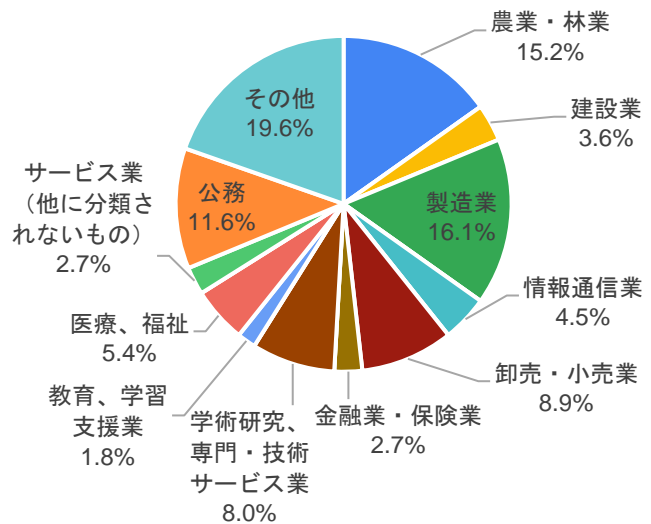
平成30年3月	令和元年3月	令和2年3月	計
37	33	42	112
33.0%	29.5%	37.5%	100.0%



【学部・職業】



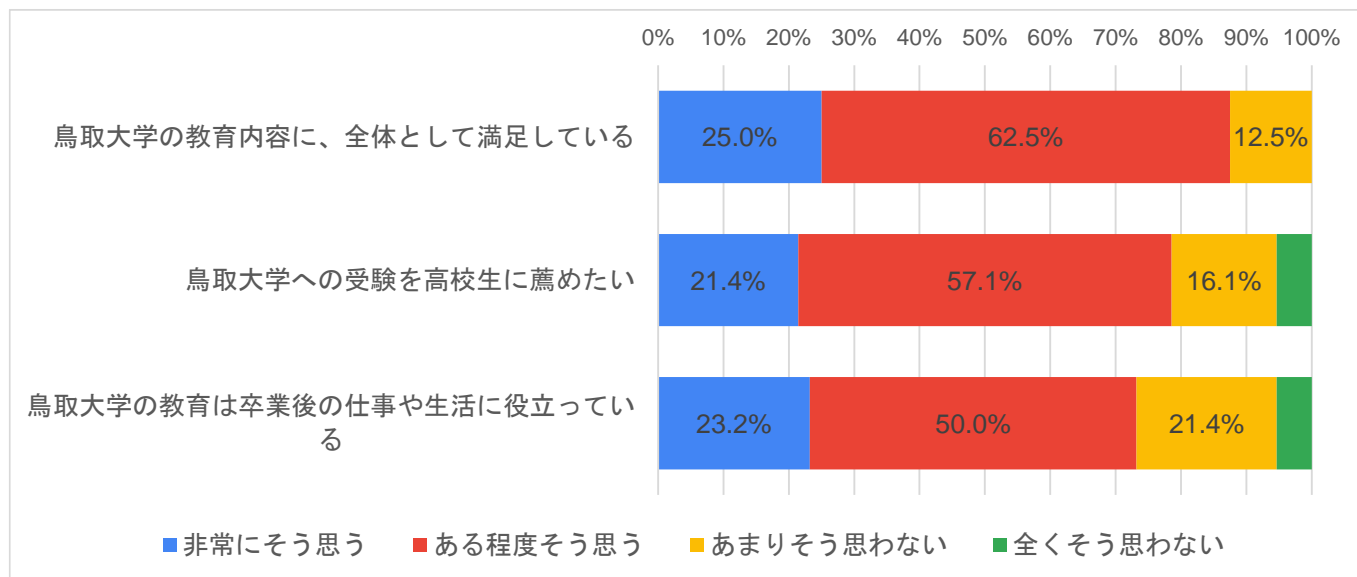
【学部・業種】



農学部

総合的な満足度

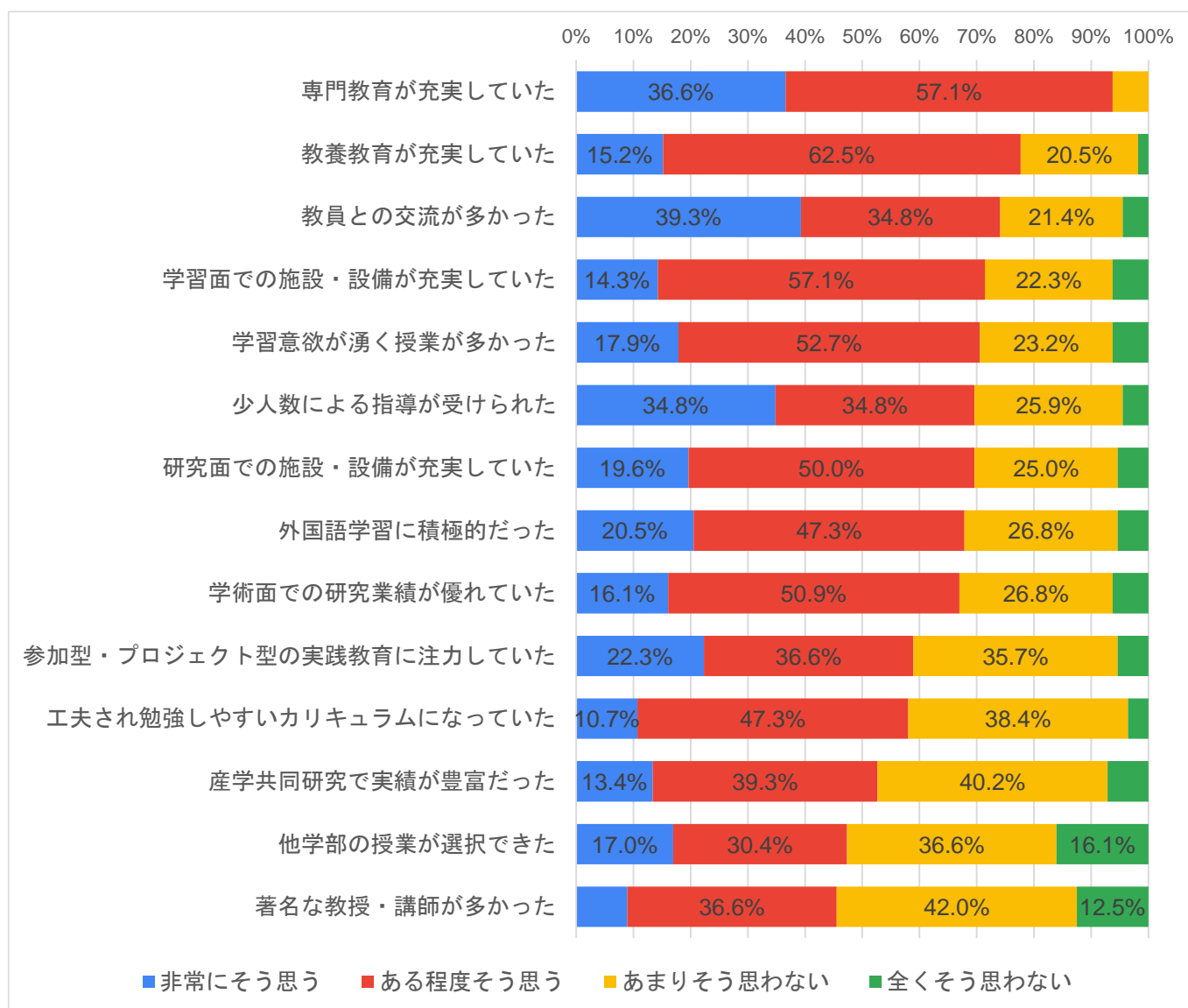
大学における教育内容は、ある程度そう思う 62.5%、非常にそう思う 25.0%を足して 90%近くの肯定的回答を得ており、学生の満足度は高水準にあると判断できる。また、その傾向は「受験生へ本学を推薦したい（できる）」、「卒業後の仕事への役立ち度」という評価にも表れており、こちらも 70%以上の肯定的回答を得ており、全体的に満足度は高水準といえる。



農学部

教育・研究の充実度

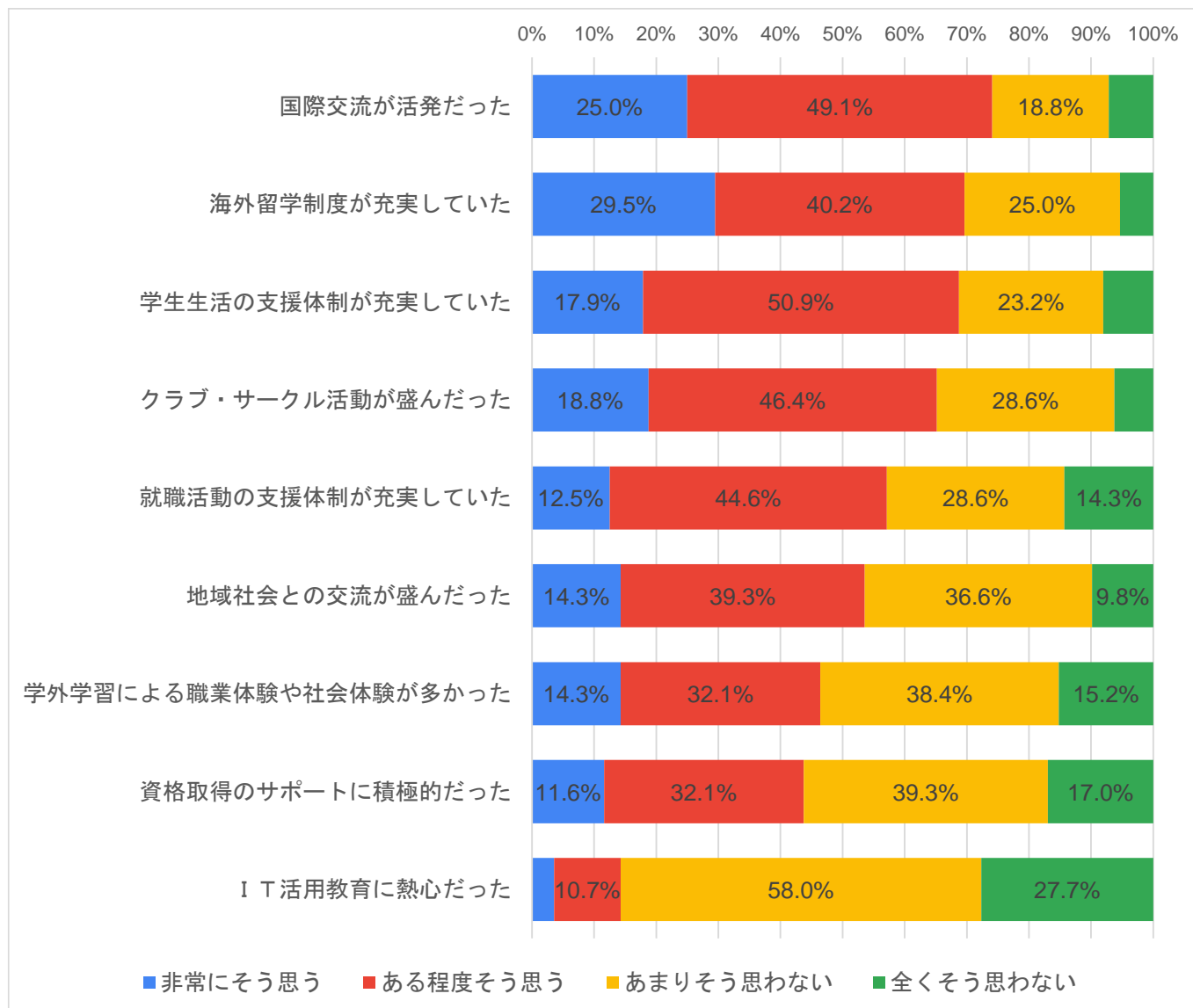
教養教育や専門教育の質に関しては高水準の評価を得ている。例えば、大学教育の要である「専門教育」はある程度そう思う 57.1%，非常にそう思う 36.6%を合算し 90%以上の肯定的回答を得ており、また、教養教育も 80%近くの肯定的回答を得ており、こちらも高い水準にあるといえる。また「教員との交流」、「少人数教育」への評価は、それぞれ「非常にそう思う」で 39.3%，34.8%得ており、農学部の目指す教育スタイルが一定程度の結果を出しているといえよう。一方で、「産学協同研究」や「他学部での学び」などに関してはいずれも、概ね 50%の肯定的回答にとどまり、改善の余地が残されている。



農学部

交流活動・支援体制の充実度

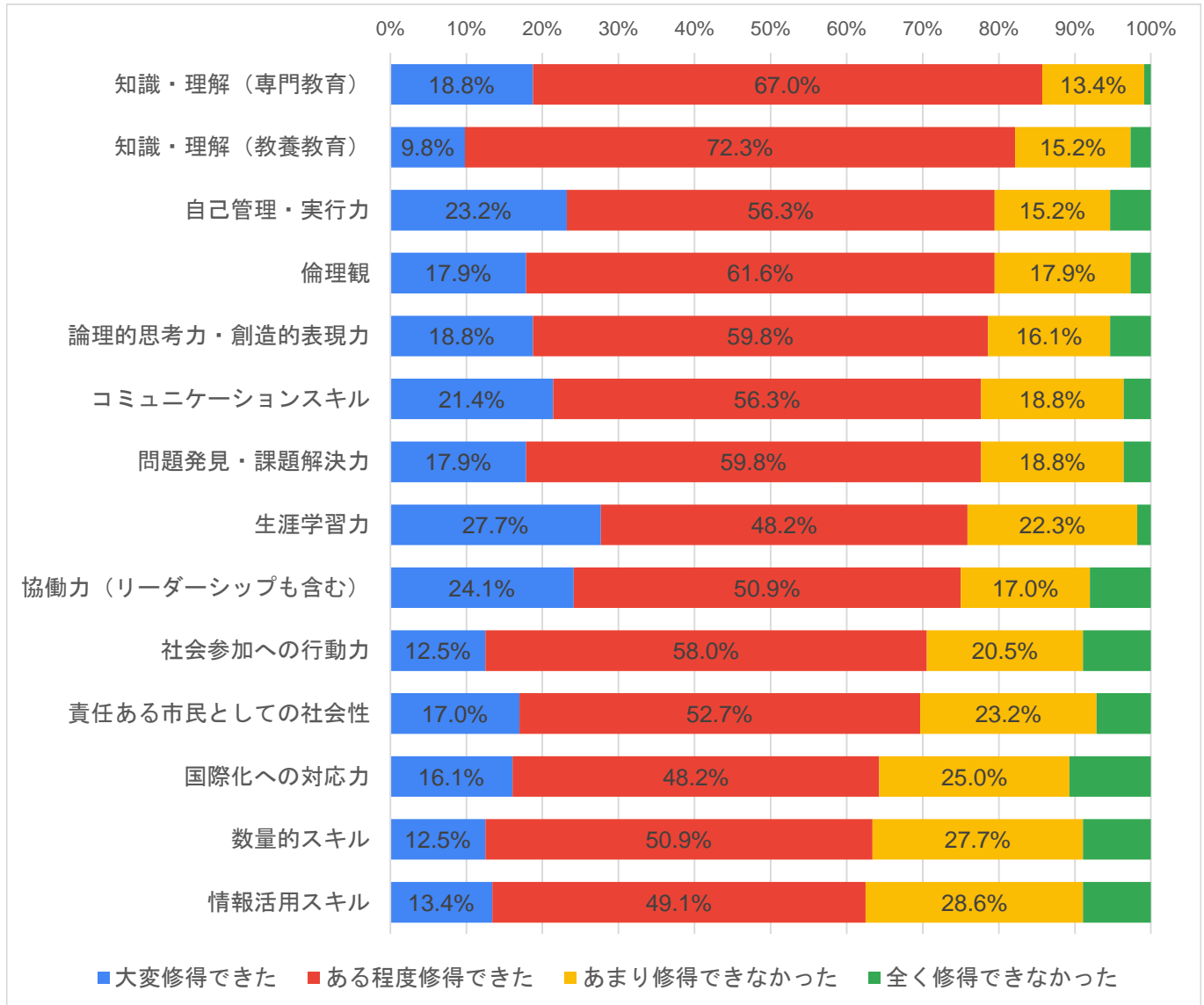
「海外留学制度の充実」、「国際交流の活発さ」などは概ね 70%の肯定的回答を得ており、学部取り組みの成果として評価できる。一方で、「学外での社会体験」や「資格取得へのサポート」「地域との交流」は概ね 50%の肯定的回答にとどまっており、改善の余地がある。また、特に「IT 活用」に関しては肯定的回答が 20%に満たず課題となる。



農学部

大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力

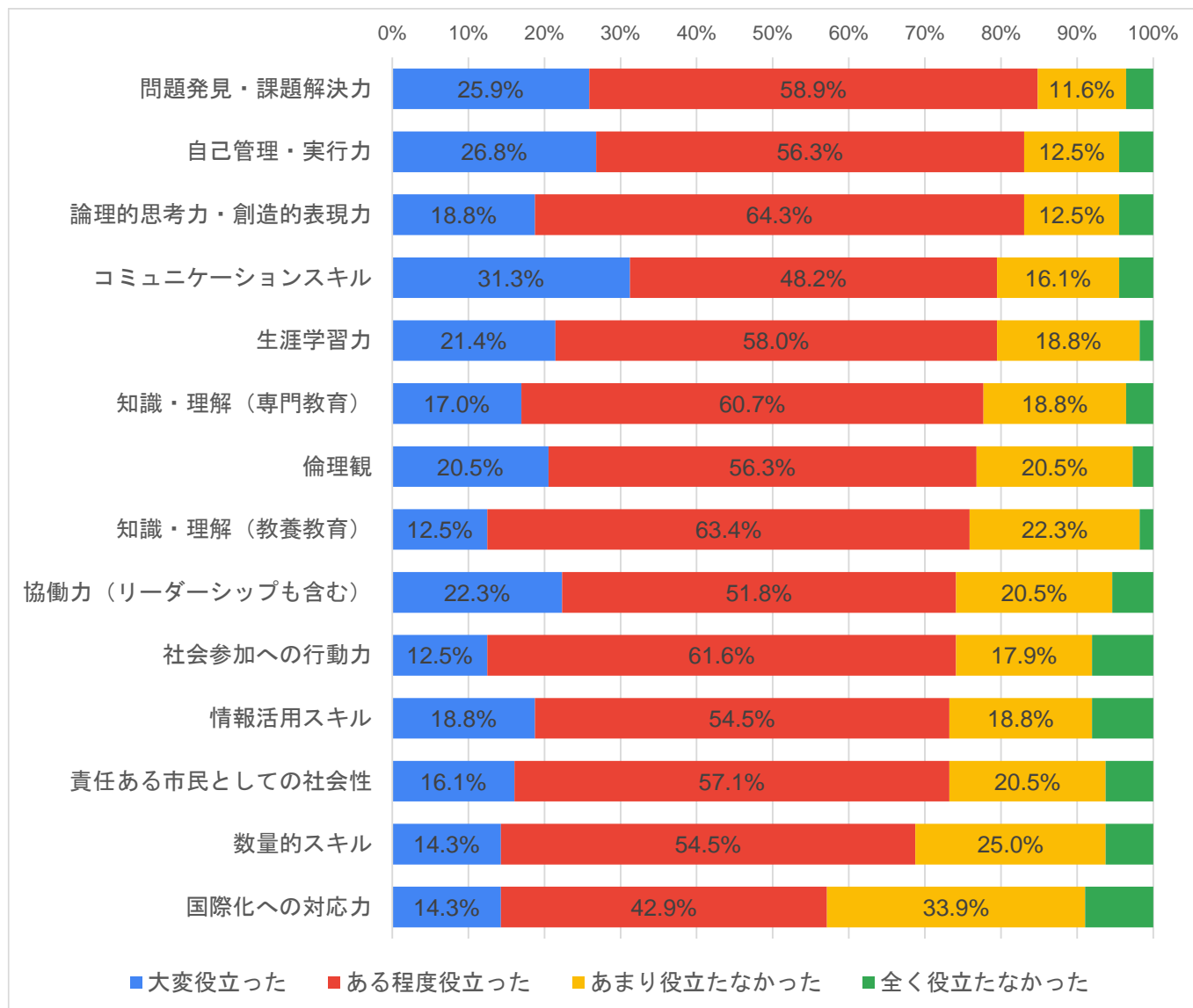
「専門教育・教養教育に関する知識や理解」、そして「自己管理・実行力」の修得に関して概ね 80% の肯定的回答を得ており、学部の取り組みの結果として評価されるべき点といえよう。一方で、「国際化への対応」や「数量的スキル」、「情報活用スキル」の修得などに関しては、肯定的回答が概ね 60% にとどまっており、改善点といえる。



農学部

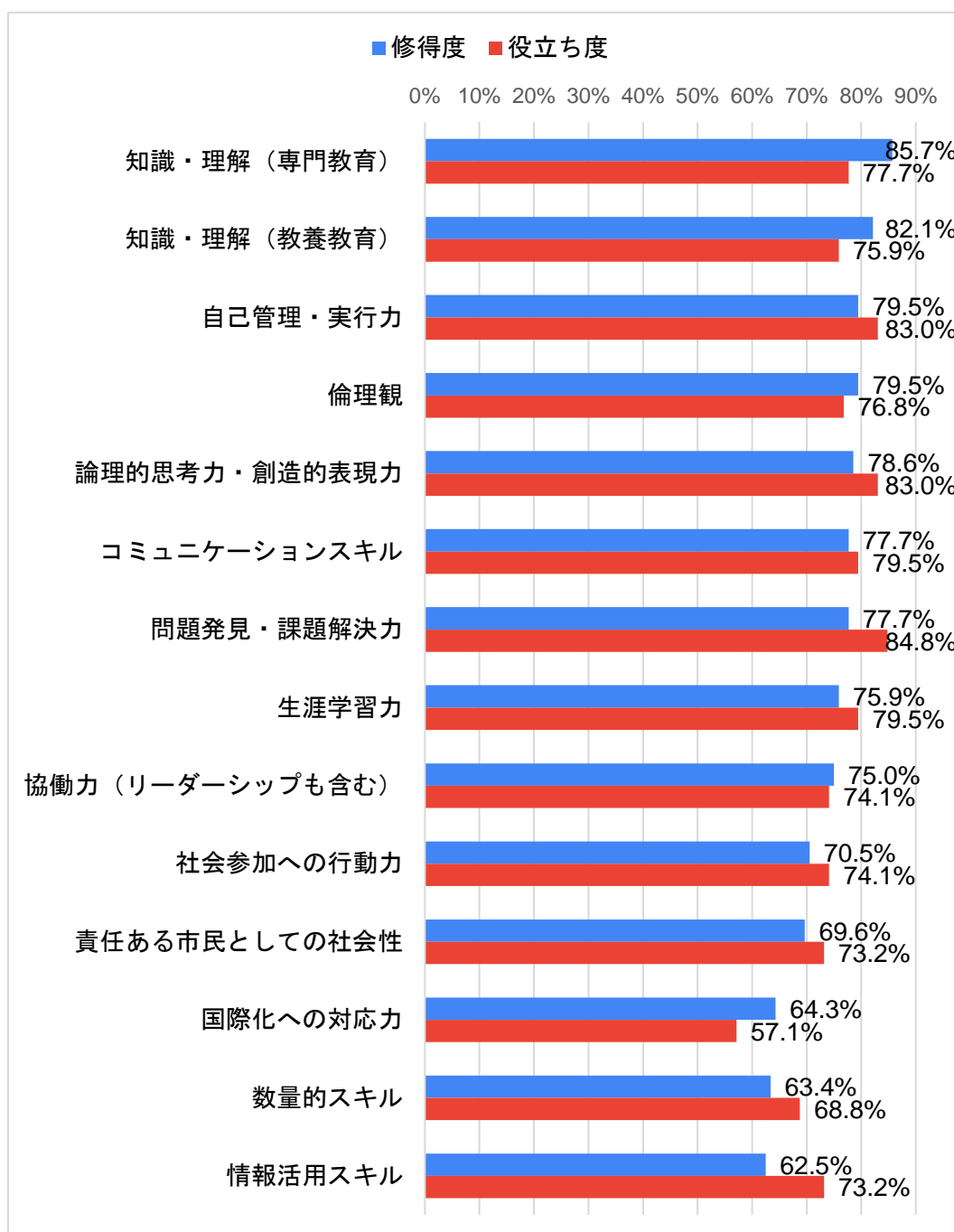
社会に出て教育成果として役立った DP 能力

DP 能力全般の修得に関しては概ね高評価が得られている。例えば「問題発見・課題解決力」「自己管理・実行力」「論理的思考力・創造的表現力」などは 80%以上の肯定的回答を得ており、学部教育の一定の成果といえる。一方で、「国際化への対応力」への肯定的回答は 60%に届いておらず、改善の余地があるといえる。



修得度×役立ち度

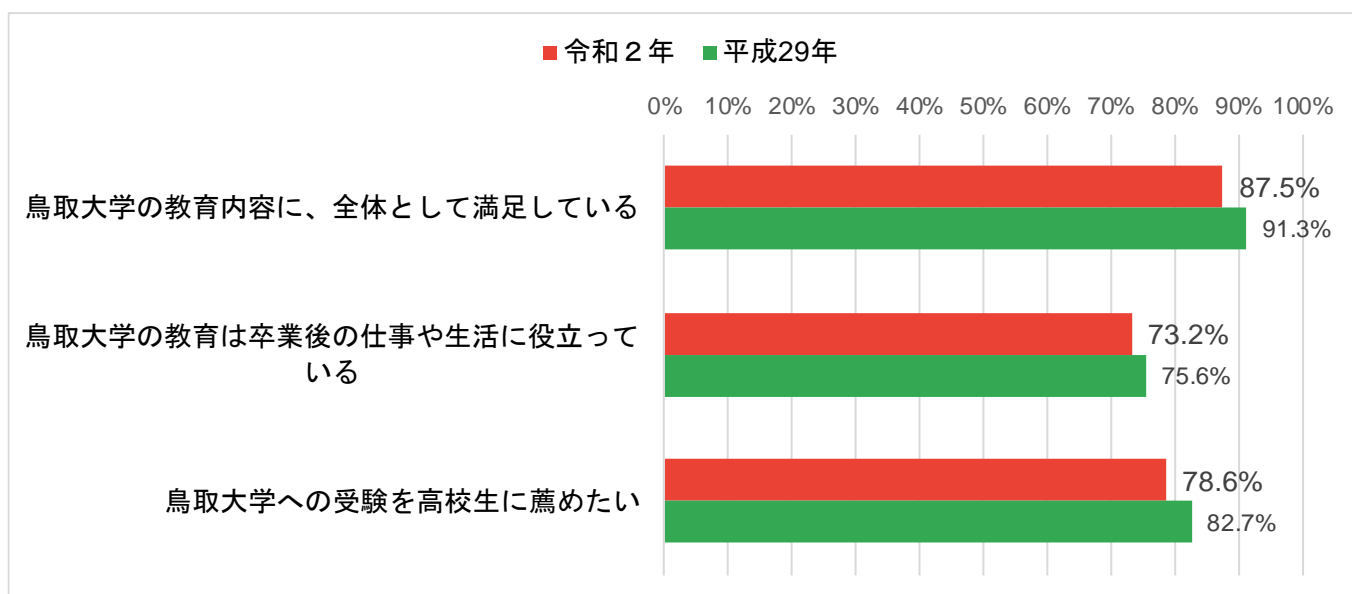
修得度と役立ち度双方に関して、概ね高評価が得られたといえよう。例えば、「論理的思考力・創造的表現力」や「問題発見・課題解決力」、「情報活用スキル」などでは、役立ち度において修得度を大きく超える関係にあり、大学教育の結果が、実社会の実践の中で予想を超える結果を出し、評価されているといえる。一方で、「コミュニケーションスキル」が80%近い肯定的回答を得ているにも関わらず、「国際化への対応力」の役立ち度は57.1%と低い水準にあり、益々国際化を迎える社会実践への対応も重要な改善点となる。



農学部 H29・R2 比較(1/3)

<総合的な満足度>

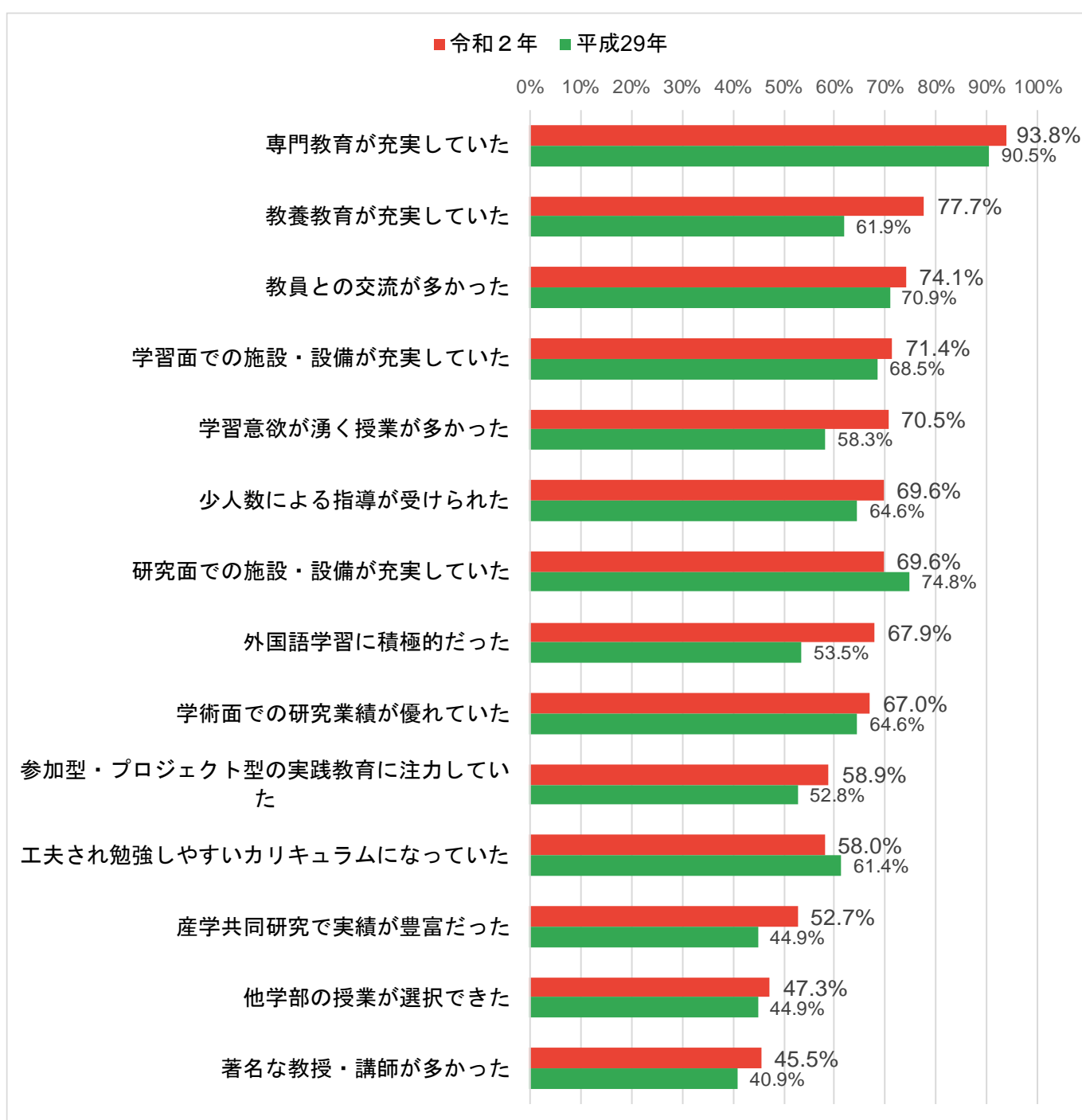
教育内容への満足度は高水準ながらやや減退気味である（H29 年度 91.3%⇨R2 年度 87.5%）。またそれは卒業後の役立ち度への評価も同様であり（H29 年度 75.6%⇨R2 年度 73.2%），結果として高校生への推薦意識も減退傾向にあるようである（H29 年度 82.7%⇨R2 年度 78.6%）。本結果を踏まえて「実学」としての農学の位置に関して確認・改善する必要があるといえよう。



農学部 H29・R2 比較(2/3)

＜教育・研究の充実度＞

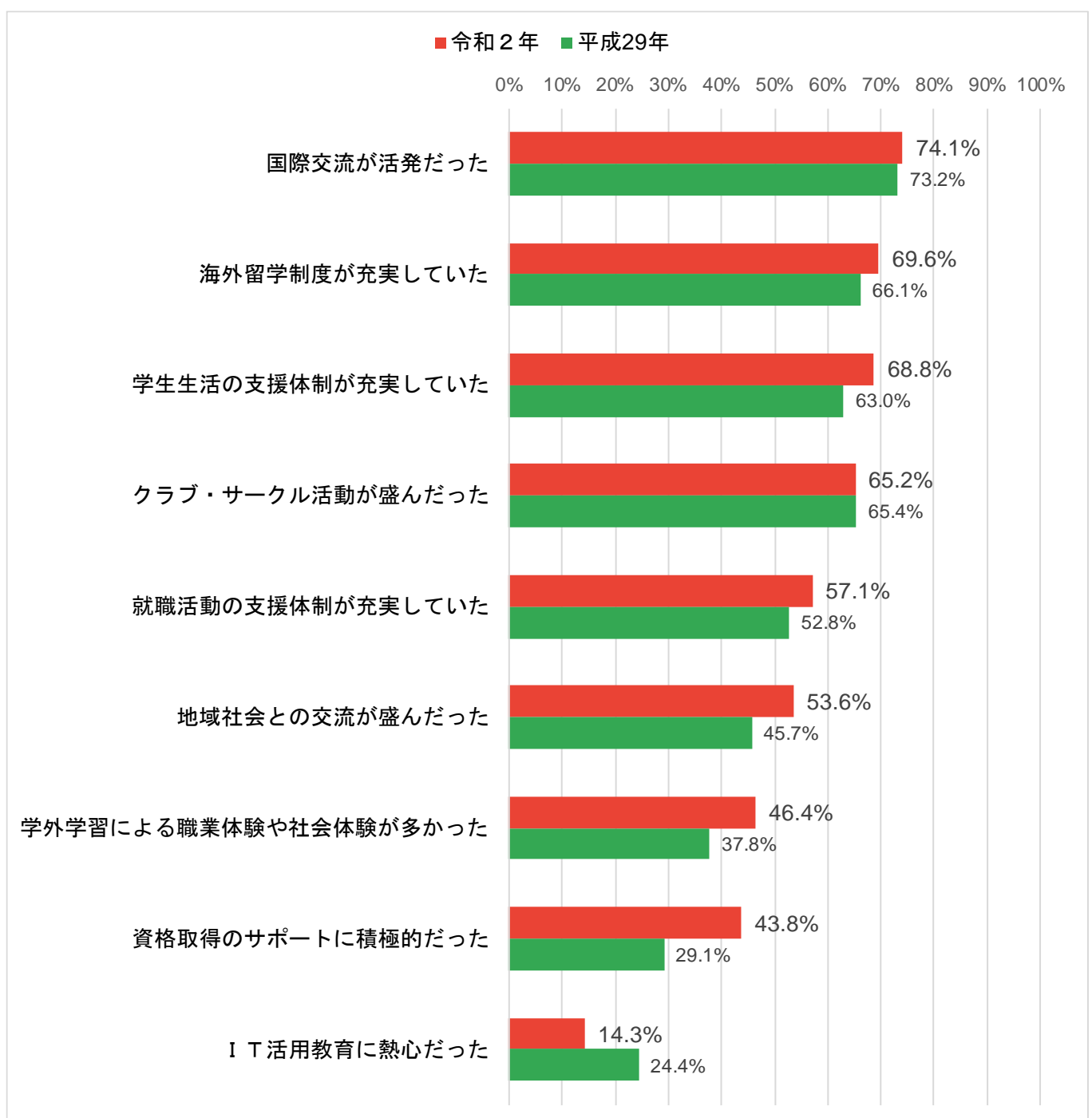
結果の傾向に大きな変化はなく、ほぼ同様と考えてよい状況だが、「専門教育」「教養教育」の二項目ははともに評価が上昇傾向にあり（H29 年度 90.5%⇨R2 年度 93.8%，H29 年度 61.9%⇨R2 年度 77.7%），この点は評価できる。また、「学習意欲の湧く授業が多かった」の問いへの肯定的回答は 10 ポイント以上上昇しており（H29 年度 58.3%⇨R2 年度 70.5%），この点は特筆に値する。一方で、「カリキュラム」や「施設・設備」などに関しては評価の減退がみられる点は、今後注意すべきであろう。



農学部 H29・R2 比較(3/3)

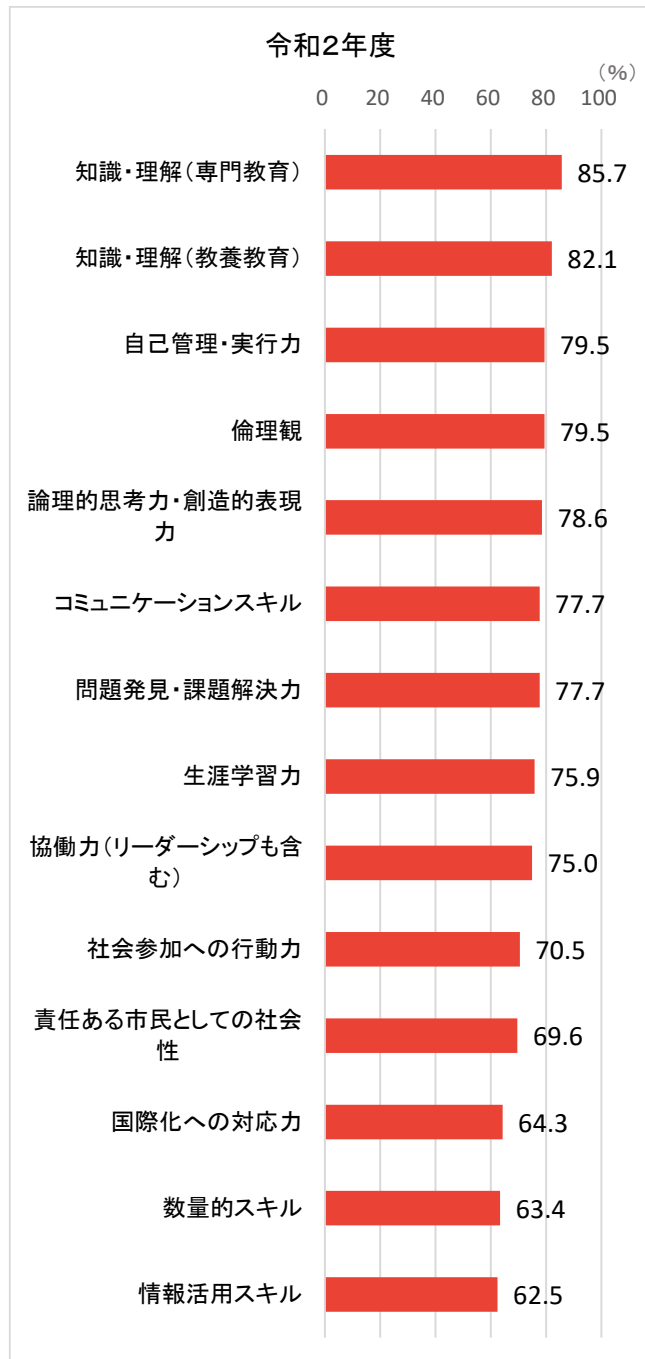
＜交流活動・支援体制の充実度＞

傾向に大きな変化はなく、ほぼ同じ状況である。例えば、「国際交流」、「海外留学制度」、「学生生活への支援」などへの評価は高止まり、その点評価できる。また、改善傾向として「資格取得のサポート」への評価は概ね 15 ポイントの上昇が確認され、特筆に値する（H29 年度 29.1%⇨R2 年度 43.8%）。一方で、「IT 活用教育」などに関しては評価が低く 10 ポイントの減退も見られ（H29 年度 24.4%⇨R2 年度 14.3%）、大きな改善点といえよう。



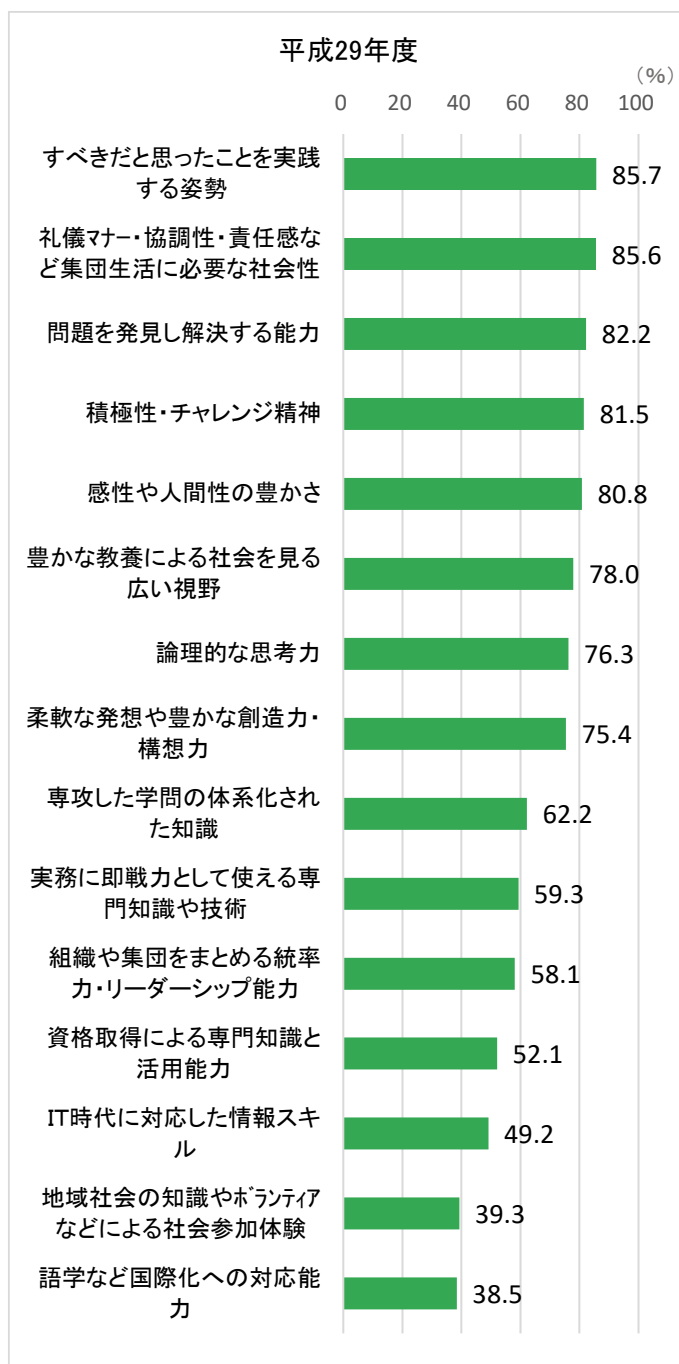
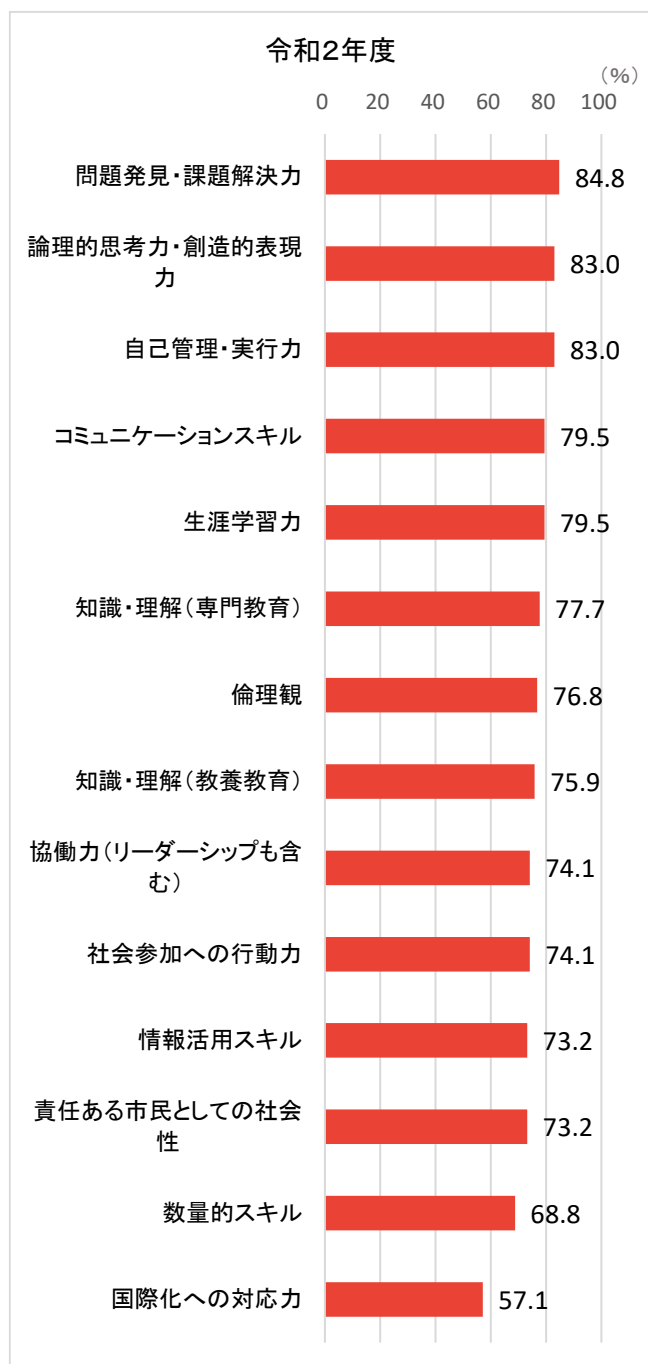
農学部 令和2年度調査「大学での教育・学生生活を通じて修得した DP 能力」と、
平成29年度調査「修得した能力・技術・知識等」

今回調査（令和2年度）と前回調査（平成29年度）とでは異なる設問であるため単純に比較できないが、参考のために掲載する。



農学部 令和2年度調査「社会に出て教育成果として役立った DP 能力」と、
平成29年度調査「役立った能力・技術・知識等」

今回調査（令和2年度）と前回調査（平成29年度）とでは異なる設問であるため単純に比較できないが、参考のために掲載する。



第Ⅱ部

大学院修了生に対する

調査結果

調査概要

1. 目的

大学院修了生を対象として、本学が実施した教育の効果ならびに学生が身につけた学習の成果等を把握する。

2. 対象

平成 30 年 3 月～令和 2 年 3 月修了者（過去 3 か年）

3. 実施・回答時期

令和 3 年 3 月下旬に対象者へ依頼，5 月末回答締切

4. 実施方法

修了生の保証人先にアンケート協力依頼文書を送付。アンケートの実施方法は、Web アンケート方式（Google フォームを活用）とした。

5. サンプル件数

901 件送付，178 件回収（回収率 19.8%）

6. アンケート項目

Q 1：基本属性（修了時期／修了した研究科専攻）

Q 2：現在の職種・業種

Q 3：鳥取大学大学院の教育や研究の充実度

Q 4：鳥取大学大学院に対する総合的な満足度

Q 5：鳥取大学大学院での DP 能力の修得度

Q 6：鳥取大学大学院での学修成果の役立ち度

Q 7：社会に出てから役立った具体的な事例（自由記述）

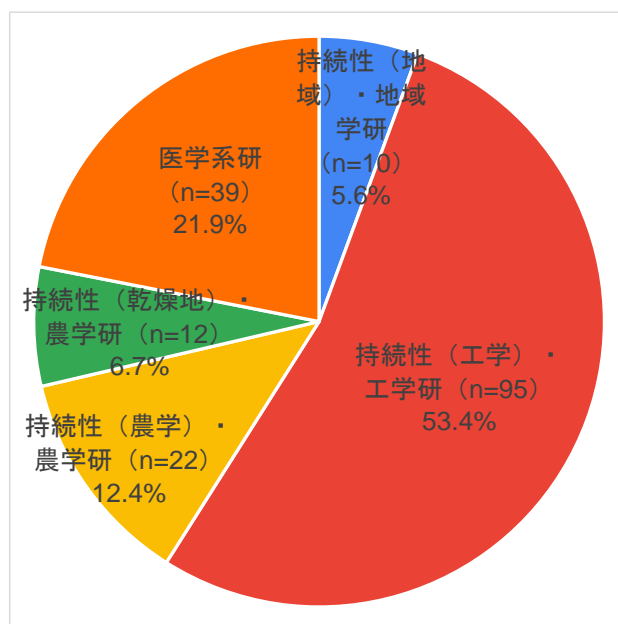
Q 8：研究指導の改善に対する意見・要望等（自由記述）

回答者全体の属性(1/5)

<研究科・専攻>

【研究科別・全体】

持続性（地域）・ 地域学研	持続性（工学）・ 工学研	持続性（農学）・ 農学研	持続性（乾燥 地）・農学研	医学系研	計
10	95	22	12	39	178
5.6%	53.4%	12.4%	6.7%	21.9%	100.0%



【研究科別×専攻別】

地域学研究科	地域創造	地域教育	計
	5	3	8
	62.5%	37.5%	100.0%

医学系研究科	保健学	臨床心理学	生命科学	機能再生	計
	13	7	5	14	39
	33.3%	17.9%	12.8%	35.9%	100.0%

工学研究科	化学・生物	機械宇宙	社会基盤	情報エレクトロニクス	計
	11	13	4	13	41
	26.8%	31.7%	9.8%	31.7%	100.0%

農学研究科	フィールド生産	生命資源	国際乾燥地	計
	2	4	5	11
	18.2%	36.4%	45.5%	100.0%

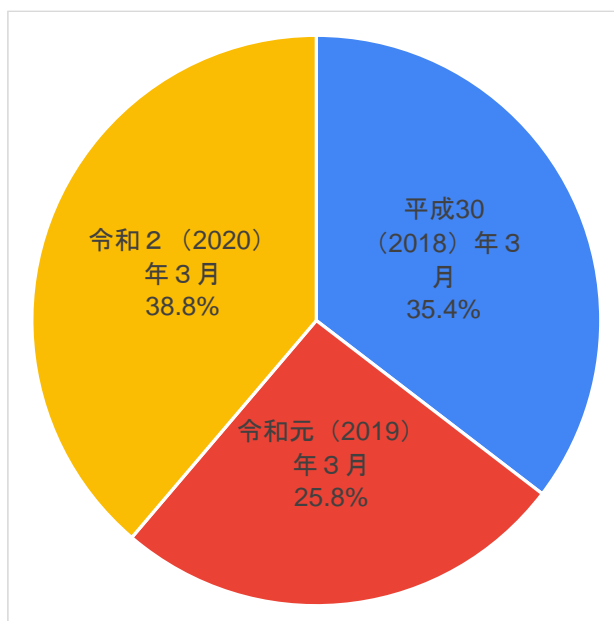
持続性社会創生科学研究科	地域学	工学	農学	国際乾燥地	計
	2	54	16	7	79
	2.5%	68.4%	20.3%	8.9%	100.0%

回答者全体の属性(2/5)

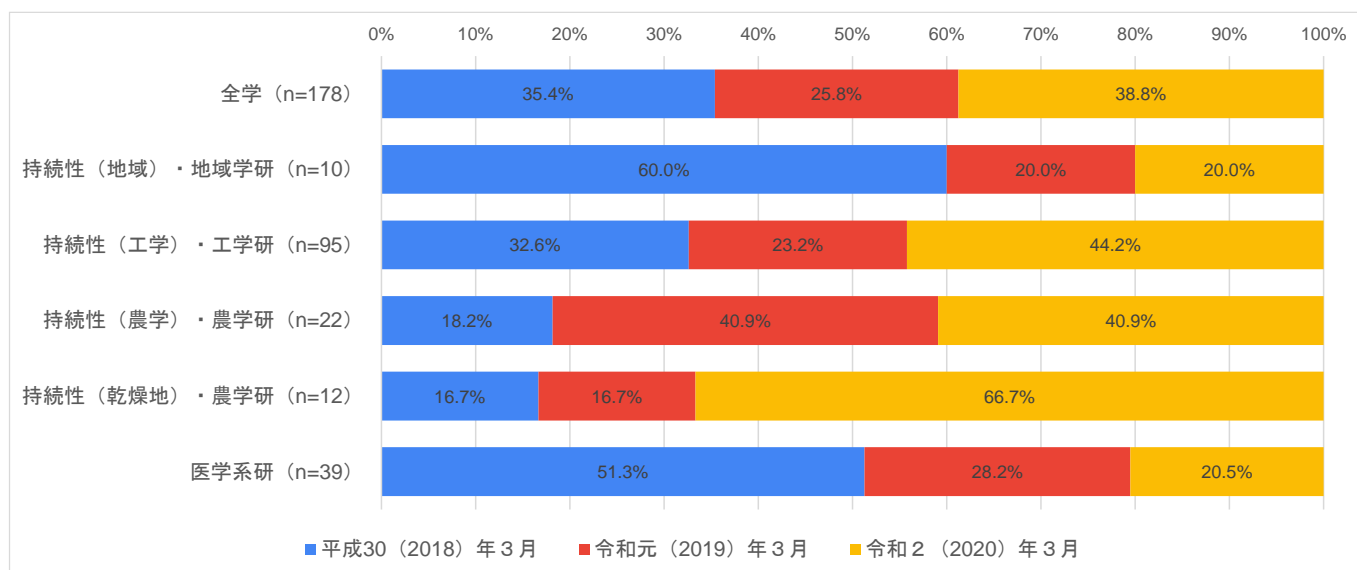
<修了年>

【修了年別・全体】

平成30年3月	令和元年3月	令和2年3月	計
63	46	69	178
35.4%	25.8%	38.8%	100.0%

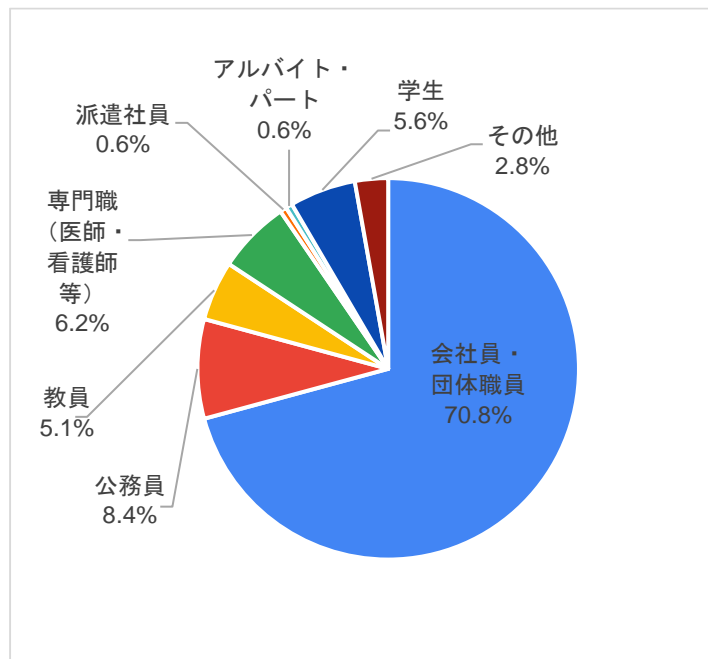


【修了年別×研究科別】

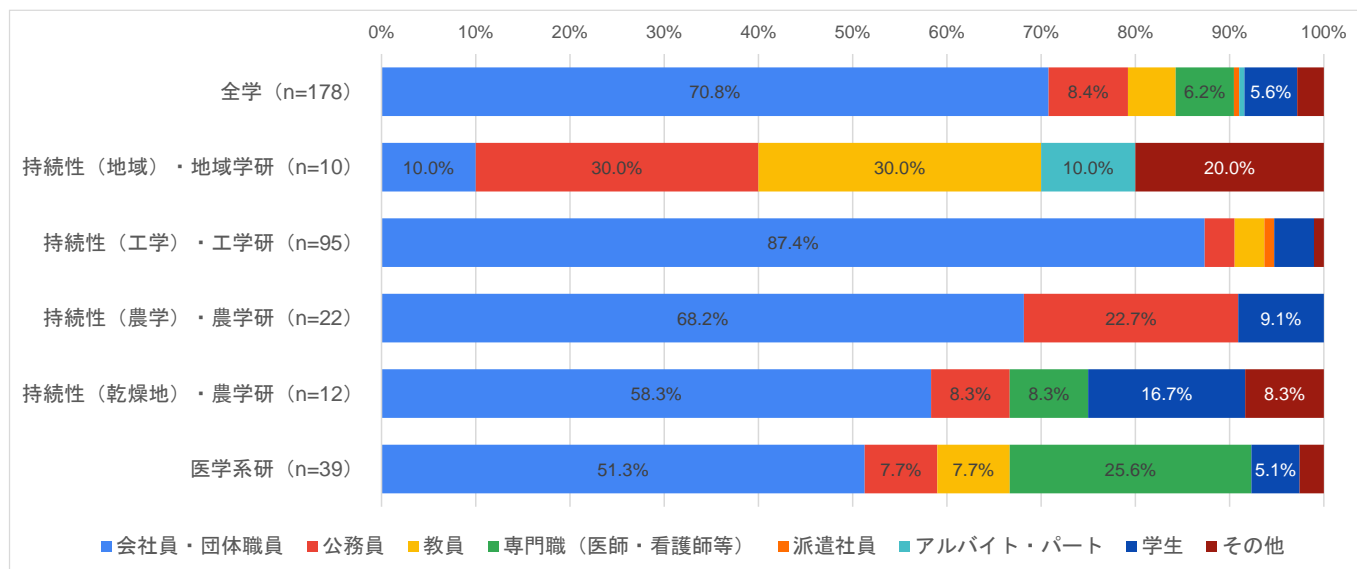


回答者全体の属性(3/5) <現在の職業>

【現在の職業・全体】



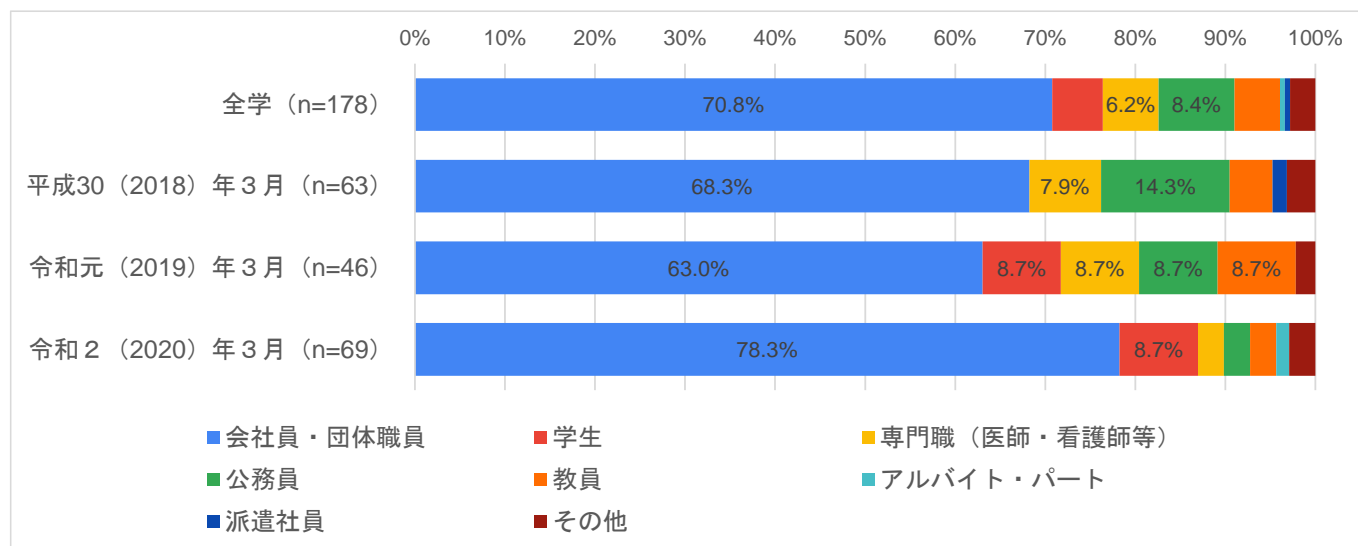
【現在の職業×研究科別】



回答者全体の属性(4/5)

<現在の職業>

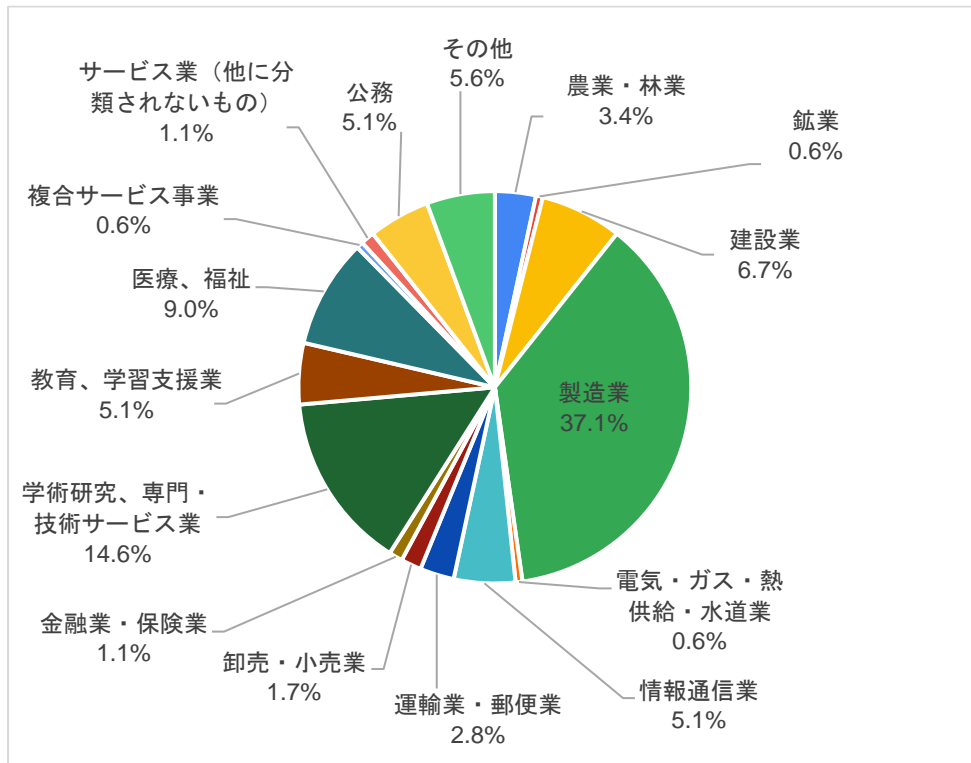
【現在の職業×修了年別】



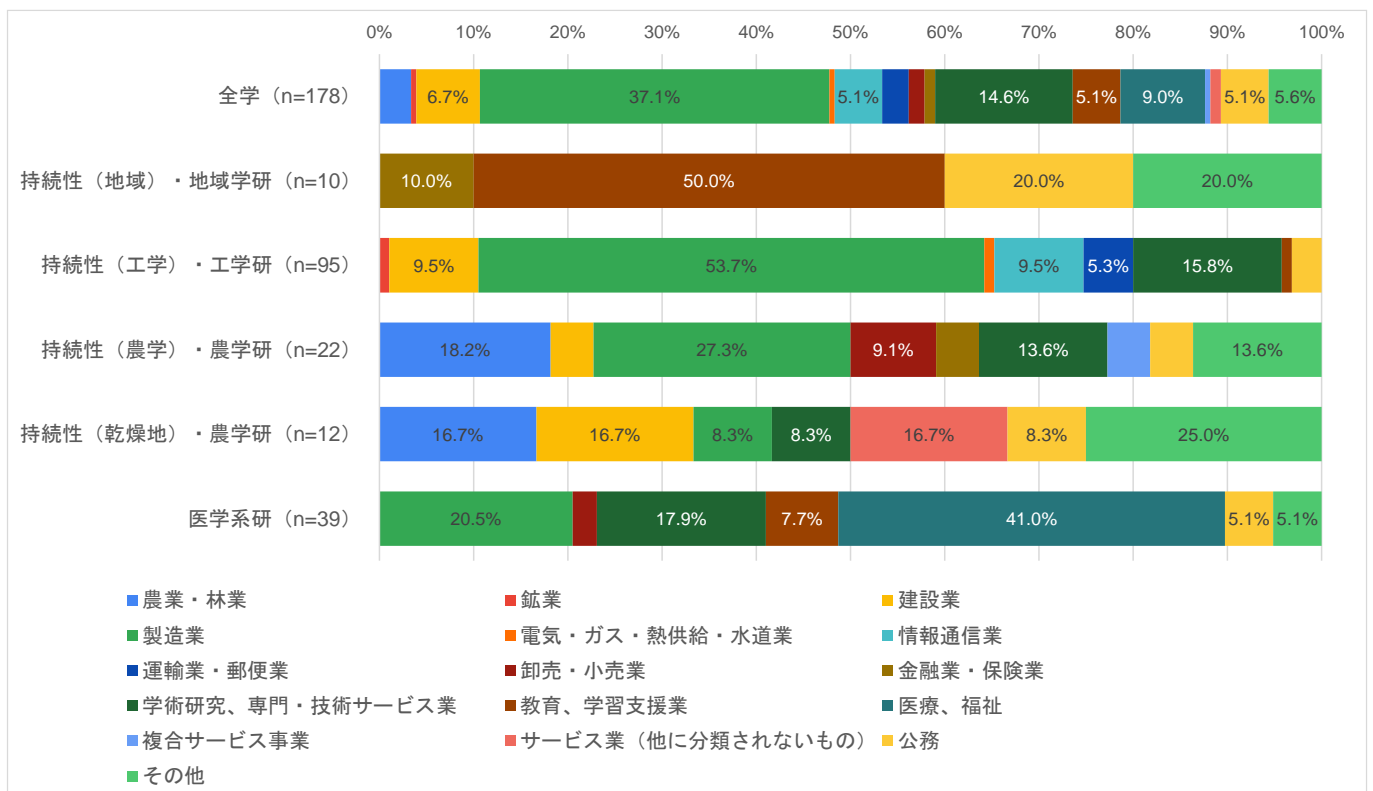
回答者全体の属性(5/5)

<現在の業種>

【現在の業種・全体】



【現在の業種×研究科別】



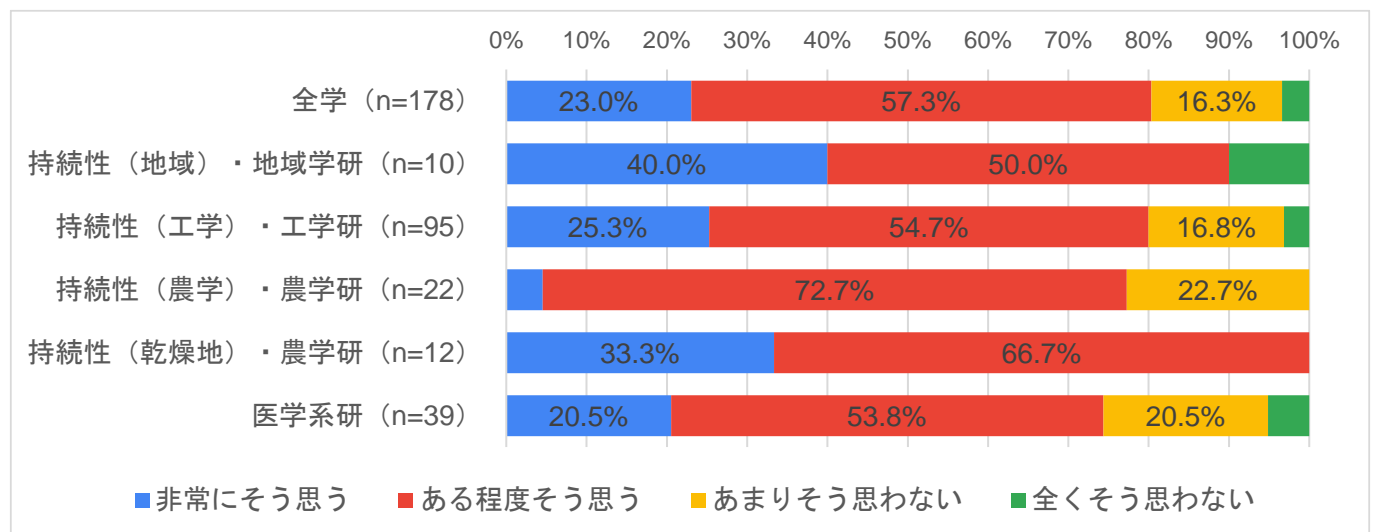
総合的な満足度(1/2)

<教育内容・研究指導> <卒業後の役立ち度>

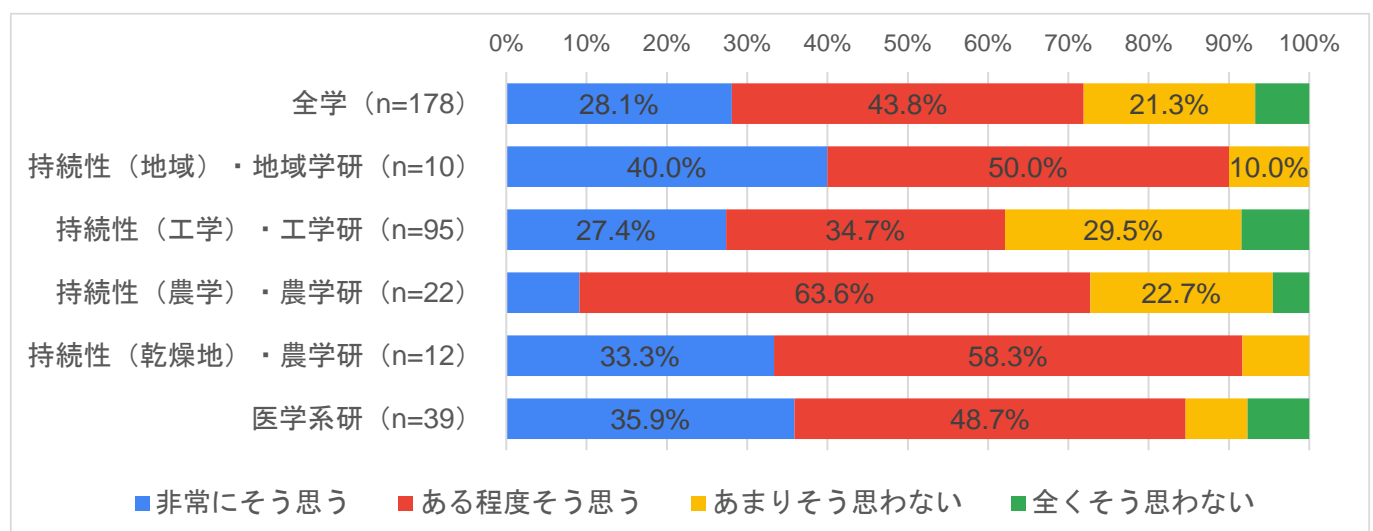
・「大学院の教育内容・研究指導に対する全体的な満足度」は全学で80.3%が肯定的回答（「非常にそう思う」+「ある程度そう思う」）をした。国際乾燥地科学専攻で10割、地域学専攻で9割の高い肯定的回答率であり、その他の専攻・研究科で約7割5分～8割の肯定的回答率だった。

・「大学院の教育・研究の卒業後の仕事や生活への役立ち度」は全学で71.9%が肯定的回答をした。肯定的回答率は専攻により差があり、国際乾燥地科学専攻と地域学専攻で約9割、医学系研究科で約8割5分、農学専攻で7割台(72.7%)、工学専攻でやや低めの6割台(62.1%)だった。

大学院の教育内容・研究指導に、全体として満足している



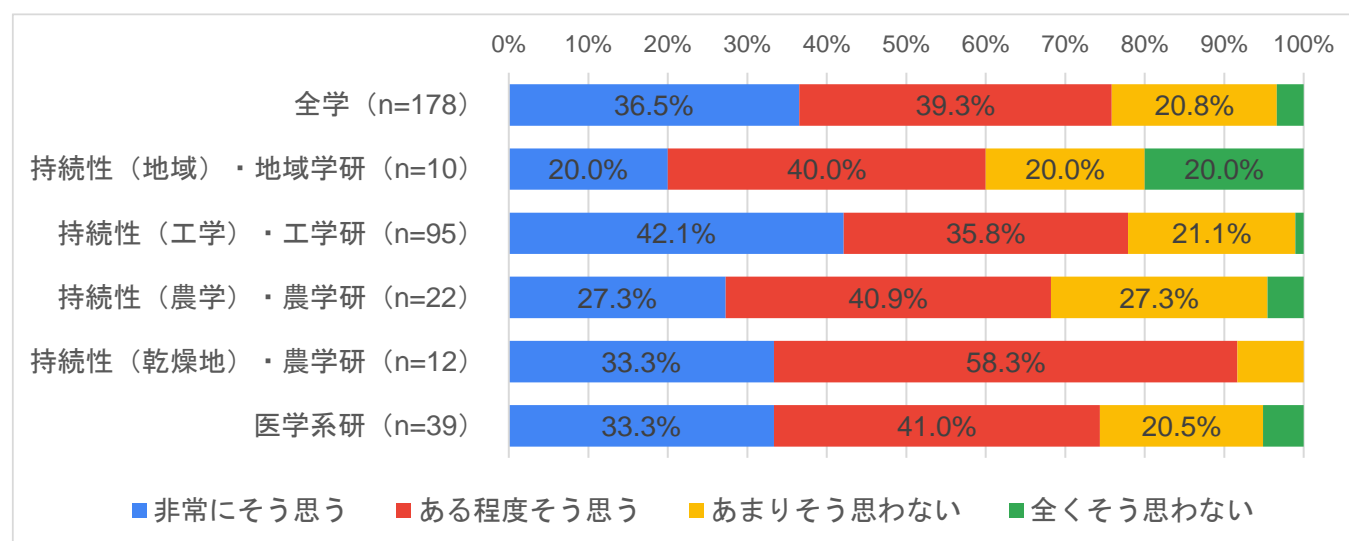
大学院の教育・研究は卒業後の仕事や生活に役立っている



総合的な満足度(2/2) <学部生への進学推奨度>

・「学部生への本学大学院への進学推奨度」は、全学での肯定的回答率は75.8%であり、そのうち「非常にそう思う」は36.5%だった。肯定的回答率は専攻により差があり、国際乾燥地科学専攻で最も高く91.6%、続いて工学専攻77.9%、医学系研究科74.3%、農学専攻68.2%。地域学専攻では推奨度の評価が分かれ、肯定的回答率は低めの60.0%にとどまった。

大学院への進学を学部生に薦めたい



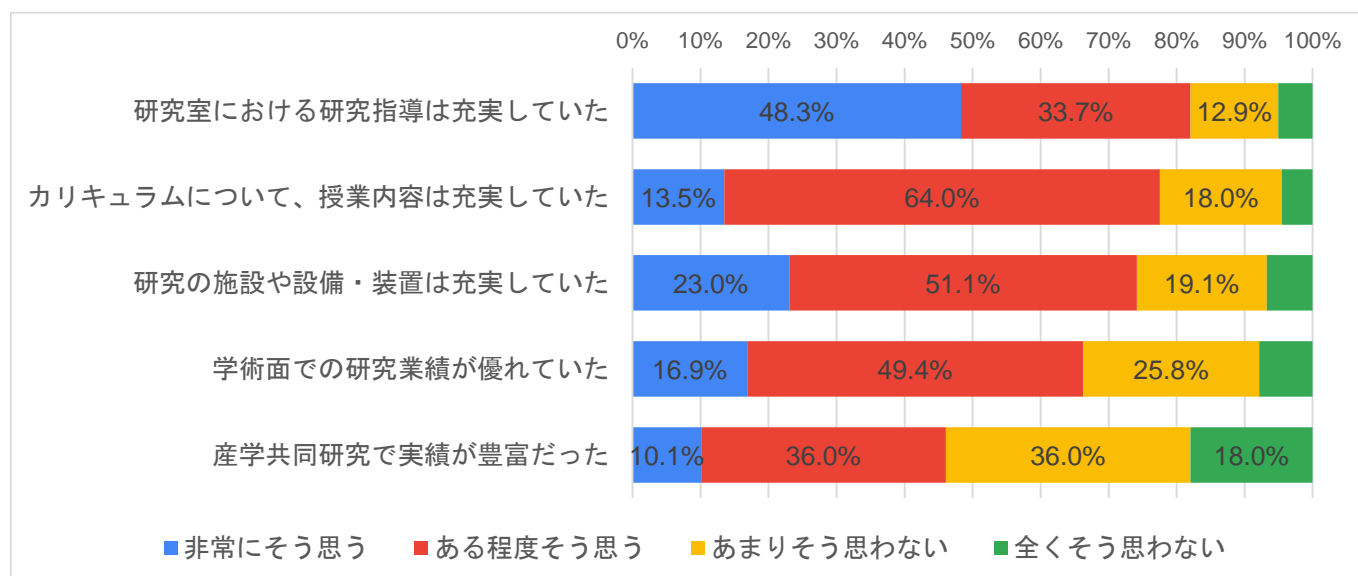
教育・研究の充実度(1/6)

<全学・研究科>

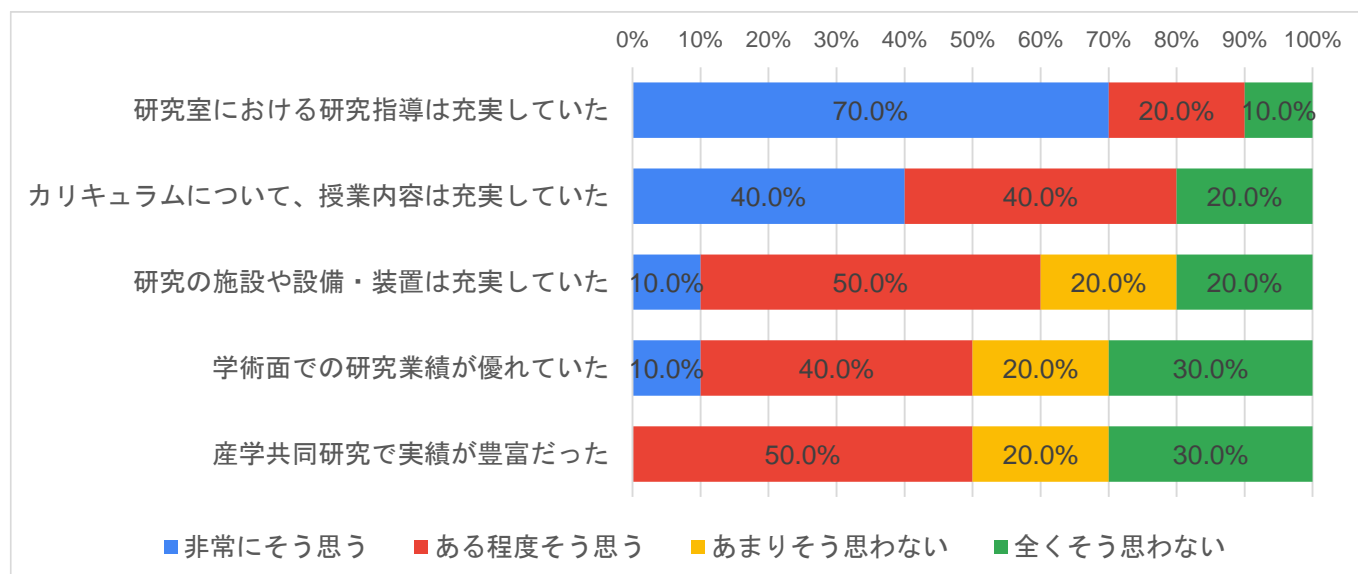
・全学では、大学院での教育・研究の充実度に関する5項目のうち、「研究指導の充実」は肯定的回答率が82.0%、そのうち「非常にそう思う」回答率が48.3%であり、最も高い充実度だった。一方、肯定的回答率が6割未満だった項目は、「産学共同研究で実績が豊富だった」で46.1%だった。

・地域学専攻では、「研究指導の充実」が肯定的回答率90.0%、そのうち「非常にそう思う」回答率70.0%で最も高い充実度だった。肯定的回答率が6割未満の項目は、「学術面での研究業績が優れていた」と「産学共同研究で実績が豊富だった」でともに50.0%だった。

【全学】



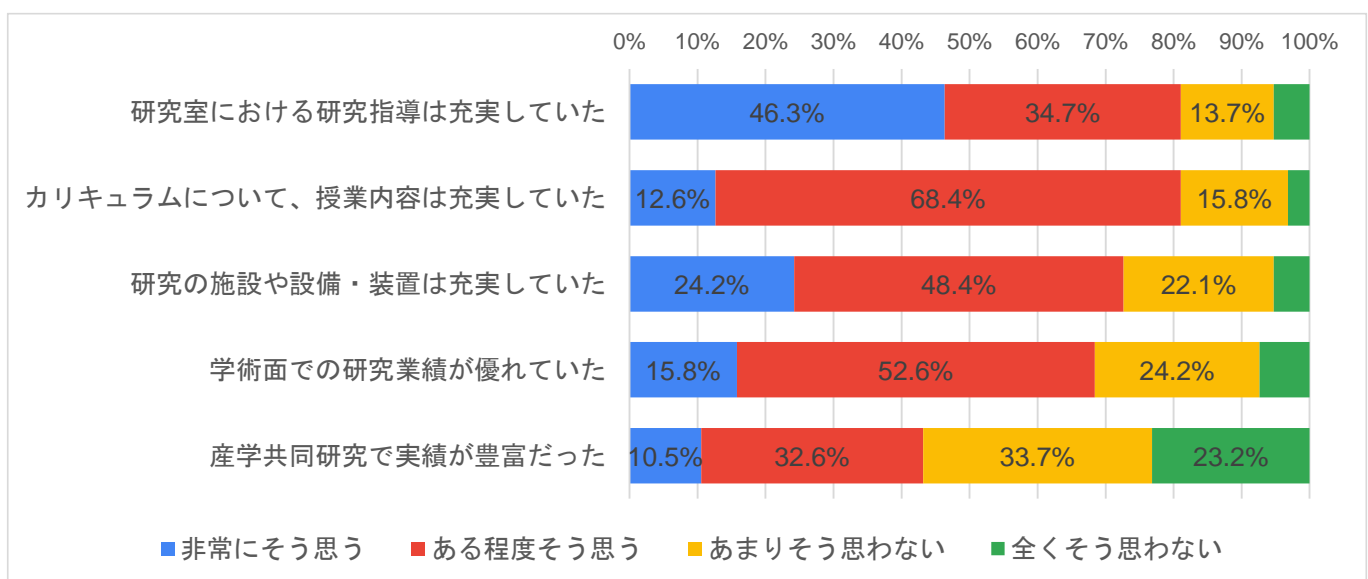
【持続性社会創生科学研究科地域学専攻・地域学研究科】



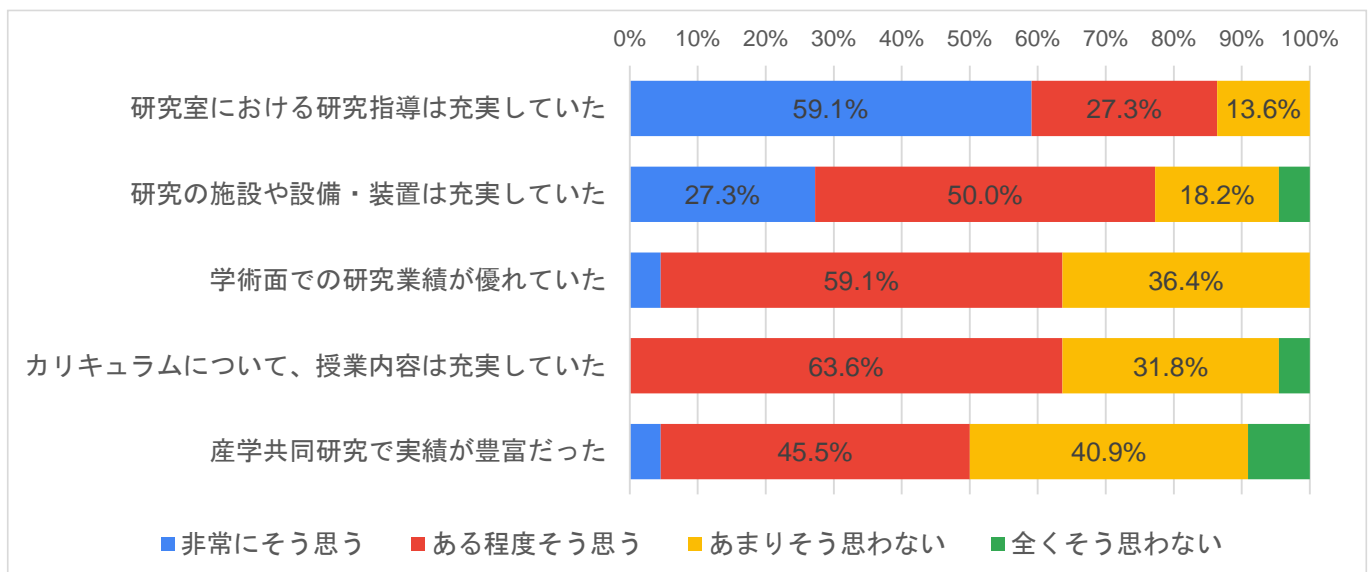
教育・研究の充実度(2/6) ＜研究科＞

- ・工学専攻では、「研究指導の充実」が肯定的回答率 81.0%，そのうち「非常にそう思う」回答率 46.3%で最も高い充実度だった。肯定的回答率が6割未満の項目は「産学共同研究で実績が豊富だった」で 43.1%だった。
- ・農学専攻では、「研究指導の充実」が肯定的回答率 86.4%，そのうち「非常にそう思う」回答率 59.1%で最も高い充実度だった。肯定的回答率が6割未満の項目は「産学共同研究で実績が豊富だった」で 50.0%だった。

【持続性社会創生科学研究科工学専攻・工学研究科】



【持続性社会創生科学研究科農学専攻・農学研究科（フィールド生産科学専攻・生命資源科学専攻）】

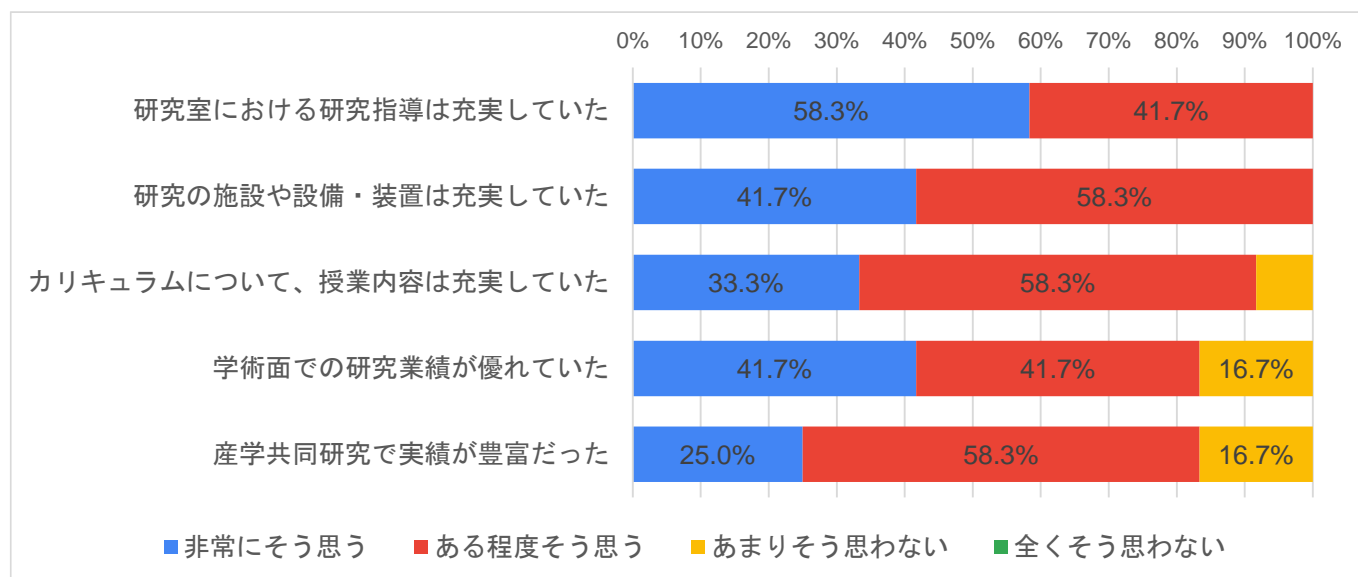


教育・研究の充実度(3/6)

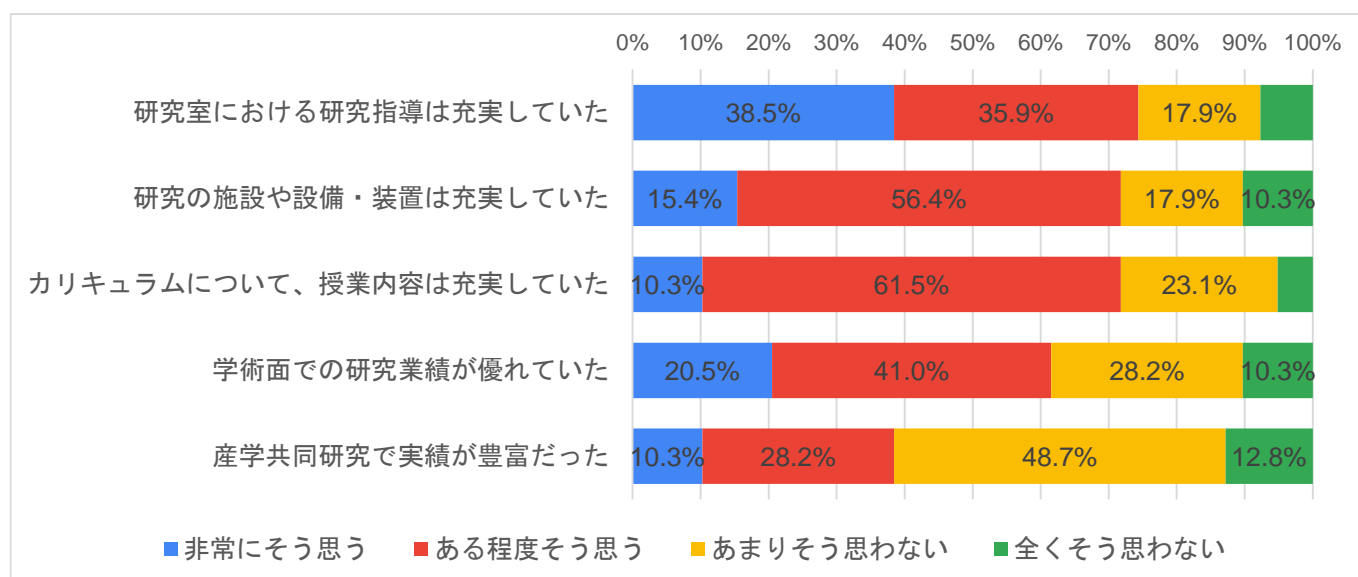
<研究科>

- ・国際乾燥地科学専攻では、「研究指導の充実」が肯定的回答率 100%，そのうち「非常にそう思う」回答率 58.3%で最も高い充実度だった。また、肯定的回答率は全ての項目で 8 割以上だった。
- ・医学系研究科では、「研究指導の充実」が肯定的回答率 74.4%，そのうち「非常にそう思う」回答率 38.5%で最も高い充実度だった。肯定的回答率が 6 割未満の項目は「産学共同研究で実績が豊富だった」で 38.5%だった。

【持続性社会創生科学研究科国際乾燥地科学専攻・農学研究科 (国際乾燥地科学専攻)】



【医学系研究科】

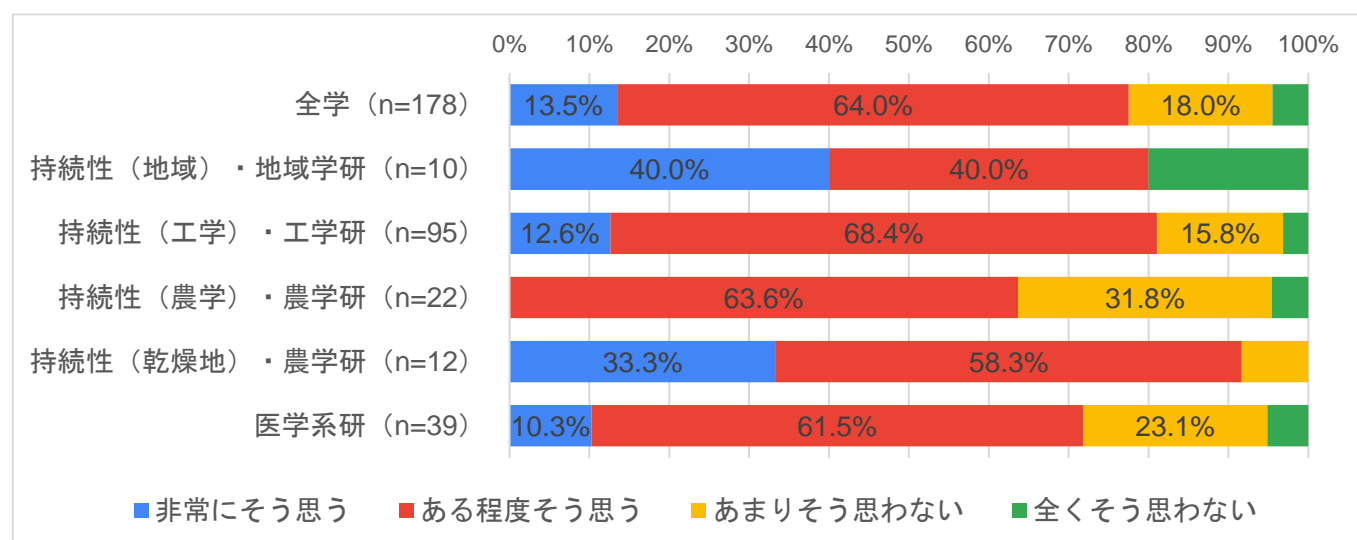


教育・研究の充実度(4/6) <授業内容> <研究指導>

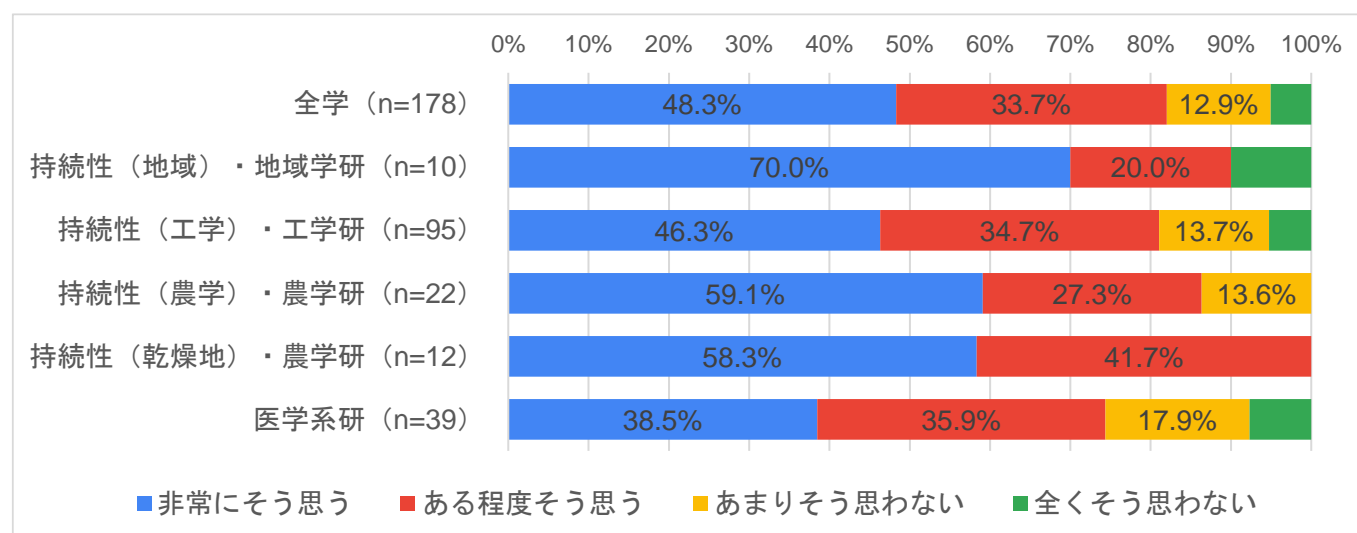
・「カリキュラムについて、授業内容は充実していた」に対して、全学では77.5%の肯定的回答率だった。肯定的回答率は専攻により差があり、国際乾燥地科学専攻で約9割、続いて工学専攻と地域学専攻で約8割、医学系研究科で約7割、農学専攻で7割を下回る63.6%だった。

・「研究室における研究指導は充実していた」に対しては、全学での肯定的回答率は82.0%だった。肯定的回答率の高い順に国際乾燥地科学専攻(100%)、地域学専攻(90.0%)、農学専攻(86.4%)、工学専攻(81.0%)、医学系研究科(74.4%)だった。

カリキュラムについて、授業内容は充実していた



研究室における研究指導は充実していた

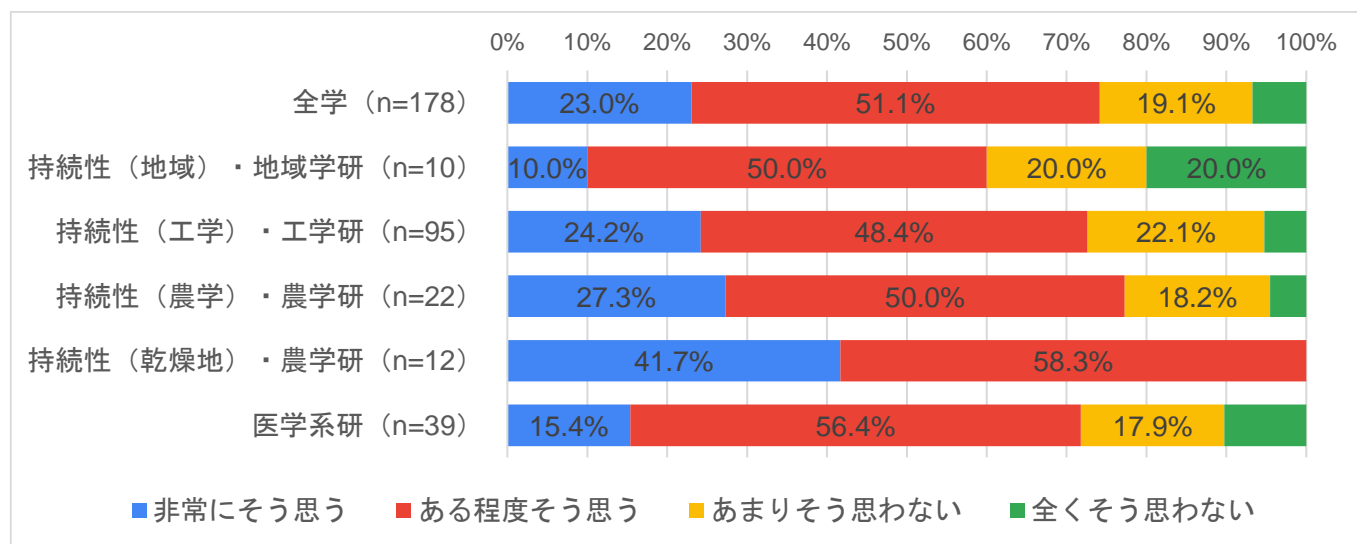


教育・研究の充実度(5/6)

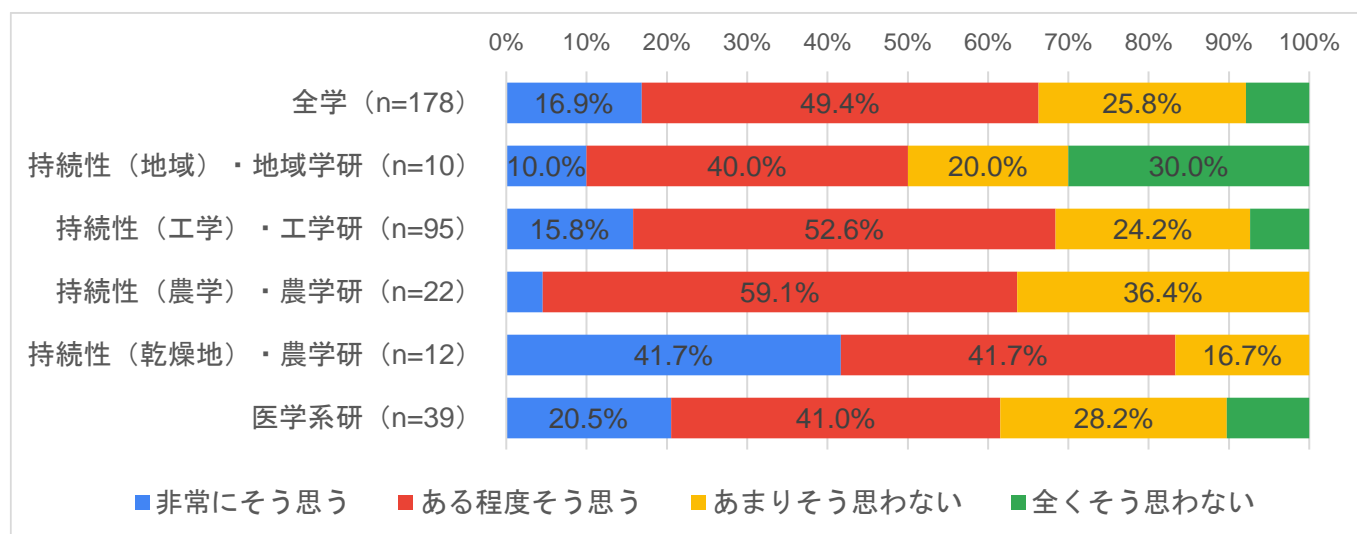
〈施設・設備〉 〈学術面での研究業績〉

- ・「研究の施設や設備・装置は充実していた」に対して、肯定的回答率は全学で74.1%だった。国際乾燥地科学専攻で特に高く10割、農学専攻(77.3%)、工学専攻(72.6%)、医学系研究科(71.8%)で7割台、地域学専攻では6割だった。
- ・「学術面での研究業績が優れていた」に対して、肯定的回答率は全学で66.3%だった。国際乾燥地科学専攻では83.4%、工学専攻、農学専攻、医学系研究科では6割～7割未満、地域学専攻では5割だった。

研究の施設や設備・装置は充実していた



学術面での研究業績が優れていた

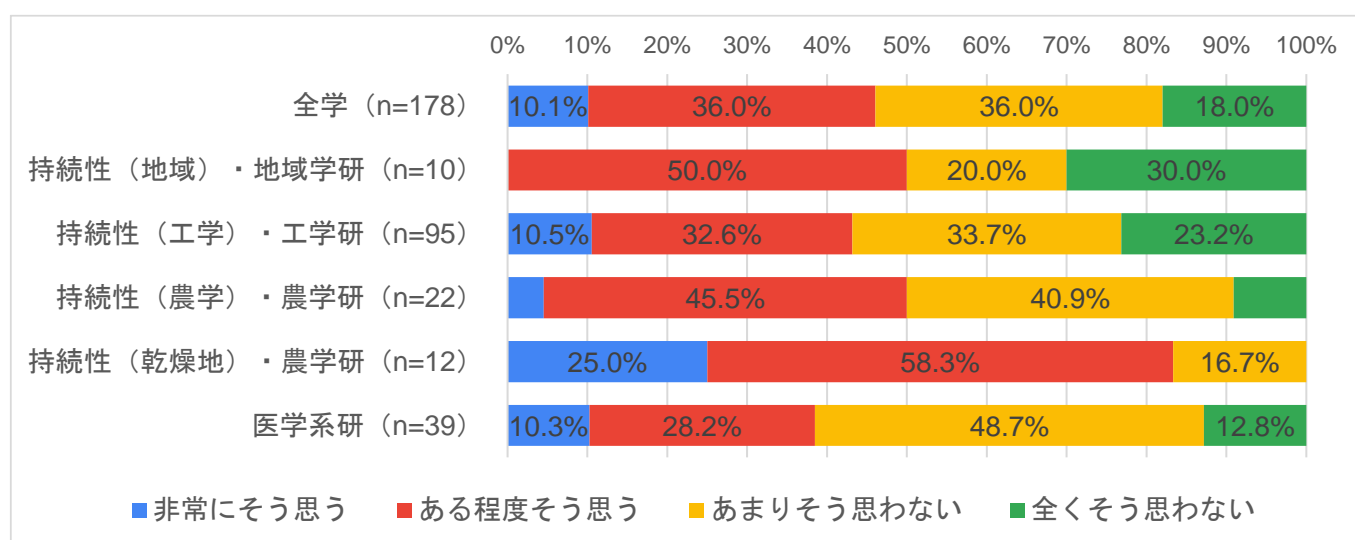


教育・研究の充実度(6/6) <産学共同研究での実績>

・「産学共同研究で実績が豊富だった」に対しては、全学での肯定的回答率は46.1%だった。

専攻別では、国際乾燥地科学専攻では、83.3%の高い肯定的回答率であり産学共同研究の実績が認められているといえる。一方、その他の専攻では肯定的回答率は5割以下にとどまった。農学専攻、工学専攻、地域学専攻では4割～5割であり、医学系研究科(38.5%)では4割をわずかに下回った。

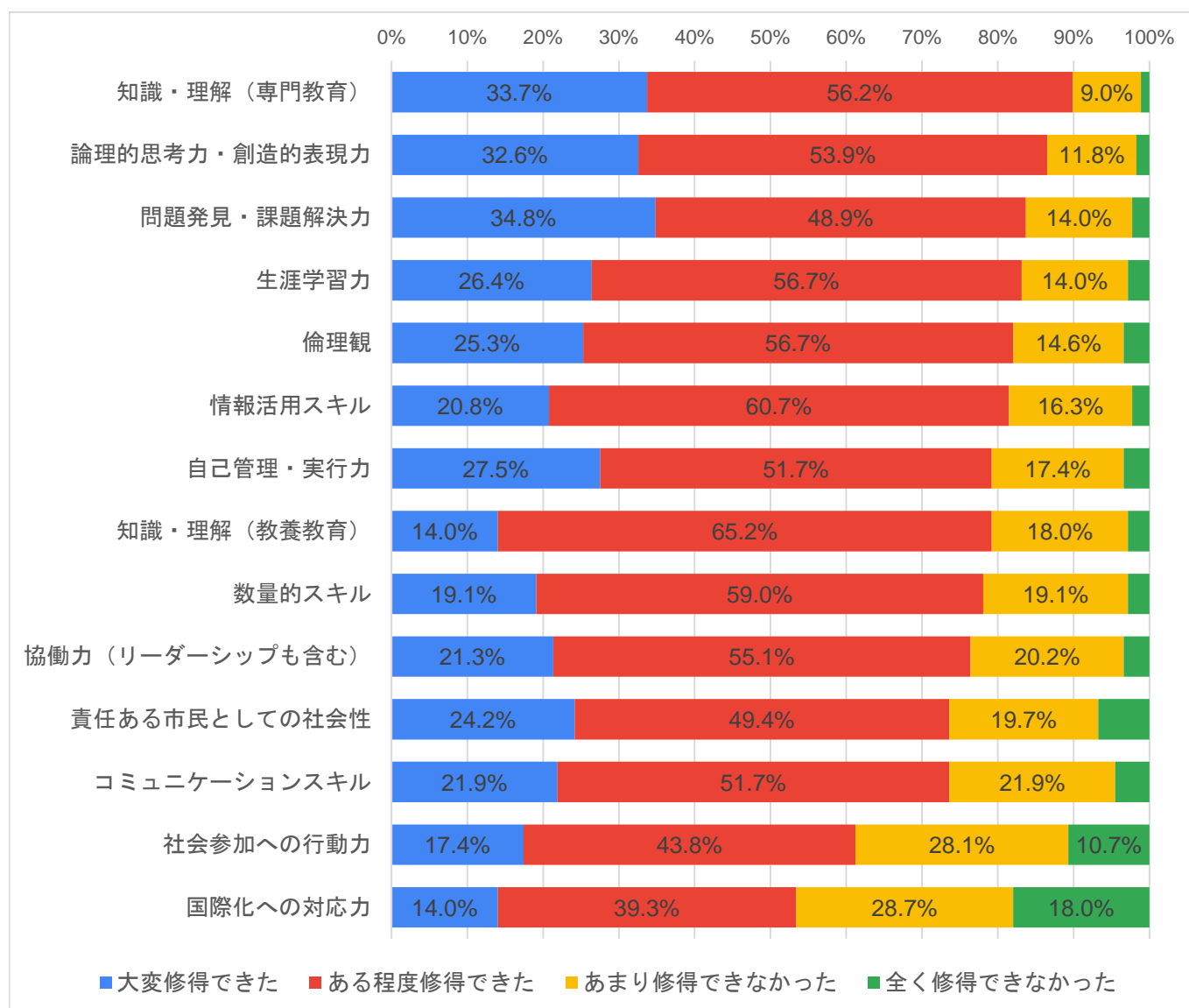
産学共同研究で実績が豊富だった



大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(1/8) <全学>

・大学院での研究や専門教育を通じて修得できた（「大変修得できた」+「ある程度修得できた」） DP 能力の中で「知識・理解（専門教育）」(89.9%), 「論理的思考力・創造的表現力」(86.5%), 「問題発見・課題解決力」(83.7%), 「生涯学習力」(83.1%), 「倫理観」(82.0%), 「情報活用スキル」(81.5%)が 8 割以上の高い修得度だった。
 一方、修得度が比較的 low 7 割未満となった DP 能力は、「社会参加への行動力」(61.2%), 「国際化への対応力」(53.3%)だった。

【全学】大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力

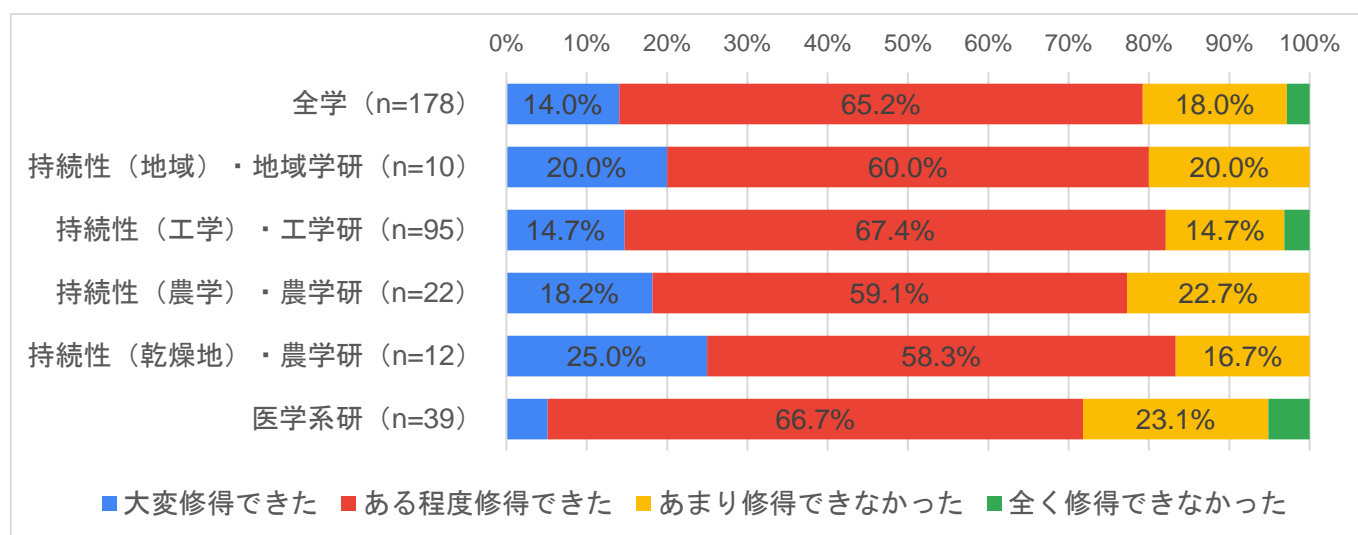


大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(2/8) <知識・理解（教養教育）> <知識・理解（専門教育）>

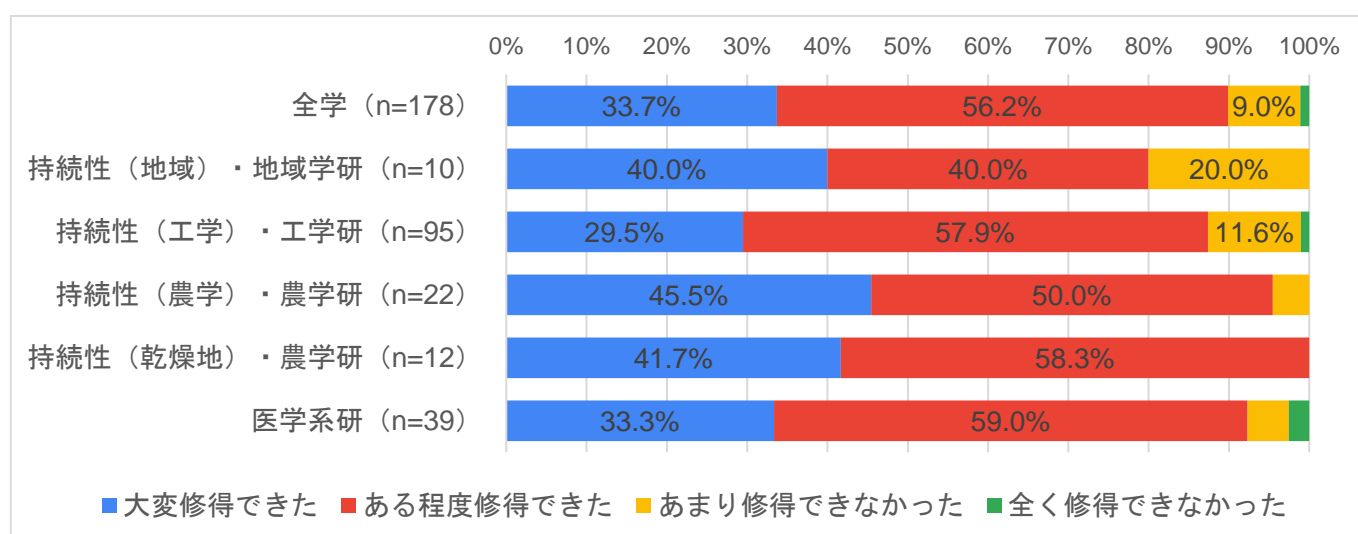
・「知識・理解（教養教育）」の修得度は全学で 79.2%だった。全ての専攻で 7 割以上であり，国際乾燥地科学専攻(83.3%)，工学専攻(82.1%)，地域学専攻(80.0%)で 8 割台，農学専攻で 77.3%，医学系研究科で 71.8%の修得度だった。

・「知識・理解（専門教育）」の修得度は全学で 89.9%だった。全ての専攻で 8 割以上であり，特に国際乾燥地科学専攻，農学専攻，医学系研究科で 9 割以上だった。

知識・理解（教養教育）



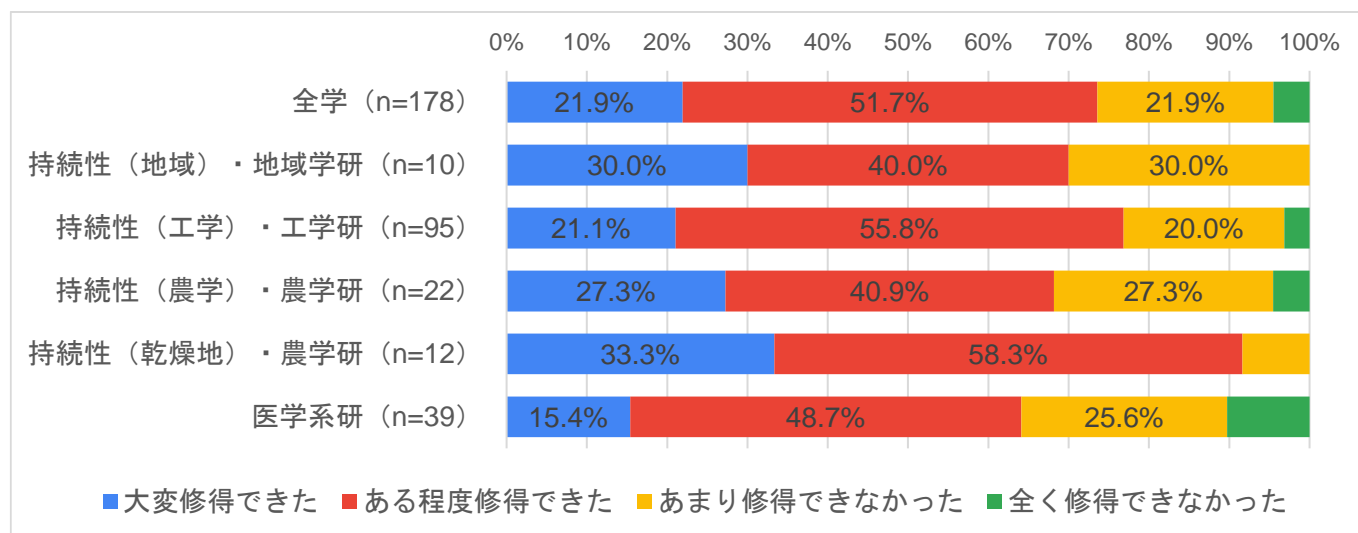
知識・理解（専門教育）



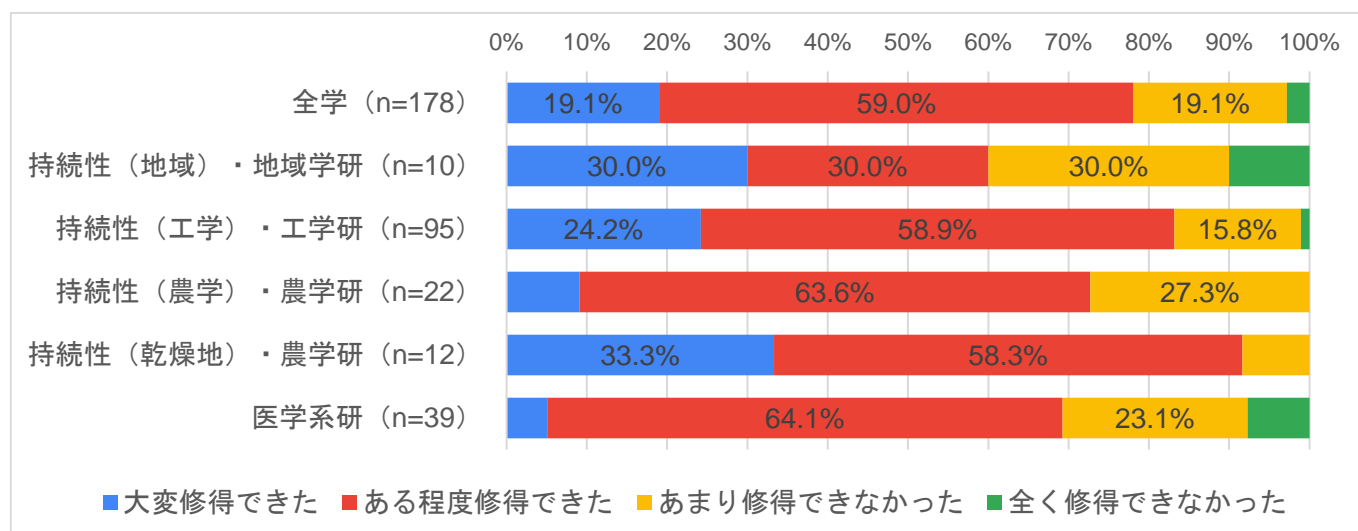
大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(3/8) <コミュニケーションスキル> <数量的スキル>

- ・「コミュニケーションスキル」は全学で 73.6%の修得度だった。国際乾燥地科学専攻で最も高く約 9 割(91.6%), 続いて工学専攻で 76.9%だった。その他の専攻では 6 割 5 分弱~7 割だった。
- ・「数量的スキル」は全学で 78.1%の修得度だった。国際乾燥地科学専攻で約 9 割, 工学専攻で 8 割台(83.1%)の高い修得度であり, 農学専攻(72.7%)と医学系研究科(69.2%)で概ね 7 割前後, 地域学専攻では 6 割だった。

コミュニケーションスキル



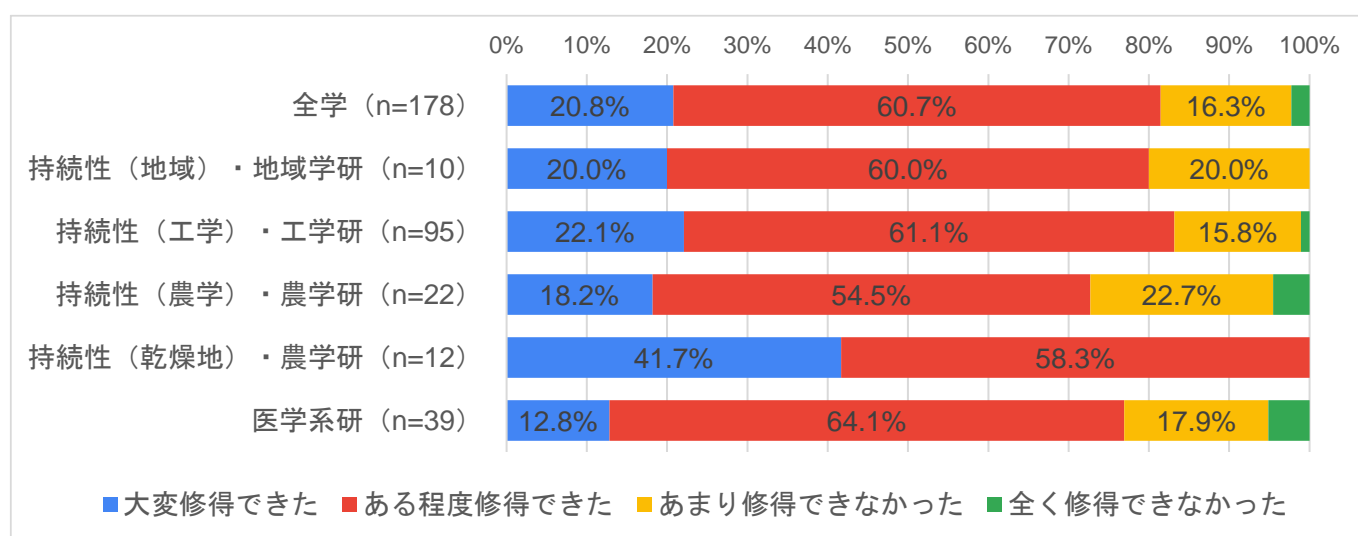
数量的スキル



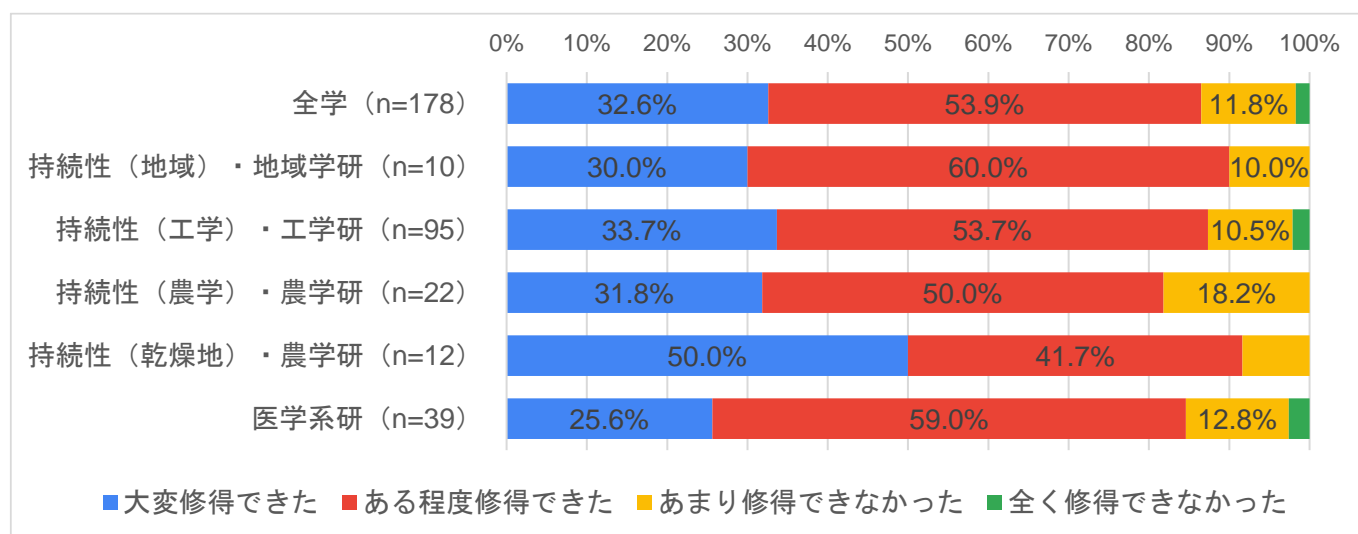
大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(4/8) <情報活用スキル> <論理的思考力・創造的表現力>

- ・「情報活用スキル」の全学での修得度は 81.5%，全ての専攻で 7 割以上だった。国際乾燥地科学専攻で最も高く 100%，続いて工学専攻で 83.2%，地域学専攻で 80.0%，医学系研究科で 76.9%，農学専攻で 72.7%の修得度だった。
- ・「論理的思考力・創造的表現力」の全学での修得度は 86.5%だった。専攻・研究科間での差はあまりなく，約 8 割～約 9 割だった。

情報活用スキル



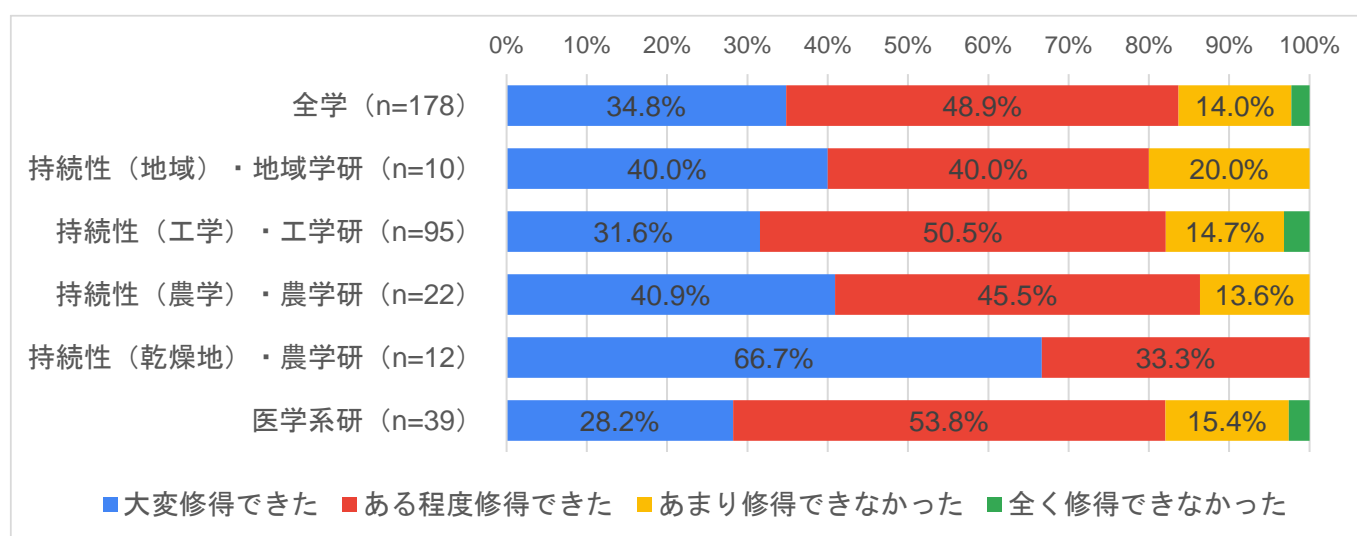
論理的思考力・創造的表現力



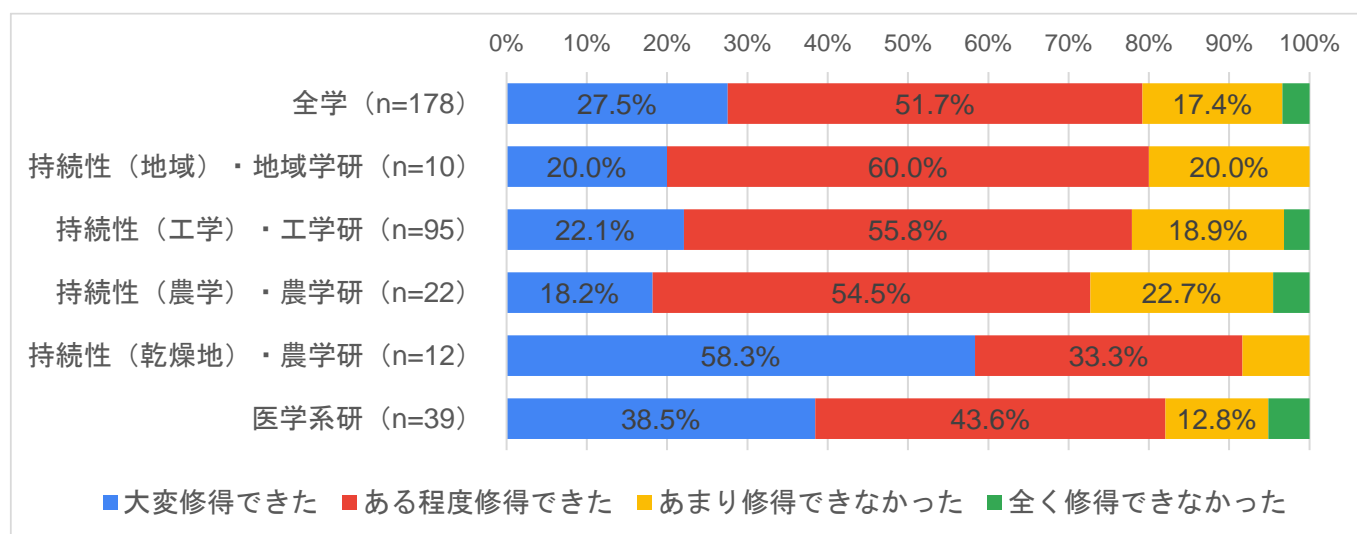
大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(5/8) <問題発見・課題解決力> <自己管理・実行力>

- ・「問題発見・課題解決力」の全学での修得度は 83.7%だった。国際乾燥地科学専攻で 10 割，その他の専攻・研究科では 8 割台だった。「大変修得できた」も国際乾燥地科学専攻が最も高く 66.7%だった。
- ・「自己管理・実行力」の全学での修得度は 79.2%だった。国際乾燥地科学専攻で約 9 割，その他の専攻・研究科で 7 割台(72.7%)～8 割台(82.1%)だった。

問題発見・課題解決力



自己管理・実行力

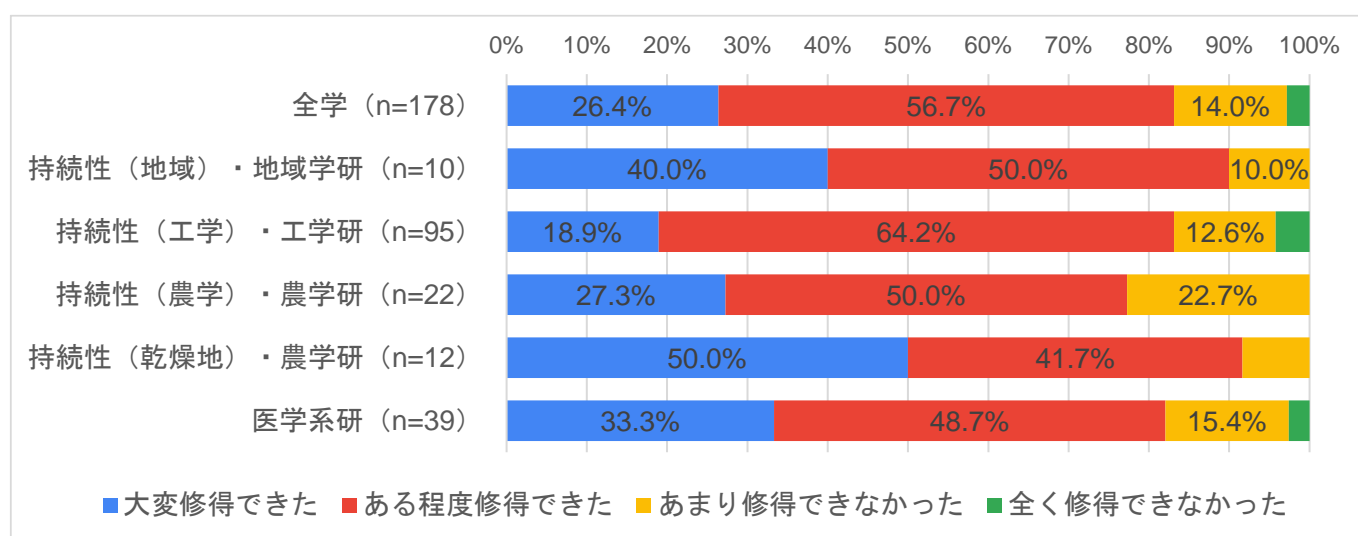


大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(6/8) <生涯学習力> <協働力>

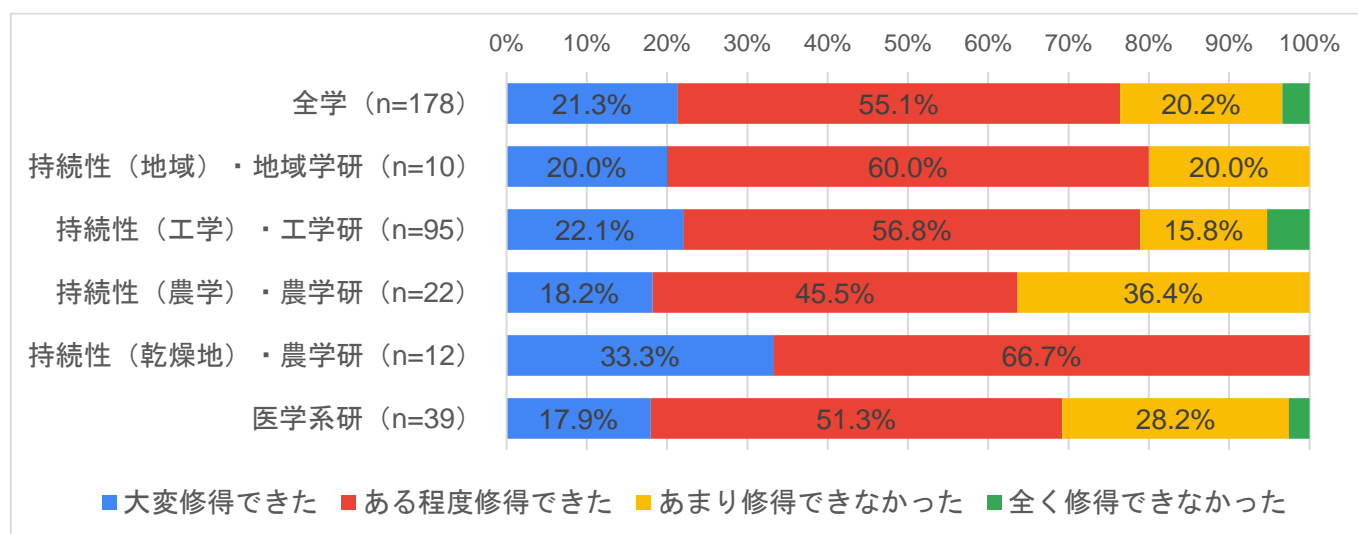
・「生涯学習力」の全学での修得度は 83.1% だった。農学専攻で 8 割を少し下回った(77.3%)がその他の専攻・研究科では 8 割台(82.0%)～約 9 割(91.7%)だった。

・「協働力 (リーダーシップも含む)」の全学での修得度は 76.4% だった。国際乾燥地科学専攻で 10 割, 地域学専攻(80.0%)と工学専攻(78.9%)で約 8 割, 医学系研究科(69.2%)で約 7 割, 農学専攻で 63.7% だった。

生涯学習力



協働力 (リーダーシップも含む)

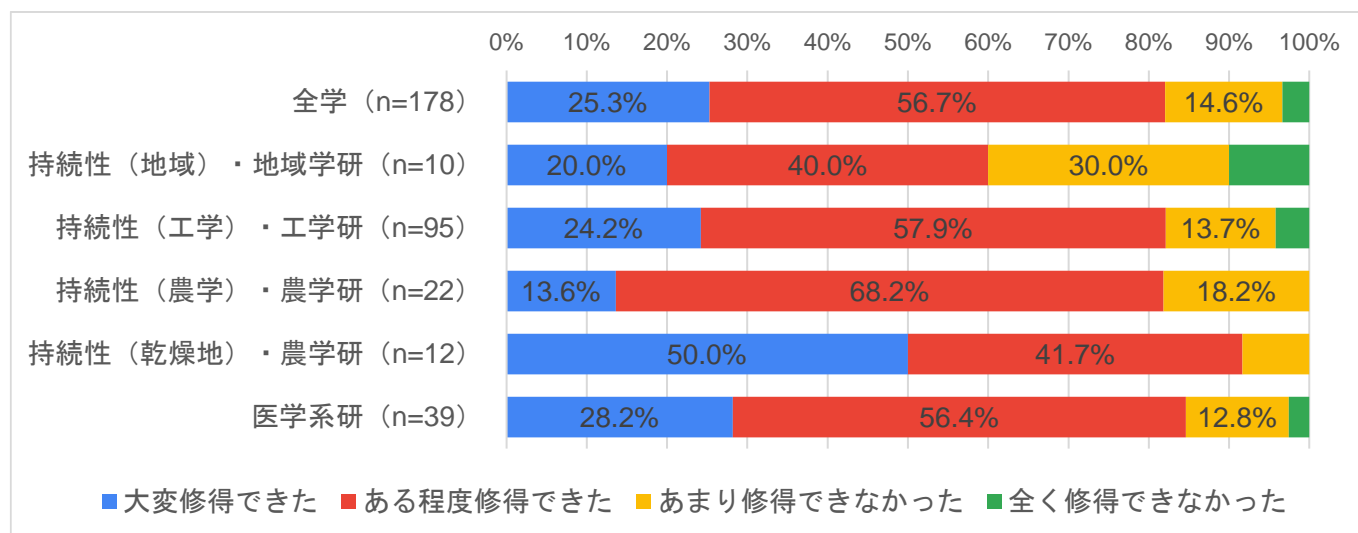


大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(7/8) <倫理観> <社会性>

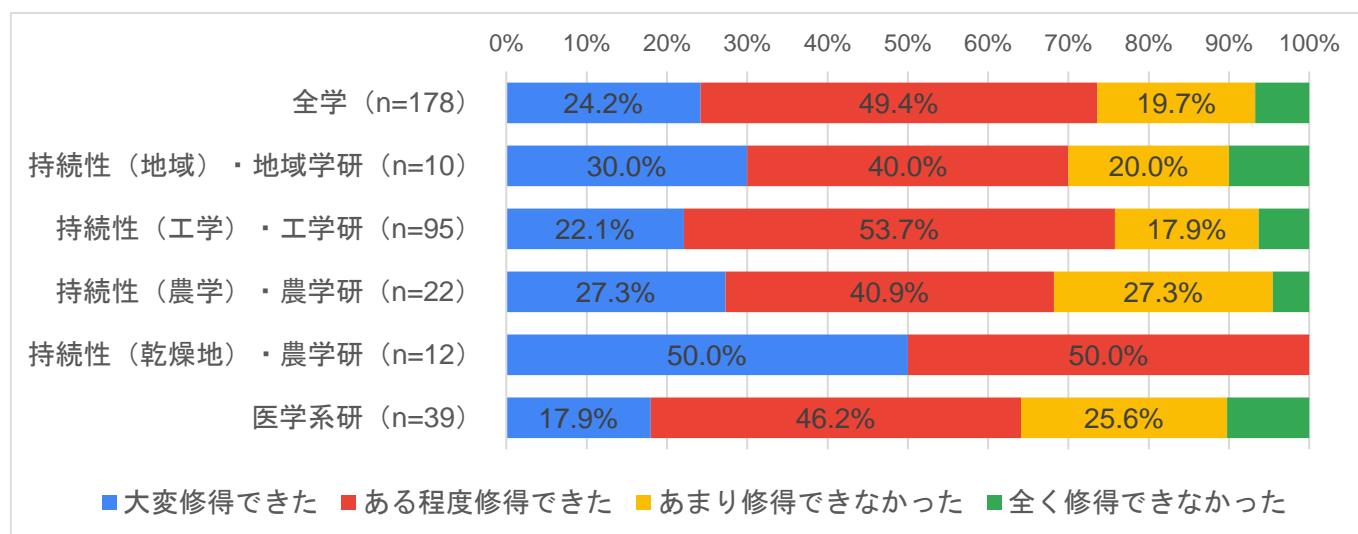
・「倫理観」は全学で 82.0%の修得度だった。国際乾燥地科学専攻で約 9 割、医学系研究科、工学専攻、農学専攻で 8 割台だったが、地域学専攻では 6 割にとどまった。

・「責任ある市民としての社会性」は全学で 73.6%の修得度だった。修得度の高い順に国際乾燥地科学専攻で 10 割、工学専攻で 75.8%、地域学専攻(70.0%)と農学専攻(68.2%)で約 7 割、医学系研究科で 64.1%だった。

倫理観



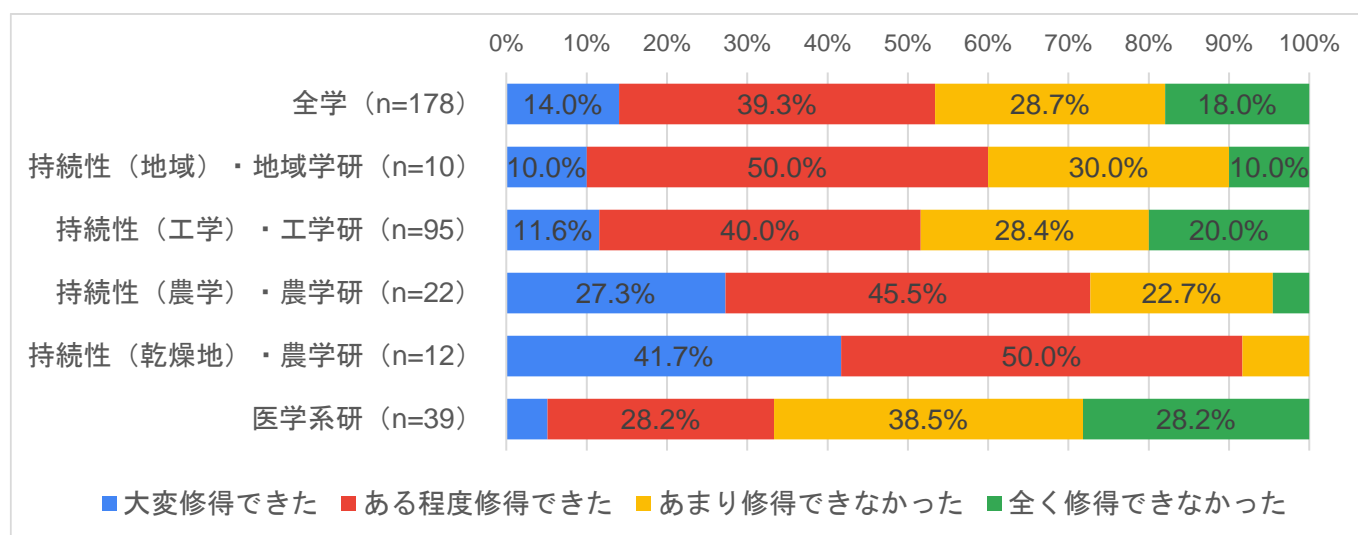
責任ある市民としての社会性



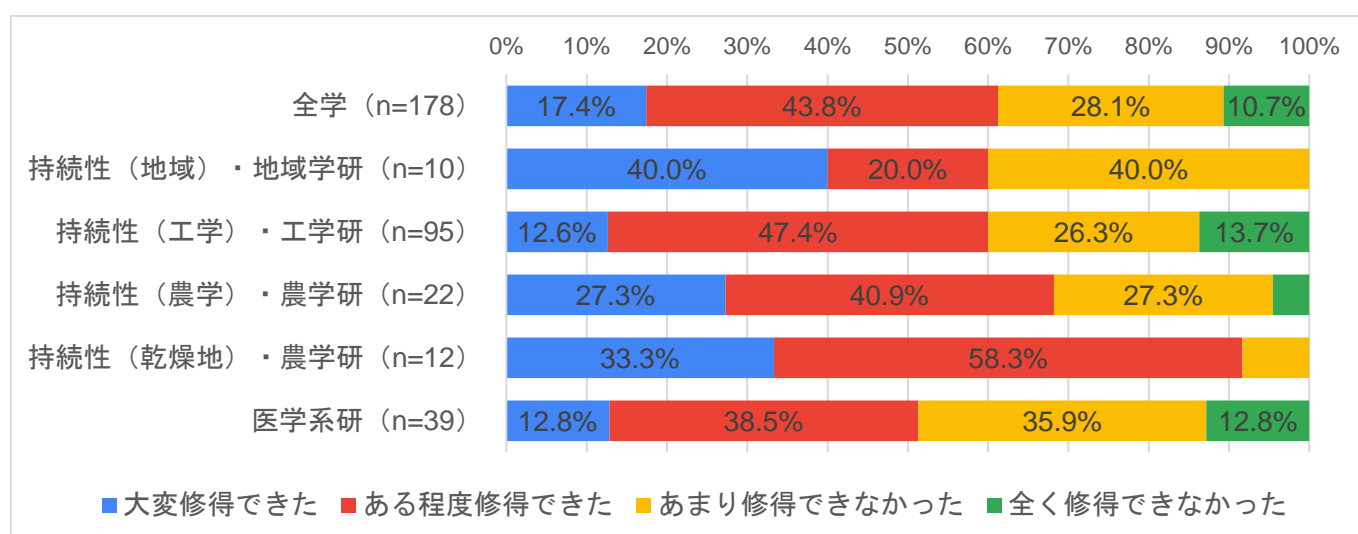
大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力(8/8) <国際対応力> <社会参加>

- ・「国際化への対応力」の全学での修得度は 53.3%だった。専攻によりかなり差があり、国際乾燥地科学専攻で最も高く約 9 割(91.7%)、農学専攻で 7 割台(72.8%)、地域学専攻で 6 割、工学専攻で約 5 割(51.6%)、医学系研究科で 3 割台(33.3%)だった。
- ・「社会参加への行動力」の全学での修得度は 61.2%だった。国際乾燥地科学専攻で特に高く約 9 割(91.6%)、農学専攻で約 7 割 (68.2%)、地域学専攻と工学専攻で 6 割、医学系研究科で約 5 割(51.3%)だった。

国際化への対応力



社会参加への行動力



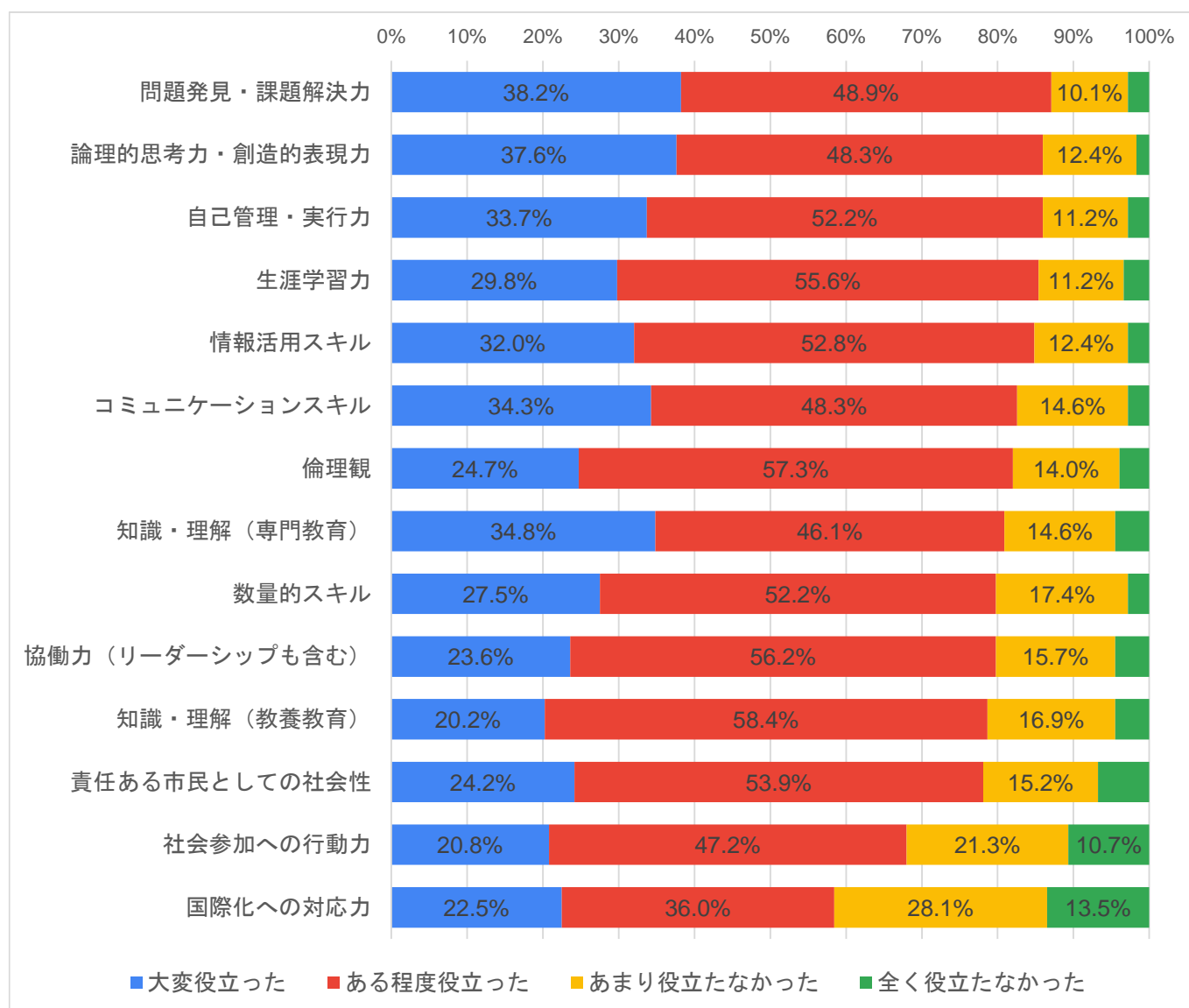
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(1/8)

<全学>

・社会に出て教育成果として「役立った」（「大変役立った」+「ある程度役立った」） DP 能力は、「問題発見・課題解決力」(87.1%), 「論理的思考力・創造力」(85.9%), 「自己管理・実行力」(85.9%), 「生涯学習力」(85.4%), 「情報活用スキル」(84.8%)が約 8 割 5 分以上の高い役立ち度だった。

一方、役立ち度が比較的 low 7 割未満となった DP 能力は、「社会参加への行動力」(68.0%), 「国際化への対応力」(58.5%)だった。

【全学】社会に出て教育成果として役立った DP 能力



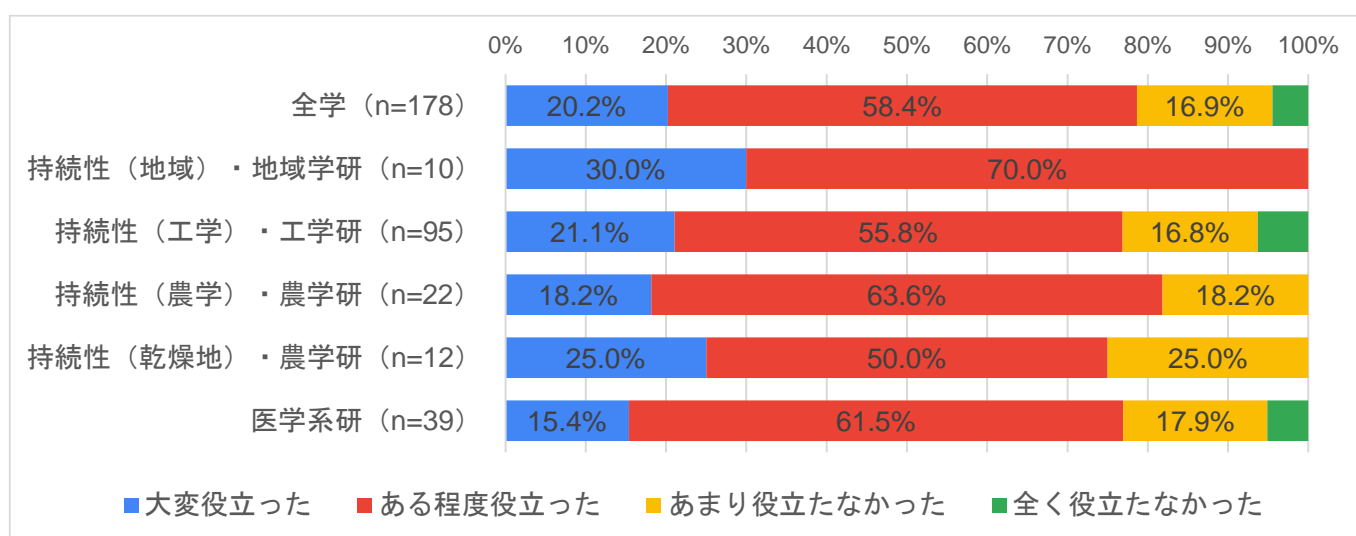
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(2/8)

<知識・理解（教養教育）> <知識・理解（専門教育）>

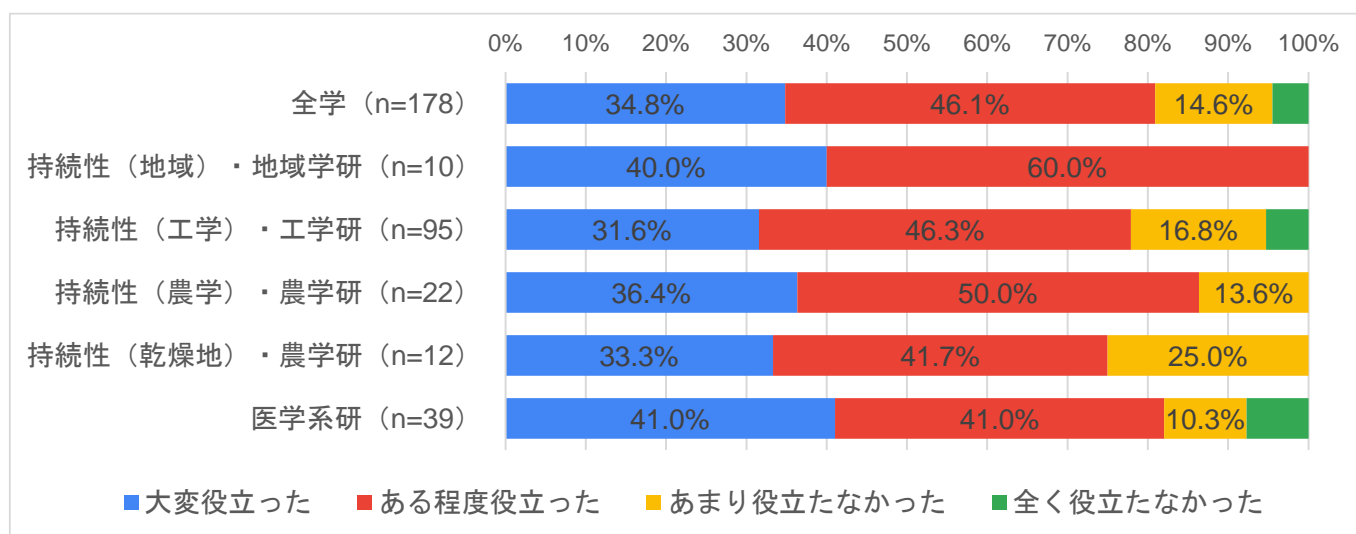
・「知識・理解（教養教育）」は全学で 78.6%が役立ったと回答した。地域学専攻で 10 割，その他の専攻・研究科では 7 割 5 分～約 8 割の役立ち度だった。

・「知識・理解（専門教育）」は全学で 80.9%が役立ったと回答した。全ての専攻・研究科で 7 割 5 分以上の役立ち度で，地域学専攻で 10 割，農学専攻と医学系研究科で 8 割台の高い役立ち度だった。

知識・理解（教養教育）



知識・理解（専門教育）



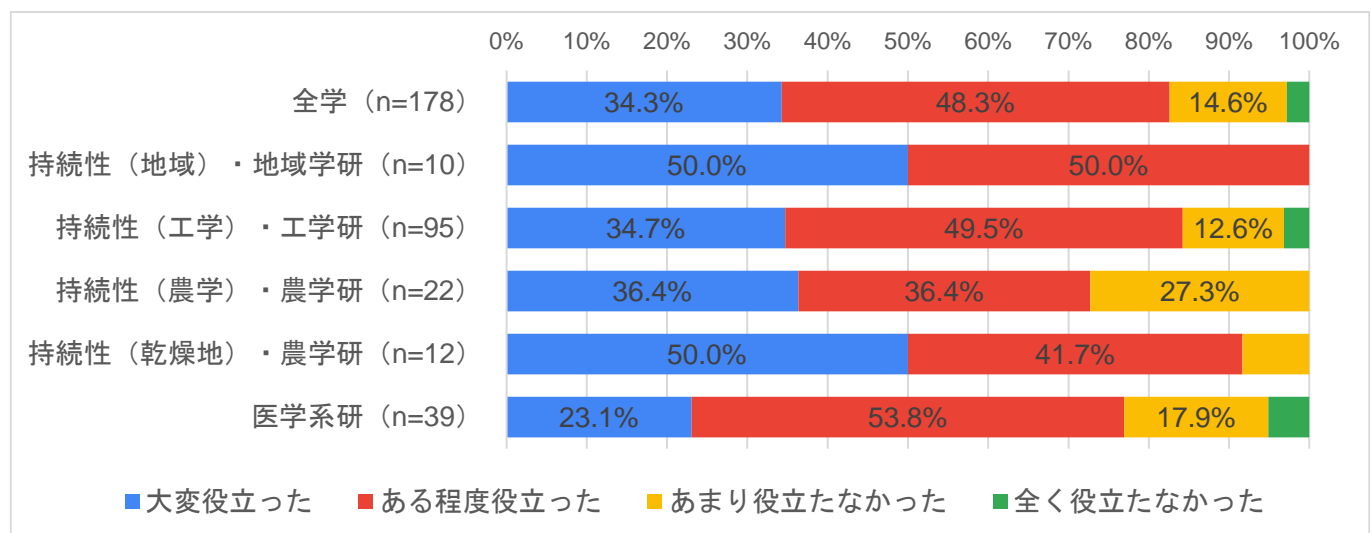
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(3/8)

<コミュニケーションスキル> <数量的スキル>

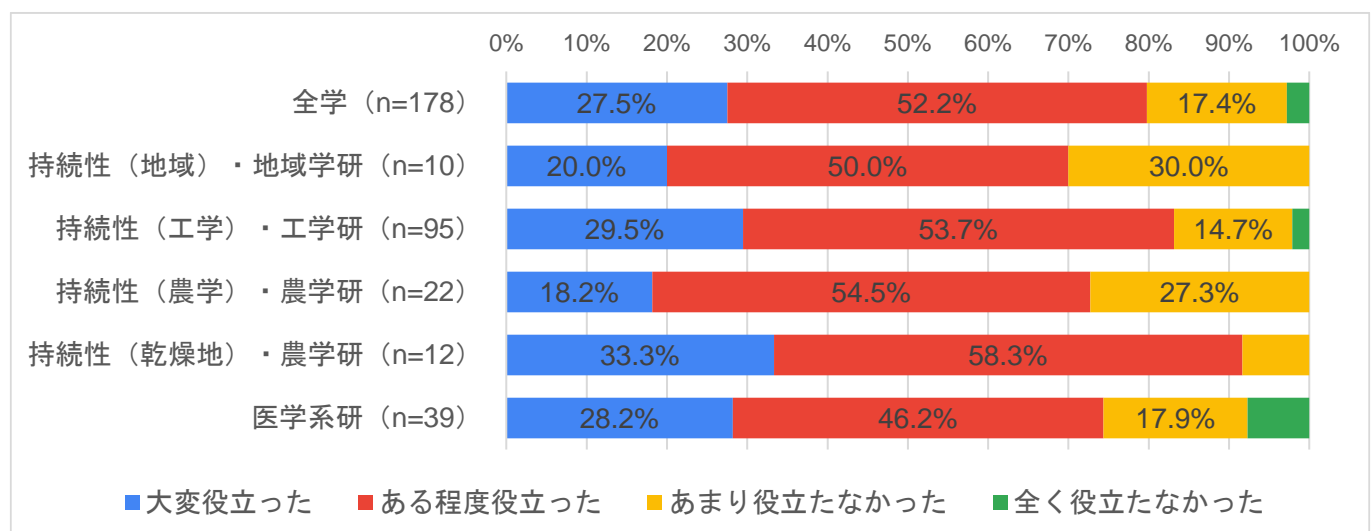
・「コミュニケーションスキル」は全学で 82.6%が役立ったと回答した。地域学専攻で 10 割，国際乾燥地科学専攻で約 9 割，工学専攻で 8 割台 (84.2%)の高い役立ち度であり，医学系研究科と農学専攻では 7 割台の役立ち度だった。

・「数量的スキル」は全学で 79.7%が役立ったと回答した。国際乾燥地科学専攻で約 9 割(91.6%)，工学専攻で 8 割台(83.2%)，その他の専攻・研究科で 7 割台の役立ち度だった。

コミュニケーションスキル



数量的スキル



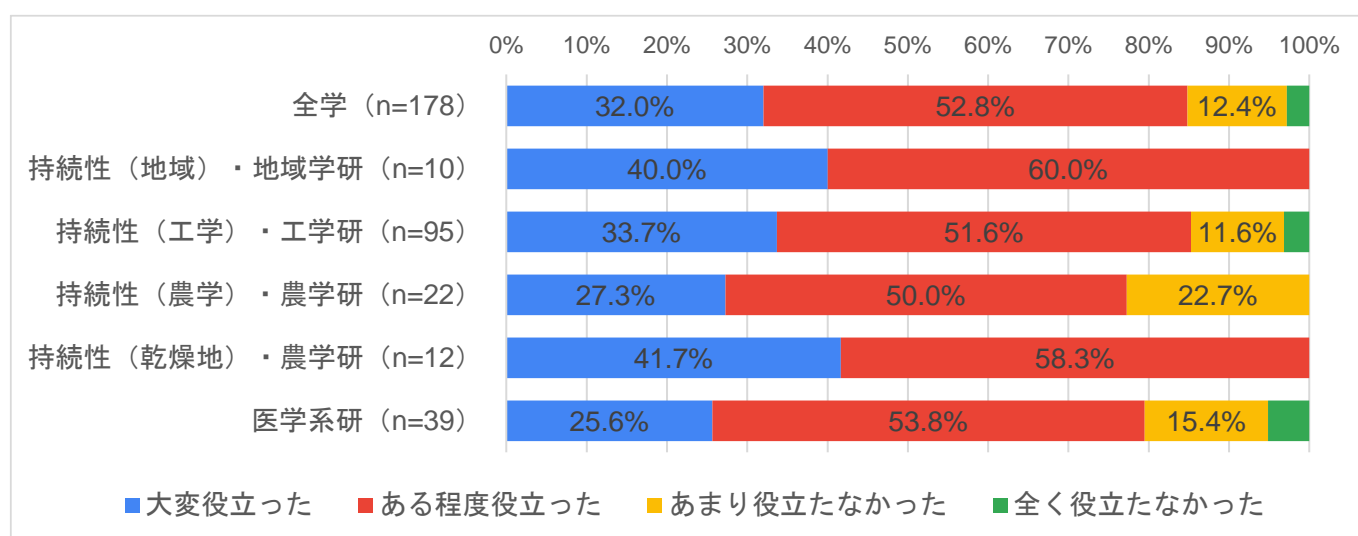
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(4/8)

<情報活用スキル> <論理的思考力・創造的表現力>

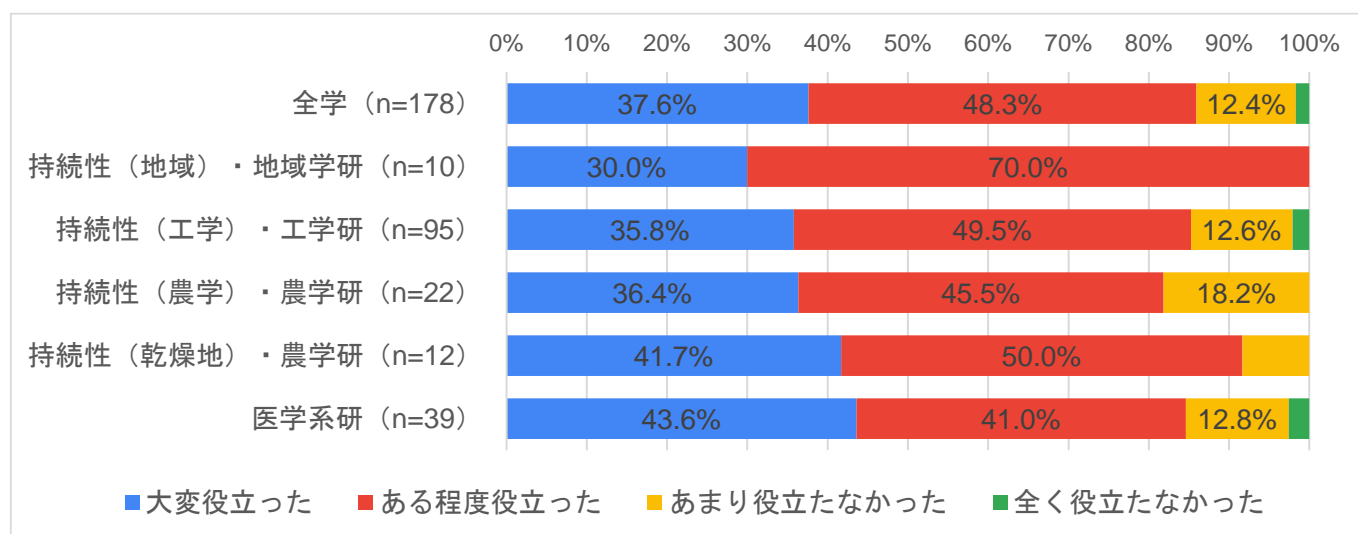
・「情報活用スキル」は全学で 84.8%が役立ったと回答した。国際乾燥地科学専攻と地域学専攻で 10 割，工学専攻で約 8 割 5 分，医学系研究科で約 8 割，農学専攻で 77.3%だった。

・「論理的思考力・創造的表現力」は全学で 85.9%が役立ったと回答した。地域学専攻で 10 割，国際乾燥地科学専攻で約 9 割(91.7%)，その他の専攻・研究科で 8 割台の役立ち度だった。

情報活用スキル



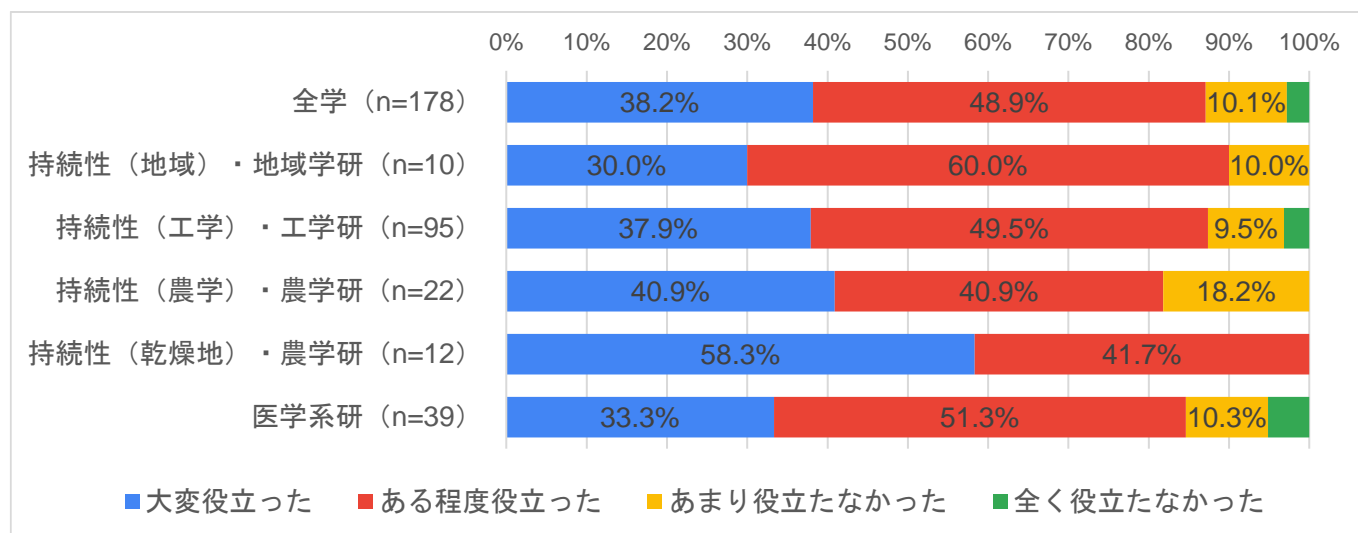
論理的思考力・創造的表現力



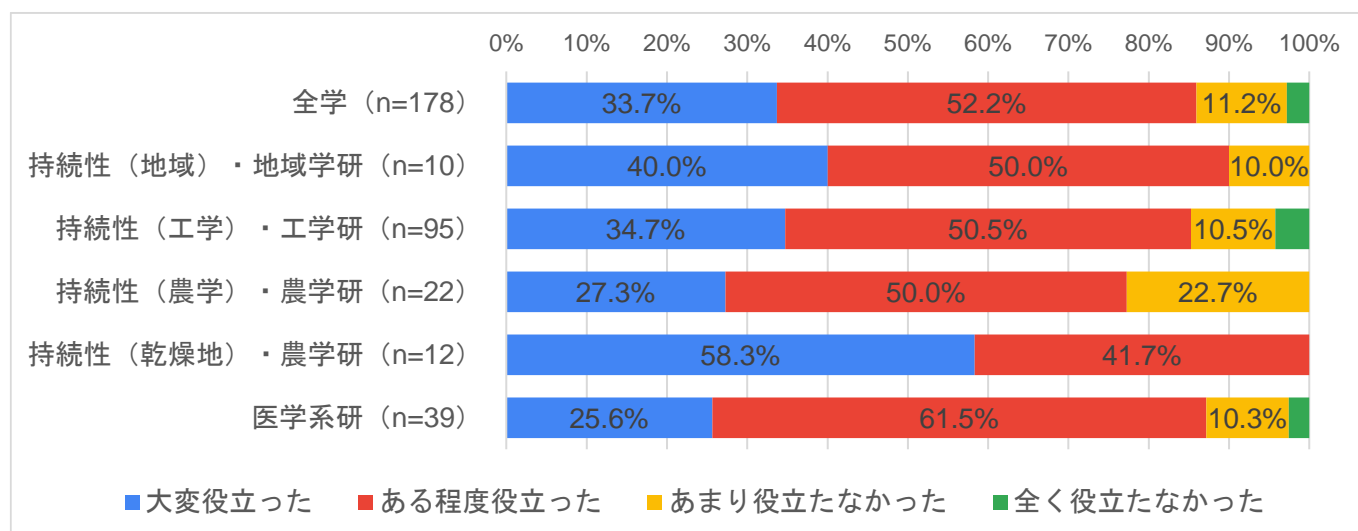
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(5/8) <問題発見・課題解決力> <自己管理・実行力>

- ・「問題発見・課題解決力」は全学で 87.1%が役立ったと回答した。国際乾燥地科学専攻で 10 割，地域学専攻で 9 割，その他の専攻・研究科で 8 割台の役立ち度だった。
- ・「自己管理・実行力」は全学で 85.9%が役立ったと回答した。国際乾燥地科学専攻(100%)，地域学専攻(90.0%)，医学系研究科(87.1%)，工学専攻(85.2%)で 8 割 5 分以上であり，農学専攻(77.3%)で 8 割を少し下回った。

問題発見・課題解決力



自己管理・実行力

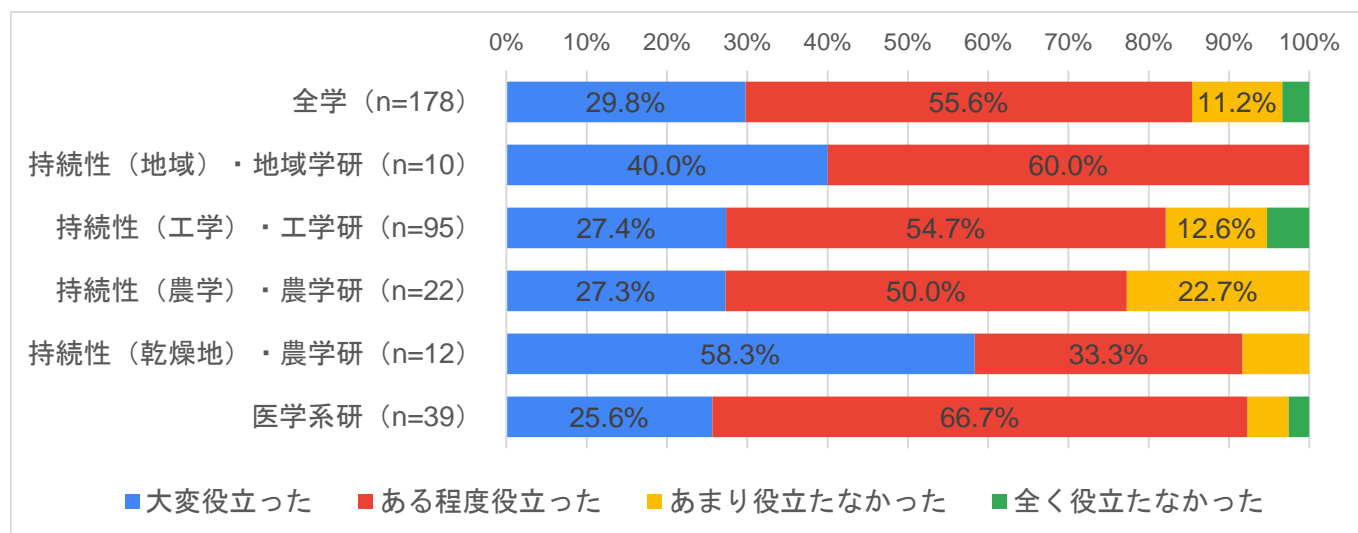


社会に出て教育成果として役立った DP 能力(6/8)

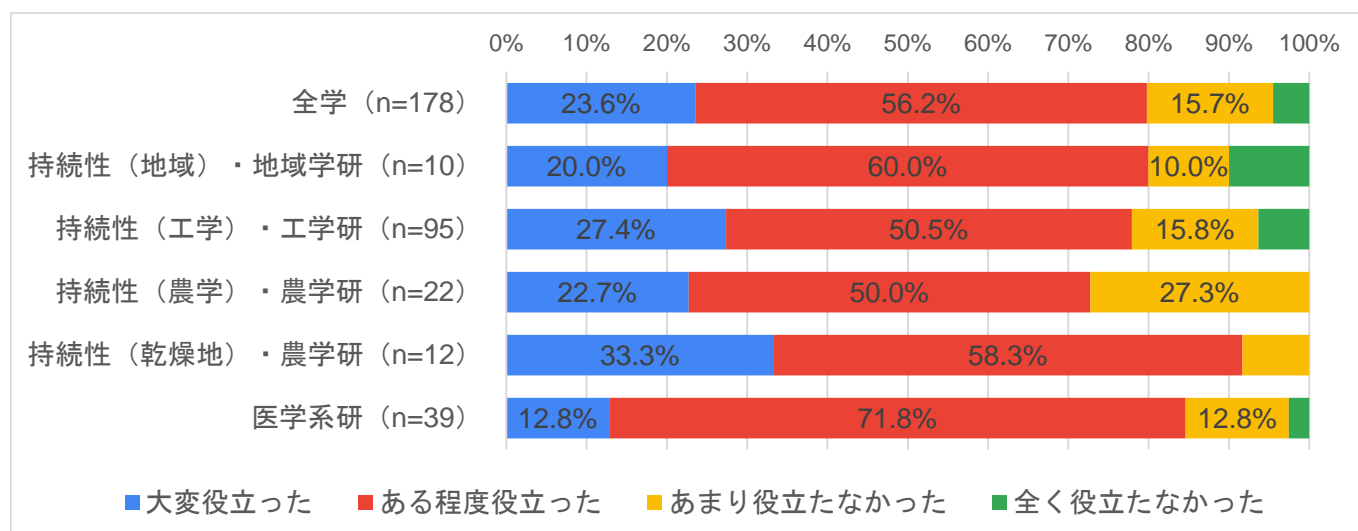
<生涯学習力> <協働力>

- ・「生涯学習力」は全学で 85.4%が役立ったと回答した。地域学専攻で 10 割，医学系研究科(92.3%)と国際乾燥地科学専攻(91.6%)で 9 割台の高い役立ち度であり，工学専攻で 82.1%，農学専攻で 77.3%だった。
- ・「協働力（リーダーシップも含む）」は全学で 79.8%が役立ったと回答した。国際乾燥地科学専攻(91.6%)，医学系研究科(84.6%)，地域学専攻(80.0%)で 8 割以上であり，工学専攻(77.9%)と農学専攻(72.7%)で 7 割台だった。

生涯学習力



協働力 (リーダーシップも含む)



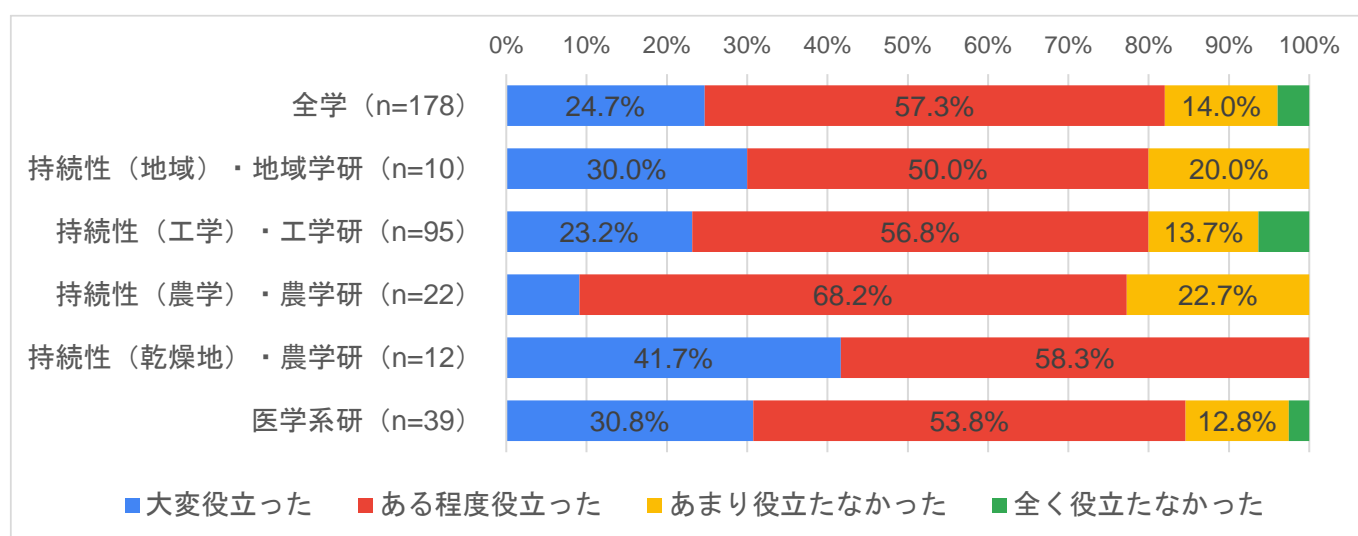
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(7/8)

<倫理観> <社会性>

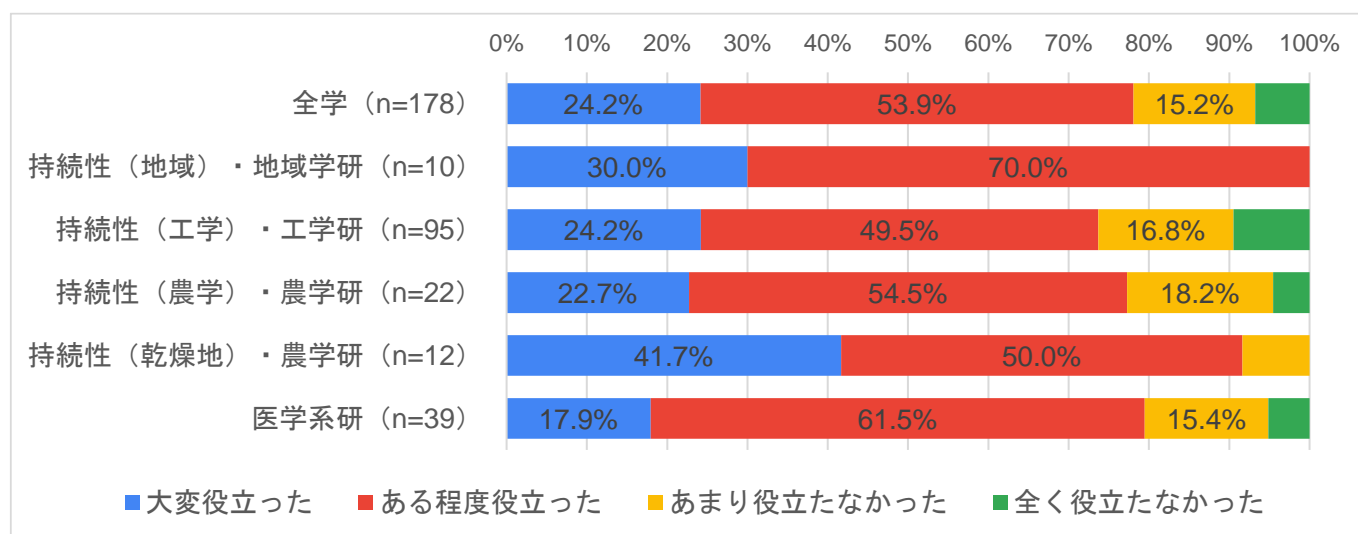
・「倫理観」は全学で 82.0%が役立ったと回答した。国際乾燥地科学専攻で 10 割，医学系研究科，地域学専攻，工学専攻で 8 割台，農学専攻で 8 割を少し下回る 77.3%だった。

・「責任ある市民としての社会性」は全学で 78.1%が役立ったと回答した。地域学専攻(100%)と国際乾燥地科学専攻(91.7%)で特に高く，続いて医学系研究科(79.4%)，農学専攻(77.2%)，工学専攻(73.7%)だった。

倫理観



責任ある市民としての社会性



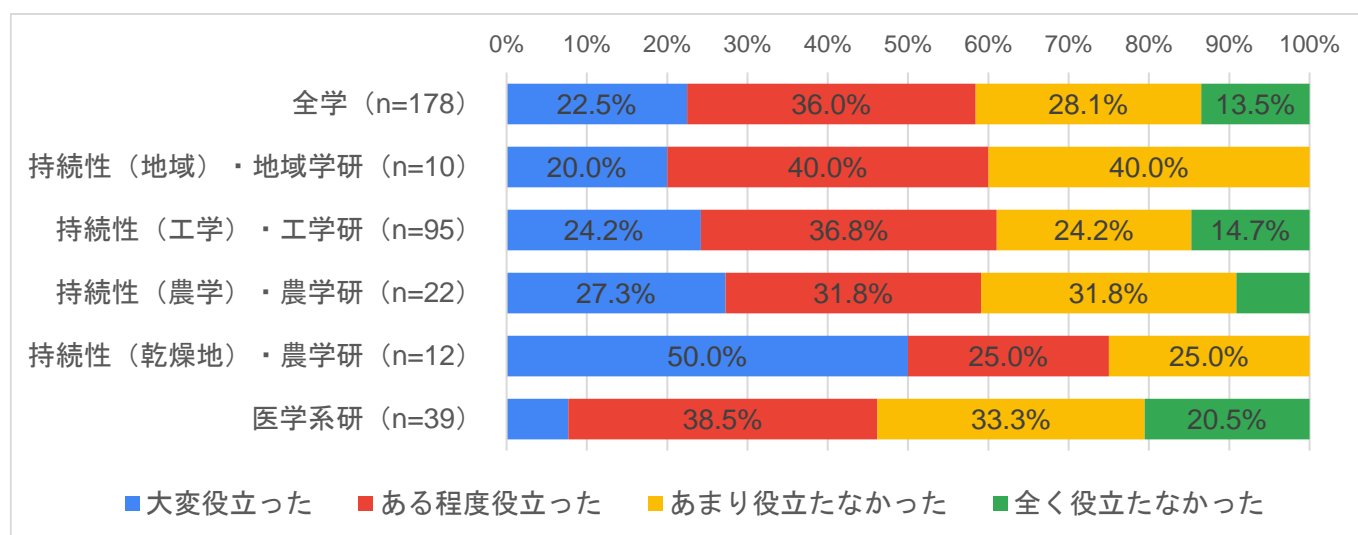
社会に出て教育成果として役立った DP 能力(8/8)

<国際対応力> <社会参加>

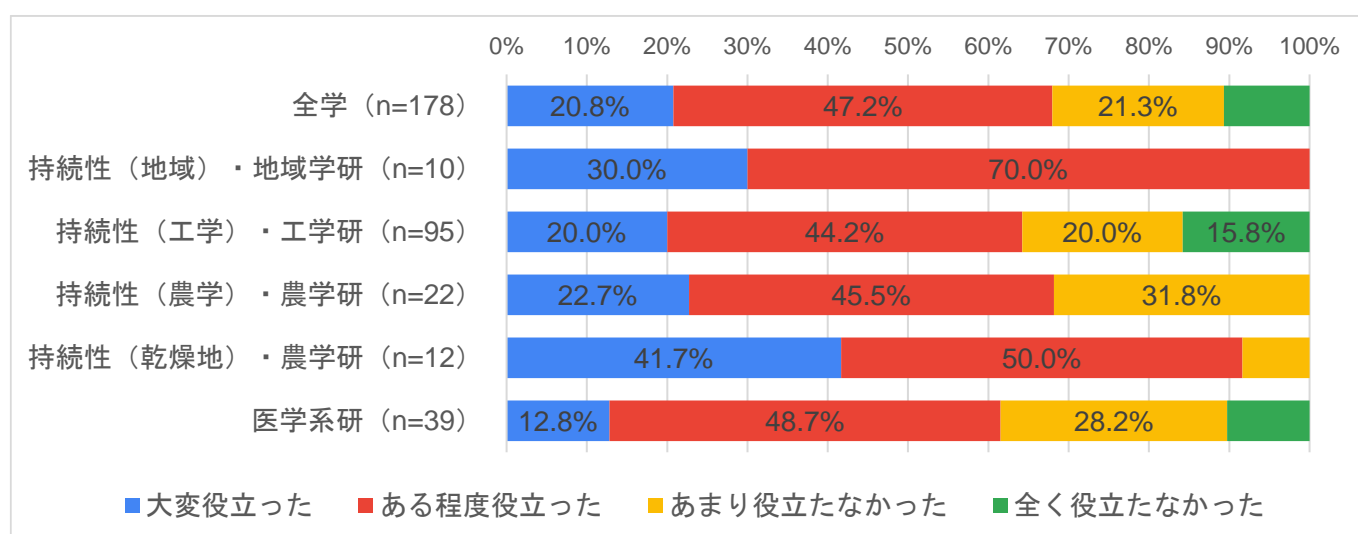
・「国際化への対応力」は全学で 58.5%が役立ったと回答した。国際乾燥地科学専攻(75.0%)で最も高く、そのうち「大変役立った」は 50%となった。一方、医学系研究科では役立ち度は 46.2%にとどまった。その他の専攻では 6割前後の役立ち度だった。

・「社会参加への行動力」は全学で 68.0%が役立ったと回答した。地域学専攻で 10 割、国際乾燥地科学専攻で約 9 割の高い役立ち度だった。一方、その他の専攻・研究科では 6 割台の役立ち度だった。

国際化への対応力

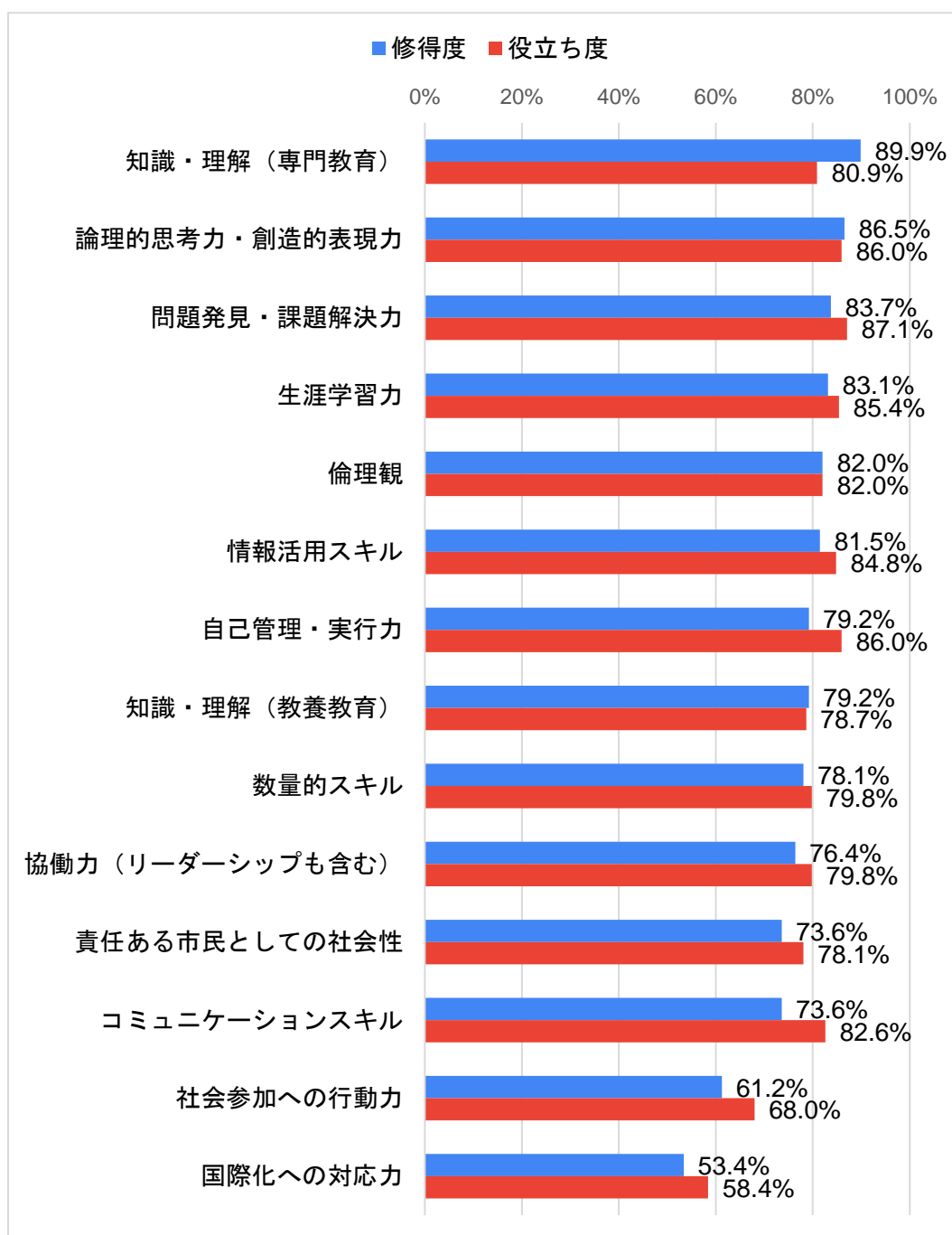


社会参加への行動力



修得度×役立ち度

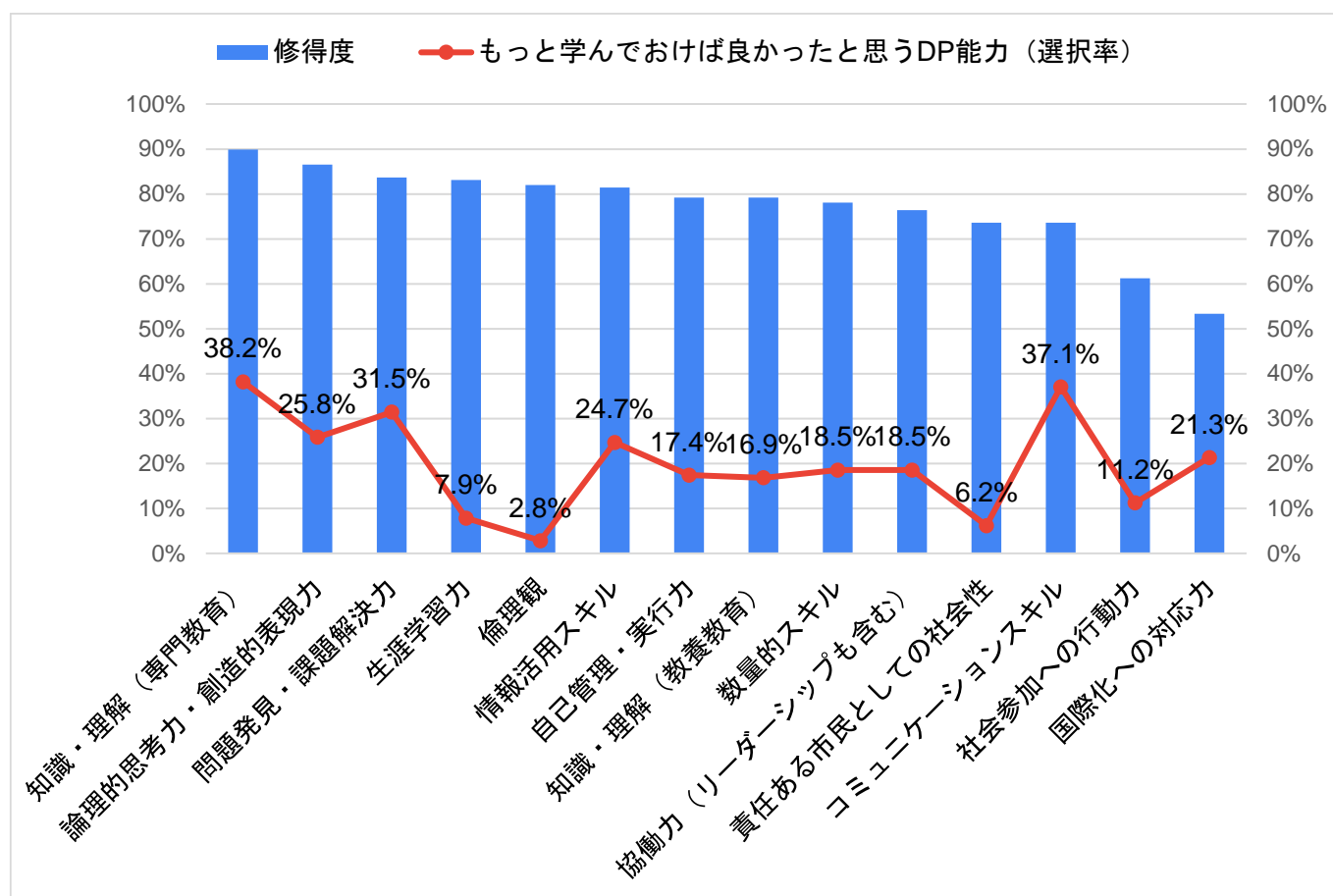
- ・「修得度」（「大変」+「ある程度」の「修得できた」）と「役立ち度」（「大変」+「ある程度」の「役立った」）を項目毎に比較した。
- ・「知識・理解（専門教育）」は修得度が役立ち度を上回った。「論理的思考力・創造的表現力」, 「知識・理解（教養教育）」, 「倫理観」は修得度が役立ち度よりわずかに大きいか同じ値だった。その他の 10 項目では役立ち度が修得度を上回った。例えば「コミュニケーションスキル」は修得度 73.6%に対して役立ち度は 82.6%であり、役立つ能力として高く評価されていると考えられる。



修得度×もっと学んでおけば良かったと思う DP 能力

・Q5：「DP能力の修得度」及び Q6(2)：「もっと学んでおけば良かったと思う DP能力」において質問した14項目について、回答率を比較した。前者は肯定的回答率（「大変」+「ある程度」の「修得できた」）を「修得度」、後者は14項目から複数選択した各項目の選択率（＝選択件数／回答者数）を「選択率」として示す。

・「もっと学んでおけば良かったと思う DP能力」は「知識・理解（専門教育）」が1位(38.2%)、「コミュニケーションスキル」が2位(37.1%)、「問題発見・課題解決力」が3位(31.5%)だった。修得度では「知識・理解（専門教育）」（89.9%）と「問題発見・課題解決力」（83.7%）は高く、修得度の高さを認めながら、さらに多く学びたい要望があると考えられる。一方、「コミュニケーションスキル」の修得度は73.6%で14項目の中では低めであり、比較的低い修得度を踏まえて、学んでおけばよかった・修得すべき能力として強く認識されているといえる。



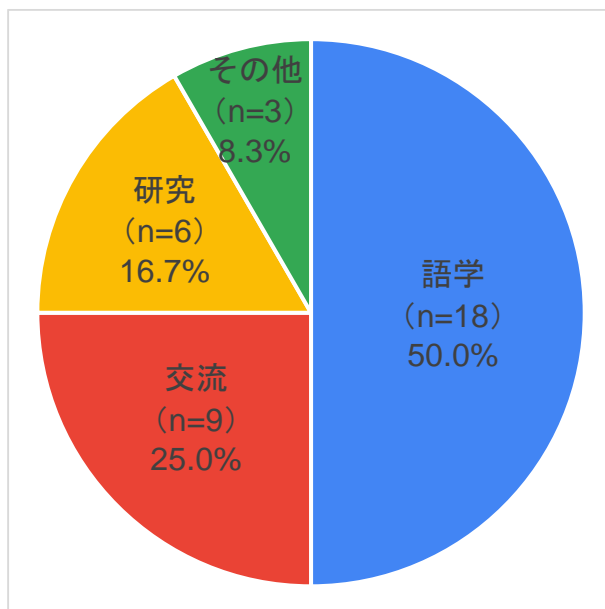
第Ⅲ部

グローバル教育

(該当する学生のみ)

海外研修・留学プログラムの目的

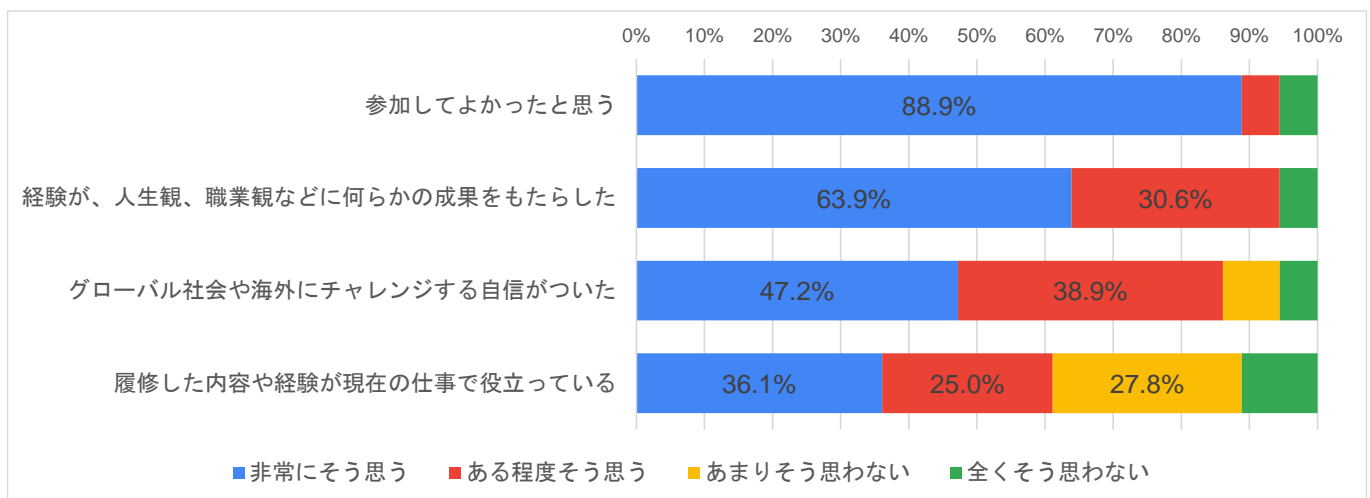
- ・最も多かったのは語学学習で、海外研修・留学プログラム参加者の半数が目的として挙げた。
- ・このほか、交流が25%、専門の研究が17%であった。



海外研修・留学プログラムの満足度

・「参加してよかったと思う」に対して 88.9%が「非常にそう思う」と回答し、「ある程度そう思う」の 5.6%と合わせて参加者の 94.5%がプログラムに肯定的回答をしている。

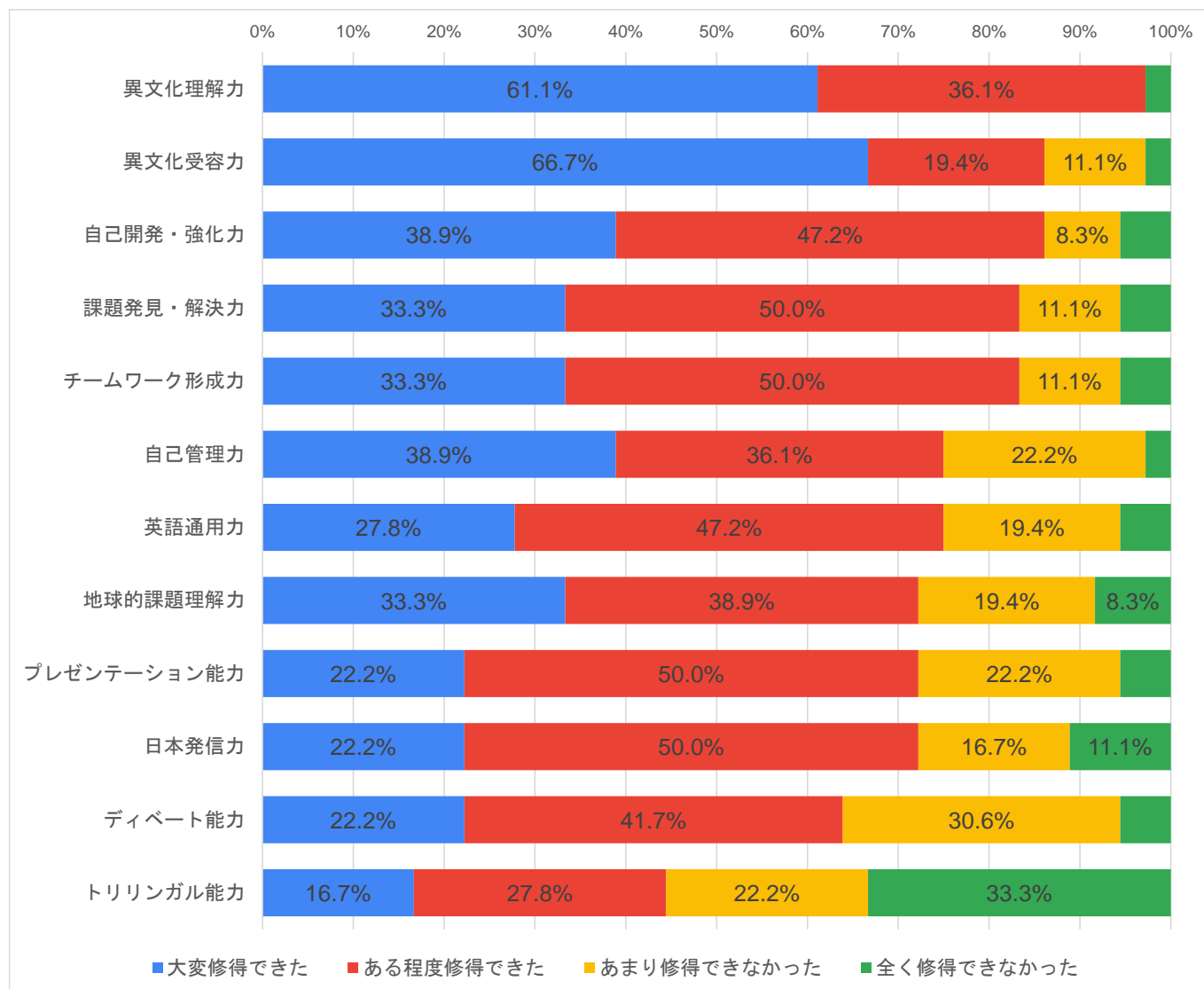
・「経験が、人生観、職業観などに何らかの成果をもたらした」「グローバル社会や海外にチャレンジする自信がついた」でも 8 割以上が肯定的回答をしている一方で、「履修した内容や経験が現在の仕事で役立っている」は 61.1%であった。



海外研修・留学プログラムでの能力・知識等の修得度

・異文化理解力, 異文化受容力, 自己開発・強化力, 課題発見・解決力, チームワーク形成力について, 「大変修得できた」「ある程度修得できた」という肯定的回答が 8 割以上を占めた。

・その他の多くの項目でも 7 割を超える肯定的回答を得たが, トリリンガル能力については 44.5%に留まり, 約 3 割は「全く修得できなかった」と回答していることから, 英語以外の外国語の修得に関して課題があることが読み取れる。



海外研修・留学プログラムに対する 具体的な事例等（自由記述）（1/2）

グローバル教育について改善点や成果をもたらした点（自由記述）

- ・ 学部生時代、幾つかの海外研修に参加させていただきました。各研修の最終プレゼンの際、発表目的を誤解したまま資料を作成他経験が何度かあり、稚拙な発表になってしまったことがありました。現地で得た経験をより意味があるものにするためにも、発表の目的は事前に明確に共有しておいた方がいいように感じました。その節は大変お世話になりました。
- ・ 留学前は「こうでなければならぬ」という思いが強かったですが、「こんな考えもあるんだ」と自分とは異なる考えを受容できるようになったと思います。帰国後も様々な考えを受け入れられるようになったと思います。
- ・ 経験として海外に長期滞在出来たことが良かった。価値観が広がった。仕事を探すのにグローバルな視点を持っているかどうかを重要視した。
- ・ 研修期間は3週間程度であったが、もっと期間が長ければ（約2ヶ月程度）良かったと思う。
- ・ アメリカ語学研修に参加しました。語学だけでなく、今後も付き合いの続くホームファミリーとの関係を得ることができました。
- ・ 現地で、多様な価値観に触れ、こうあらねばならない、から解き放たれ、自由になれた。仕事でつらいことがあっても、いい意味で開き直れている。この先、いろいろ思い通りにならないことがあっても、まあ、それも良きかなと思える、そんな考えに至った。
- ・ 価値観が変わった。
- ・ 海外実習をきっかけに、海外事業部のある会社に就職しました。
- ・ 人生観が変わり、世界中に多くの友人ができ、留学した地域への移住・転職に繋がりました。
- ・ 実際に海外企業に勤める中で、メンバーとのやり取りがスムーズにでき、ビジネスを前進させることに大いに役立っている。
- ・ プログラムの質、国内外での先生、スタッフによる手厚いサポート、様々なスキルや人間力を高められる環境の提供のおかげで非常に充実した留学生活を送らせていただけたことを心より感謝しています。周りの人がなぜ海外に行かないのか、留学しないのか不思議に思うくらいです。留学を行うことで、語学や文化を学べるだけでなく、自分を客観的に見ることができました。今後も留学先の国やプログラムの拡大を行い、鳥大生の人生や考え方をどんどん変えていってあげてください！僕は人生が間違いなく良い方向に変わりました！
- ・ 交換留学で学んだ分野を、全く違う分野の仕事をしている今でも触れることがあり、学んでいて良かったと思いました。また、会社に入社してすぐ海外視察に参加させてもらえたり、重要な仕事を任されることがあり自分の留学経験を活かせたと感じることができました。留学中に学んだことや感じた事は、今になっても思い出すことができ、懐かしく感じる事ができるかけがえのない思い出です。

海外研修・留学プログラムに対する 具体的な事例等（自由記述）（2/2）

- ・ 実際にその言語を話さないとコミュニケーションの取れない現地の場合に行くことで、日本で感じていた発音や発語の自信のなさからくる恥ずかしさを感じることなく積極的にコミュニケーションを取ろうという意欲が湧いた。
- ・ 今までには日本の医学は先進国の中で遅れているとばかり考えていましたが、英国ケンブリッジ大学研修の機会をいただいて、ほんの1週間程度の短い期間ながらも英国の家庭医療に触れたとき、日本の医療制度の良さに気付けた部分があります。やはり、自分の働く世界に誇りを持たれたことによって、これから携わる自分の仕事に誇りを持ち、以前より前向きに捉えられるようになりました。狭い世界で生きるのではなく、広い世界に一瞬でも出たことによって気づきを得られたと感謝しています。鳥取県からどんどん世界に出て、新たな視点を持ったグローバルな医師が戻ってきて、今後の鳥取大学を変えていって欲しいと願います。
- ・ 何事にも挑戦する気概が身につきました。
- ・ 国立大学では似たような価値観の同年代が集まるが、プログラム参加でもっと自身が成長したいと思う方々と知り合え、共に留学経験を得られた。
- ・ その友人と社会人になっても連絡を取り合って励まし合えて会っている事がいいと思う。
- ・ 異文化を紙面ではなく実地で学べたこと、自分の力不足を理解し、不足している力量のなかでどうにか努力したこと
- ・ 時間に余裕のないプログラムであった。日本社会を俯瞰して見るができるようになった。英語が堪能になった分、日本語でのコミュニケーション能力が確実に落ちたように感じる。様々な立場の人の状況を我が事として捉えられるようになった。
- ・ 学生にとっては参加するかどうかが先ず大きな選択になります。「やってみなければわからない」と一歩踏み出し、海外研修を経て得た経験や達成感は、人生において様々な選択が強いられる中でとても役に立っています。

第IV部

就職先企業に対する

調査結果

調査概要

1. 目的

卒業生の就職先企業から見た、学生の学習成果について、調査・分析を行う。

2. 対象

平成30年3月～令和2年3月（過去3か年）の本学卒業生の就職先

3. 実施・回収時期

令和3年3月下旬に対象者へ依頼，5月末回答締切

4. 実施方法

教育支援・国際交流推進機構キャリアセンターが保有する卒業生・修了生の就職先企業のデータを利用して，企業へアンケートの協力依頼を行った。アンケートの実施方法は，Webアンケート方式（Google フォームを活用）とした。

5. サンプル件数

1,684件送付，289件回収（回収率17.2%）

6. アンケート項目

- ・基本属性（Q1:従業員規模／Q2:業種／Q3:本社所在地）
- ・鳥取大学卒業生の採用実績（Q4:人数／Q5:学部・研究科）
- ・新卒採用活動で重視する学生の能力・態度等（Q6）
- ・学部卒業生・大学院修了生に求める能力・態度等の違い（Q7）
- ・鳥取大学卒業生のイメージ（Q8）
- ・鳥取大学卒業生のDP能力（Q9）
- ・教育・学生支援に対する意見・要望等（自由記述）（Q10）

7. その他

* 本調査結果においては，特にことわりのない限り，「卒業生」は学部卒業生と大学院修了生の双方を指す。

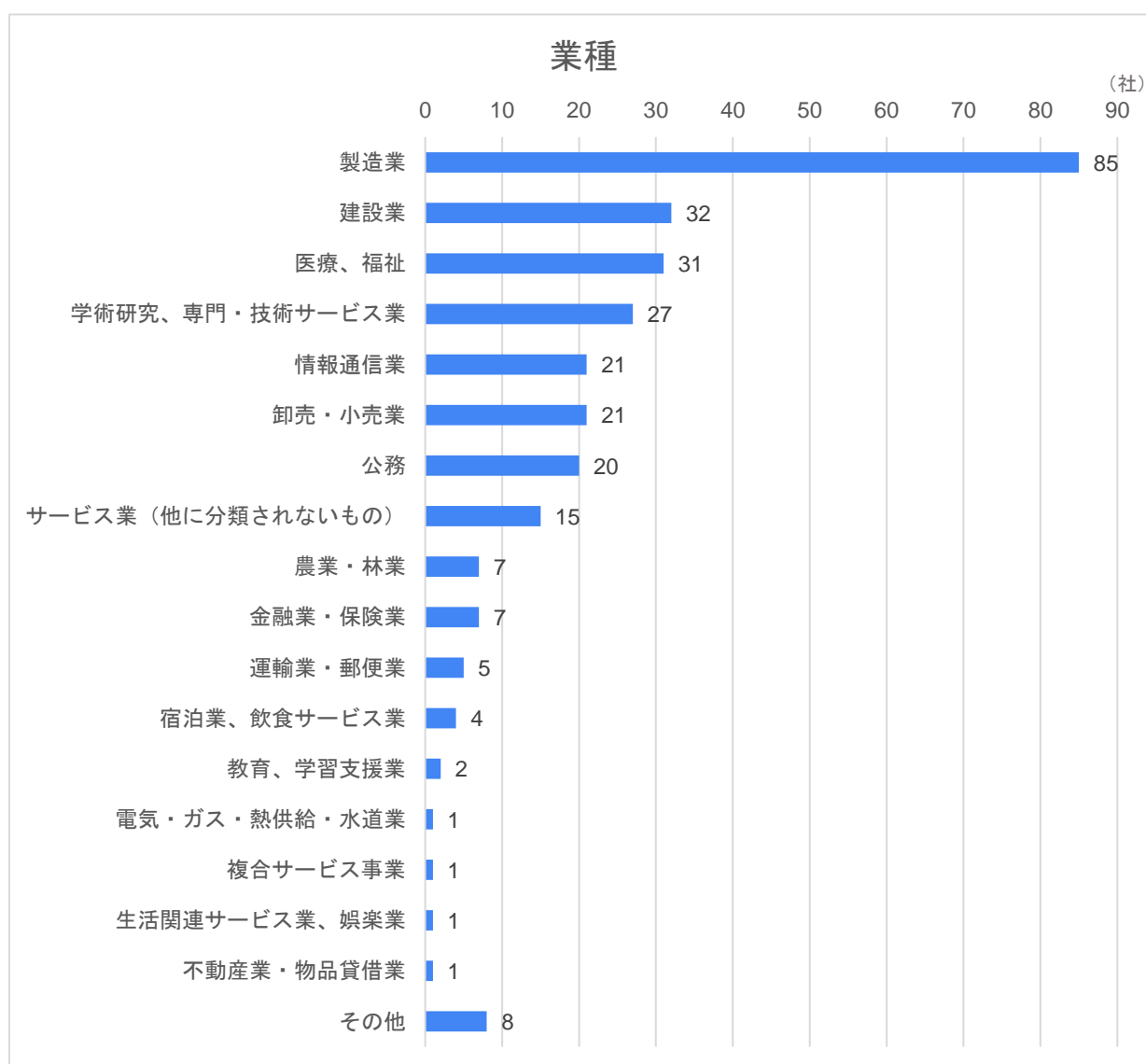
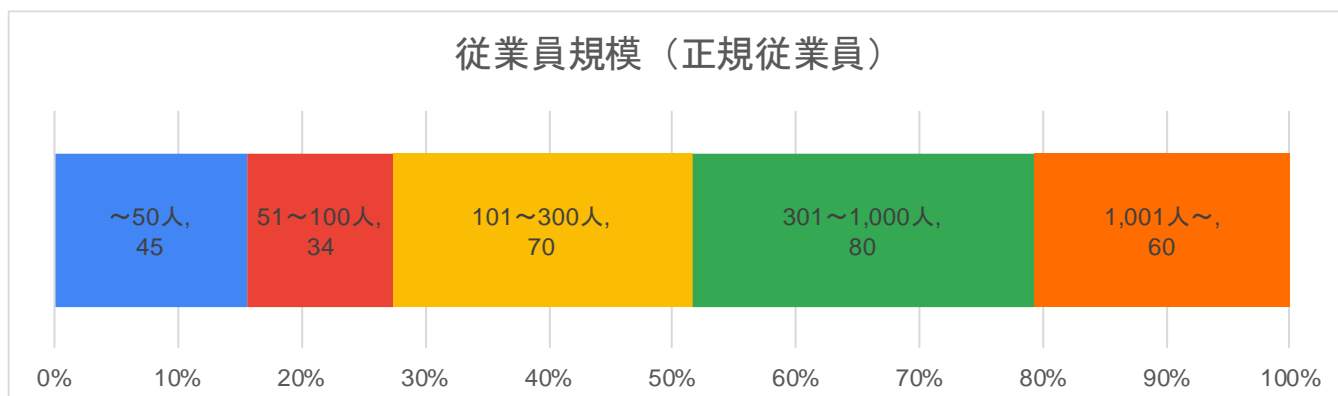
第1章

回答企業の属性・新卒者

一般に関する回答

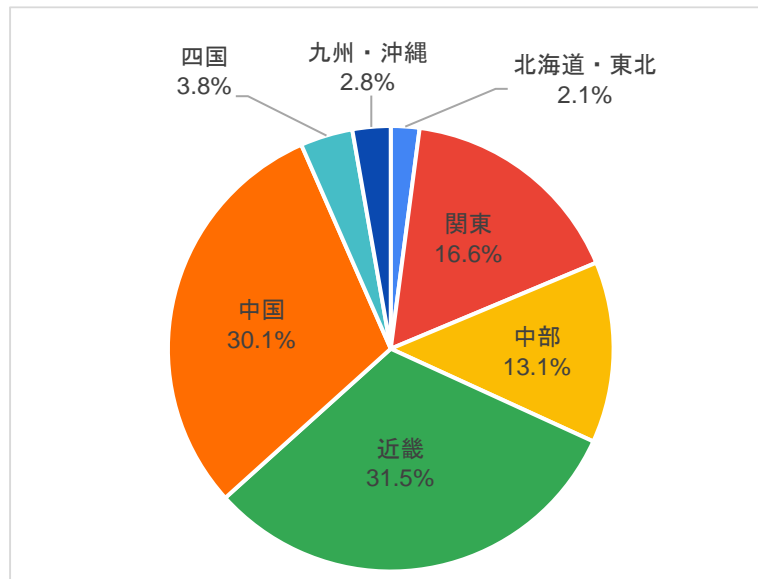
回答企業全体の属性(1/2)

<従業員規模> <業種>



回答企業全体の属性(2/2) <本社所在地>

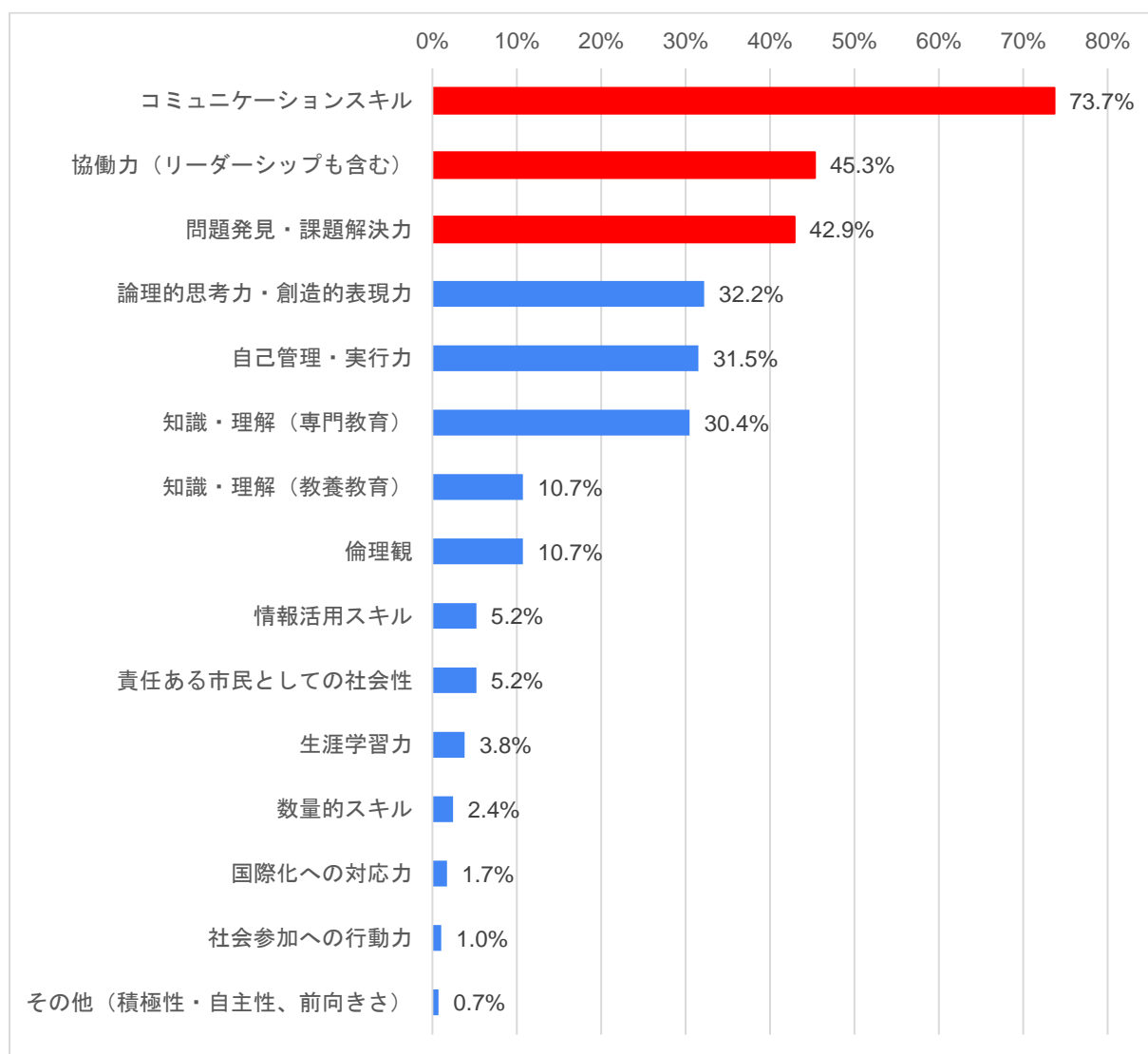
- ・回答企業の属性を本社の所在地別にみると、近畿地方と中国地方に本社を置く企業がそれぞれ3割を占め、次いで、関東地方、中部地方の順となり、この4つの地方で全体の9割を占めた。
- ・また都道府県別にみると、大阪、兵庫、東京、鳥取、岡山、愛知、広島、神奈川の順となった。



九州・沖縄	四国	中国	近畿	中部	関東	北海道・東北
8	11	87	91	38	48	6
福岡県 6	徳島県 1	鳥取県 30	滋賀県 2	新潟県	茨城県 3	北海道 6
佐賀県	香川県 3	島根県 9	京都府 7	富山県 1	栃木県	青森県
長崎県	愛媛県 7	岡山県 27	大阪府 41	石川県 3	群馬県 1	岩手県
熊本県	高知県	広島県 19	兵庫県 34	福井県 4	埼玉県	宮城県
大分県		山口県 2	奈良県 4	山梨県	千葉県 2	秋田県
宮崎県			和歌山県 3	長野県 3	東京都 32	山形県
鹿児島県 1				岐阜県 2	神奈川県 10	福島県
沖縄県 1				静岡県 2		
				愛知県 20		
				三重県 3		

新卒採用時に重視する能力・態度等

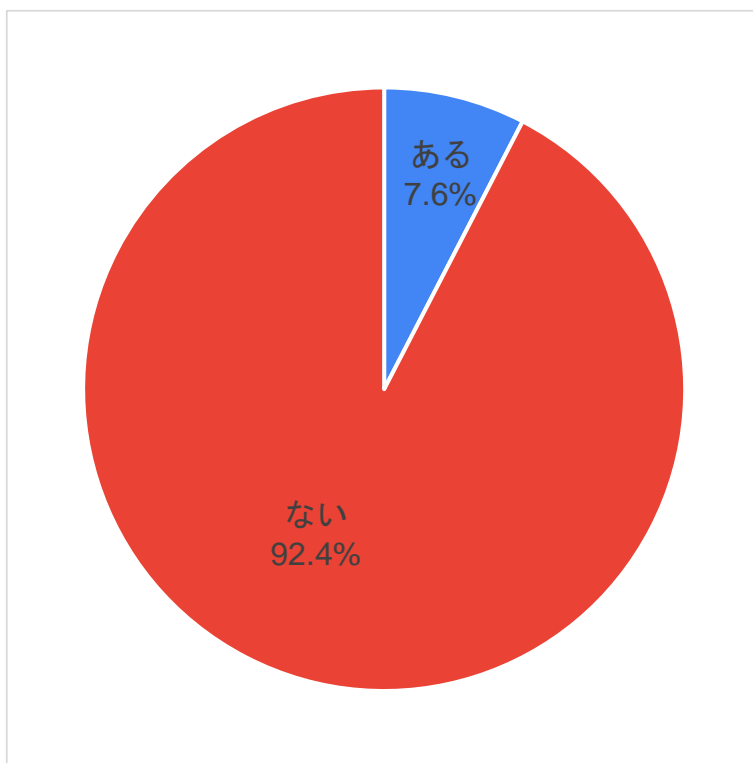
・近年の新卒採用活動で重視する、学生に求める能力・態度等を3つ選んでもらったところ、「コミュニケーションスキル」が特に抜きん出て多くの回答を集めた。そのほか、「協働力（リーダーシップも含む）」、「問題発見・課題解決力」、さらには「論理的思考力・創造的表現力」、「自己管理・実行力」、「知識・理解（専門教育）」の順に、回答が多く集まった。



学部卒業生・大学院修了生に求める能力・態度等の違い

・直近5年間の新卒活動において、学部卒業者と大学院修了者とのあいだで求める能力・態度等に違いがあるかどうかを聞いたところ、「ない」と回答した企業・団体等が9割以上を占めた。前回（平成29年度）調査でも「ある」の回答が1割弱だったことから、企業・団体等が求める能力・態度等に大きな変化は見られなかった。

・また、求める能力・態度等に違いがある場合、どのような能力・態度等をどちらに求めるか、具体的に聞いたところ、大学院修了者に対してはより高度な専門性や専門知識を求める、という趣旨の回答が大半を占めた。そのほか、コミュニケーションスキル・社会人スキル・社会性といった、他者とともにものごとに組みむうえで求められる要素や、問題や課題を発見してそれを解決に導く力など、いわゆるソフトスキルといわれる能力や態度を挙げた回答もみられた。



学部卒業生・大学院修了生に求める能力・態度等の違い (具体的記述)

- ・ 大学院卒業者はより**専門性**の高い知識を身に着け、将来の業種分野の即戦力として活躍を期待しているため、能力（**専門性**）を求めます。
- ・ 大学院修了した学生さんには**専門知識**を求めています
- ・ **専門知識**が豊富
- ・ 大学院卒の方がより**専門性**を追求した学業に取り組まれている為、弊社の事業に直結した分野・研究をしているか慎重に判断するようにしている。
- ・ 院卒には、より**専門知識**、**社会人スキル**を期待
- ・ **専門知識**
- ・ 院卒の方へは**課題発見・問題解決などの考え抜く力**を求めている
- ・ 院卒の方が「集中力」「**コミュニケーション能力**」が高い
- ・ 院卒の学生はより**専門知識**を重要視して学部卒の学生はその分人間性についてみる傾向にある
- ・ 開発職では学部卒を採用しておりません
- ・ **コミュニケーション能力**
- ・ 学部卒：論理的思考力や知識理解を重視、大学院卒：**問題発見・課題解決力**を重視
- ・ 本人に対して、粘り強さと最後までやり遂げる意志の強さ
- ・ 適応能力が学院卒の方が高い
- ・ 突出した**専門知識**
- ・ 大学院卒者に対して、より**専門的な能力**と、**社会性**
- ・ 大学院生には特に「**知識・理解（専門教育）**」を求める

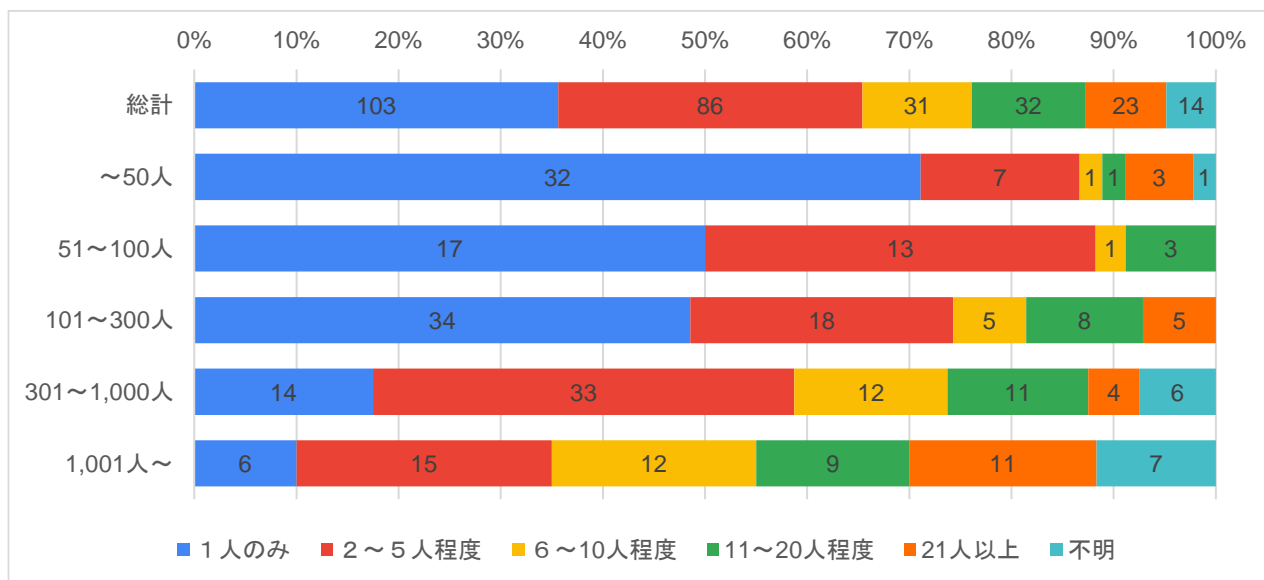
第2章

本学卒業生に関する回答

本学卒業生の採用実績(1/2)

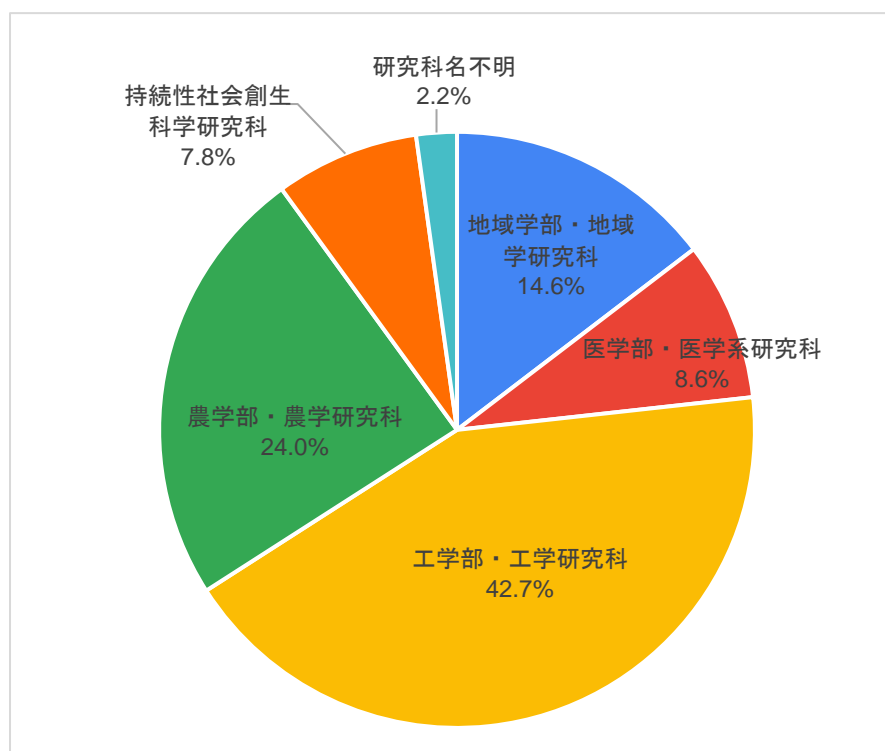
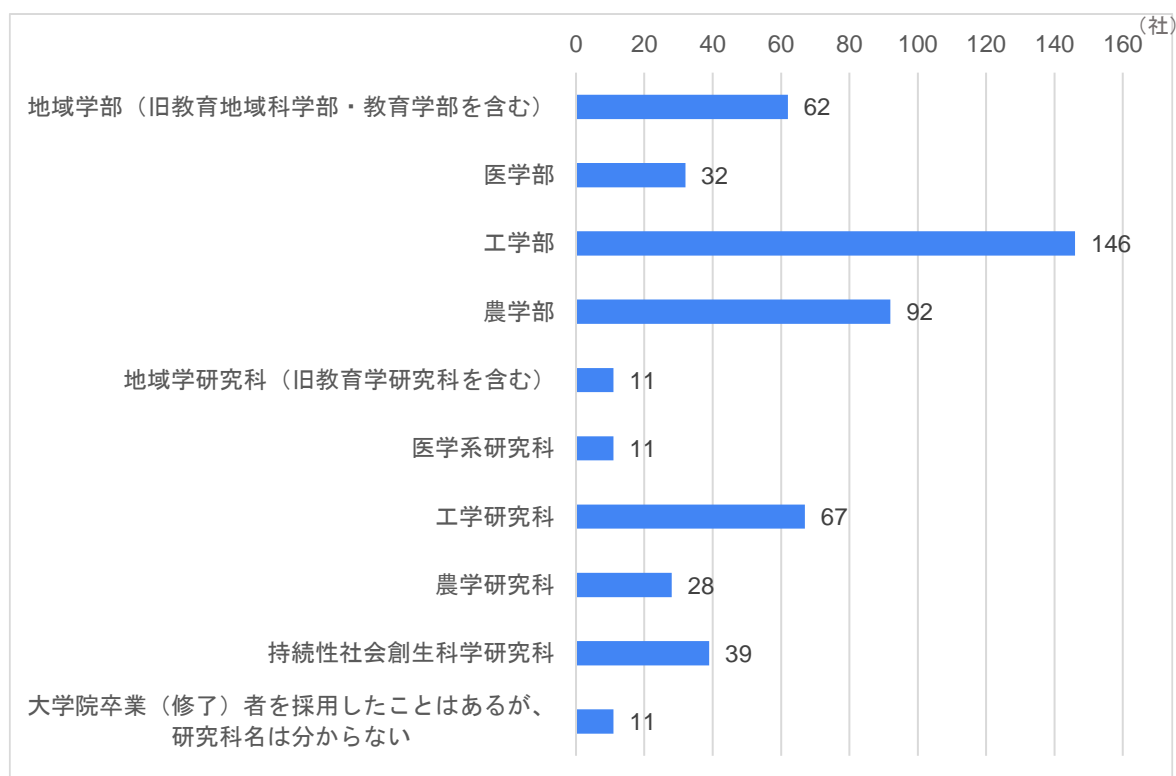
<人数>

・各社がこれまでに採用した本学学生の採用実績（人数）は、おおむね従業員規模に比例する傾向となっている。



本学卒業生の採用実績(2/2)

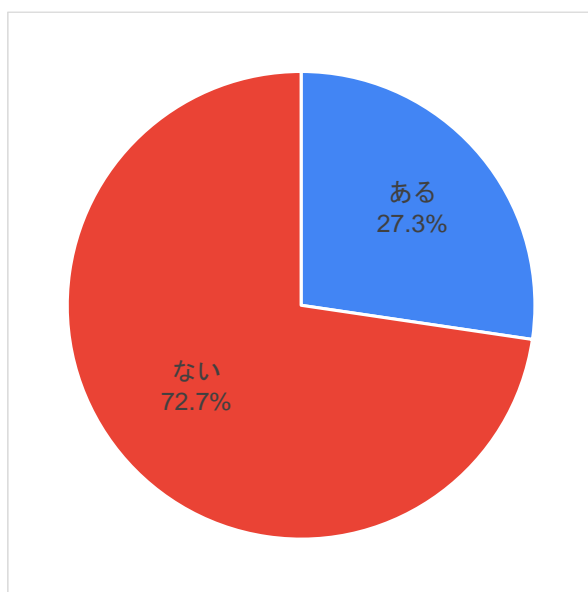
<学部・研究科>



本学卒業生のイメージ

・本学卒業（修了）者に対して、何かイメージされる特徴があるかを聞いたところ、「ある」と回答した企業・団体等は3割弱にとどまった。前回（平成29年度）調査結果から6ポイント減となった。

・さらに、イメージされる特徴がある場合、どのようなものを具体的に書いてもらったところ、単語の出現度数として最も多かったのが「真面目」・「まじめ」で、26件を数えた。また、「素直」・「実直」・「正直」・「誠実」・「真摯」・「真剣」があわせて24件、「コツコツ」・「堅実」・「手堅い」・「勤勉」があわせて10件など、ものごとに対して着実に・ひたむきに取り組む姿勢が、本学卒業生の代表的なイメージとなっていることがうかがえる。「優秀」・「優れている」も、計8件を数えた。そのほか、「明るい」・「朗らか」が計5件あった一方で、「おとなしい」・「控えめ」・「もの静か」も計5件を数えた。なお、新卒採用時に重視する能力・態度等で最も多くの回答を集めた「コミュニケーションスキル」について、本学卒業生のイメージとして挙げた回答は、3件だった。



順位	キーワード	出現度数（件）
1	真面目・まじめ	26
2	素直・実直・正直・誠実・真摯・真剣	24
3	コツコツ・堅実・手堅い・勤勉	10
4	優秀・優れている	8
5	明るい・朗らか	5
5	おとなしい・控えめ・もの静か	5
6	コミュニケーションスキル	3

本学卒業生のイメージ（具体的記述）（1/3）

- ・ 真っ直ぐで**実直**
- ・ 素朴感
- ・ **真面目**で教養がある
- ・ **真面目**，責任感を持って業務に取り組む
- ・ **素直さ**
- ・ **誠実**，成績**優秀**，頭脳明晰
- ・ **優秀**
- ・ 職務に対して，積極的に**勤勉**であること。
- ・ 国立大学なので，受験のハードルを超えているので，忍耐があり，**コツコツ**努力ができる
- ・ **誠実**で**実直**
- ・ 入社後に活躍している人が多い，専門分野への知見が高い
- ・ **明るく朗らかな**方が多いイメージです
- ・ **真面目真摯**に取り組む事ができる，そのような姿勢が伺える学生が多い印象です。
- ・ **真面目**。**おとなしい**。**誠実**。
- ・ 入社後の成長力が高い
- ・ **朗らか**で人柄の良いイメージ
- ・ 周囲の人と協力し巻き込みながら，目標に向かって物事を進めることができる点
- ・ まだ1名しか採用したことが無いのですが，その方はとてもほのぼのとしていて，理解力が高く，優しくて気遣いの出来る方でした。
- ・ **まじめ**で温和。
- ・ 一つ一つの仕事をとても丁寧に行っている印象があります。インターンシップの手伝いをしてもらったのですが，自分なりに説明内容をまとめて自分の言葉でわかりやすく学生に話をしていました。
- ・ 課題等に対して積極的に取り組む
- ・ **真面目**で**堅実**
- ・ **素直**でいて，挑戦的に成長したい意欲を感じます。
- ・ 論理的思考力が高い。落ち着いている。
- ・ **おとなしい**，保守的
- ・ **優秀**
- ・ 大変**実直**で丁寧
- ・ 適切な**真面目**さ，勉学だけではない頭の良さ，協調性，力強さ
- ・ **まじめ**で**手堅い**
- ・ 女性は**明るく**ハキハキしているが，男性はうつむきがちなでんびりしている印象

本学卒業生のイメージ（具体的記述）（2/3）

- ・ 堅実で素直な学生
- ・ 実直である
- ・ 自分の意見をしっかりと持ち、主体性がある
- ・ 非常に真面目な印象
- ・ 理論的に考えて行動
- ・ 真面目にコツコツ
- ・ 就職等について、学校の先生方からは広い視野でアドバイスを頂いている印象、一方で学校以外でのコミュニティは狭く、バイト先の先輩等、偏った意見をそのまま受け入れている印象。学校での勉強は他大学と比べ、比較的**真面目**に取り組んでいる印象。
- ・ 力強さに課題も残るものの**真摯**で**誠実**。伸びしろが大きい。
- ・ 新たな発想から製品イメージをしっかりともてる。
- ・ **明るい**。田舎者だが**素直**で吸収力が早い。
- ・ **素直**な姿勢
- ・ **真面目**で勉強熱心
- ・ **コミュニケーション能力**が高い
- ・ **コミュニケーション力**の高さや、業務遂行力の高さ
- ・ **真面目**で**堅実**
- ・ 生**真面目**、努力家
- ・ 実験・研究に対して**真剣**に取り組んでいる印象。
- ・ **真面目**で、最後まであきらめず**こつこつ**とやり遂げるイメージ
- ・ 1人だけなので偏っているとは思いますが、**真面目**に**コツコツ**努力するようなイメージがあります。
- ・ **真面目**に勉学に励んでいる印象です。
- ・ 知識優績
- ・ 弊社には貴校卒業生は一人しかおりませんが、**素直**に学び、実行力もあり、素晴らしい方です。
- ・ **誠実**
- ・ 業務を説明した場合の理解が非常に早い。
- ・ 行動力があり、スマートに仕事をするイメージ
- ・ **優秀**で**真面目**な学生様が多い印象です。
- ・ 配属後、知識習得に前向きであるため、技術者・社会人としての成長に期待が出来る
- ・ 向上心が高く**真面目**である
- ・ 在籍者全員理系のため、探求心が強い印象。
- ・ しっかりしている。

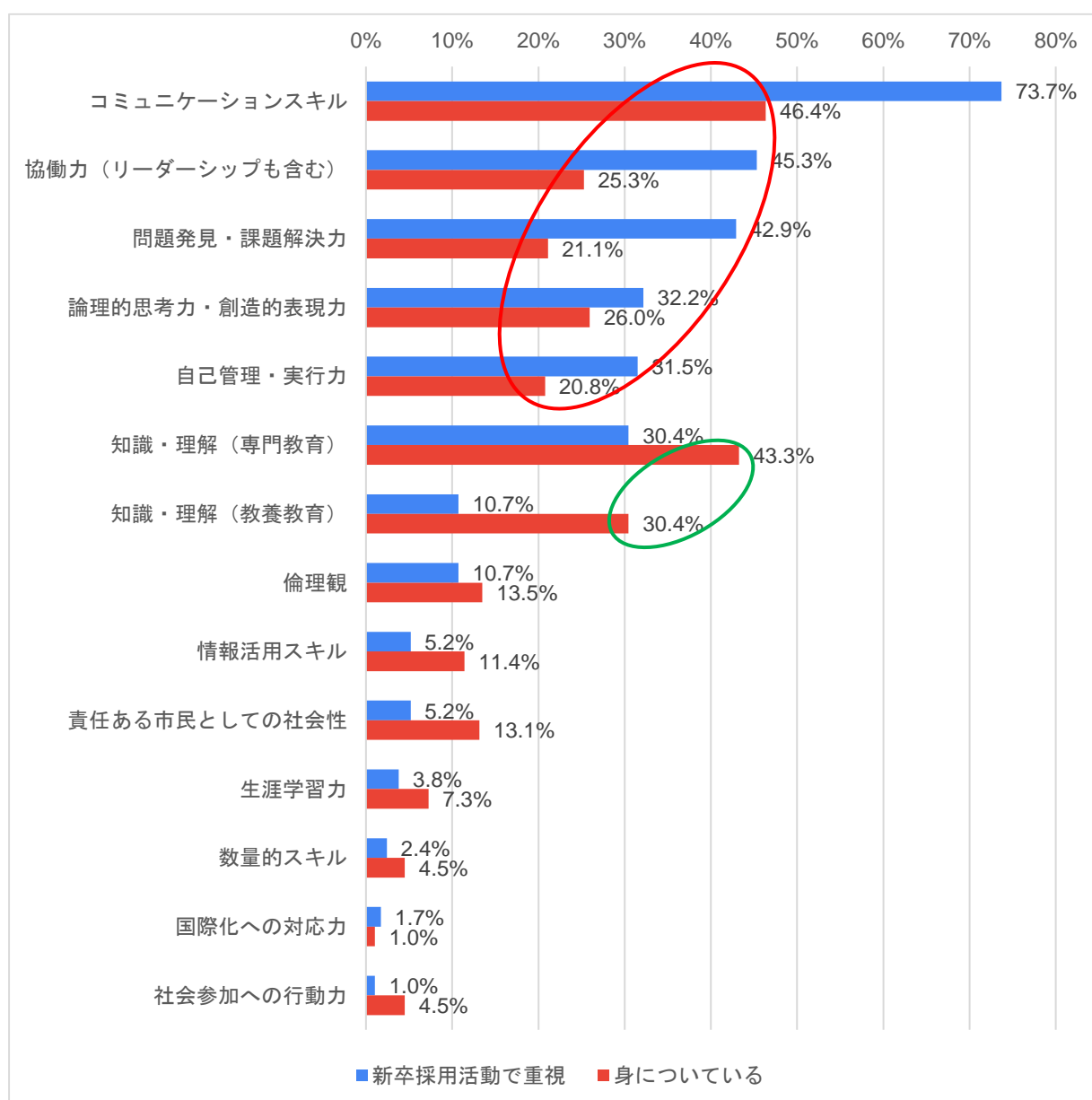
本学卒業生のイメージ（具体的記述）（3/3）

- ・ 素直・正直・真面目・大人しい
- ・ 皆さん優秀です
- ・ おっとりしている。
- ・ 真面目で実直な印象を受けます(どちらかというと控えめなタイプが多い)
- ・ 実直な社員が多い。管理職に昇進している社員が多い。
- ・ コツコツ真面目に取り組まれるイメージがあります。
- ・ 真面目で実直
- ・ 昨年初めての採用で比較が難しい
- ・ 比較的に大人しい
- ・ 非常に優秀で、向上心があり、当社として採用したい人材が多い印象を持っております。
- ・ 協調性はあるが、実行力、行動力、実践力に欠ける
- ・ 仕事に対し真摯に取り組む、真面目
- ・ 真面目。
- ・ 物事しっかり取り組む姿勢が有る。
- ・ 優れている。
- ・ 知的、礼儀正しい、芯が強い
- ・ 教養があり、真面目に業務に取り組む印象があります。当社に入社している貴学の卒業生はどの方も優秀な方ばかりです。
- ・ 鳥取出身者の場合は、地元が好きで、仕事も地元でいたい方という印象がある。
- ・ 造園・農学の専門分野への熱意とコミュニケーションスキルがあり、業務推進に貢献している。

新卒採用時に重視する能力・態度等 ×身についている DP 能力

・新卒採用活動で重視する能力・態度等（問6）と、本学卒業生の印象として「身についている」と感じられるDP能力（問9）を比較したところ、「新卒採用活動で重視」において最も回答を集めた「コミュニケーションスキル」は、「身についている」とする回答でも最多を集めた。

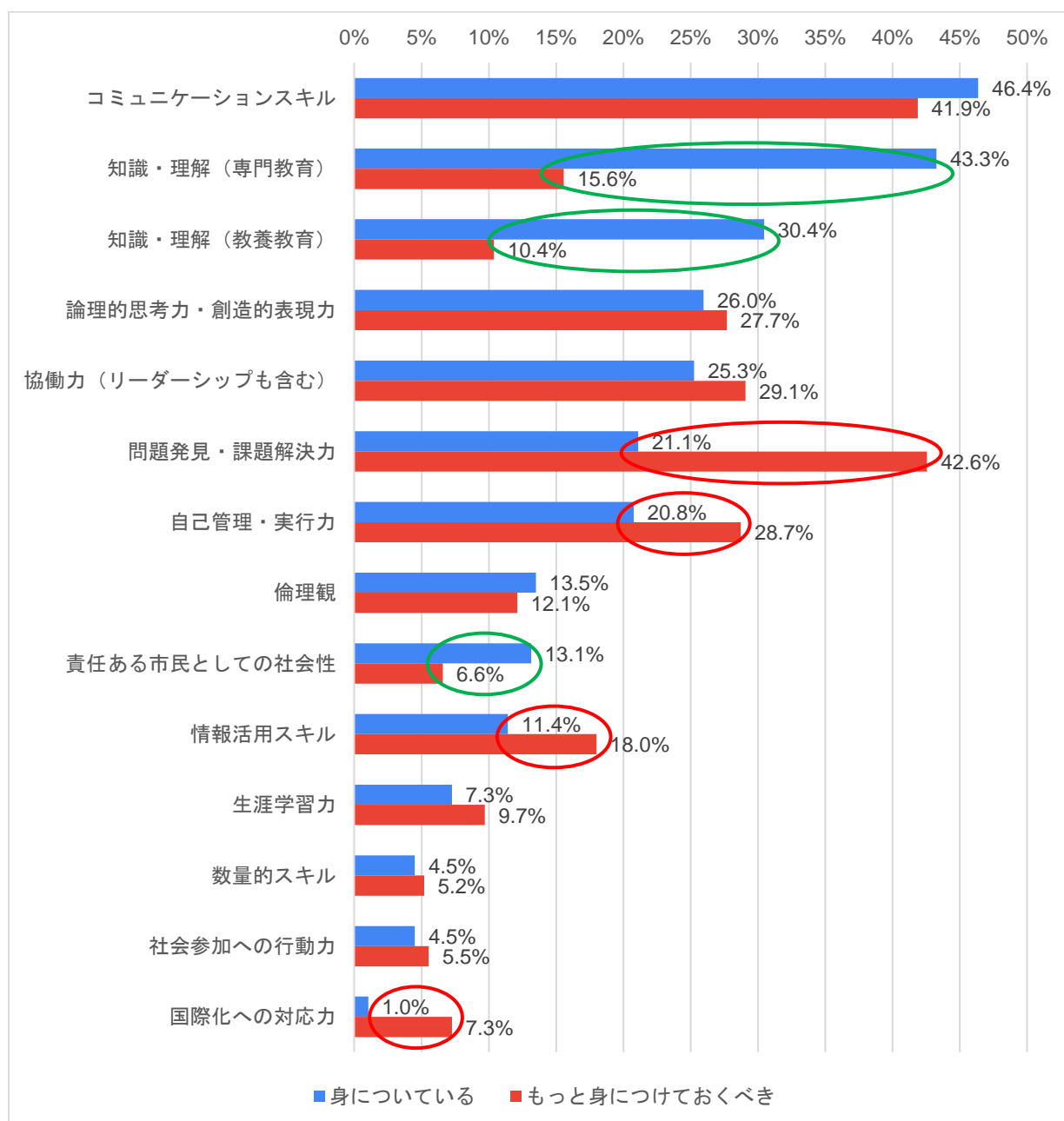
・一方、「コミュニケーションスキル」に次いで「身についている」と感じられるDP能力は、「知識・理解（専門教育）」、「知識・理解（教養教育）」の順となったが、「新卒採用活動で重視」のほうではそれぞれ6番目・7番目にとどまった。



本学卒業生の DP 能力(1/2) 身につけている×もっと身につけておくべき

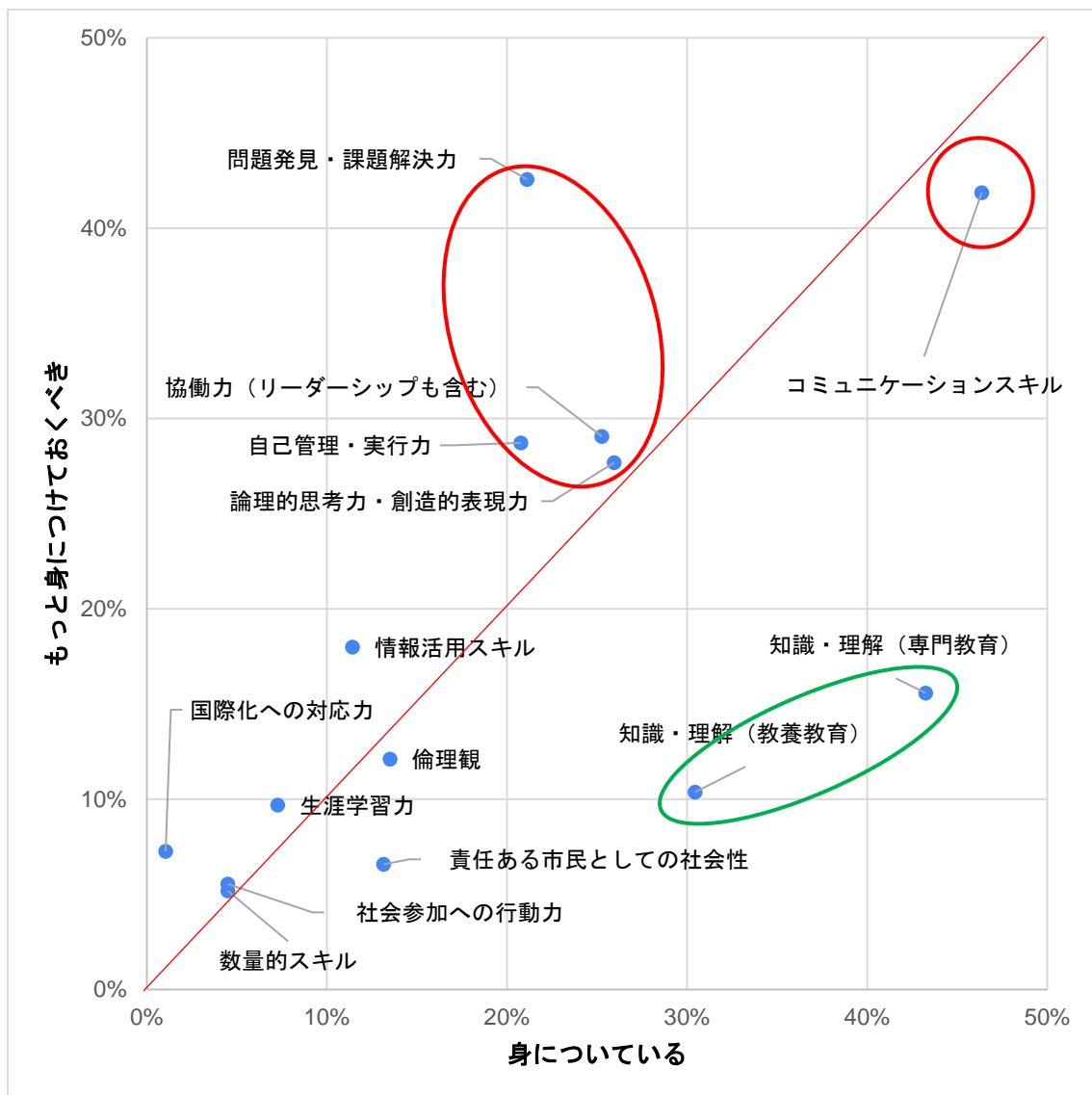
・「身につけている」が最も多く選ばれたのは「コミュニケーションスキル」で、「知識・理解（専門教育）」もほぼ同程度の割合を占めた。次いで、「知識・理解（教養教育）」、「論理的思考力・創造的表現力」、「協働力（リーダーシップも含む）」と続いた。このうち「知識・理解（専門教育）」と「知識・理解（教養教育）」については、「身につけている」が「もっと身につけておくべき」を大きく上回った。

・一方、「問題発見・課題解決力」では、「もっと身につけておくべき」が「身につけている」を大きく上回ったほか、「自己管理・実行力」や「情報活用スキル」、「国際化への対応力」でも前者が後者を上回った。



本学卒業生の DP 能力(2/2) 身につけている×もっと身につけておくべき

- ・「コミュニケーションスキル」について、「身につけている」が最も多く選ばれた（46.4%）一方で、「もっと身につけておくべき」のほうでも、最多にほぼ近い 2 番目の割合（41.9%）を占めていることは、本学の教育プログラムの改善等を考えていくうえでも大きな意味をもつといえる。
- ・また、「もっと身につけておくべき」の選択割合が最多（42.6%）だった「問題発見・課題解決力」について、「身につけている」の選択割合（21.1%）との差が大きく開いている点や、「協働力（リーダーシップも含む）」、「自己管理・実行力」、「論理的思考力・創造的表現力」等で「もっと身につけておくべき」が多く選択されている点も、注目すべき部分といえる。



教育・学生支援に対する意見・要望等 (自由記述) (1/2)

・過去の調査と同様、本学学生の採用機会につながる情報提供や取組の強化についての要望を多くいただいた。

・グローバル人材の育成への期待が寄せられた一方で、鳥取県内での交流の拡大や、卒業後の定着に対する要望も多くいただいた。

・また、今回の調査では、コロナ禍の影響や社会の変容等をふまえながら、DP能力への言及など、求める人材像に関する具体的な記述も、多くいただいた。

- ・ 若い時期での、海外での経験は、貴重で成長できると思いますので、その機会を与えてあげてください。
- ・ コミュニケーションスキル、考える力と行動力
- ・ 学内合同企業説明会など、今後実施される予定があれば連絡をお願いします。
- ・ 理系の推薦、自由応募の比率などが年々変化しているのか、学校側が考える企業の要望（就職活動時期、選考内容、専門分野への評価）など、ご教示いただきたいです。
- ・ 現社長は貴学出身です。時期社長も貴学出身です。人事担当としましてはより多く貴学から採用したく思っていますので機会を与えていただけるとありがたいです。
- ・ 入社頂いた御校出身者は、お客様からの評価も高く、弊社にとっても戦力であり、良きパートナーであります。近年感じることは、与えた課題に対する答え（行動）は良いものが返ってくるのですが、自ら課題や問題を見つけ解決・工夫していくといった自主性・主体性が弱いということです。もっと幅広い年代の方とのコミュニケーションを通じて、客観的に自分を見ることのできる機会を増やしたり、失敗を恐れず次にやるべきことに取り組めるようなチャレンジ性を養ってほしいと感じます。御校の益々の発展をお祈り申し上げます。
- ・ よい学生だと感じています。素直で学習能力が高いと感じる。
- ・ 各学科単独(特に工学系)の研究も大切だが、各学科間で協力して新しいものを鳥取大学より発信してほしい。
- ・ 将来有望で優秀な人材が入社して頂きました。今後ともよろしくお願い致します。
- ・ 地域企業と関わるような機会をより増やせないでしょうか？折角8割の学生が県外から進学しているのに学内に閉じてしまっている印象です。県内就職の多くは安定志向で保守的な学生が多いと感じています。鳥取で育まれた大学生がより地域に根ざしてくれることを希望します、そのためには学外との交流をぜひ推奨くださいませ。OGとして切に願います。
- ・ 昨年度、初めて鳥取大学の卒業生を採用させて頂きました。学力はもちろんのこと、気遣い、気配りが出来て、非常にバランスのとれた素晴らしい人材です。このような学生の教育を引き続きお願いしたいです。
- ・ 業界研究セミナーのようなものがあれば、是非とも参加させてください。
- ・ 「グローバル」な人材づくりは就業後に行うことはなかなか難しいため、学生時代に育成できると良いと思っています。貴大学の学生様の選考ご応募をお待ちしています。
- ・ 企業との繋がりをもっと密にお願いします。

教育・学生支援に対する意見・要望等 (自由記述) (2/2)

- ・ 対面で語り合える場を設けてください。
- ・ 鳥取県内の職場に触れる機会をよりもっていただくと、社内における御校のイメージが上がると思います。
- ・ 産業動物獣医師の仕事を紹介する事を大学で取り入れていただきたい。
- ・ 時代の変化に対応できる、協調性が重要と考えております。引き続き宜しくお願い致します。
- ・ 今後とも生徒のご推薦をよろしくお願いいたします。
- ・ もっと臨床獣医学実習をして頂きたい
- ・ 今まで鳥取から来社してくれる学生さん自体が少なかったので、弊社のような広島の中小企業にも関心をもっていただければ幸いです。
- ・ 引き続き、観光業を含む様々な業種に興味を持っていただけるよう、学生への幅広いご指導をお願いしたい。
- ・ 現場に入ってから即戦力として活躍できるようが希望であれば教員志望の学生の実践の場を提供します。人間形成学部の充実を願っています。
- ・ 当院に就職して下さり、素晴らしい生徒さんで文句の付け所がありません。ありがとうございました。
- ・ 意見、要望は特にございません。これまで貴学とあまりご縁がなかったのですが、2020年に入社された方は、弊社の中でも重要な研究部門で活躍しています。早いうちからテーマを任されていますが、周囲の協力を得ながら、自らの考えの元で仕事を進めており、今後が非常に楽しみです。今後ともこのような良縁を継続できるよう、尽力したいと思います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。
- ・ 広い視野を持つようにしていただきたい。
- ・ 貴学だけではなく、コロナ禍で学生の学びや体験に対する制約は大きく、今後様々な面において影響が懸念されます。体験に基づいた学びの質の向上とともに、人間関係形成能力の育成が必要だと感じています。また、コロナ禍によってオンライン授業等集団での時間管理が減り、学生の自己管理能力が必要となってきていると感じています。
- ・ D P 能力として3つ選択しておりますが、職場におけるテレワークの推進など働き方が大きく変化する中においては、情報活用スキルや自己管理能力等、他のD P 能力を幅広く身につけておくことも必要ではないかと感じております。
- ・ これまでの卒業生から、卒業後の目標がはっきりしない学生が多いように感じられた。大学在学中に自分が将来どうしたいかがもう少し明確になるような指導をされる方が良いかと思えます。
- ・ 仕事をして収入を得ることに関しての責任感を持ってほしい。
- ・ 個性を見つけ、社会の課題解決に向けて伸ばすこと
- ・ 中小企業で活躍する大切さを更に教えてほしい。
- ・ 鳥取県を活性化する核組織として、学生が鳥取県に残り、活躍する意識の醸成。

第Ⅴ部

就職先企業・学部卒業生・
大学院修了生のデータ関連性

分析の観点

就職先企業、学部卒業生、大学院修了生から各々回収した3種類のアンケートにおいて、学部・研究科での教育効果や学修成果（DP能力等）に関する設問に注目し、共通する項目間の関連性について分析を行った。

■ 就職先企業（Q9：鳥取大学卒業（修了）生のDP能力等）

- ①「身につけている」（3つまで選択可）の選択率
（選択件数／総回答企業数） → 「修得している」
- ②「もっと身につけておくべき」（3つまで選択可）の選択率
（選択件数／総回答企業数） → 「もっと修得すべき」

■ 卒業生

（Q6：鳥取大学での修得度）

- ③「大変修得できた」及び「ある程度修得できた」の肯定的回答率
（回答者数／総回答者数） → 「修得できた」

（Q7：社会での役立ち度）

- ④「大変役立った」及び「ある程度役立った」の肯定的回答率
（回答者数／総回答者数） → 「役立った」
- ⑤「もっと学んでおけば良かった」（3つまで選択可）の選択率
（選択件数／総回答者数） → 「もっと学ぶべき」

■ 修了生

（Q5：鳥取大学での修得度）

- ⑥「大変修得できた」及び「ある程度修得できた」の肯定的回答率
（回答者数／総回答者数） → 「修得できた」

（Q6：社会での役立ち度）

- ⑦「大変役立った」及び「ある程度役立った」の肯定的回答率
（回答者数／総回答者数） → 「役立った」
- ⑧「もっと学んでおけば良かった」（3つまで選択可）の選択率
（選択件数／総回答者数） → 「もっと学ぶべき」

設問項目の関係

就職先企業，卒業生，修了生向けアンケートにおける DP 能力等

アンケートの設問（DP 能力等）	就職先企業	学部卒業生	大学院修了生
知識・理解(教養教育)	○	○	○
知識・理解(専門教育)	○	○	○
コミュニケーションスキル	○	○	○
数量的スキル	○	○	○
情報活用スキル	○	○	○
論理的思考力・創造的表現力	○	○	○
問題発見・課題解決力	○	○	○
自己管理・実行力	○	○	○
生涯学習力	○	○	○
協働力(リーダーシップも含む)	○	○	○
倫理観	○	○	○
責任ある市民としての社会性	○	○	○
国際化への対応力	○	○	○
社会参加への行動力	○	○	○

各アンケート結果を組み合わせて，以下に示す 4 つの観点から，教育効果や学修成果について検討を行った。各対応関係は，以下のとおり。

【修得度】：企業「修得している」(①)と卒業生・修了生「修得できた」(③・⑥)の関係

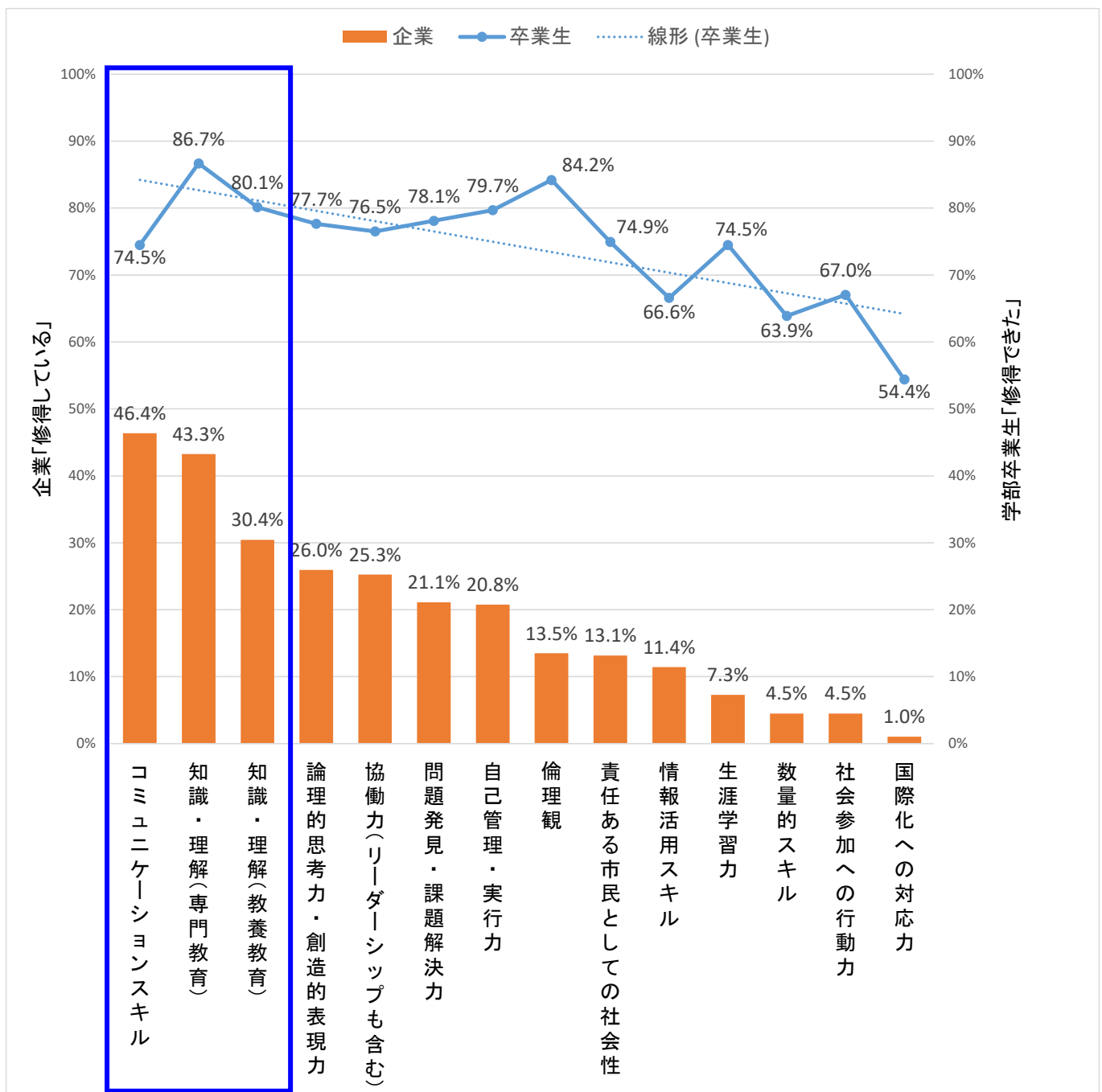
【要望度】：企業「もっと修得すべき」(②)と卒業生・修了生「修得できた」(③・⑥)の関係

【ギャップ度】：企業「もっと修得すべき」(②)と卒業生・修了生「役立った」(④・⑦)の関係

【不足度】：企業「もっと修得すべき」(②)と卒業生・修了生「もっと学ぶべき」(⑤・⑧)の関係

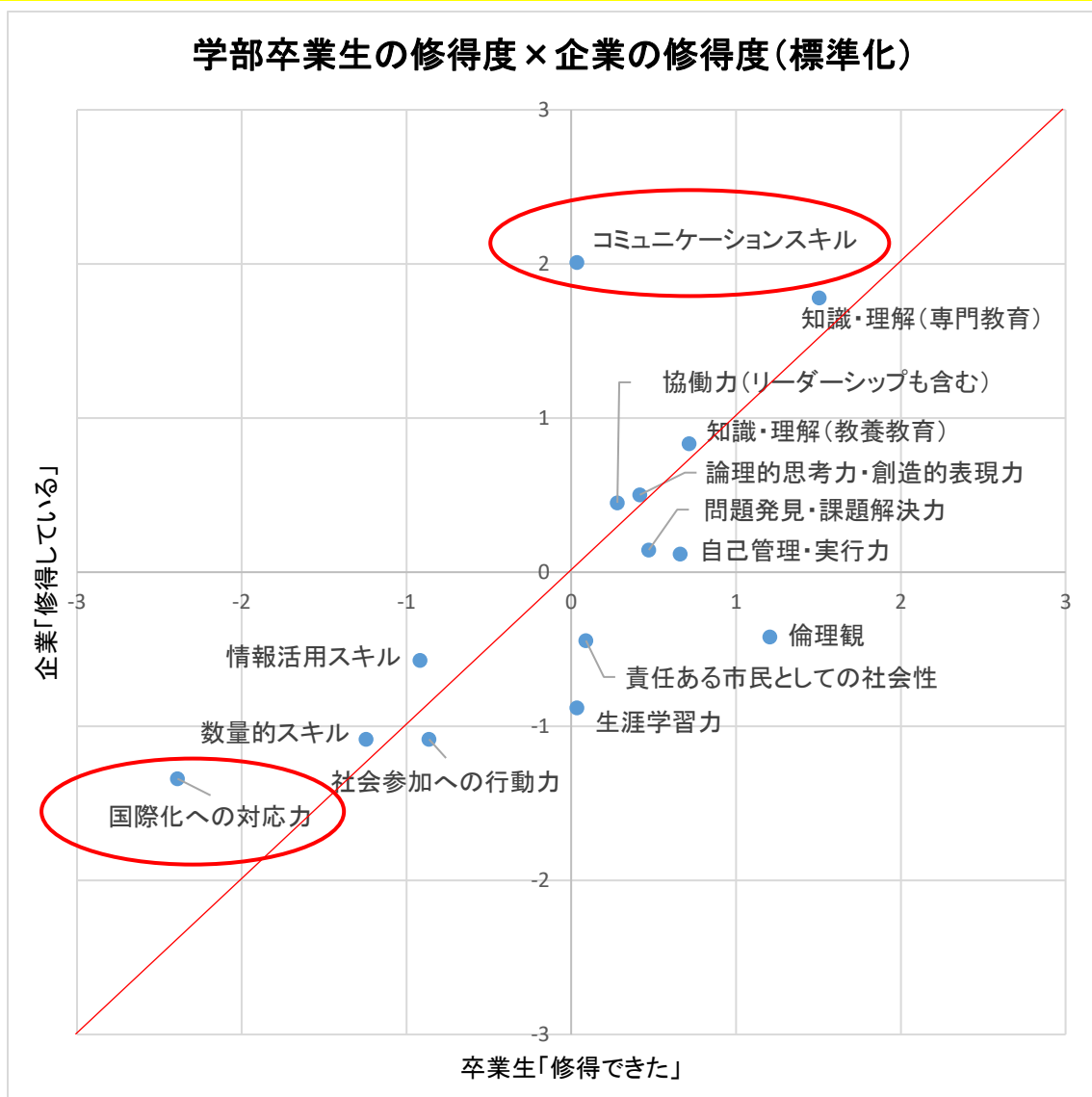
【修得度】企業の評価×学部卒業生の自己評価

- DP能力等（14項目）について、企業「修得している」の選択率（棒グラフ：降順）と卒業生「修得できた」の肯定的回答率（折れ線グラフ）を示す。
- 企業が「修得している」と回答した上位3項目は、「コミュニケーションスキル」、「知識・理解（専門教育）」と「知識・理解（教養教育）」であるが、卒業生の自己評価では2つの「知識・理解」は同様に高いものの、「コミュニケーションスキル」に関しては低かった。
- 卒業生の回答では、「倫理観」も80%以上と高く、「情報活用スキル」、「数量的スキル」、「社会参加への行動力」と「国際化への対応力」については70%未満であった。



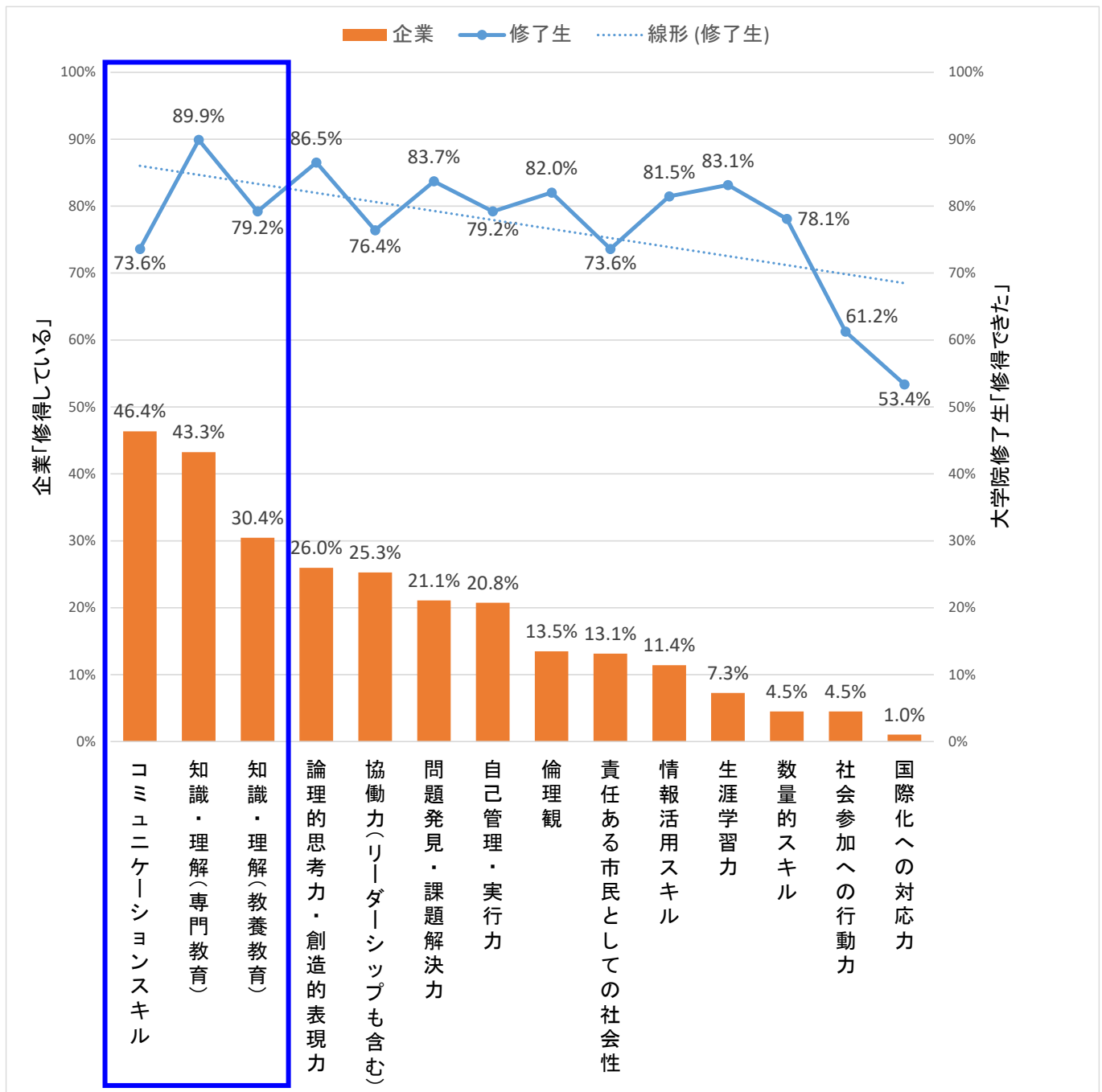
【修得度】企業の評価×学部卒業生の自己評価

- 企業「修得している」の選択率と卒業生「修得できた」の肯定的回答率の算出方法が異なるため、両者の結果を標準化して比較した結果を示す。
- 卒業生と企業の評価がともに高いのが右上の領域であり、7項目が該当している。特に、「コミュニケーションスキル」は、卒業生の結果以上に企業は高く評価している。
- 卒業生の評価は高いが、企業の評価が低いのが右下の領域であり、3項目が該当している。
- 卒業生と企業の評価がともに低いのが左下の領域であり、4項目が該当している。特に、「国際化への対応力」は、前頁の企業の選択率が1.0%とかなり低いが、卒業生の結果よりも企業の評価はそれほど低くなかった。



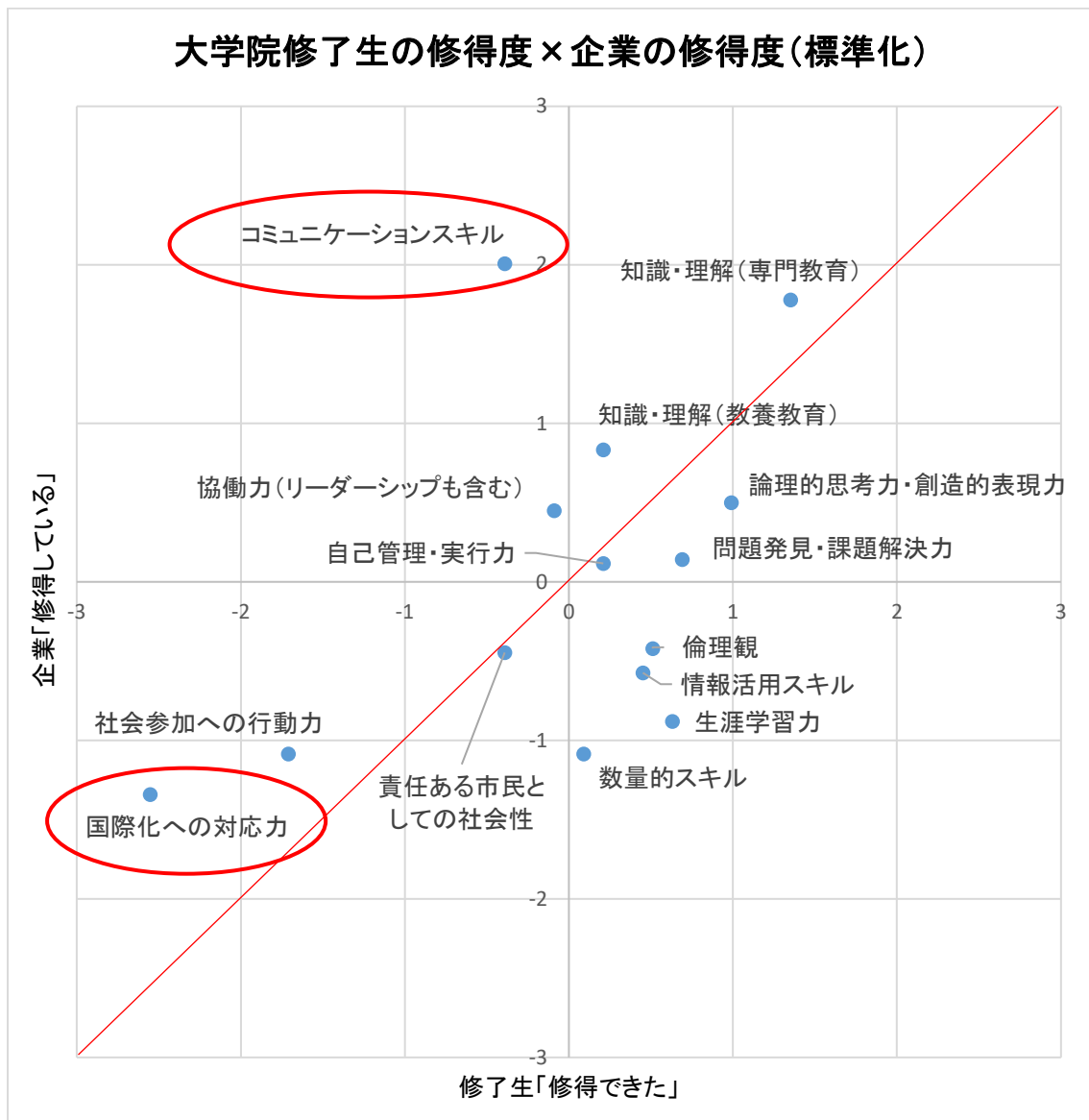
【修得度】企業の評価×大学院修了生の自己評価

- DP 能力等（14 項目）について、企業「修得している」の選択率（棒グラフ：降順）と修了生「修得できた」の肯定的回答率（折れ線グラフ）を示す。
- 企業が「修得している」と回答した上位 3 項目は、「コミュニケーションスキル」、「知識・理解（専門教育）」と「知識・理解（教養教育）」であるが、修了生の自己評価では「知識・理解（専門教育）」は同様に高いものの、「コミュニケーションスキル」や「知識・理解（教養教育）」に関しては低かった。
- 修了生の回答では、上記以外に「論理的思考力・創造的表現」や「問題発見・課題解決力」等の 5 項目が 80%以上と高く、「社会参加への行動力」と「国際化への対応力」については 70%未満であった。



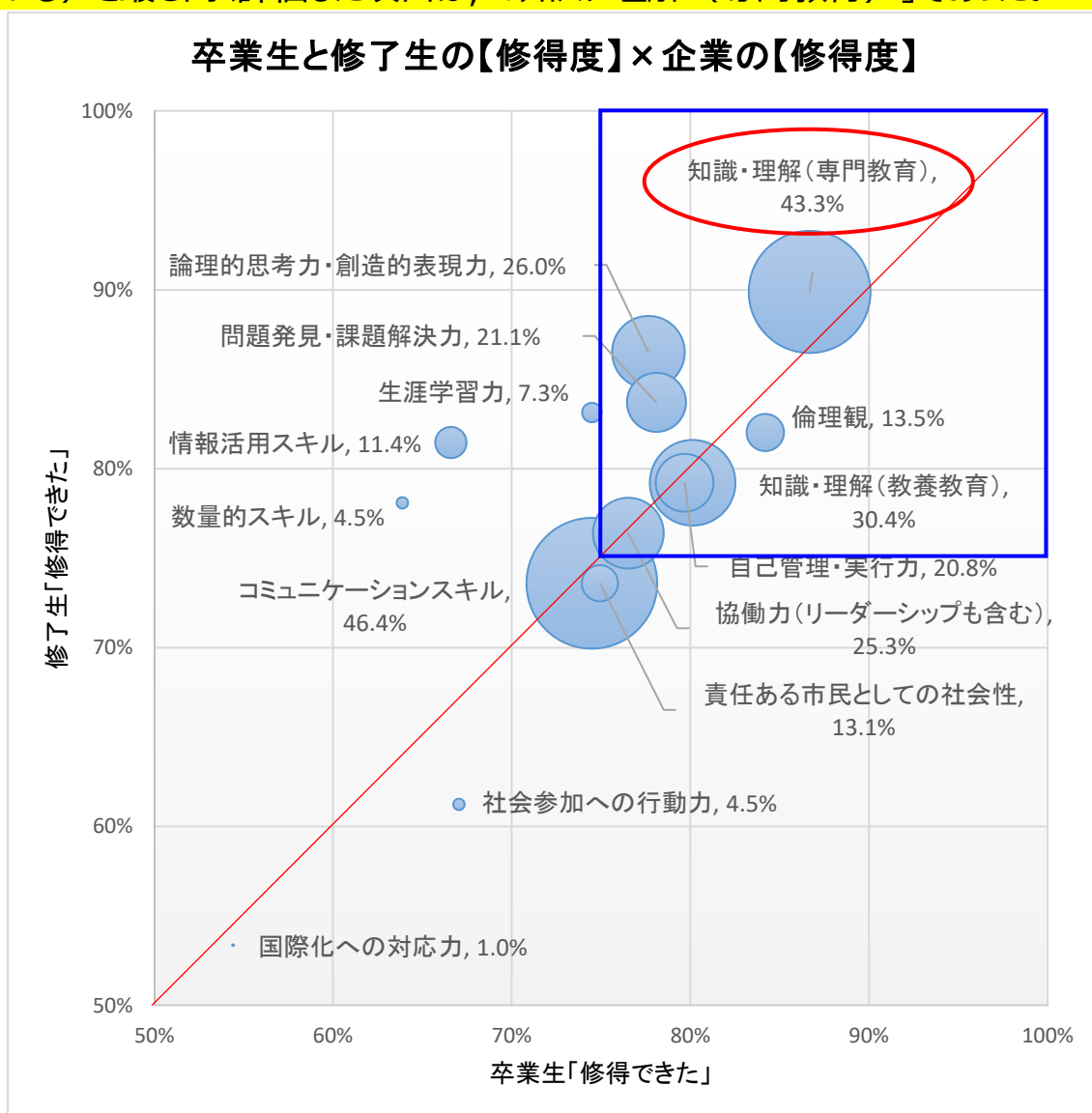
【修得度】企業の評価×大学院修了生の自己評価

- 企業「修得している」の選択率と修了生「修得できた」の肯定的回答率の算出方法が異なるため、両者の結果を標準化して比較した結果を示す。
- 修了生と企業の評価がともに高いのが右上の領域であり、5項目が該当している。
- 修了生の評価は高いが、企業の評価が低いのが右下の領域であり、4項目が該当している。
- 修了生の評価は低いが、企業の評価が高いのが左上の領域であり、2項目が該当している。特に、特に、「コミュニケーションスキル」は、修了生の結果以上に企業は高く評価している。
- 修了生と企業の評価がともに低いのが左下の領域であり、3項目が該当している。特に、「国際化への対応力」は、前頁の企業の選択率が1.0%とかなり低いが、修了生の結果よりも企業の評価はそれほど低くなかった。



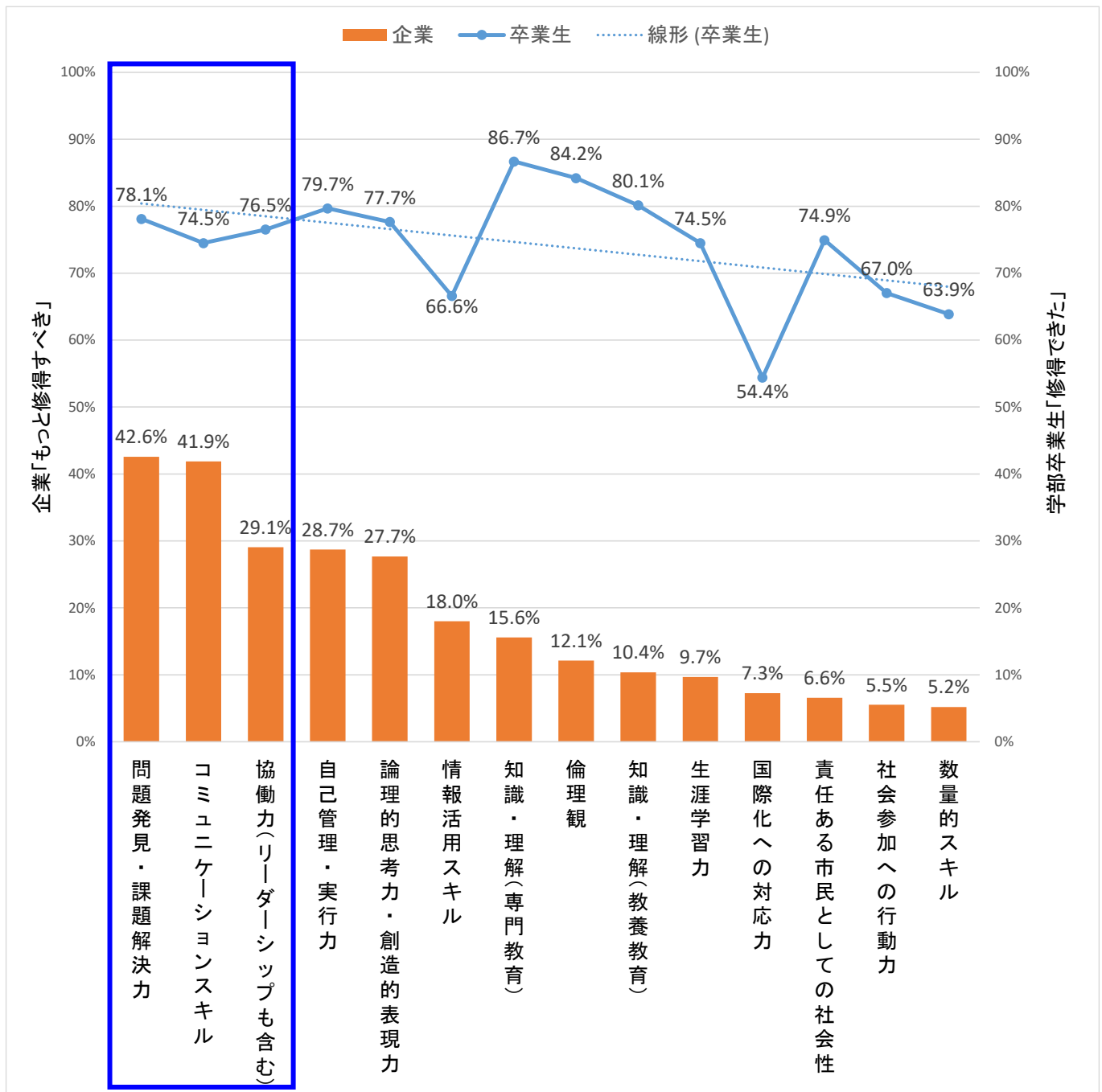
【修得度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価

- DP能力等（14項目）の修得度について、卒業生・修了生「修得できた」と企業「修得している」の関係性を示す。円の大きさ（数字）は企業の選択率であり、各項目の相関係数は以下のとおりである。
 - 卒業生「修得できた」と修了生「修得できた」：0.76
 - 企業「修得している」と卒業生「修得できた」：0.66
 - 企業「修得している」と修了生「修得できた」：0.48
- 卒業生と修了生がともに75%以上の項目は7個あり、「論理的思考力・創造的表現力」と「問題発見・課題解決力」については修了生の回答率が高い傾向にあった。
- 本学の学生（卒業生及び修了生）及び企業がDP能力として身につけている（修得している）と最も高く評価した項目は、「知識・理解（専門教育）」であった。



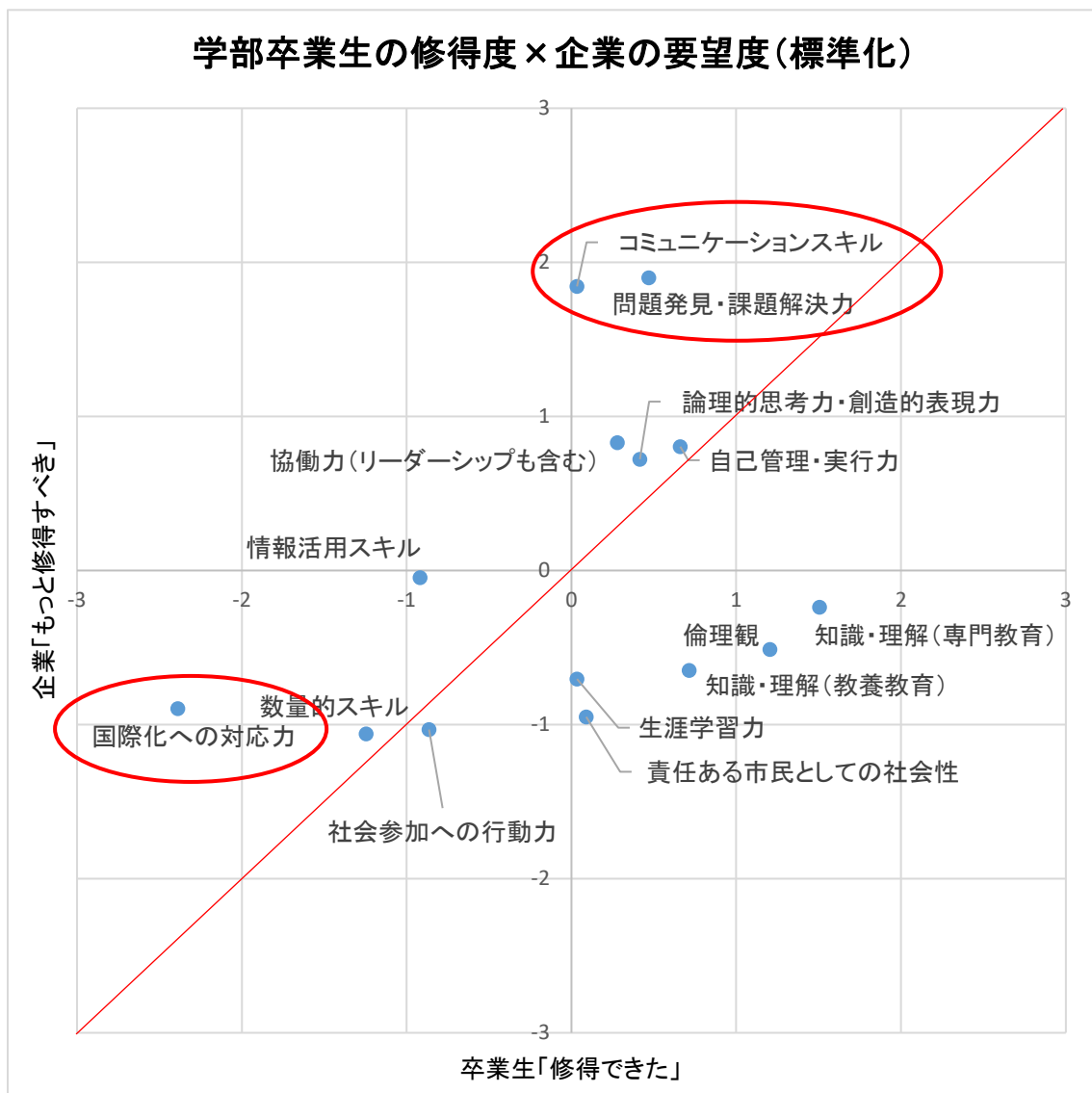
【要望度】企業の評価×学部卒業生の自己評価

- DP能力等（14項目）について、企業「もっと修得すべき」の選択率（棒グラフ：降順）と卒業生「修得できた」の肯定的回答率（折れ線グラフ）を示す。
- 企業が「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「問題発見・課題解決力」、「コミュニケーションスキル」と「協働力（リーダーシップを含む）」であるが、卒業生の自己評価ではこれら3項目はさほど高くはなかった。
- 企業が「修得している」と回答した上位3項目のうち、「コミュニケーションスキル」がトップであったにもかかわらず、「もっと修得すべき」でも2番目に入っていることから、企業は学生が思っている以上のレベルを求めていると推察する。



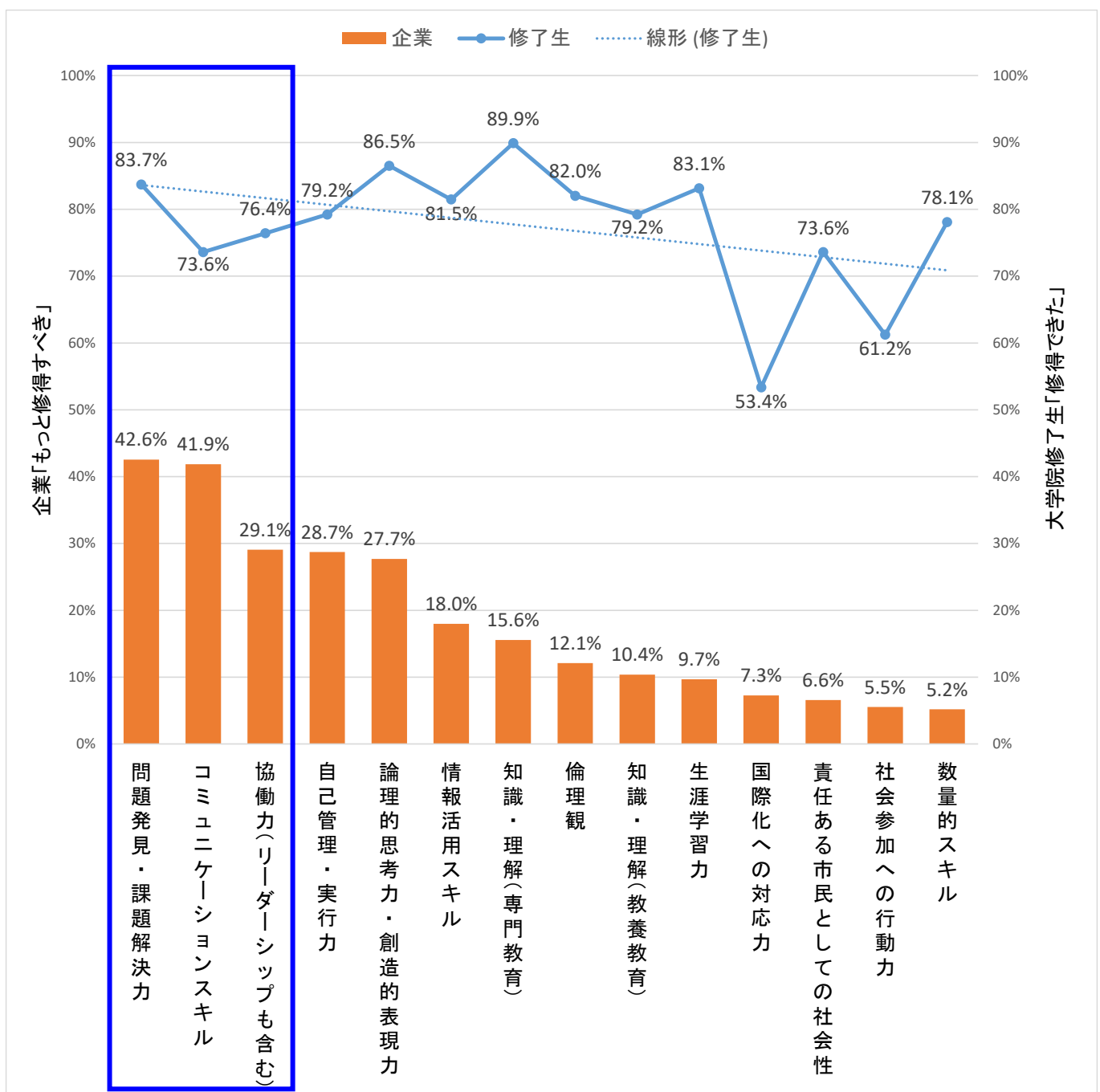
【要望度】企業の評価×学部卒業生の自己評価

- 企業「もっと修得すべき」の選択率と卒業生「修得できた」の肯定的回答率の算出方法が異なるため、両者の結果を標準化して比較した結果を示す。
- 卒業生の評価が高く、企業が強く要望するのが右上の領域であり、5項目が該当している。特に、「問題発見・課題解決力」と「コミュニケーションスキル」は、卒業生の結果以上に企業は高いものを求めている。
- 卒業生の評価は高いが、企業があまり要望していないのが右下の領域であり、5項目が該当している。
- 卒業生の評価が低く、企業もあまり要望していないのが左下の領域であり、4項目が該当している。特に、「国際化への対応力」について、企業としては「数量的スキル」や「社会参加への行動力」と同等レベルのものを身につけてほしいと考えている。



【要望度】企業の評価×大学院修了生の自己評価

- DP能力等（14項目）について、企業「もっと修得すべき」の選択率（棒グラフ：降順）と修了生「修得できた」の肯定的回答率（折れ線グラフ）を示す。
- 企業が「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「問題発見・課題解決力」、「コミュニケーションスキル」と「協働力（リーダーシップを含む）」であるが、卒業生の自己評価では「問題発見・課題解決力」以外はさほど高くなかった。
- 企業が「修得している」と回答した上位3項目のうち、「コミュニケーションスキル」がトップであったにもかかわらず、「もっと修得すべき」でも2番目に入っていることから、学生には更なる修得が求められていると推察される。



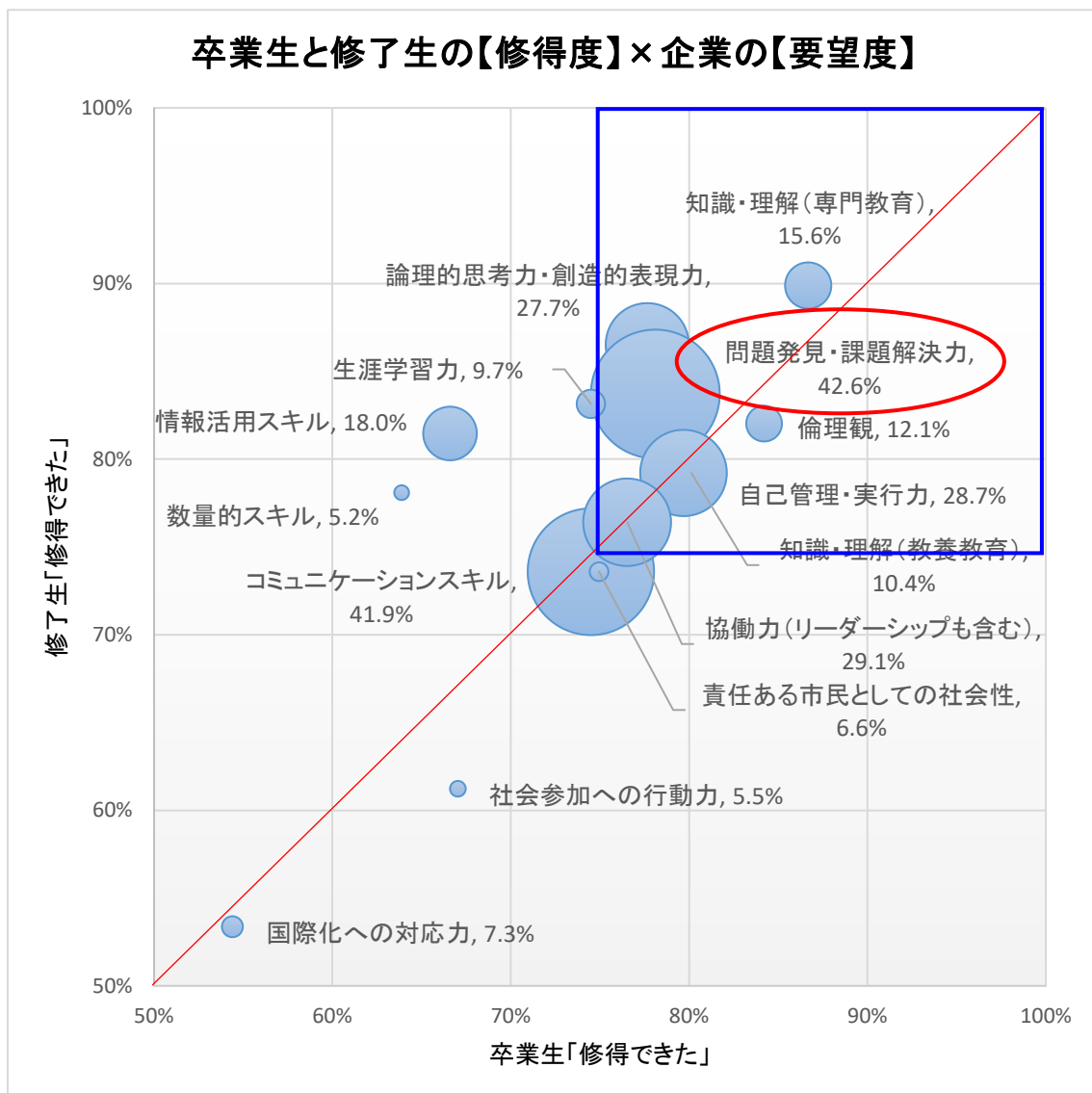
【要望度】企業の評価×大学院修了生の自己評価

- 企業「もっと修得すべき」の選択率と修了生「修得できた」の肯定的回答率の算出方法が異なるため、両者の結果を標準化して比較した結果を示す。
- 修了生の評価が高く、企業が強く要望するのが右上の領域であり、3項目が該当している。特に、「問題発見・課題解決力」は、修了生の結果以上に企業は高いものを求めている。
- 修了生の評価は高いが、企業があまり要望していないのが右下の領域であり、6項目が該当している。
- 修了生の評価が低く、企業が強く要望するのが左上の領域であり、2項目が該当している。特に、「コミュニケーションスキル」は、修了生の結果以上に企業はかなり高いものを求めている。
- 修了生の評価が低く、企業があまり要望していないのが左下の領域であり、3項目が該当している。特に、「国際化への対応力」は、企業としては「社会参加への行動力」や「責任ある市民としての社会性」と同等レベルのものを身につけてほしいと考えている。



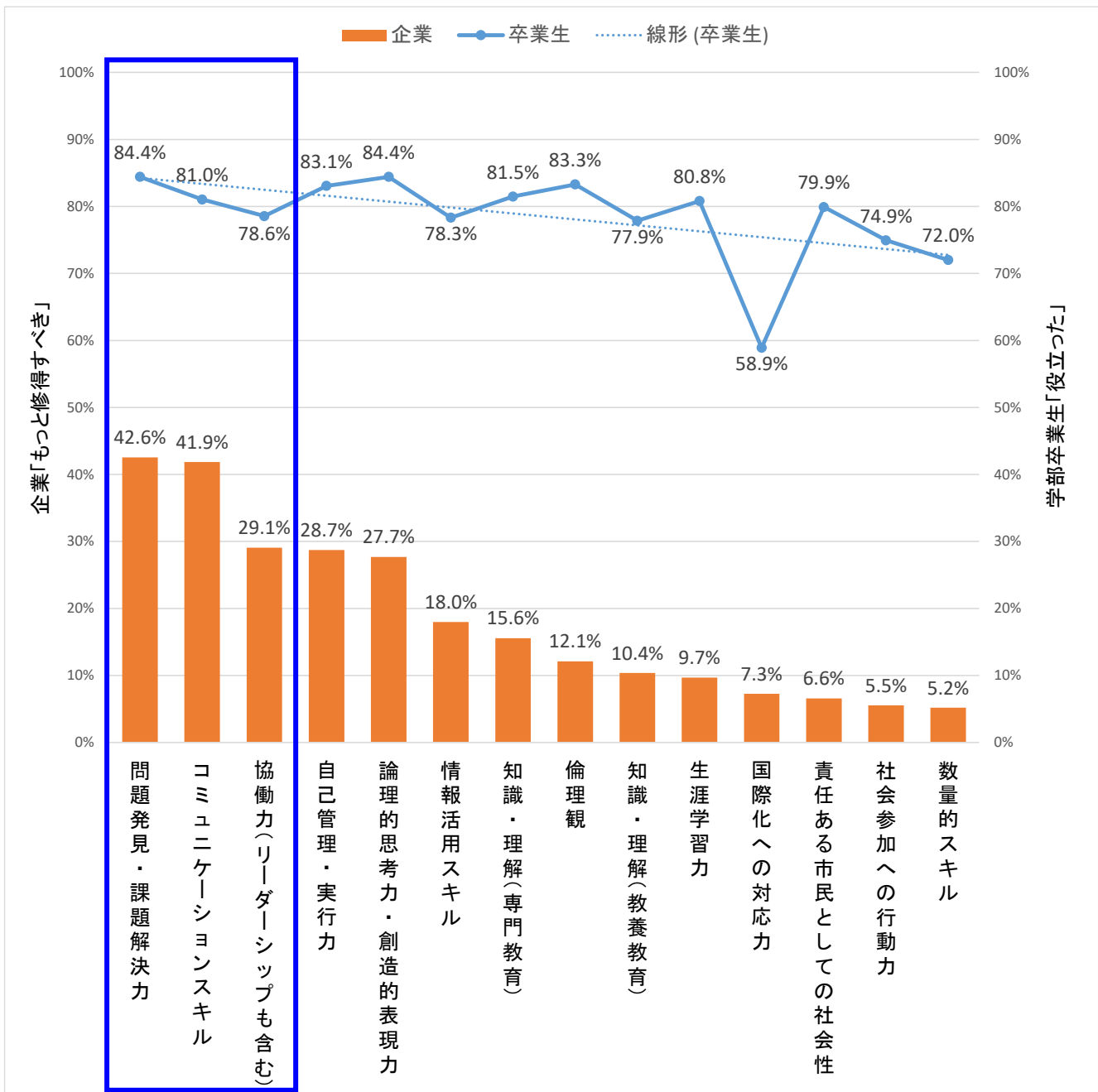
【要望度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価

- DP 能力等（14 項目）の修得度について、卒業生・修了生「修得できた」と企業「もっと修得すべき」の関係性を示す。円の大きさ（数字）は企業の選択率であり、各項目の相関係数は以下のとおりである。
 - 卒業生「修得できた」と修了生「修得できた」：0.76
 - 企業「もっと修得すべき」と卒業生「修得できた」：0.35
 - 企業「もっと修得すべき」と修了生「修得できた」：0.32
- 卒業生と修了生がともに 75%以上の項目は 7 個あり、「論理的思考力・創造的表現力」と「問題発見・課題解決力」については修了生の回答率が高い傾向にあった。
- 本学の学生（卒業生及び修了生）は DP 能力として身につけている（修得している）と思っているが、企業としてはもっと身につけておくべきと最も強く要望している項目は、「問題発見・課題解決力」であった。



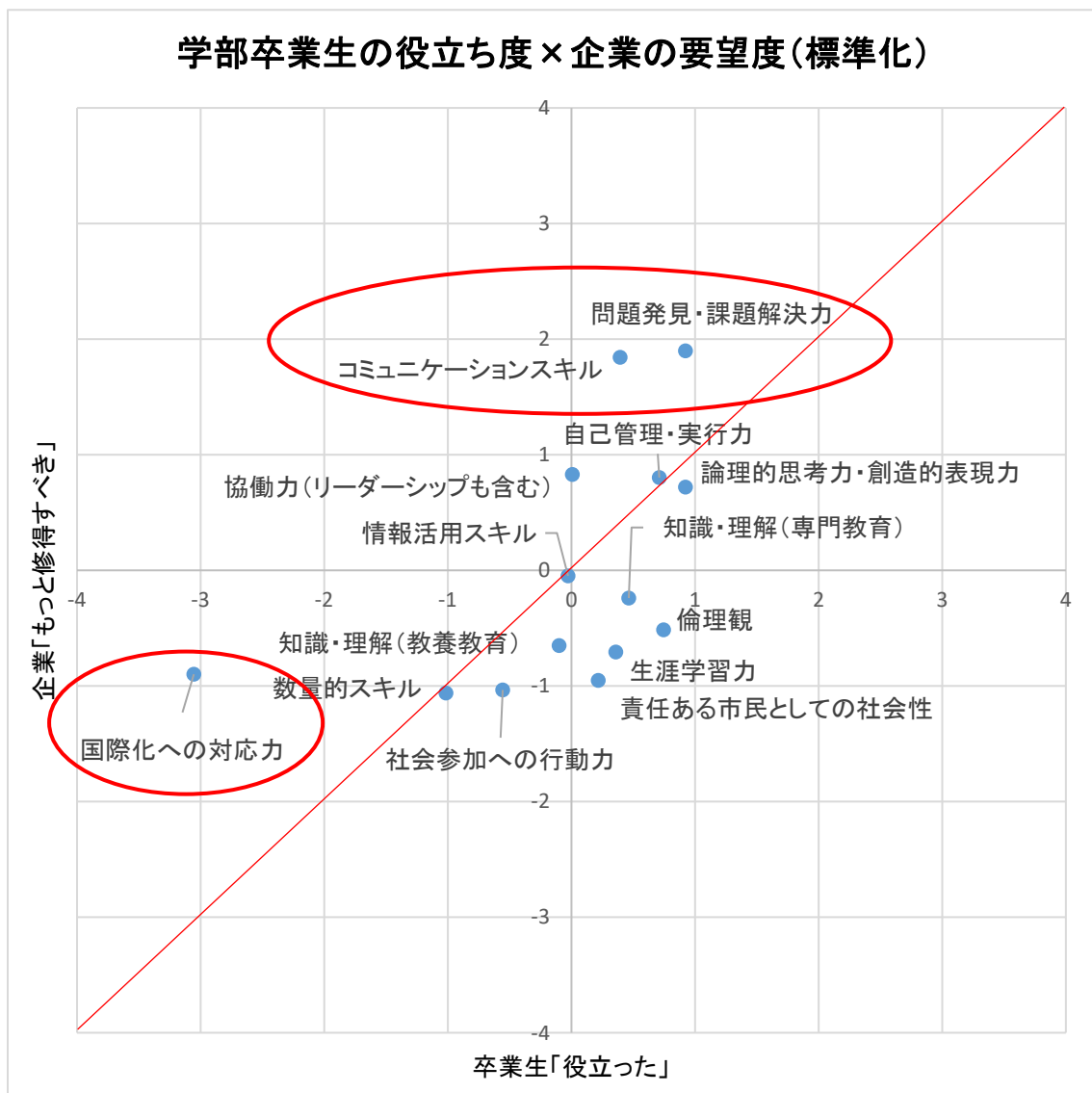
【ギャップ度】企業の評価×学部卒業生の自己評価

- DP能力等（14項目）について、企業「もっと修得すべき」の選択率（棒グラフ：降順）と卒業生「役立った」の肯定的回答率（折れ線グラフ）を示す。
- 企業が「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「問題発見・課題解決力」、「コミュニケーションスキル」と「協働力（リーダーシップを含む）」であるが、卒業生の自己評価では「問題発見・課題解決力」や「コミュニケーションスキル」は同様に高いものの、「協働力（リーダーシップを含む）」に関してはさほど高くはなかった。
- 卒業生の回答では、上記以外に「論理的思考力・創造的表現力」や「倫理観」等の5項目が80%以上と高く、「国際化への対応力」については58.9%であった。



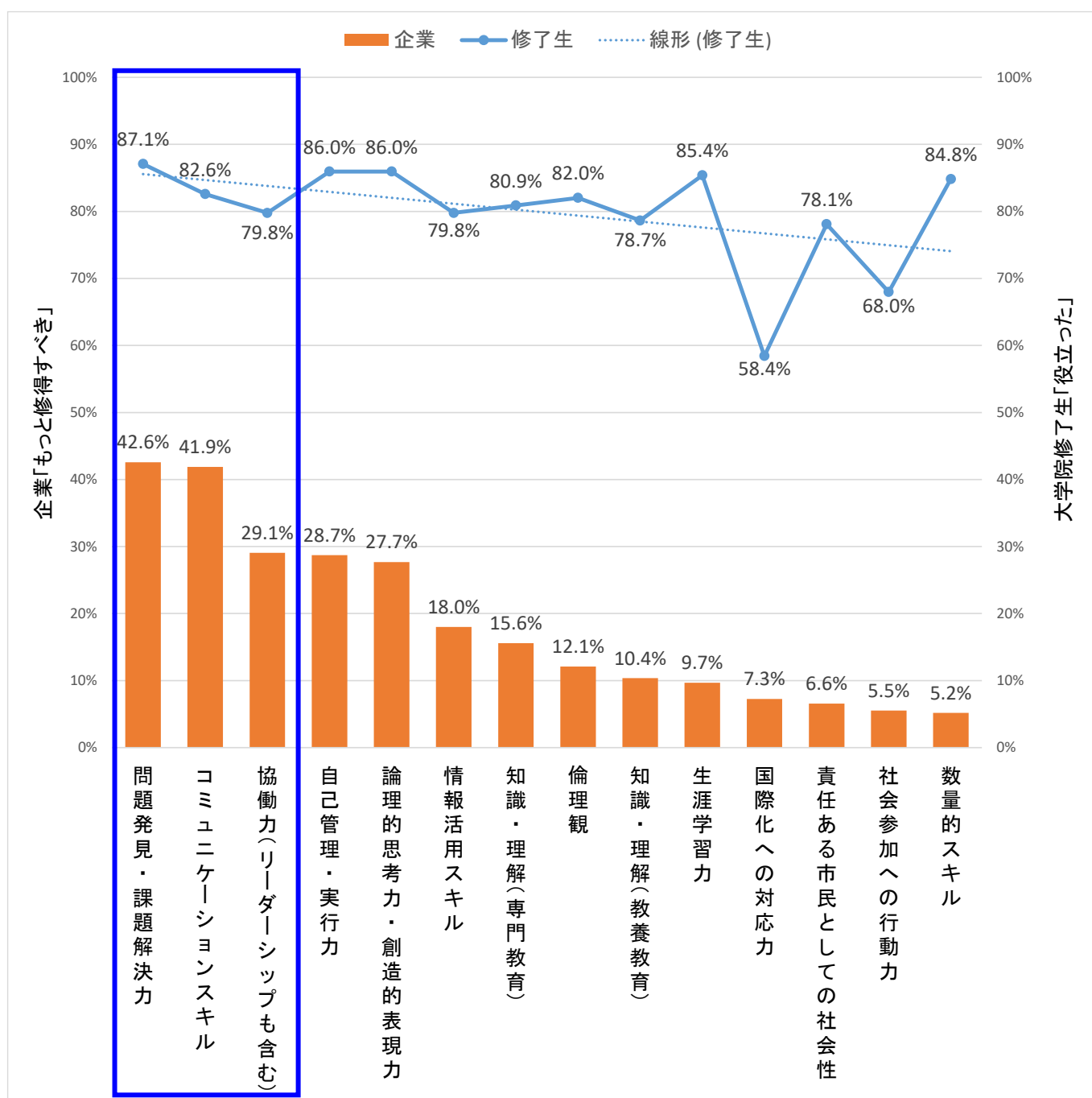
【ギャップ度】企業の評価×学部卒業生の自己評価

- 企業「もっと修得すべき」の選択率と卒業生「役立った」の肯定的回答率の算出方法が異なるため、両者の結果を標準化して比較した結果を示す。
- 卒業生の評価が高く、企業が強く要望するのが右上の領域であり、5項目が該当している。特に、「問題発見・課題解決力」と「コミュニケーションスキル」は、企業としては卒業生の実感よりもう少し高いものを求めている。
- 卒業生の評価は高いが、企業があまり要望していないのが右下の領域であり、4項目が該当している。
- 卒業生の評価が低く、企業があまり要望していないのが左下の領域であり、5項目が該当している。特に、「国際化への対応力」は、卒業生が企業において活かす場面が少ないからとも考えられるが、企業としては少し足りていないと考えている。



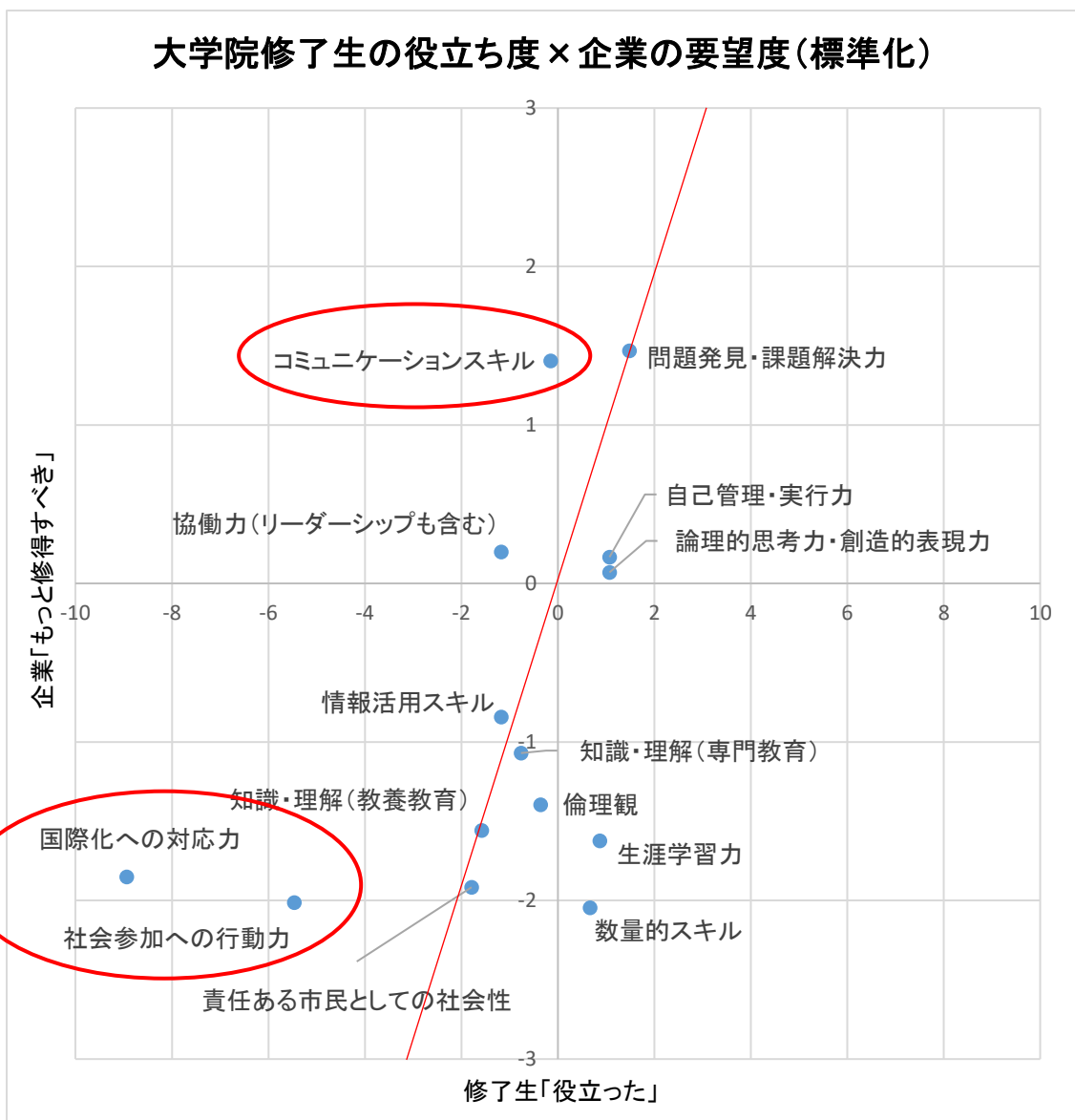
【ギャップ度】企業の評価×大学院修了生の自己評価

- DP能力等（14項目）について、企業「もっと修得すべき」の選択率（棒グラフ：降順）と修了生「役立った」の肯定的回答率（折れ線グラフ）を示す。
- 企業が「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「問題発見・課題解決力」、「コミュニケーションスキル」と「協働力（リーダーシップを含む）」であるが、修了生の自己評価では「問題発見・課題解決力」は同様に高いものの、それ以外に関してはさほど高くはなかった。
- 修了生の回答では、上記以外に「自己管理・実行力」、「論理的思考力・創造的表現力」等の6項目が80%以上と高く、「社会参加への行動力」と「国際化への対応力」については70%未満であった。



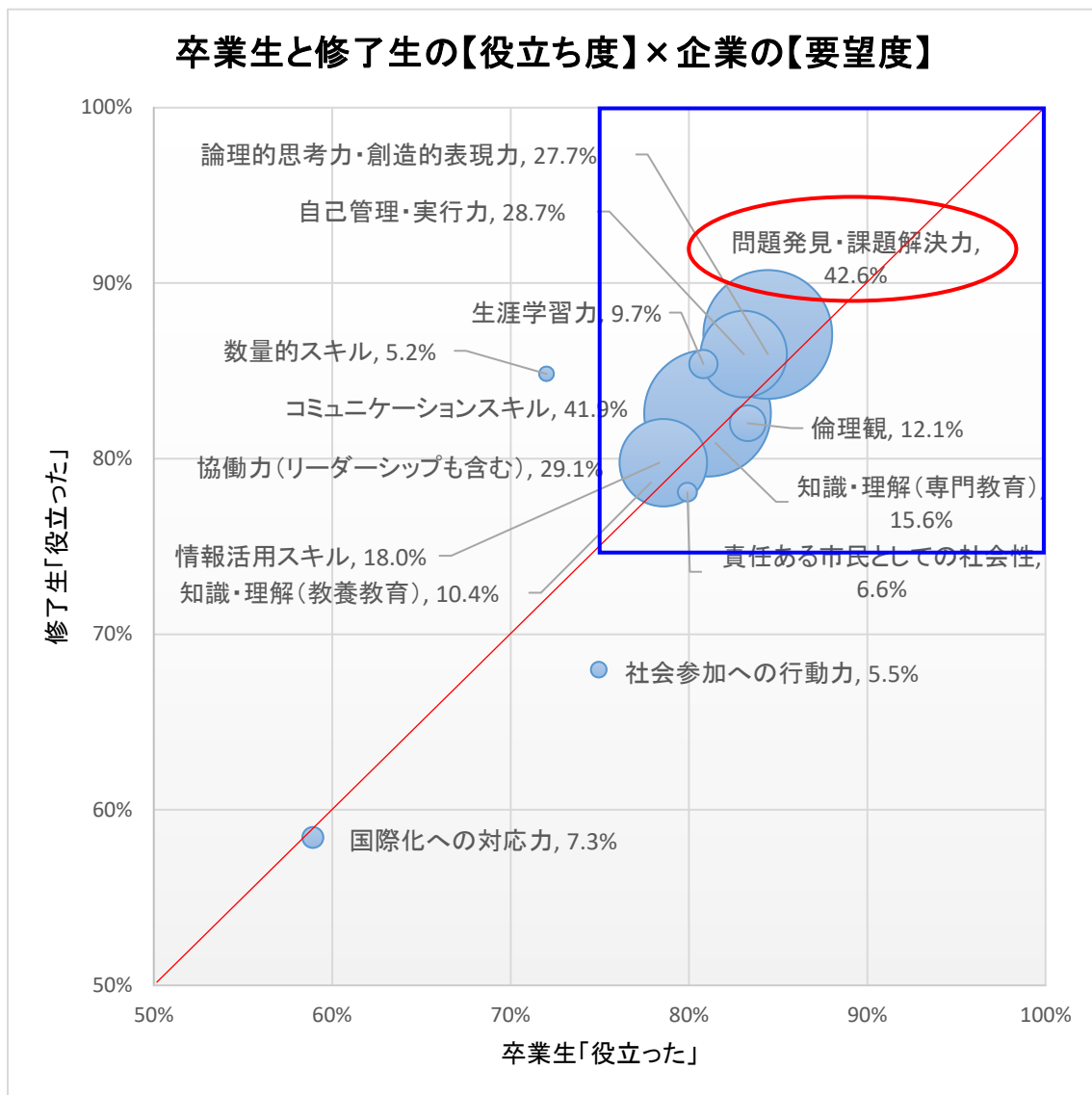
【ギャップ度】企業の評価×大学院修了生の自己評価

- 企業「もっと修得すべき」の選択率と修了生「役立った」の肯定的回答率の算出方法が異なるため、両者の結果を標準化して比較した結果を示す。
- 修了生の評価が高く、企業が強く要望するのが右上の領域であり、3項目が該当している。
- 修了生の評価は高いが、企業があまり要望していないのが右下の領域であり、2項目が該当している。
- 修了生の評価は低く、企業が強く要望するのが左上の領域であり、2項目が該当している。特に、「コミュニケーションスキル」は、修了生はそこそこ役立っていると思っているが、企業としてはもう少しレベルアップを求めている。
- 修了生の評価が低く、企業があまり要望していないのが左下の領域であり、7項目が該当している。特に、「国際化への対応力」や「社会参加への行動力」は、修了生がほとんど役立っていないと思っているが、企業は修了生が思っている以上のレベルを求めている。



【ギャップ度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価

- DP 能力等（14 項目）の修得度について、卒業生・修了生「役立った」と企業「もっと修得すべき」の関係性を示す。円の大きさ（数字）は企業の選択率であり、各項目の相関係数は以下のとおりである。
 - 卒業生「役立った」と修了生「役立った」：0.84
 - 企業「もっと修得すべき」と卒業生「役立った」：0.52
 - 企業「もっと修得すべき」と修了生「役立った」：0.49
- 卒業生と修了生がともに 75%以上の項目は 11 個あり、「生涯学習力」、「自己管理・実行力」と「問題発見・課題解決力」については修了生の回答率が高い傾向にあった。
- 本学の学生（卒業生及び修了生）は DP 能力として社会で役立っている（役立った）と思っているが、企業としてはもっと身につけておくべきと最も強く要望している項目は、「問題発見・課題解決力」であった。



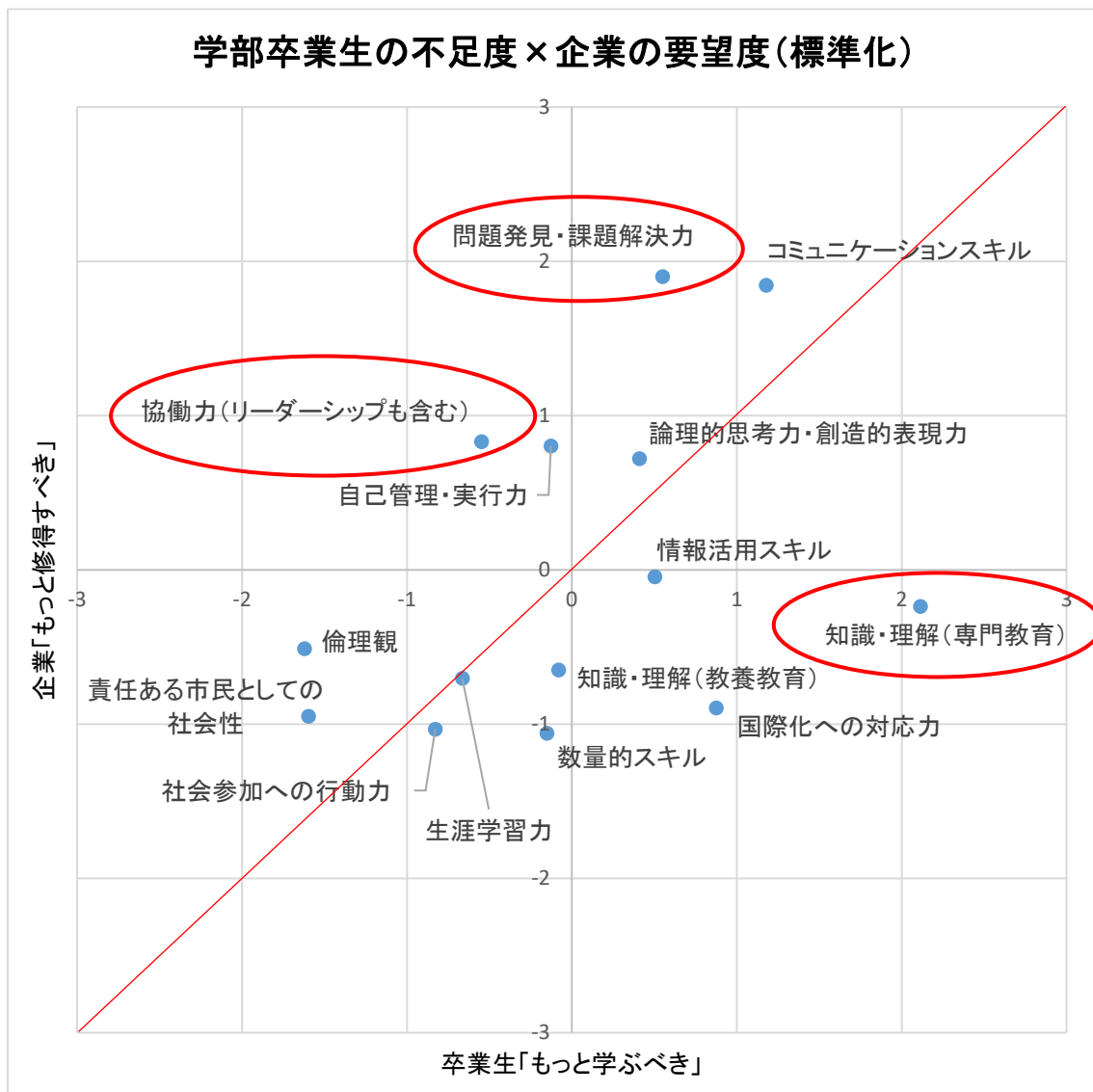
【不足度】企業の評価×学部卒業生の自己評価

- DP能力等（14項目）について、企業「もっと修得すべき」の選択率（棒グラフ：降順）と卒業生「もっと学ぶべき」の肯定的回答率（折れ線グラフ）を示す。
- 企業が「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「問題発見・課題解決力」、「コミュニケーションスキル」と「協働力（リーダーシップを含む）」であるが、卒業生の自己評価では「コミュニケーションスキル」は同様に高いものの、「協働力（リーダーシップを含む）」に関しては低かった。
- 卒業生の回答では、上記以外に「知識・理解（専門教育）」が40.2%と高く、「倫理観」と「責任ある市民としての社会性」については10%未満であった。



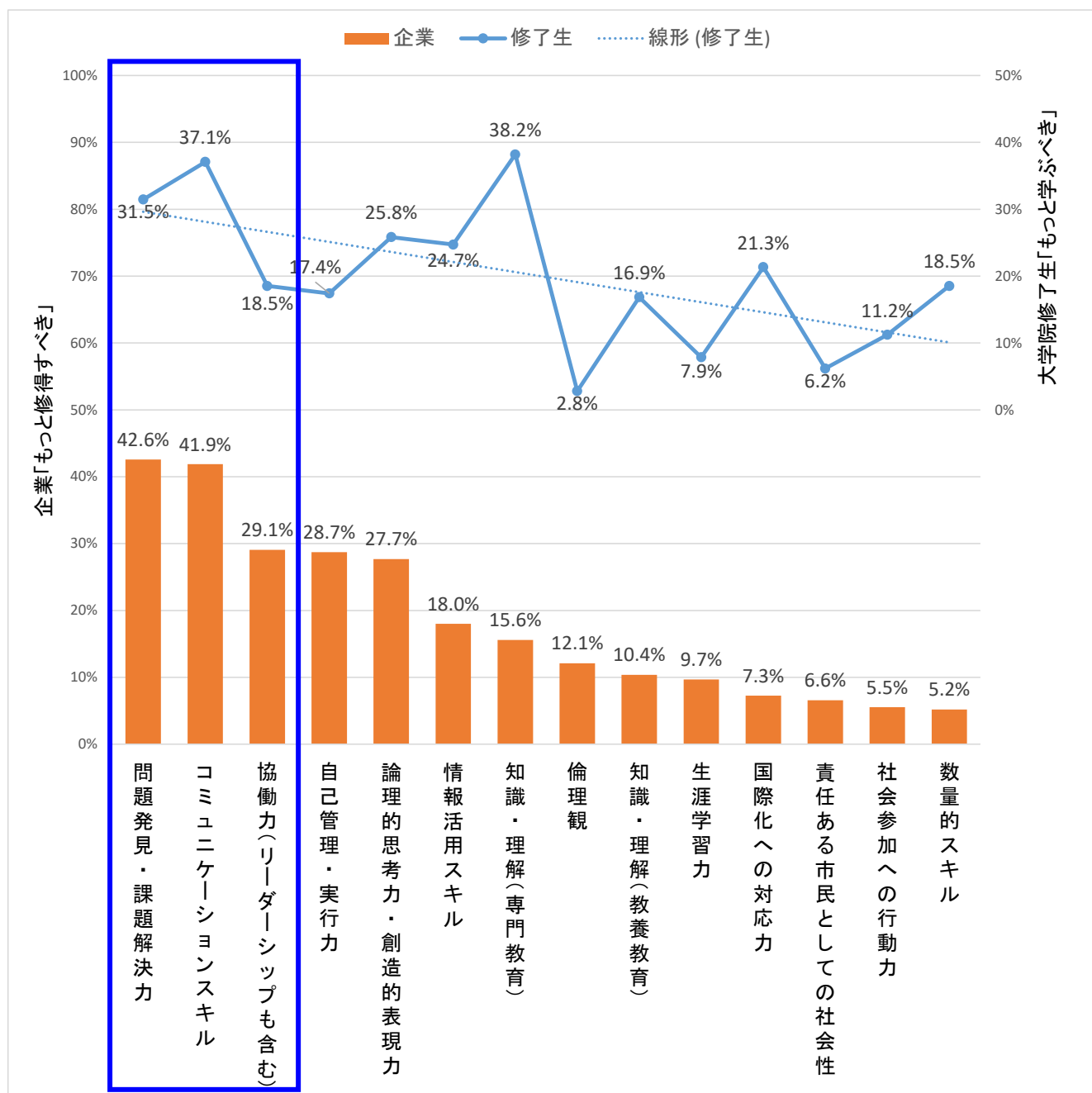
【不足度】企業の評価×学部卒業生の自己評価

- 企業「もっと修得すべき」の選択率と卒業生「もっと学ぶべき」の肯定的回答率の算出方法が異なるため、両者の結果を標準化して比較した結果を示す。
- 卒業生の後悔と企業の要望が強いのが右上の領域であり、3項目が該当している。特に、「問題発見・課題解決力」は、両者の認識は一致しているが、企業としては更なる向上を求めている。
- 卒業生の後悔は強いが、企業の要望はあまり強くないのが右下の領域であり、3項目が該当している。特に、「知識・理解（専門教育）」は、卒業生は勉強不足と思っているが、企業としては現在のレベルで十分であると考えていると推察される。
- 卒業生の後悔は強くないが、企業が強く要望するのが左上の領域であり、2項目が該当している。特に、「協働力（リーダーシップも含む）」は、卒業生はあまり重視していないものの、企業としてはある程度のレベルを求めている。
- 卒業生の後悔も企業の要望も強くないのが左下の領域であり、6項目が該当している。



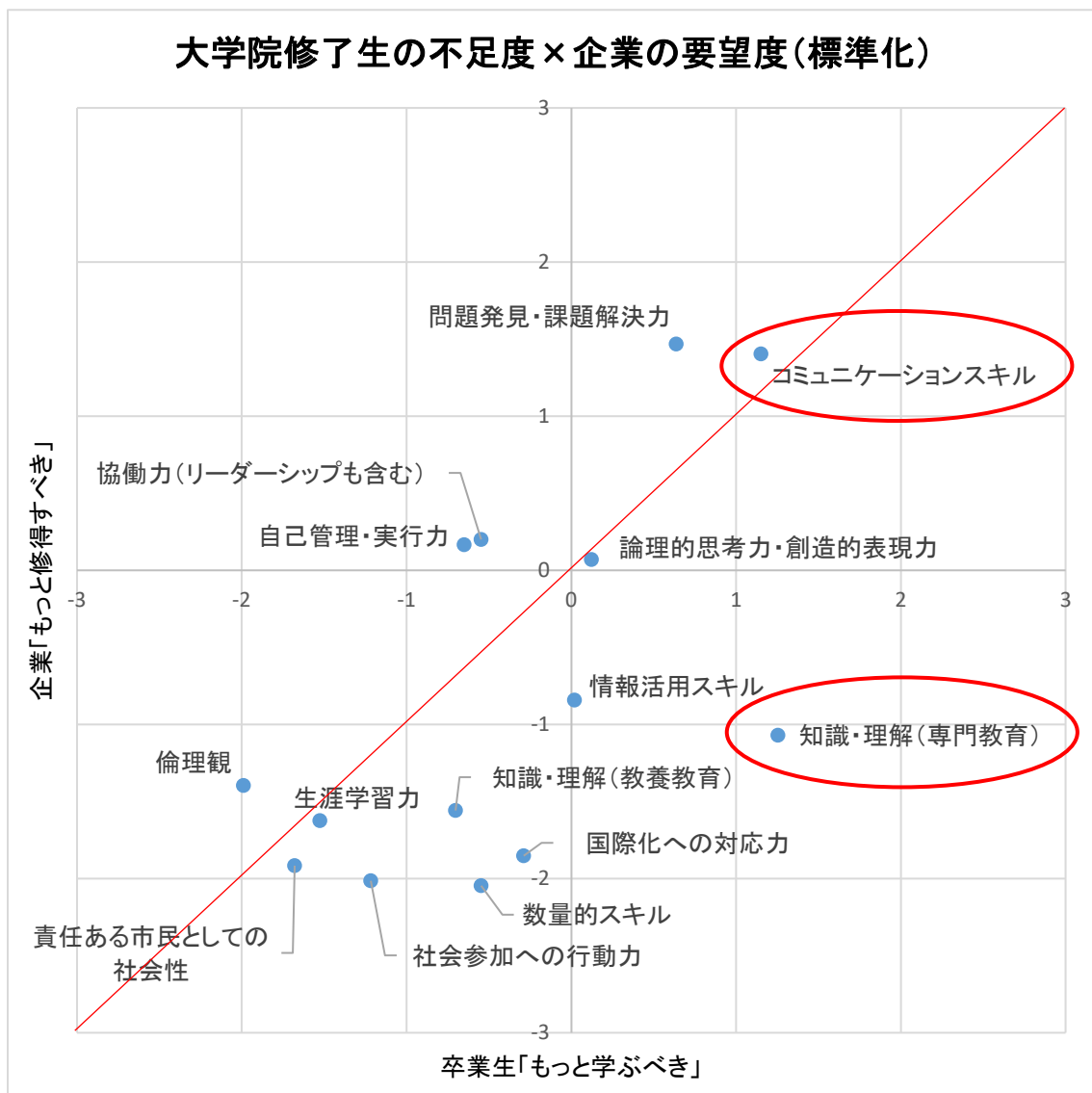
【不足度】企業の評価×大学院修了生の自己評価

- DP能力等（14項目）について、企業「もっと修得すべき」の選択率（棒グラフ：降順）と修了生「もっと学ぶべき」の肯定的回答率（折れ線グラフ）を示す。
- 企業が「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「問題発見・課題解決力」、「コミュニケーションスキル」と「協働力（リーダーシップを含む）」であるが、修了生の自己評価では「コミュニケーションスキル」と「問題発見・課題解決力」は同様に高いものの、「協働力（リーダーシップを含む）」に関してはさほど高くなかった。
- 修了生の回答では、上記以外に「知識・理解（専門教育）」が38.2%と高く、「倫理観」、「責任ある市民としての社会性」と「生涯学習力」については10%未満であった。



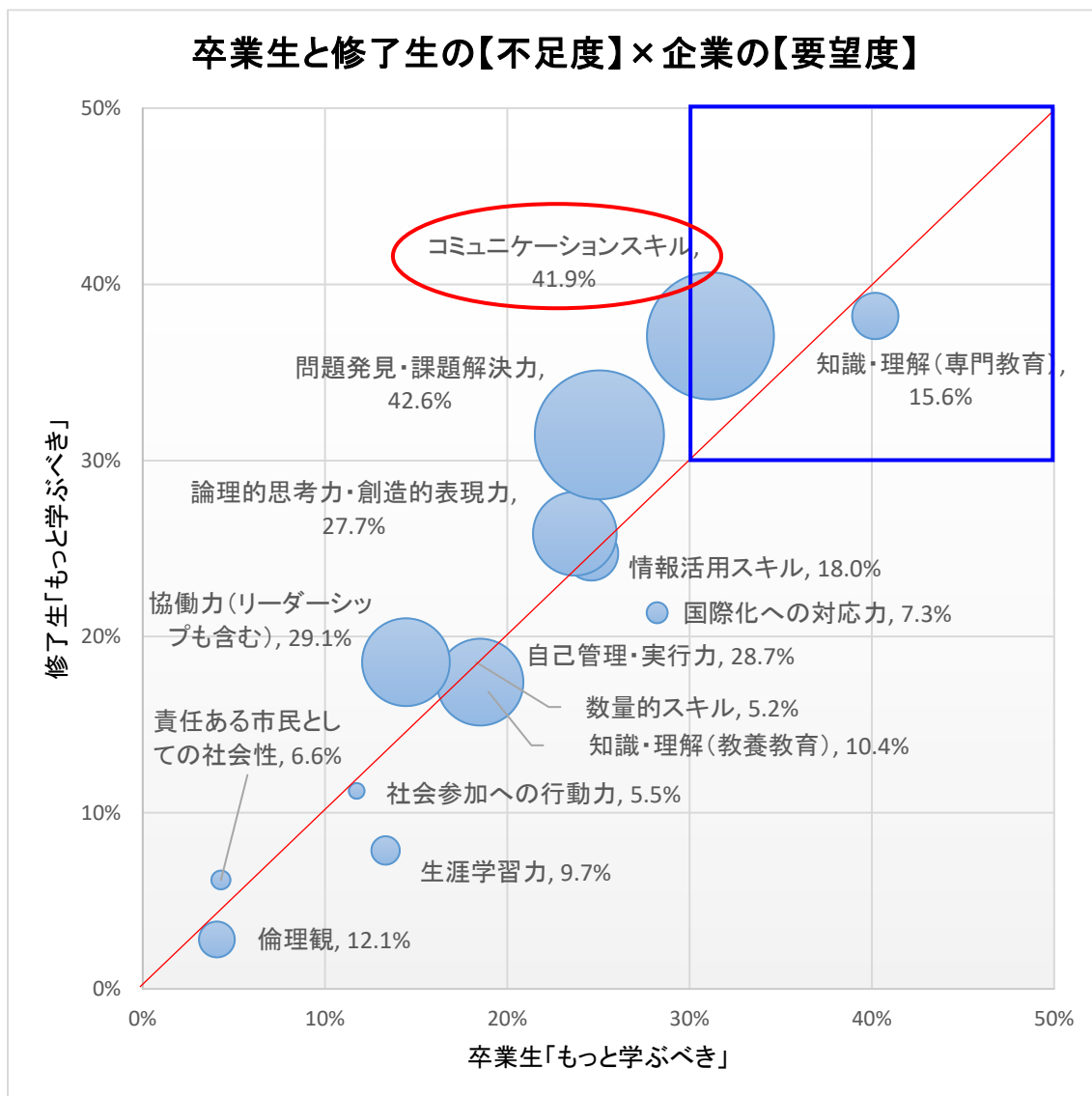
【不足度】企業の評価×大学院修了生の自己評価

- 企業「もっと修得すべき」の選択率と修了生「もっと学ぶべき」の肯定的回答率の算出方法が異なるため、両者の結果を標準化して比較した結果を示す。
- 修了生の後悔と企業の要望が強いのが右上の領域であり、3項目が該当している。特に、「コミュニケーションスキル」は、両者の認識は一致している。
- 修了生の後悔は強いが、企業の要望はあまり強くないのが右下の領域であり、2項目が該当している。特に、「知識・理解（専門教育）」は、企業としてはあまり重視していないと考えられる。
- 修了生の後悔は強くないが、企業が強く要望するのが左上の領域であり、2項目が該当している。
- 卒業生の後悔も企業の要望も強くないのが左下の領域であり、7項目が該当している。



【不足度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価

- DP 能力等（14 項目）の修得度について、卒業生・修了生「もっと学ぶべき」と企業「もっと修得すべき」の関係性を示す。円の大きさ（数字）は企業の選択率であり、各項目の相関係数は以下のとおりである。
 - 卒業生「役立った」と修了生「役立った」：0.94
 - 企業「もっと修得すべき」と卒業生「役立った」：0.39
 - 企業「もっと修得すべき」と修了生「役立った」：0.62
- 卒業生と修了生がともに 30%以上の項目は 2 個あり、「コミュニケーションスキル」については修了生の回答率が高い傾向にあった。
- 本学の学生（卒業生及び修了生）は DP 能力としてもっと学んでおけば良かった（もっと学ぶべき）と思っており、企業としてももっと身につけておくべき（もっと修得すべき）と最も強く要望している項目は、「コミュニケーションスキル」であった。



第VI部

まとめ

まとめ

本学の各学部・研究科が実施している教育活動に対する客観的評価を得ることを目的として、平成30年3月から令和2年3月までの期間の学部卒業生、大学院修了生を対象に、また当該期卒業生・修了生の就職先企業を対象に、令和2年度末（令和3年3月）に「鳥取大学の教育力」に関するアンケート調査を実施した。それぞれの詳細な調査結果については、第Ⅰ部から第Ⅴ部の報告をご覧くださいと、ここでは、今回調査結果の概要、平成29年度実施の前回調査との比較結果について述べることにする。

1. 学部卒業生に対する調査結果

総合的な満足度に関する設問：

「鳥取大学の教育内容に対する全体的な満足度」については、全学で85%が肯定的回答を行い、学部別では地域学部92%、医学部90%、工学部76%、農学部66%であった。「大学教育の卒業後の仕事や生活への役立ち度」については、全学で79%が肯定的回答を行い、学部別では医学部が最も多く91%で、次いで地域学部86%、農学部73%、工学部72%であった。地域学部、農学部は「全体的な満足度」「役立ち度」ともに「非常にそう思う」の回答が20%以上と他学部 비해、若干高かった。「高校生に対する本学受験の推奨度」については、全学で79%が肯定的回答を行い、学部別では医学部87%、地域学部84%と2学部で8割を超え、農学部79%、工学部71%であった。

教育・研究の充実度に関する設問：

大学の教育・研究の充実度に関する14項目の全てにおいて4割以上の肯定的回答を得た。肯定的回答が最も多かった項目は「専門教育が充実していた」で88%、最も少なかった項目は「著名な教授・講師が多かった」で44%であった。14項目中、「非常にそう思う」が2割を超える項目は、「教員との交流が多かった」（30%）、「専門教育が充実していた」（26%）、「少人数による指導が受けられた」（25%）の3項目だった。

詳しく見ていくと、「教養教育の充実」については、全学では約8割が肯定的回答、一番少ない医学部でも76%であった。「専門教育の充実」については、農学部94%、医学部約9割の肯定的回答、工学部と地域学部でも8割を超える肯定的回答で、全学的に専門教育が充実していたという結果であった。「外国語学習に積極的だった」については農学部、地域学部では6割の肯定的回答であるのに対し、医学部38%、工学部43%と低い肯定的回答であった。「工夫され勉強しやすいカリキュラム」については、全学で63%の肯定的回答で、地域学部が8割の肯定的回答で、医学部66%、農学部58%、工学部55%の肯定的回答であった。「参加型・プロジェクト型の実践教育に注力」については学部間の差が大きく、地域学部は75%、農学部・医学部・工学部は6割を下回る未達の肯定的回答だった。「少人数による指導が受けられた」については学部間で差が見られ、肯定的回答率は、地域学部で8割を超え最多、農学部70%、医学部63%、工学部で約5割だった。「教員との交流が多かった」についても学部間の差があり、地域学部で約8割、農学部で約7割、医学部で約6割、工学部で5割未満の肯定的回答だった。「学習意欲が湧く授業が多かった」について、全学では65%が肯定的回答であるが、地域学部と農学部で7割超、次いで医学部が69%の肯定的回答で、工学部は53%と低めの肯定的回答であった。「他学部の授業が選択できた」について、地域学部で53%、農学部で47%、工学部で45%、医学部では39%の肯定的回答であった。「学習面での施設・設備が充実していた」について、各学部約7割の肯定的回答であった。医学部が最も多く75%、地域学部で70%であり、学部間で大きな差はなかった。「著名な教授・講師が多かった」について、地域学部のみが3割台の肯定的回答であったが、全学平均では約4割5分が肯定的回答をしている。「学術面での研究

業績が優れていた」について、全学では63%で、全学部でも6割を超える肯定的回答であった。農学部が一番多く67%であり、学部間で大きな差はなかった。「産学共同研究で実績が豊富だった」に関して、全学で46%、農学部53%、地域学部で52%、工学部で42%であり、各学部で4割から5割台の肯定的回答であった。「研究面での施設・設備が充実していた」については、学部間でやや差がみられる。工学部と農学部は約7割の肯定的回答であったが、地域学部では約6割、医学部では54%と低めの肯定的回答であった。

交流活動・支援体制の充実度に関する設問：

「大学の交流活動・サポート体制に対する肯定的回答」について問うた9項目のうち、肯定的回答の多い順でみると「クラブ・サークル活動が盛んだった」(74%)が最も多く、最も少なかったのは、「IT活用教育に熱心だった」

(20%)だった。「就職活動の支援体制」と「海外留学制度」の充実度、「地域社会との交流」と「国際交流」の活発さに関しては約6割の肯定的回答であった。「地域社会との交流が盛んだった」について、地域学部が圧倒的に高く85%を超える肯定的回答であった。医学部で約6割、農学部で54%、工学部では5割未満であった。「国際交流が活発だった」について、全学では59%の肯定的回答であった。地域学部と農学部では約7割5分だったが、医学部と工学部では低く約4割5分の肯定的回答であった。「クラブ・サークル活動が盛んだった」について、全学で74%の肯定的回答であった。医学部で最も多く84%で、農学部で最も少なく65%であった。「学外学習による職業体験や社会体験が多かった」に関しては、学部間で差がみられ、地域学部では約6割5分で一番多く、工学部では約3割で一番少なかった。医学部と農学部では5割未満であった。「資格取得のサポートに積極的だった」について、医学部で最も多く58%の肯定的回答であった。地域学部と農学部では4割を超え、工学部では4割を少し下回った。「IT活用教育に熱心だった」について、全学的に約2割と肯定的回答が低く、工学部では27%だったものの、地域学部、医学部、農学部では、2割を下回った。「海外留学制度が充実していた」に関しては、学部間で差が見られた。地域学部で最も多く75%が肯定的回答で、農学部で7割弱、工学部で6割強、医学部で最も少なく38%であった。「学生生活の支援体制が充実していた」について、全学平均が68%、地域学部で最も多く72%、工学部で最も少なく64%であった。「就職活動の支援体制が充実していた」に関しては、全学では62%の肯定的回答であった。地域学部と工学部の2学部では約6割5分、医学部と農学部では約5割5分の肯定的回答であった。

大学での教育・学生生活を通じて修得したDP能力に関する設問：

大学での教育・学生生活を通じて修得したDP能力14項目の中で、「知識・理解（専門教育）」(87%)が最も高い修得度だった。「倫理観」と「知識・理解（教養教育）」で8割を超える肯定的回答であった。「自己管理・実行力」「問題発見・課題解決力」「論理的思考力・創造的表現力」「協同力」「責任ある市民としての社会性」「コミュニケーションスキル」「生涯学習力」の7項目で7割台の肯定的回答であった。6割台の肯定的回答は「社会参加への行動力」「情報活用スキル」「数量的スキル」の3項目で、「国際化への対応力」は54%であった。

詳しく見ていくと、「知識・理解（教養教育）」について、全学で約8割の高い肯定的回答率であった。地域学部で最も多く84%、工学部で最も少なく76%であった。「知識・理解（専門教育）」についても全学平均で8割5分を超える肯定的回答であった。特に医学部では93%と高い肯定的回答であった。他の3学部でも8割を超える肯定的回答であった。「コミュニケーションスキル」について、医学部では8割を超える肯定的回答であった。地域学部と農学部で約8割弱、工学部では64%と低めの回答であった。「数量的スキル」について、全学で64%の肯定的回答であった。全ての学部において、6割台の肯定的回答であった。「情報活用スキル」について、全学で67%の肯定的回答であった。工学部で70%、医学部で69%、地域学部で64%、農学部で63%であった。「論理的思考力・創造的

表現力」では、地域学部、医学部、農学部の3学部で8割近い肯定的回答であった。工学部では74%であった。「問題発見・課題解決力」について、全学で78%の肯定的回答であった。地域学部と医学部では8割を超え、農学部では78%、工学部では73%であった。「自己管理・実行力」について、医学部で87%と高い肯定的回答率であった。農学部で80%、地域学部では78%、工学部で75%であった。「生涯学習力」について、全学で75%の肯定的回答であった。医学部で約8割、地域学部で77%、農学部では76%、工学部では68%と低めの肯定的回答であった。「協働力（リーダーシップも含む）」について、全学平均では77%の肯定的回答率であった。地域学部と医学部では約83%であったが、農学部では75%、工学部では69%であった。「倫理観」について、地域学部では約9割の肯定的回答であった。医学部では88%、工学部では81%、農学部では80%であった。「責任ある市民としての社会性」について、全学平均は75%であった。地域学部で最も多く、87%の肯定的回答であった。医学部で75%、工学部では72%、農学部では70%であった。「国際化への対応力」について、全学で54%の肯定的回答であった。農学部が一番多い64%の回答で、次いで地域学部の59%、医学部と工学部とともに5割未満の肯定的回答となった。「社会参加への行動力」に関しては、学部間で差が見られた。地域学部で最も多く87%の肯定的回答であった。農学部では約7割、医学部では65%、工学部が一番少なく、54%となった。

社会に出て教育成果として役立った DP 能力に関する設問：

社会に出て教育成果として役立った DP 能力は、「大変役だった」「ある程度役だった」を合計すると、「問題発見・課題解決力」「論理的思考力・創造的表現力」がともに84%で最も高く、「倫理観」（83%）、「自己管理・実行力」（83%）、「知識・理解（専門教育）」（82%）、「コミュニケーションスキル」「生涯学習力」（ともに81%）、「以上の能力について、80%以上の卒業生が役に立った」と回答している。逆に低いのは「国際化への対応力」（59%）であり、41%の卒業生が役に立たなかったと回答している。

詳しく見ていくと、「知識・理解（教養教育）」に関しては、全学で卒業生の78%が役に立ったとしている。学部別では地域学部が83%で最も高く、次いで医学部が80%、工学部・農学部は概ね75%となっている。「知識・理解（専門教育）」に関しては、全学で卒業生の82%が役に立ったとしており、教養教育の知識・理解より高い。なかでも医学部は94%となっており、他の3学部も概ね78%程度の水準となっている。なお工学部では「大変役立った」が1割程度にとどまっている。「コミュニケーションスキル」については、全学の81%が役だったと回答している。学部別では地域学部が88%、医学部が87%で高く、工学部が73%で最も低くなっている。農学部は80%で平均並みだが、「大変役立った」は地域学部とともに30%を超えている。「数量的スキル」については、全学の72%が役だったと回答している。学部別では工学部が76%で最も高く、医学部が73%で続く。文系を含む地域学部が67%で最も低いが、理系の農学部でも69%にとどまっている。「情報活用スキル」については、全学では78%、学部別では地域学部・医学部・工学部とも概ね80%前後で大差が無いが、農学部では73%となっており、やや低い。なお「大変役立った」だけを見れば、医学部が7%で他の学部の半分程度にとどまっている。「論理的思考力・創造的表現力」については、全学では能力別で最も高い84%を示し、各学部とも概ね85%前後の高い水準を示す。なお「大変役立った」の割合はやはり医学部で最も低い。「問題発見・課題解決力」については、全学で能力別では最多となる84%の卒業生が役立ったと回答しているが、学部別では医学部が88%で最も高いが、地域学部も87%、農学部も85%で高く、最も低い工学部でも80%に達する。「自己管理・実行力」については、全学で83%、学部別では地域学部が88%で最も高いが、医学部も86%、農学部も83%で続いており、工学部が78%で最も低くなっている。「生涯学習力」については、全学で81%の卒業生が役立ったと回答しており、学部別では地域学部が9割近い89%で最も高くなっており、以下、医学部84%、農学部79%、工学部74%と続いている。「協働力（リーダーシップも含

む) については、全学では79%の卒業生が役立ったと回答しており、学部別では地域学部が88%で最も高いが、医学部も85%で高く、工学部・農学部では70%程度にとどまっている。「倫理観」については、全学で卒業生の83%が役だったと回答しており、学部別では生命にかかわる医学部が89%で最も高いが、地域学部も88%と高く、最も低い農学部でも77%に達している。「責任ある市民としての社会性」については、全学では80%の卒業生が役だったと回答しており、学部別では地域社会の問題を扱う地域学部が89%で最も高く、以下、医学部83%、工学部78%、農学部73%で続いている。「国際化への対応力」に関しては、全学で6割未満の59%が役に立ったと回答するにとどまっている。そのなかで最も高いのは地域学部であるが、それでも66%の水準にとどまる。最も低いのは工学部で55%、医学部・農学部も6割未満となっている。「社会参加への行動力」については、全学で75%、学部別では地域学部が9割近い89%で突出しており、医学部が80%、農学部が74%で続き、工学部が63%で最も低い。

「修得度」と学修成果としての「役立ち度」を比較すると、概ね両者には相関関係が認められる。また全体として、多くの能力で「修得度」を「役立ち度」が上回り、修得した以上に役立ったと考えられているが、逆に「知識・理解」（専門・教養教育とも）・「倫理観」については「修得度」が「役立ち度」をやや上回っており、修得したほどには役立っていないようである。

「在学中にもっと学んでおけば良かったと思うDP能力」としては、全学平均では「知識・理解」（専門教育）が40%で最も高く、また「国際化への対応力」が28%で次ぐ。このうち「知識・理解」（専門教育）は、修得度では、全学の87%が「十分」・「ある程度」修得したと回答しているので、高い修得度に飽き足らずに、さらになお専門教育を深めたい意識が強いといえるが、「国際化への対応力」については、全学で最低の54%しか修得したと回答しておらず、低い修得度への自覚がもっと学んでおけば良かったという後悔につながっていると思われる。なお「倫理観」・「責任ある市民としての社会性」がともに5%未満で最も低くなっている。

学部別で見ると、地域学部では「論理的思考力・創造的表現力」、工学部では「コミュニケーションスキル」、農学部では「数量的スキル」・「情報活用スキル」において、他の3学部より高い回答を示している。

2. 平成29年度実施のアンケート調査結果との比較

前回の平成29年度調査と今回の令和2年度調査を比較すると、「総合的な満足度」については、「全体として満足」の肯定的な回答率が86%から85%へとわずかに下落しているものの、「卒業後に役立っている」は74%から80%へと、また「受験を高校生に薦めたい」は78%から80%へと、いずれも上昇している。なお、前々回の平成24年度調査から、前回の平成29年度調査にかけては、これら3項目の全てで上昇しており、満足度は着実に上昇する傾向にあるが、「全体として満足」は伸び悩んでいるようにも見える。「教育・研究の充実度」については、前回平成29年度調査から今回令和2年度調査にかけて、ほぼ全ての項目で肯定的回答率が上昇している。唯一下降しているのは、「著名な教授が多い」の項目で、45%から44%へと下降しているが、この項目はそもそも肯定的回答率の割合が全体のなかで低い。なお前々回平成24年度調査から前回平成29年度調査にかけては、「教員との交流が多い」、「他学部の授業が選択できた」が下落していたが、今回いずれも上昇に転じた。

3. 大学院修了生に対する調査結果

教育・研究の充実度に関する設問：

全学では、大学院での教育・研究の充実度に関する 5 項目のうち、肯定的回答率の高い順に「研究指導の充実」が 1 位(82%)、「授業内容の充実」が 2 位(78%)となった。一方、「産学共同研究で実績が豊富だった」は最も低かった(46%)。地域学専攻では、「研究指導の充実」が 1 位(90%)、「授業内容の充実」が 2 位(80%)だった。「学術面での研究業績が優れていた」と「産学共同研究で実績が豊富だった」(50%) が最も低かった。工学専攻では、肯定的回答率は「研究指導の充実」と「授業内容の充実」が 1 位(81%)だった。一方、「産学共同研究で実績が豊富だった」は最も低かった(43%)。農学専攻では「研究指導の充実」が 1 位(86%)、「研究の施設や設備・装置の充実」が 2 位(77%)だった。「産学共同研究で実績が豊富だった」が最も低かった(50%)。国際乾燥地科学専攻では、肯定的回答率が「研究指導の充実」と「研究の施設や設備・装置の充実」で 100%であり、全ての項目で 8 割以上だった。医学系研究科では、「研究指導の充実」が 1 位(74%)、「研究の施設や設備・装置の充実」と「授業内容の充実」が 2 位(72%) だった。「産学共同研究で実績が豊富だった」が最も低く 39%だった。「カリキュラムについて、授業内容は充実していた」に対して、全学では 78%の肯定的回答率だった。国際乾燥地科学専攻で約 9 割、続いて工学専攻と地域学専攻で約 8 割、医学系研究科で約 7 割、農学専攻で 64%だった。「研究室における研究指導は充実していた」に対しては、全学での肯定的回答率は 82%だった。国際乾燥地科学専攻で 100%、地域学専攻で 90%、農学専攻で 86%、工学専攻で 81%、医学系研究科で 74%だった。「研究の施設や設備・装置は充実していた」に対して、肯定的回答率は全学で 74%だった。国際乾燥地科学専攻で 10 割、農学専攻(77%)、工学専攻(73%)、医学系研究科(72%)で 7 割台、地域学専攻で 6 割だった。「学術面での研究業績が優れていた」に対して、肯定的回答率は全学で 66%だった。国際乾燥地科学専攻では 83%、工学専攻、農学専攻、医学系研究科では 6 割～7 割未満、地域学専攻では 5 割だった。「産学共同研究で実績が豊富だった」に対しては、全学での肯定的回答率は 46%だった。国際乾燥地科学専攻では 83%の高い肯定的回答率だった。一方、農学専攻、工学専攻、地域学専攻で 4 割～5 割の肯定的回答率であり、医学系研究科(39%)では 4 割をわずかに下回った。

大学院での研究・専門教育を通じて修得した DP 能力に関する設問：

大学院での研究や専門教育を通じて修得できた DP 能力の中で「知識・理解（専門教育）」(90%)が最も高い修得度であり、「論理的思考力・創造的表現力」(87%)、「問題発見・課題解決力」(84%)、「生涯学習力」(83%)、「倫理観」(82%)、「情報活用スキル」(82%)が 8 割以上の修得度だった。一方、「社会参加への行動力」は 61%、「国際化への対応力」は 53%の修得度だった。「知識・理解（教養教育）」の修得度は全学で 79%だった。国際乾燥地科学専攻(83%)、工学専攻(82%)、地域学専攻(80%)で 8 割台、農学専攻で 77%、医学系研究科で 72%の修得度だった。「知識・理解（専門教育）」の修得度は全学で 90%だった。全ての専攻・研究科で 8 割以上であり、特に国際乾燥地科学専攻、農学専攻、医学系研究科で 9 割以上だった。「コミュニケーションスキル」は全学で 74%の修得度だった。国際乾燥地科学専攻で約 9 割(92%)、工学専攻で 77%、その他の専攻では 6 割 5 分弱～7 割だった。「数量的スキル」は全学で 78%の修得度だった。国際乾燥地科学専攻で約 9 割、工学専攻で 8 割台(83%)、農学専攻(73%)と医学系研究科(69%)で概ね 7 割前後、地域学専攻で 6 割だった。「情報活用スキル」の全学での修得度は 82%だった。国際乾燥地科学専攻で最も高く 100%、続いて工学専攻で 83%、地域学専攻で 80%、医学系研究科で 77%、農学専攻で 73%の修得度だった。「論理的思考力・創造的表現力」の全学での修得度は 87%だった。専攻・研究科間での差はあまりなく、約 8 割～約 9 割だった。「問題発見・課題解決力」の全学での修得度は 84%だった。国際乾燥地科学専攻で 10 割、その他の専攻・研究科では 8 割台だった。「大変修得できた」も国際乾燥地科学専攻が最も高く 67%だった。「自己管理・実行力」

の全学での修得度は79%だった。国際乾燥地科学専攻で約9割, その他の専攻・研究科で7割台(73%)~8割台(82%)だった。「生涯学習力」の全学での修得度は83%だった。農学専攻で8割を少し下回った(77%)がその他の専攻・研究科では8割台(82%)~約9割(92%)だった。「協働力(リーダーシップも含む)」の全学での修得度は76%だった。国際乾燥地科学専攻で10割, 地域学専攻(80%)と工学専攻(79%)で約8割, 医学系研究科(69%)で約7割, 農学専攻で64%だった。「倫理観」は全学で82%の修得度だった。国際乾燥地科学専攻で約9割, 医学系研究科, 工学専攻, 農学専攻で8割台だったが, 地域学専攻で6割だった。「責任ある市民としての社会性」は全学で74%の修得度だった。国際乾燥地科学専攻で10割, 工学専攻で76%, 地域学専攻(70%)と農学専攻(68%)で約7割, 医学系研究科で64%だった。「国際化への対応力」の全学での修得度は53%だった。国際乾燥地科学専攻で約9割(92%), 農学専攻で7割台(73%), 地域学専攻で6割, 工学専攻で約5割(52%), 医学系研究科で3割台の33%だった。「社会参加への行動力」の全学での修得度は61%だった。国際乾燥地科学専攻で約9割(92%), 農学専攻で約7割(68%), 地域学専攻と工学専攻で6割, 医学系研究科で約5割(51%)だった。

社会に出て教育成果として役立った DP 能力に関する設問 :

社会に出て教育成果として「役立った」DP能力は「問題発見・課題解決力」(87%), 「論理的思考力・創造力」(86%), 「自己管理・実行力」(86%), 「生涯学習力」(85%), 「情報活用スキル」(85%)が約85%以上の高い役立ち度だった。一方, 「社会参加への行動力」は68%, 「国際化への対応力」は58%にとどまった。「知識・理解(教養教育)」は全学で79%が役立ったと回答した。地域学専攻で10割, その他の専攻・研究科では7割5分~約8割の役立ち度だった。「知識・理解(専門教育)」は全学で81%が役立ったと回答した。全ての専攻・研究科で7割5分以上の役立ち度で, 地域学専攻で10割, 農学専攻と医学系研究科で8割台の役立ち度だった。「コミュニケーションスキル」は全学で83%が役立ったと回答した。地域学専攻で10割, 国際乾燥地科学専攻で約9割, 工学専攻で84%, 医学系研究科と農学専攻で7割台の役立ち度だった。「数量的スキル」は全学で80%が役立ったと回答した。国際乾燥地科学専攻で約9割(92%), 工学専攻で8割台(83%), その他の専攻・研究科で7割台の役立ち度だった。「情報活用スキル」は全学で85%が役立ったと回答した。国際乾燥地科学専攻と地域学専攻で10割, 工学専攻で約8割5分, 医学系研究科で約8割, 農学専攻で77%だった。「論理的思考力・創造的表現力」は全学で86%が役立ったと回答した。地域学専攻で10割, 国際乾燥地科学専攻で約9割(92%), その他の専攻・研究科で8割台の役立ち度だった。「問題発見・課題解決力」は全学で87%が役立ったと回答した。国際乾燥地科学専攻で10割, 地域学専攻で9割, その他の専攻・研究科で8割台の役立ち度だった。「自己管理・実行力」は全学で86%が役立ったと回答した。役立ち度の高い順に国際乾燥地科学専攻(100%), 地域学専攻(90%), 医学系研究科(87%), 工学専攻(85%), 農学専攻(77%)だった。「生涯学習力」は全学で85%が役立ったと回答した。地域学専攻で10割, 医学系研究科(92%)と国際乾燥地科学専攻(91.2%)で9割台, 工学専攻で82%, 農学専攻で77%の役立ち度だった。「協働力(リーダーシップも含む)」は全学で80%が役立ったと回答した。役立ち度の高い順に国際乾燥地科学専攻(92%), 医学系研究科(85%), 地域学専攻(80%), 工学専攻(78%), 農学専攻(73%)だった。「倫理観」は全学で82%が役立ったと回答した。国際乾燥地科学専攻で10割, 医学系研究科, 地域学専攻, 工学専攻で8割台, 農学専攻で8割を少し下回る77%だった。「責任ある市民としての社会性」は全学で78%が役立ったと回答した。役立ち度の高い順に地域学専攻(100%), 国際乾燥地科学専攻(92%), 医学系研究科(80%), 農学専攻(77%), 工学専攻(74%)だった。「国際化への対応力」は全学で58%が役立ったと回答した。国際乾燥地科学専攻(75%)で最も

高く、その中で「大変役立った」は 50%となった。一方、医学系研究科では役立ち度は 46%にとどまった。その他の専攻では 6 割前後の役立ち度だった。「社会参加への行動力」は全学で 68%が役立ったと回答した。地域学専攻で 10 割、国際乾燥地科学専攻で約 9 割、その他の専攻・研究科では 6 割台の役立ち度だった。

「修得度」と「役立ち度」を項目毎に比較した。14 項目中 10 項目で役立ち度が修得度を上回った。「知識・理解（専門教育）」は修得度が役立ち度を上回った。「論理的思考力・創造的表現力」と「知識・理解（教養教育）」は修得度の方がわずかに大きかったが役立ち度とほぼ同じ値だった。「倫理観」は修得度と役立ち度が同じ値だった。「もっと学んでおけば良かったと思う DP 能力」は「知識・理解（専門教育）」が 1 位(38%)、「コミュニケーションスキル」が 2 位(37%)、「問題発見・課題解決力」が 3 位(32%)だった。修得度でも「知識・理解（専門教育）」（1 位、90%）と「問題発見・課題解決力」（3 位、84%）は高い割合だった。一方、「コミュニケーションスキル」の修得度は 74%で 14 項目の中では少し低めだった。

4. グローバル教育に関する調査結果

グローバル教育に関する設問：

海外研修、留学プログラム参加の目的として最も多かったのは語学学習で、海外研修・留学プログラム参加者の半数が占める。このほか、交流が 25%、専門の研究が 17%であった。また満足度に関しては、「参加してよかったと思う」に対して 89%が「非常にそう思う」と回答し、「ある程度そう思う」の 6%と合わせて参加者の 95%がプログラムに肯定的回答をしている。「経験が、人生観、職業観などに何らかの成果をもたらした」「グローバル社会や海外にチャレンジする自信がついた」でも 8 割以上が肯定的回答をしている一方で、「履修した内容や経験が現在の仕事で役立っている」は 61%であった。修得度については、異文化理解力、異文化受容力、自己開発・強化力、課題発見・解決力、チームワーク形成力について、「大変修得できた」「ある程度修得できた」という肯定的回答が 8 割以上を占めた。その他の多くの項目でも 7 割を超える肯定的回答を得たが、トリリンガル能力については 45%に留まった。

5. 就職先企業に対する調査結果

平成 30 年 3 月から令和 2 年 3 月に本学を卒業・修了した学生の就職先から、以下のようなアンケート回答結果を得た。近年の新卒採用活動で重視する、学生に求める能力・態度等を 3 つ選んでもらったところ、「コミュニケーションスキル」が特に抜きん出て多くの回答を集めた。そのほか、「協働力（リーダーシップも含む）」、「問題発見・課題解決力」、さらには「論理的思考力・創造的表現力」、「自己管理・実行力」、「知識・理解（専門教育）」の順に、回答が多く集まった。直近 5 年間での新卒活動において、学部卒業者と大学院修了者とのあいだで求める能力・態度等に違いがあるかどうかを聞いたところ、「ない」と回答した企業・団体等が 9 割以上を占めた。また、求める能力・態度等に違いがある場合、どのような能力・態度等をどちらに求めるか、具体的に聞いたところ、大学院修了者に対してはより高度な専門性や専門知識を求める、という趣旨の回答が大半を占めた。そのほか、コミュニケーションスキル・社会人スキル・社会性といった、他者とともにものごとに取り組むうえで求められる要素や、問題や課題を発見してそれを解決に導く力など、いわゆるソフトスキルといわれる能力や態度を挙げた回答もみられた。

各社がこれまでに採用した本学学生の採用実績（人数）は、おおむね従業員規模に比例する傾向となっている。本学卒業（修了）者に対して、何かイメージされる特徴があるかを聞いたところ、「ある」と回答した企業・団体等は 3 割弱にとどまった。さらに、イメージされる特徴がある場合、どのようなものを具体的に書いてもらったところ、単語の出現度数として最も多かったのが「真面目」、「まじめ」で、26 件を数えた。また、「素直」、「実直」、「正直」、「誠

実」,「真摯」,「真剣」があわせて 24 件,「コツコツ」,「堅実」,「手堅い」,「勤勉」があわせて 10 件など,ものごとに対して着実に・ひたむきに取り組む姿勢が,本学卒業生の代表的なイメージとなっていることがうかがえる。「優秀」・「優れている」も,計 8 件を数えた。そのほか,「明るい」,「朗らか」が計 5 件あった一方で,「おとなしい」,「控えめ」,「もの静か」も計 5 件を数えた。なお,新卒採用時に重視する能力・態度等で最も多くの回答を集めた「コミュニケーションスキル」について,本学卒業生のイメージとして挙げた回答は,3 件だった。新卒採用活動で重視する能力・態度等と,本学卒業生の印象として「身につけている」と感じられる D P 能力を比較したところ,「新卒採用活動で重視」において最も回答を集めた「コミュニケーションスキル」は,「身につけている」とする回答でも最多を集めた。一方,「コミュニケーションスキル」に次いで「身につけている」と感じられる D P 能力は,「知識・理解(専門教育)」,「知識・理解(教養教育)」の順となったが,「新卒採用活動で重視」のほうではそれぞれ 6 番目・7 番目にとどまった。「身につけている」が最も多く選ばれたのは「コミュニケーションスキル」で,「知識・理解(専門教育)」もほぼ同程度の割合を占めた。次いで,「知識・理解(教養教育)」,「論理的思考力・創造的表現力」,「協働力(リーダーシップも含む)」と続いた。このうち「知識・理解(専門教育)」と「知識・理解(教養教育)」については,「身につけている」が「もっと身につけておくべき」を大きく上回った。一方,「問題発見・課題解決力」では,「もっと身につけておくべき」が「身につけている」を大きく上回ったほか,「自己管理・実行力」や「情報活用スキル」,「国際化への対応力」でも前者が後者を上回った。「コミュニケーションスキル」について,「身につけている」が最も多く選ばれた(46%)一方で,「もっと身につけておくべき」のほうでも,最多にほぼ近い 2 番目の割合(42%)を占めていることは,本学の教育プログラムの改善等を考えていくうえでも大きな意味をもつといえる。また,「もっと身につけておくべき」の選択割合が最多(43%)だった「問題発見・課題解決力」について,「身につけている」の選択割合(21%)との差が大きく開いている点や,「協働力(リーダーシップも含む)」,「自己管理・実行力」,「論理的思考力・創造的表現力」等で「もっと身につけておくべき」が多く選択されている点も,注目すべき部分といえる。

過去の調査と同様,本学学生の採用機会につながる情報提供や取組の強化についての要望を多くいただいた。グローバル人材の育成への期待が寄せられた一方で,鳥取県内での交流の拡大や,卒業後の定着に対する要望も多くいただいた。また,今回の調査では,コロナ禍の影響や社会の変容等をふまえながら,D P 能力への言及など,求める人材像に関する具体的な記述も,多くいただいた。

6. 就職先企業・学部卒業生・大学院修了生のデータ関連性

各アンケート結果を組み合わせて,修得度,要望度,ギャップ度,不足度の 4 つの観点から,教育効果や学修成果について検討を行った。

修得度について:

学部卒業生に関して,企業が「修得している」と回答した上位 3 項目は,「コミュニケーションスキル」,「知識・理解(専門教育)」と「知識・理解(教養教育)」であるが,卒業生の自己評価では 2 つの「知識・理解」は同様に高いものの,「コミュニケーションスキル」に関しては低かった。卒業生の回答では,「倫理観」も 80%以上と高く,「情報活用スキル」,「数量的スキル」,「社会参加への行動力」と「国際化への対応力」については 70%未満であった。

大学院修了生に関しては,企業が「修得している」と回答した上位 3 項目は,「コミュニケーションスキル」,「知識・理解(専門教育)」と「知識・理解(教養教育)」であるが,修了生の自己評価では「知識・理解(専門教育)」は同様に高いものの,「コミュニケーションスキル」や「知識・理解(教養教育)」に関しては低かった。修了生の回答では,

上記以外に「論理的思考力・創造的表現」や「問題発見・課題解決力」等の5項目が80%以上と高く、「社会参加への行動力」と「国際化への対応力」については70%未満であった。

要望度について：

企業が学部卒業生に「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「問題発見・課題解決力」、「コミュニケーションスキル」、「協働力（リーダーシップを含む）」であるが、卒業生の自己評価ではこれら3項目はさほど高くはなかった。企業が「修得している」と回答した上位3項目のうち、「コミュニケーションスキル」がトップであったにも関わらず、「もっと修得すべき」でも2番目に入っていることから、企業は学生が思っている以上のレベルを求めているものと思われる。卒業生の評価が高く企業が強く要望する項目として、特に、「問題発見・課題解決力」と「コミュニケーションスキル」は、卒業生の結果以上に企業は高いものを求めている。卒業生の評価が低く、企業もあまり要望していない項目としては、特に、「国際化への対応力」について、企業としては「数量的スキル」や「社会参加への行動力」と同等レベルのものを身につけてほしいと考えている。

企業が大学院修了生に「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「問題発見・課題解決力」、「コミュニケーションスキル」、「協働力（リーダーシップを含む）」であるが、卒業生の自己評価では「問題発見・課題解決力」以外はさほど高くなかった。企業が「修得している」と回答した上位3項目のうち、「コミュニケーションスキル」がトップであったにもかかわらず、「もっと修得すべき」でも2番目に入っていることから、学生には更なる修得が求められていると推察される。修了生の評価が低く企業が強く要望する項目は2つあるが、特に、「コミュニケーションスキル」は、修了生の結果以上に企業はかなり高いものを求めている。修了生の評価が低く、企業もあまり要望していない項目は3つあるが、特に「国際化への対応力」は、企業としては「社会参加への行動力」や「責任ある市民としての社会性」と同等レベルのものを身につけてほしいと考えている。卒業生・修了生がともに75%以上の割合であった項目は7つあり、中でも「論理的思考力・創造的表現力」と「問題発見・課題解決力」については修了生の回答率が高い傾向にあった。

本学の学生（卒業生及び修了生）はDP能力として身につけている（修得している）と思っているが、企業としてはもっと身につけておくべきだと最も強く要望している項目は「問題発見・課題解決力」であった。

ギャップ度について：

企業が学部卒業生に「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「問題発見・課題解決力」、「コミュニケーションスキル」、「協働力（リーダーシップを含む）」であるが、卒業生の自己評価では「問題発見・課題解決力」、「コミュニケーションスキル」は同様に高いものの、「協働力（リーダーシップを含む）」に関してはさほど高くはなかった。上記以外に「論理的思考力・創造的表現力」や「倫理観」等の5項目が80%以上と高く、「国際化への対応力」については59%であった。卒業生の評価が高く企業が強く要望する項目は5つあり、特に「問題発見・課題解決力」と「コミュニケーションスキル」は、企業としては卒業生の実感よりももう少し高いものを求めている。卒業生の評価は高いが企業もあまり要望していない項目が4つ、卒業生の評価が低く企業もあまり要望していない項目が5つある。特に、「国際化への対応力」は、卒業生が企業において活かす場面が少ないからとも考えられるが、企業としては少し足りていないと考えている。

企業が大学院修了生に「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「問題発見・課題解決力」、「コミュニケーションスキル」と「協働力（リーダーシップを含む）」であるが、修了生の自己評価では「問題発見・課題解決力」は同様に高いものの、それ以外に関してはさほど高くはなかった。修了生の回答では、上記以外に「自己管理・実行力」、「論理的思考力・創造的表現力」等の6項目が80%以上と高く、「社会参加への行動力」と「国際化への対応力」については70%未満であった。

卒業生・修了生がともに75%以上の割合であげた項目は11個あり、中でも「生涯学習力」、「自己管理・実行力」、「問題発見・課題解決力」については修了生の回答率が高い傾向にあった。本学の学生（卒業生及び修了生）はDP能力として社会で役立っている（役立った）と思っているが、企業としてはもっと身につけておくべきだと最も強く要望している項目は、「問題発見・課題解決力」であった。

不足度について：

学部卒業生に関して、企業が「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「問題発見・課題解決力」、「コミュニケーションスキル」と「協働力（リーダーシップを含む）」であるが、卒業生の自己評価では「コミュニケーションスキル」は同様に高いものの、「協働力（リーダーシップを含む）」に関しては低かった。卒業生の回答では、上記以外に「知識・理解（専門教育）」が40%と高く、「倫理観」と「責任ある市民としての社会性」については10%未満であった。

大学院修了生に関して、企業が「もっと修得すべき」と回答した上位3項目は、「問題発見・課題解決力」、「コミュニケーションスキル」と「協働力（リーダーシップを含む）」であるが、修了生の自己評価では「コミュニケーションスキル」と「問題発見・課題解決力」は同様に高いものの、「協働力（リーダーシップを含む）」に関してはさほど高くなかった。修了生の回答では、上記以外に「知識・理解（専門教育）」が38%と高く、「倫理観」、「責任ある市民としての社会性」と「生涯学習力」については10%未満であった。

以上のように、今回の調査結果からは本学の教育活動にかかる貴重な客観的評価が得られたと同時に、同結果は学部卒業生・大学院修了生・就職先企業からの意見・要望としていくつかの課題を提示している。特に「国際化への対応力」については、卒業生・修了生・就職先企業の三者ともが、不十分、あるいはもっと涵養すべきであると回答している点には留意すべきである。

本学では学部・研究科によって教育目標や養成する人材像が明確に異なっている。例えば医学部や医学系研究科では、（医療研究者を含む）医療従事者の育成という極めて明確な方向性があり、卒業・修了後の進路も医療関係に集中している。当然のことながら、今回の調査結果はこのような事情を明瞭に反映している。したがって、設問項目の全てについて、学部・研究科毎の結果を横並びにして単純に比較できないのは言うまでもない。しかし、今回の結果から学部・研究科毎にある程度の傾向を抽出することは、十分に可能であり、その意味で今回のアンケート調査結果は、それぞれの学部・研究科における今後の教育改革において、極めて貴重な情報を提供し得る。この調査結果が、今後、本学の教育目標や教育グランドデザインの見直し、あるいは、各学部・研究科における教育改善の取り組みに大いに活用されることを期待する。

最後に、本調査に回答いただきました調査対象者の皆様、アンケートの配布・回収および報告書の編集に協力いただきました学生部教育支援課教務企画係及び教務支援係の皆様方に感謝の意を表します。

令和4年2月

資料

平成 29 年度及び令和 2 年度の比較データ【学部卒業生】

- 平成 29 年度アンケートでは学部卒業生（N=552）、令和 2 年度アンケートでは学部卒業生（N=443）のデータを使用し、集計を行った。ただし、「所属未記載者」及び「各設問での未回答者」は対象外とした。
- 両アンケートの結果については、以下の項目において「**肯定的回答率**」により比較を行った。
 - **総合的な満足度【3 項目】**：（「非常にそう思う」+「ある程度そう思う」）／回答件数
 - **充実度【教育 10 項目，研究 4 項目，交流活動 4 項目及びサポート体制 5 項目】**：（「非常にそう思う」+「ある程度そう思う」）／回答件数
 - **DP 能力の修得度【14 項目】**：（大変修得できた+ある程度修得できた）／回答件数 ※令和 2 年度から実施
 - **DP 能力の役立ち度【14 項目】**：（大変役立った+ある程度役立った）／回答件数 ※令和 2 年度から実施
- アンケート結果欄における「**赤色セル**」は 75%以上，ポイント差欄における「**青色セル**」は 10 ポイント差以上の増減を示す。

■ アンケート結果の概要

- 総合的な満足度において、令和 2 年度は工学部や農学部の一部で 70%程度の値が見られるものの、全学部の各項目が高い満足度を示していた。特に、地域学部の「教育は卒業後の仕事や生活に役立っている」は、前回より 16 ポイント以上増加していた。
- 充実度において、令和 2 年度は全学として「教養教育」及び「専門教育」が高い充実度を示していた。また、資格取得や海外留学といった「サポート体制」の充実度は、前回より 11 ポイント以上増加していた。学部別では、地域学部は「カリキュラム編成」、医学部は「教養教育」、工学部は「研究面の施設・設備」、農学部は「外国語学習」等、前回よりも大きくポイントが増加していた。
- 能力・技術・知識等の習得度（平成 29 年度）では「感性や人間性の豊かさ」、「専攻した学問の体系化された知識」、「すべきだと思ったことを実践する姿勢」だったのに対し、DP 能力の修得度（令和 2 年度）では「知識・理解（専門教育）」、「倫理観」、「知識・理解（教養教育）」が上位を占めていた。
- 学修成果の役立ち度（平成 29 年度）では「感性や人間性の豊かさ」、「すべきだと思ったことを実践する姿勢」、「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」だったのに対し、DP 能力の役立ち度（令和 2 年度）では「論理的思考力・創造的表現力」、「問題発見・課題解決力」、「倫理観」が上位を占めていた。

平成 29 年度及び令和 2 年度の比較データ【大学院修了生】

- 平成 29 年度アンケートでは大学院修了生 (N=193) , 令和 2 年度アンケートでは大学院修了生 (N=178) のデータを使用し, 集計を行った。ただし, 「所属未記載者」及び「各設問での未回答者」は対象外とした。
- 両アンケートの結果については, 以下の項目において「**肯定的回答率**」により比較を行った。
 - **総合的な満足度【3 項目】** : (「非常にそう思う」+「ある程度そう思う」) / 回答件数
 - **充実度【教育 2 項目, 研究 3 項目】** : (「非常にそう思う」+「ある程度そう思う」) / 回答件数
 - **DP 能力の修得度【14 項目】** : (大変修得できた+ある程度修得できた) / 回答件数 ※令和 2 年度から実施
 - **DP 能力の役立ち度【14 項目】** : (大変役立った+ある程度役立った) / 回答件数 ※令和 2 年度から実施
- アンケート結果欄における「**赤色セル**」は 75%以上, ポイント差欄における「**青色セル**」は 10 ポイント差以上の増減を示す。

■ アンケート結果の概要

- 総合的な満足度において, 令和 2 年度は「教育内容・研究指導の全般」と「大学院進学への推薦」が高い満足度を示していた。しかしながら, 持続性社会創生科学研究科 (地域学専攻) では, 「大学院進学への推薦」が前回より大きくポイントが減少しており, 今後何らかの対策や広報が必要と考える。
- 充実度において, 令和 2 年度も引き続き, 全学として「授業内容」及び「研究指導」が高い充実度を維持していた。また, 持続性社会創生科学研究科 (国際乾燥地科学専攻) では全項目で高い充実度を示していた。前回よりも 10 ポイント以上減少した項目が多く, 大半の項目が減少傾向にあることから, 現在の教育内容や研究指導等の水準をさらに高める対応が求められる。
- 能力・技術・知識等の習得度 (平成 29 年度) では「論理的な思考力」, 「専攻した学問の体系化された知識」, 「問題を発見し解決する能力」だったのに対し, DP 能力の修得度 (令和 2 年度) では「知識・理解 (専門教育)」, 「論理的思考力・創造的表現力」, 「問題発見・課題解決力」が上位を占めていた。
- 学修成果の役立ち度 (平成 29 年度) では「論理的な思考力」, 「問題を発見し解決する能力」, 「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」だったのに対し, DP 能力の役立ち度 (令和 2 年度) では「問題発見・課題解決力」, 「論理的思考力・創造的表現力」, 「自己管理・実行力」が上位を占めていた。

平成29年度及び令和2年度の比較データ【大学院修了生】

総合的な満足度		平成29年度アンケート(%) (非常にそう思う+ある程度そう思う)					令和2年度アンケート(%) (非常にそう思う+ある程度そう思う)					ポイント差					
		大学	地域学 研究科	工学 研究科	農学 研究科	医学系 研究科	大学	持続性 (地域・ 地域学研)	持続性 (工学・ 工学研)	持続性 (農学)・ 農学研	持続性 (乾燥 地)・農学 研	医学系研	大学	持続性 (地域・ 地域学研)	持続性 (工学・ 工学研)	持続性 (農学)・ 農学研	持続性 (乾燥 地)・農学 研
総合	大学院の教育内容・研究指導に、全体として満足している	86.1	94.4	85.0	86.1	84.6	80.3	90.0	80.0	77.3	100.0	74.4	-5.7	-4.4	-5.0	-8.8	-10.3
	大学院の教育・研究は卒業後の仕事や生活に役立っている	77.9	94.4	71.0	77.8	87.5	71.9	90.0	62.1	72.7	91.7	84.6	-6.0	-4.4	-8.9	-5.1	-2.9
	大学院への進学を学部生に薦めたい	79.4	94.4	77.8	75.0	80.0	75.8	60.0	77.9	68.2	91.7	74.4	-3.5	-34.4	0.1	-6.8	-5.6
	平均点	81.1	94.4	77.9	79.6	84.0	76.0	80.0	73.3	72.7	94.4	77.8	-5.1	-14.4	-4.6	-6.9	-6.3

充実度		平成29年度アンケート(%) (非常にそう思う+ある程度そう思う)					令和2年度アンケート(%) (非常にそう思う+ある程度そう思う)					ポイント差					
		大学	地域学 研究科	工学 研究科	農学 研究科	医学系 研究科	大学	持続性 (地域・ 地域学研)	持続性 (工学・ 工学研)	持続性 (農学)・ 農学研	持続性 (乾燥 地)・農学 研	医学系研	大学	持続性 (地域・ 地域学研)	持続性 (工学・ 工学研)	持続性 (農学)・ 農学研	持続性 (乾燥 地)・農学 研
教育	カリキュラムについて、授業内容は充実していた	82.5	94.4	83.0	83.3	76.9	77.5	80.0	81.1	63.6	91.7	71.8	-4.9	-14.4	-1.9	-19.7	-5.1
	研究室における研究指導は充実していた	88.2	88.9	87.0	91.7	87.5	82.0	90.0	81.1	86.4	100.0	74.4	-6.2	1.1	-5.9	-5.3	-13.1
	平均点	85.3	91.7	85.0	87.5	82.2	79.8	85.0	81.1	75.0	95.8	73.1	-5.6	-6.7	-3.9	-12.5	-9.1
研究	研究の施設や設備・装置は充実していた	73.8	61.1	70.0	77.8	87.5	74.2	60.0	72.6	77.3	100.0	71.8	0.3	-1.1	2.6	-0.5	-15.7
	学術面での研究業績が優れていた	67.0	83.3	63.0	66.7	71.8	66.3	50.0	68.4	63.6	83.3	61.5	-0.7	-33.3	5.4	-3.0	-10.3
	産学共同研究で実績が豊富だった	45.3	47.1	45.5	52.8	38.5	46.1	50.0	43.2	50.0	83.3	38.5	0.8	2.9	-2.3	-2.8	0.0
	平均点	62.1	63.8	59.5	65.7	65.9	62.2	53.3	61.4	63.6	88.9	57.3	0.1	-10.5	1.9	-2.1	-8.7

能力・技術・知識等の習得度		平成29年度アンケート(%) (大変習得できた+ある程度習得できた)				
		大学	地域学 研究科	工学系 研究科	工学 研究科	農学 研究科
論理力	専攻した学問の体系化された知識	86.7	88.9	90.0	82.8	91.9
	論理的な思考力	89.3	83.3	87.5	88.0	97.3
	問題を発見し解決する能力	84.2	88.9	82.5	81.0	91.9
	柔軟な発想や豊かな創造力・構想力	74.0	88.9	72.5	69.0	81.1
	平均点	83.5	87.5	83.1	80.2	90.5
実践力	IT時代に対応した情報スキル	51.0	27.8	37.5	56.0	64.9
	語学など国際化への対応能力	25.0	27.8	17.5	22.0	40.5
	実務に即戦力として使える専門知識や技術	56.1	83.3	72.5	48.0	48.6
	資格取得による専門知識と活用能力	42.3	77.8	57.5	35.0	29.7
	平均点	43.6	54.2	46.3	40.3	45.9

DP能力の修得度	令和2年度アンケート(%) (大変修得できた+ある程度修得できた)					
	大学	持続性 (地域・ 地域学研)	持続性 (工学・ 工学研)	持続性 (農学)・ 農学研	持続性 (乾燥 地)・農学 研	医学系研
知識・理解(教養教育)	79.2	80.0	82.1	77.3	83.3	71.8
知識・理解(専門教育)	89.9	80.0	87.4	95.5	100.0	92.3
コミュニケーションスキル	73.6	70.0	76.8	68.2	91.7	64.1
数量的スキル	78.1	60.0	83.2	72.7	91.7	69.2
情報活用スキル	81.5	80.0	83.2	72.7	100.0	76.9
論理的思考力・創造的表現力	86.5	90.0	87.4	81.8	91.7	84.6
問題発見・課題解決力	83.7	80.0	82.1	86.4	100.0	82.1
自己管理・実行力	79.2	80.0	77.9	72.7	91.7	82.1
生涯学習力	83.1	90.0	83.2	77.3	91.7	82.1
協働力(リーダーシップも含む)	76.4	80.0	78.9	63.6	100.0	69.2
倫理観	82.0	60.0	82.1	81.8	91.7	84.6
責任ある市民としての社会性	73.6	70.0	75.8	68.2	100.0	64.1
国際化への対応力	53.4	60.0	51.6	72.7	91.7	33.3
社会参加への行動力	61.2	60.0	60.0	68.2	91.7	51.3
平均点	77.2	74.3	78.0	75.6	94.0	72.0

学修成果の役立ち度		平成29年度アンケート(%) (大変役立った+ある程度役立った)				
		大学	地域学 研究科	工学系 研究科	工学 研究科	農学 研究科
論理力	専攻した学問の体系化された知識	68.9	88.2	82.1	61.9	63.9
	論理的な思考力	92.7	100.0	94.9	90.8	91.7
	問題を発見し解決する能力	90.1	94.4	89.5	90.8	86.1
	柔軟な発想や豊かな創造力・構想力	82.5	94.4	82.1	82.3	77.1
	平均点	83.6	94.3	87.1	81.4	79.7
実践力	IT時代に対応した情報スキル	56.7	47.1	50.0	59.6	61.8
	語学など国際化への対応能力	31.3	43.8	24.2	30.9	34.3
	実務に即戦力として使える専門知識や技術	53.2	76.5	73.7	46.9	38.2
	資格取得による専門知識と活用能力	48.9	75.0	71.1	37.9	44.1
	平均点	47.5	60.6	54.7	43.8	44.6

DP能力の役立ち度	令和2年度アンケート(%) (大変役立った+ある程度役立った)					
	大学	持続性 (地域・ 地域学研)	持続性 (工学・ 工学研)	持続性 (農学)・ 農学研	持続性 (乾燥 地)・農学 研	医学系研
知識・理解(教養教育)	78.7	100.0	76.8	81.8	75.0	76.9
知識・理解(専門教育)	80.9	100.0	77.9	86.4	75.0	82.1
コミュニケーションスキル	82.6	100.0	84.2	72.7	91.7	76.9
数量的スキル	79.8	70.0	83.2	72.7	91.7	74.4
情報活用スキル	84.8	100.0	85.3	77.3	100.0	79.5
論理的思考力・創造的表現力	86.0	100.0	85.3	81.8	91.7	84.6
問題発見・課題解決力	87.1	90.0	87.4	81.8	100.0	84.6
自己管理・実行力	86.0	90.0	85.3	77.3	100.0	87.2
生涯学習力	85.4	100.0	82.1	77.3	91.7	92.3
協働力(リーダーシップも含む)	79.8	80.0	77.9	72.7	91.7	84.6
倫理観	82.0	80.0	80.0	77.3	100.0	84.6
責任ある市民としての社会性	78.1	100.0	73.7	77.3	91.7	79.5
国際化への対応力	58.4	60.0	61.1	59.1	75.0	46.2
社会参加への行動力	68.0	100.0	64.2	68.2	91.7	61.5
平均点	79.8	90.7	78.9	76.0	90.5	78.2

令和3年3月

卒業生 各位

鳥取大学長
中島 廣光

「鳥取大学 卒業生アンケート」へのご協力をお願い

拝啓 春暖の候、貴殿におかれましては益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、本学の教育・研究に多大なご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本学では、「知と実践の融合」を教育研究の基本理念に掲げ、「地域学」「医学」「工学」及び「農学」の四つの学部・研究科を中心に「グローバル」で「人間力」を持つ学生の育成を行っています。この実現のため、本学では「授業アンケート」や「学生実態調査」等のアンケート結果に基づき、授業改善や学生支援活動の充実等を行っています。

在学生に関しましては、様々な形でアンケート調査等を行っていますが、本学卒業生として見た本学の教育・研究の支援や修得すべきもの、という点も今後の教育・研究支援のあり方を検討する上で重要な視点であり、このたびアンケートをお願い申し上げる次第です。ご多忙中のこととは存じますが、何卒ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、誠に勝手ながら、アンケートはWebアンケート方式で実施させていただきますので、回答は以下のWebサイトから令和3年5月31日(月)までにご回答くださいますよう、お願い申し上げます。

敬具

【卒業生アンケート調査票】

<https://forms.gle/Xhc9QcRNb6SbYzmV6>

【グローバル教育アンケート調査票】

<https://forms.gle/n4nCZavz5ocGTghq6>



※QRコードは、(株)デンソーウェブの登録商標です。

【アンケートの回答方法に関するお願い】

このアンケートへのご協力のお願いは、本学に登録されている、保証人様の住所宛に送付させていただいています。誠に勝手ながら、回答につきましては、卒業生の皆様をお願いしたいと思いますので、就職先等が遠方でご自宅に不在の場合は、休暇等でご帰宅時に回答していただく、メール等を利用してWebサイトのURL等を連絡していただく、または、本文書を転送いただければと思います。

なお、集計の際に回答者個人が特定されるような分析は行ないません。

また、これに係る個人情報等は本アンケート以外に利用しません。

※ご不明な点は、鳥取大学学生部教育支援課教務企画係(鳥取市湖山町南4丁目101、Tel:0857-31-5054、e-mail:st-kyokikaku@adm.tottori-u.ac.jp)までお問い合わせください。

[鳥取大学 卒業生アンケート 調査票]

Q1. 卒業した時期、卒業した学部学科をお答えください。

- (1) 卒業時期 1. 平成30年3月 2. 令和元年3月 3. 令和2年3月
- (2) 卒業した学部学科
- | | | | | |
|---------|-------------|-------------|----------------|-----------------|
| a. 地域学部 | 1. 地域政策学科 | 2. 地域教育学科 | 3. 地域文化学科 | 4. 地域環境学科 |
| b. 医学部 | 1. 医学科 | 2. 生命科学科 | 3. 保健学科看護学専攻 | 4. 保健学科検査技術科学専攻 |
| c. 工学部 | 1. 機械工学科 | 2. 知能情報工学科 | 3. 電気電子工学科 | 4. 物質工学科 |
| | 5. 生物応用工学科 | 6. 土木工学科 | 7. 社会開発システム工学科 | 8. 応用数理工学科 |
| d. 農学部 | 9. 機械物理系学科 | 10. 電気情報系学科 | 11. 化学バイオ系学科 | 12. 社会システム土木系学科 |
| | 1. 生物資源環境学科 | 2. 獣医学科 | 3. 共同獣医学科 | |

Q2. 現在の職業ならびに業種について、お答えください。

- (1) 職業
- | | | | | |
|-------------|--------------|---------|-------|-----------------|
| 1. 会社員・団体職員 | 2. 公務員 | 3. 教員 | 4. 自営 | 5. 専門職(医師・看護師等) |
| 6. 派遣社員 | 7. アルバイト・パート | 8. 試験浪人 | 9. 学生 | 10. 専業主婦・主夫 |
| 11. その他 | | | | |
- (2) 業種
- | | | | | | |
|---------------------|------------|-----------------|-------------|-----------------------|------------------|
| 1. 農業・林業 | 2. 漁業 | 3. 鉱業 | 4. 建設業 | 5. 製造業 | 6. 電気・ガス・熱供給・水道業 |
| 7. 情報通信業 | 8. 運輸業・郵便業 | 9. 卸売・小売業 | 10. 金融業・保険業 | 11. 不動産業・物品貸借業 | |
| 12. 学術研究、専門・技術サービス業 | | 13. 宿泊業、飲食サービス業 | | 14. 生活関連サービス業、娯楽業 | |
| 15. 教育、学習支援業 | | 16. 医療、福祉 | | 17. 複合サービス事業 | |
| 19. 公務 | | 20. その他 | | 18. サービス業(他に分類されないもの) | |

Q3. 鳥取大学(学部)の教育と研究について、現在どのように感じていますか。

項目		非常に そう思う	ある程度 そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
教育	a. 教養教育が充実していた	4	3	2	1
	b. 専門教育が充実していた	4	3	2	1
	c. 外国語学習に積極的だった	4	3	2	1
	d. 工夫され勉強しやすいカリキュラムになっていた	4	3	2	1
	e. 参加型・プロジェクト型の実践教育に注力していた	4	3	2	1
	f. 少人数による指導が受けられた	4	3	2	1
	g. 教員との交流が多かった	4	3	2	1
	h. 学習意欲が湧く授業が多かった	4	3	2	1
	i. 他学部の授業が選択できた	4	3	2	1
	j. 学習面での施設・設備が充実していた	4	3	2	1
研究	k. 著名な教授・講師が多かった	4	3	2	1
	l. 学術面での研究業績が優れていた	4	3	2	1
	m. 産学共同研究で実績が豊富だった	4	3	2	1
	n. 研究面での施設・設備が充実していた	4	3	2	1

Q4. 鳥取大学(学部)の交流活動とサポート体制について、現在どのように感じていますか。

項目		非常に そう思う	ある程度 そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
交 流 活 動	o. 地域社会との交流が盛んだった	4	3	2	1
	p. 国際交流が活発だった	4	3	2	1
	q. クラブ・サークル活動が盛んだった	4	3	2	1
	r. 学外学習による職業体験や社会体験が多かった	4	3	2	1
サ ポ ー ト 体 制	s. 資格取得のサポートに積極的だった	4	3	2	1
	t. IT活用教育に熱心だった	4	3	2	1
	u. 海外留学制度が充実していた	4	3	2	1
	v. 学生生活の支援体制が充実していた	4	3	2	1
	w. 就職活動の支援体制が充実していた	4	3	2	1

Q5. 鳥取大学(学部)を総合的に見ると、現在どのように感じていますか。

項目		非常に そう思う	ある程度 そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
総 合	a. 鳥取大学の教育内容に、全体として満足している	4	3	2	1
	b. 鳥取大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている	4	3	2	1
	c. 鳥取大学への受験を高校生に薦めたい	4	3	2	1

鳥取大学のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に示す能力等(DP能力)

<p>■知識・理解(教養教育)■ 文化、社会、自然に関する幅広い知識とその理解</p>
<p>■知識・理解(専門教育)■ 特定の専門分野に関する深い知識とその理解</p>
<p>■コミュニケーションスキル■ 日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。</p>
<p>■数量的スキル■ 自然や社会的現象について、データ、数式やモデルを活用して分析し、理解し、表現することができる。</p>
<p>■情報活用スキル■ 多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。</p>
<p>■論理的思考力・創造的表現力■ 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。また、新しい価値を生み出すために、自己のアイデアや発想を表現することができる。</p>
<p>■問題発見・課題解決力■ 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決することができる。</p>
<p>■自己管理・実行力■ 自らを律して積極的に行動し、目的や目標の達成に向けて確実に実行に移すことができる。</p>
<p>■生涯学習力■ 卒業後も自律・自立して学び続けることができる。</p>
<p>■協働力(リーダーシップも含む)■ 多様な環境下において、他者と協調・協働して行動でき、かつ、他者に方向性を示して目標の実現のために動員することができる。</p>
<p>■倫理観■ 自己の良心と社会の規範やルールに従って行動することができる。</p>
<p>■責任ある市民としての社会性■ 社会の一員としての意識や役割の自覚を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与することができる。</p>
<p>■国際化への対応力■ 日本とは異なる文化、習慣、価値観等を理解するとともに、外国人とのコミュニケーションを通じて様々な課題に柔軟に対応できる。</p>
<p>■社会参加への行動力■ 大学での講義、フィールドワーク等を通じて身につけた知識や技術等を生かしつつ、自ら進んで行動し、ボランティア活動等により地域社会に貢献することができる。</p>

Q6. あなたは鳥取大学(学部)での教育や学生生活を通じて、以下のDP能力は、どの程度修得できたと思いますか。

DP能力	大変修得できた	ある程度修得できた	あまり修得できなかった	全く修得できなかった
a. 知識・理解(教養教育)	4	3	2	1
b. 知識・理解(専門教育)	4	3	2	1
c. コミュニケーションスキル	4	3	2	1
d. 数量的スキル	4	3	2	1
e. 情報活用スキル	4	3	2	1
f. 論理的思考力・創造的表現力	4	3	2	1
g. 問題発見・課題解決力	4	3	2	1
h. 自己管理・実行力	4	3	2	1
i. 生涯学習力	4	3	2	1
j. 協働力(リーダーシップを含む)	4	3	2	1
k. 倫理観	4	3	2	1
l. 責任ある市民としての社会性	4	3	2	1
m. 国際化への対応力	4	3	2	1
n. 社会参加への行動力	4	3	2	1

Q7. (1)あなたが社会に出てから、以下のDP能力は、どの程度役立ちましたか。

DP能力	大変役立った	ある程度役立った	あまり役に立たなかった	全く役に立たなかった
a. 知識・理解(教養教育)	4	3	2	1
b. 知識・理解(専門教育)	4	3	2	1
c. コミュニケーションスキル	4	3	2	1
d. 数量的スキル	4	3	2	1
e. 情報活用スキル	4	3	2	1
f. 論理的思考力・創造的表現力	4	3	2	1
g. 問題発見・課題解決力	4	3	2	1
h. 自己管理・実行力	4	3	2	1
i. 生涯学習力	4	3	2	1
j. 協働力(リーダーシップを含む)	4	3	2	1
k. 倫理観	4	3	2	1
l. 責任ある市民としての社会性	4	3	2	1
m. 国際化への対応力	4	3	2	1
n. 社会参加への行動力	4	3	2	1

(2) 在学中(学部)にもっと学んでおけば良かったと思うDP能力があれば、以下の中から3つ選んでください。

DP能力	
a.	知識・理解(教養教育)
b.	知識・理解(専門教育)
c.	コミュニケーションスキル
d.	数量的スキル
e.	情報活用スキル
f.	論理的思考力・創造的表現力
g.	問題発見・課題解決力
h.	自己管理・実行力
i.	生涯学習力
j.	協働力(リーダーシップを含む)
k.	倫理観
l.	責任ある市民としての社会性
m.	国際化への対応力
n.	社会参加への行動力

Q8. 鳥取大学(学部)で受講した講義や先生からの指導、学生時代に参加した課外活動等の中で、社会に出てから「これは本当に役立った」と感じるものは、どのようなものでしょうか。

授業科目名(卒業研究を含む)、先生の名前、クラブ・サークル活動名等について、具体的にご記入ください。

--

Q9. 今後の鳥取大学(学部)における教育や学生支援の改善のために、ご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

--

引き続き、「グローバル教育」に関するアンケートにもご協力をお願いします。

[鳥取大学のグローバル教育に関する調査票]

◆鳥取大学では、国際社会の中核となり得る人材を育成するための取り組みの一環として、海外研修・留学プログラムの充実に努めています。
 本学在学中に海外研修・留学プログラム等に参加した方は、以下の質問にお答えください。

※「海外研修・留学プログラム等」とは、例えば、海外で行われる外国語研修、海外実践教育プログラム、海外での実習・演習・フィールドワーク・学生交流プログラム、海外の大学の研究インターンシップ、交換留学、留学等、海外で行われる教育・研究活動のことを指します。ただし、単なる海外旅行は含まれません。

Q10. あなたが海外研修・留学プログラムに参加した目的についてお答えください。(複数該当する場合は、代表的なものを1つを選んでください。)

1. 語学 2. 交流 3. 研究 4. その他

Q11. 在学中に参加した海外研修や留学プログラム等について、現在どのよう感じていますか。

項目	非常に そう思う	ある程度 そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
a. 海外研修・留学プログラム等に参加してよかったと思う。	4	3	2	1
b. 海外研修・留学等によって、グローバル社会や海外にチャレンジする自信がついた。	4	3	2	1
c. 海外研修・留学等で履修した内容や経験が現在の仕事で役立っている。	4	3	2	1
d. 海外研修・留学等での経験が、人生観、職業観などに何らかの成果をもたらした。	4	3	2	1

Q12. 海外研修・留学プログラム等の経験を通じて、以下の能力・知識等は、どの程度修得できたと思いますか。

能力・知識等	大変 修得できた	ある程度 修得できた	あまり修得 できなかった	全く修得 できなかった
a. 【自己開発・強化力】 自分自身のありたい姿についての明確な志を持ち、その実現のための努力を主体的・継続的に行える力	4	3	2	1
b. 【自己管理能力】 海外の過酷な異文化環境でもへこたれないタフさを持ち、与えられた仕事を自己責任で自ら判断して遂行する力	4	3	2	1
c. 【課題発見・解決力】 世界の潮流を冷静に判断し、俯瞰的視野で課題を見つけ、その解決に向けて説得力のある最善解を導き出す力	4	3	2	1
d. 【日本発信力】 日本人としての誇りと明確なアイデンティティを醸成し、日本の歴史、社会、文化および価値観等の日本事情を理解するとともに、それらをグローバル社会に向けて紹介できる知識と能力	4	3	2	1
e. 【地球的課題理解力】 地球環境問題や食糧問題等の地球的規模の課題とその国境を越えた取り組みの必要性を理解し、その解決のために是非取り組みたいなど、「地球市民」としての認識	4	3	2	1
f. 【異文化理解力】 日本とは異なる文化、習慣、価値観などを文化の多様性として理解する能力	4	3	2	1
g. 【異文化受容力】 外国人を含む多種多様な人間と協力、協働して新しい価値を生み出す力	4	3	2	1
h. 【英語通用力】 異文化とのコミュニケーション基本ツールとしての英語通用力	4	3	2	1
i. 【トリリンガル能力】 現地コミュニティとの良好な関係の構築に必要な基礎的な現地言語による会話能力	4	3	2	1
j. 【プレゼンテーション能力】 自分の考えを簡潔にまとめ、他人に分かりやすく伝えることができる力	4	3	2	1
k. 【ディベート能力】 相手の意見を丁寧に聴き、ニーズに合った合意点を生み出すことができる力	4	3	2	1
l. 【チームワーク形成力】 人間関係に関する問題が生じないように配慮しつつ、異なる文化的背景を有する外国人とのチームワークを形成でき、人間関係に関する問題が生じても解決できる力	4	3	2	1

Q13. 海外研修・留学プログラム等に参加したことで、良かった点、改善が必要な点、研修の内容や経験が現在の仕事で役立った点、海外経験が人生観・職業観などに何らかの成果をもたらした点等があれば、具体的にご記入ください。

～質問は以上です。アンケートへのご協力ありがとうございました。～

令和3年3月

修了生 各位

鳥取大学長
中島 廣光

「鳥取大学大学院 修了生アンケート」へのご協力をお願い

拝啓 春暖の候、貴殿におかれましては益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、本学の教育・研究に多大なご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本学では、「知と実践の融合」を教育研究の基本理念に掲げ、「地域学」「医学」「工学」及び「農学」の四つの学部・研究科を中心に「グローバル」で「人間力」を持つ学生の育成を行っています。この実現のため、本学では「授業アンケート」や「学生実態調査」等のアンケート結果に基づき、授業改善や学生支援活動の充実等を行っています。

在学生に関しましては、様々な形でアンケート調査等を行っていますが、本学修了生として見た本学の教育・研究の支援や修得すべきもの、という点も今後の教育・研究支援のあり方を検討する上で重要な視点であり、このたびアンケートをお願い申し上げる次第です。ご多忙中のこととは存じますが、何卒ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、誠に勝手ながら、アンケートはWebアンケート方式で実施させていただきますので、回答は以下のWebサイトから令和3年5月31日(月)までにご回答くださいますよう、お願い申し上げます。

敬具

【修了生アンケート調査票】

<https://forms.gle/WU53bbygRoNptaew8>



※QRコードは、(株)デンソーウェブの登録商標です。

【アンケートの回答方法に関するお願い】

このアンケートへのご協力のお願いは、本学に登録されている、保証人様の住所宛に送付させていただいています。誠に勝手ながら、回答につきましては、卒業生の皆様をお願いしたいと思いますので、就職先等が遠方でご自宅に不在の場合は、休暇等でご帰宅時に回答していただく、メール等を利用してWebサイトのURL等を連絡していただく、または、本文書を転送いただければと思います。

なお、集計の際に回答者個人が特定されるような分析は行ないません。

また、これに係る個人情報等は本アンケート以外に利用しません。

※ご不明な点は、鳥取大学学生部教育支援課教務企画係(鳥取市湖山町南4丁目101、TEL:0857-31-5054、e-mail:st-kyokikaku@adm.tottori-u.ac.jp)までお問い合わせください。

[鳥取大学大学院 修了生アンケート 調査票]

Q1. 修了した時期、修了した大学院の研究科専攻をお答えください。

- (1) 修了時期 1. 平成30年3月 2. 令和元年3月 3. 令和2年3月
- (2) 修了研究科 1. 地域学研究科 (a.地域創造 b.地域教育) 専攻 2. 医学系研究科 (a.生命科学 b.機能再生医科学 c.保健学 d.臨床心理学) 専攻
3. 工学研究科 (a.機械宇宙工学 b.情報エレクトロニクス c.化学・生物応用工学 d.社会基盤工学) 専攻
4. 農学研究科 (a.フィールド生産科学 b.生命資源科学 c.国際乾燥地科学) 専攻
5. 持続性社会創生科学研究科 (a.地域学 b.工学 c.農学 d.国際乾燥地科学) 専攻

Q2. 現在の職業ならびに業種について、お答えください。

- (1) 職業
1. 会社員・団体職員 2. 公務員 3. 教員 4. 自営 5. 専門職(医師・看護師等)
6. 派遣社員 7. アルバイト・パート 8. 試験浪人 9. 学生 10. 専業主婦・主夫
11. その他
- (2) 業種
1. 農業・林業 2. 漁業 3. 鉱業 4. 建設業 5. 製造業 6. 電気・ガス・熱供給・水道業
7. 情報通信業 8. 運輸業・郵便業 9. 卸売・小売業 10. 金融業・保険業 11. 不動産業・物品貸借業
12. 学術研究、専門・技術サービス業 13. 宿泊業、飲食サービス業 14. 生活関連サービス業、娯楽業
15. 教育、学習支援業 16. 医療、福祉 17. 複合サービス事業 18. サービス業(他に分類されないもの)
19. 公務 20. その他

Q3. 鳥取大学(大学院)での授業や研究について、現在どのように感じていますか。

項目	非常に そう思う	ある程度 そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
a. カリキュラムについて、授業内容は充実していた	4	3	2	1
b. 研究室における研究指導は充実していた	4	3	2	1
c. 研究の施設や設備・装置は充実していた	4	3	2	1
d. 学術面での研究業績が優れていた	4	3	2	1
e. 産学共同研究で実績が豊富だった	4	3	2	1

Q4. 鳥取大学(大学院)を総合的に見ると、現在どのように感じていますか。

項目	非常に そう思う	ある程度 そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
a. 大学院の教育内容・研究指導に、全体として満足している	4	3	2	1
b. 大学院の教育・研究は卒業後の仕事や生活に役立っている	4	3	2	1
c. 大学院への進学を学部生に薦めたい	4	3	2	1

鳥取大学のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に示す能力等(DP能力)

<p>■知識・理解(教養教育)■ 文化、社会、自然に関する幅広い知識とその理解</p> <p>■知識・理解(専門教育)■ 特定の専門分野に関する深い知識とその理解</p> <p>■コミュニケーションスキル■ 日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。</p> <p>■数量的スキル■ 自然や社会的事象について、データ、数式やモデルを活用して分析し、理解し、表現することができる。</p> <p>■情報活用スキル■ 多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。</p> <p>■論理的思考力・創造的表現力■ 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。また、新しい価値を生み出すために、自己のアイデアや発想を表現することができる。</p> <p>■問題発見・課題解決力■ 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決することができる。</p> <p>■自己管理・実行力■ 自らを律して積極的に行動し、目的や目標の達成に向けて確実に実行に移すことができる。</p> <p>■生涯学習力■ 卒業後も自律・自立して学び続けることができる。</p> <p>■協働的(リーダーシップも含む)■ 多様な環境下において、他者と協調・協働して行動でき、かつ、他者に方向性を示して目標の実現のために動員することができる。</p> <p>■倫理観■ 自己の良心と社会の規範やルールに従って行動することができる。</p> <p>■責任ある市民としての社会性■ 社会の一員としての意識や役割の自覚を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与することができる。</p> <p>■国際化への対応力■ 日本とは異なる文化、習慣、価値観等を理解するとともに、外国人とのコミュニケーションを通じて様々な課題に柔軟に対応できる。</p> <p>■社会参加への行動力■ 大学での講義、フィールドワーク等を通じて身につけた知識や技術等を生かしつつ、自ら進んで行動し、ボランティア活動等により地域社会に貢献することができる。</p>
--

Q5. あなたは鳥取大学(大学院)での研究や専門教育を通じて、以下のDP能力は、どの程度修得できたと思いますか。

DP能力	大変 修得できた	ある程度 修得できた	あまり修得 できなかった	全く修得 できなかった
a. 知識・理解(教養教育)	4	3	2	1
b. 知識・理解(専門教育)	4	3	2	1
c. コミュニケーションスキル	4	3	2	1
d. 数量的スキル	4	3	2	1
e. 情報活用スキル	4	3	2	1
f. 論理的思考力・創造的表現力	4	3	2	1
g. 問題発見・課題解決力	4	3	2	1
h. 自己管理・実行力	4	3	2	1
i. 生涯学習力	4	3	2	1
j. 協働力(リーダーシップを含む)	4	3	2	1
k. 倫理観	4	3	2	1
l. 責任ある市民としての社会性	4	3	2	1
m. 国際化への対応力	4	3	2	1
n. 社会参加への行動力	4	3	2	1

Q6. (1)あなたが社会に出てから、以下のDP能力は、どの程度役に立ちましたか。

DP能力	大変 役立った	ある程度 役立った	あまり役に 立たなかった	全く役に 立たなかった
a. 知識・理解(教養教育)	4	3	2	1
b. 知識・理解(専門教育)	4	3	2	1
c. コミュニケーションスキル	4	3	2	1
d. 数量的スキル	4	3	2	1
e. 情報活用スキル	4	3	2	1
f. 論理的思考力・創造的表現力	4	3	2	1
g. 問題発見・課題解決力	4	3	2	1
h. 自己管理・実行力	4	3	2	1
i. 生涯学習力	4	3	2	1
j. 協働力(リーダーシップを含む)	4	3	2	1
k. 倫理観	4	3	2	1
l. 責任ある市民としての社会性	4	3	2	1
m. 国際化への対応力	4	3	2	1
n. 社会参加への行動力	4	3	2	1

(2)在学中(大学院)にもっと学んでおけば良かったと思うDP能力があれば、以下の中から3つ選んでください。

DP能力
a. 知識・理解(教養教育)
b. 知識・理解(専門教育)
c. コミュニケーションスキル
d. 数量的スキル
e. 情報活用スキル
f. 論理的思考力・創造的表現力
g. 問題発見・課題解決力
h. 自己管理・実行力
i. 生涯学習力
j. 協働力(リーダーシップを含む)
k. 倫理観
l. 責任ある市民としての社会性
m. 国際化への対応力
n. 社会参加への行動力

Q7. 大学院での授業や研究指導の中で、社会に出てから「これは本当に役立った」と感じるものは、どのようなものでしょうか。
授業科目名や先生の名前等、具体的にご記入ください。

Q8. 今後の鳥取大学大学院における研究指導改善のために、ご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

～質問は以上です。アンケートへのご協力ありがとうございました。～

令和3年3月

各 位

鳥取大学長
中島 廣光

「鳥取大学教育力アンケート」へのご協力のお願い

拝啓 春暖の候、益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、本学の教育・研究に多大なご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本学では、「知と実践の融合」を教育研究の基本理念に掲げ、「地域学」「医学」「工学」及び「農学」の四つの学部・研究科を中心に「グローバル」で「人間力」を持つ学生の育成を行っています。この実現のため、本学では、机上の学びだけでなく、地域のさまざまな現場に赴いて理解を深める「インターンシップ」や「フィールド実習」を実施する他、多様な地域貢献活動に参画することを奨励しております。地域コミュニティの発展や経済の活性化等に貢献でき、地域や職場で活躍できる人材の養成を目指しています。

このような本学卒業生(修了生)がその就職先でいかに評価されているか、という点も今後の教育・学生支援のあり方を検討する上で重要な視点であり、このたびアンケートをお願い申し上げる次第です。ご多忙中のこととは存じますが、何卒ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、誠に勝手ながら、アンケートはWebアンケート方式で実施させていただきますので、回答は以下のWebサイトから令和3年5月31日(月)までにご回答くださいますよう、お願い申し上げます。

敬具

【就職先企業・団体等へのアンケート調査票】

<https://forms.gle/aNGAZYa7Qhx9Gaat6>



※QRコードは、(株)デンソーウェブの登録商標です。

【アンケートの回答方法に関するお願い】

アンケートは、人事・採用ご担当者様にご回答いただくことを想定しています。複数人の卒業生(修了生)がお世話になっている事業所の場合、所属もまた複数、多地域にわたると思われれます。その場合は、人事・採用ご担当者様が、総括してご回答くださるようお願い申し上げます。

なお、集計の際に企業名等並びに回答者個人が特定されるような分析は行ないません。

また、これに係る個人情報等は本アンケート以外に利用しません。

※ご不明の点は、鳥取大学学生部教育支援課教務企画係(鳥取市湖山町南4丁目101、Tel:0857-31-5054、e-mail:st-kyokikaku@adm.tottori-u.ac.jp)までお問い合わせください。

[鳥取大学卒業生 就職先企業・団体等へのアンケート 調査票]

Q1. 貴社の従業員規模(正規従業員)について

1. ~50人 2. 51~100人 3. 101~300人 4. 301~1,000人 5. 1,001人~

Q2. 貴社の業種について

1. 農業・林業 2. 漁業 3. 鉱業 4. 建設業 5. 製造業 6. 電気・ガス・熱供給・水道業
 7. 情報通信業 8. 運輸業・郵便業 9. 卸売・小売業 10. 金融業・保険業 11. 不動産業・物品貸借
 12. 学術研究、専門・技術サービス業 13. 宿泊業、飲食サービス業 14. 生活関連サービス業、娯楽業
 15. 教育、学習支援業 16. 医療、福祉 17. 複合サービス事業 18. サービス業(他に分類されないもの)
 19. 公務 20. その他

Q3. 貴社の本社(本部)の所在地について

() 都・道・府・県

Q4. 貴社でこれまでに採用した、鳥取大学卒業生の実績人数について

1. 1人のみ 2. 2~5人程度 3. 6~10人程度 4. 11~20人程度 5. 21人以上 6. 不明

Q5. 貴社でこれまでに採用した鳥取大学卒業生の、卒業学部・大学院について(複数可)

1. 地域学部(旧教育地域科学部・教育学部を含む) 2. 医学部 3. 工学部 4. 農学部
 5. 地域学研究科(旧教育学研究科を含む) 6. 医学系研究科 7. 工学研究科 8. 農学研究科
 9. 学部卒業者を採用したことはあるが、学部名はわからない
 10. 大学院卒業(修了)者を採用したことはあるが、研究科名はわからない

鳥取大学のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に示す能力等(DP能力)

<p>■知識・理解(教養教育)■ 文化、社会、自然に関する幅広い知識とその理解</p>
<p>■知識・理解(専門教育)■ 特定の専門分野に関する深い知識とその理解</p>
<p>■コミュニケーションスキル■ 日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。</p>
<p>■数量的スキル■ 自然や社会的現象について、データ、数式やモデルを活用して分析し、理解し、表現することができる。</p>
<p>■情報活用スキル■ 多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。</p>
<p>■論理的思考力・創造的表現力■ 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。また、新しい価値を生み出すために、自己のアイデアや発想を表現することができる。</p>
<p>■問題発見・課題解決力■ 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決することができる。</p>
<p>■自己管理・実行力■ 自らを律して積極的に行動し、目的や目標の達成に向けて確実に実行に移すことができる。</p>
<p>■生涯学習力■ 卒業後も自律・自立して学び続けることができる。</p>
<p>■協働力(リーダーシップも含む)■ 多様な環境下において、他者と協調・協働して行動でき、かつ、他者に方向性を示して目標の実現のために動員することができる。</p>
<p>■倫理観■ 自己の良心と社会の規範やルールに従って行動することができる。</p>
<p>■責任ある市民としての社会性■ 社会の一員としての意識や役割の自覚を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与することができる。</p>
<p>■国際化への対応力■ 日本とは異なる文化、習慣、価値観等を理解するとともに、外国人とのコミュニケーションを通じて様々な課題に柔軟に対応できる。</p>
<p>■社会参加への行動力■ 大学での講義、フィールドワーク等を通じて身につけた知識や技術等を生かしつつ、自ら進んで行動し、ボランティア活動等により地域社会に貢献することができる。</p>

Q6. 近年の貴社の新卒採用活動で重視される、学生に求める能力・態度等について、以下の中から3つ選んでください。

a. 知識・理解(教養教育)
b. 知識・理解(専門教育)
c. コミュニケーションスキル
d. 数量的スキル
e. 情報活用スキル
f. 論理的思考力・創造的表現力
g. 問題発見・課題解決力
h. 自己管理・実行力
i. 生涯学習力
j. 協働力(リーダーシップを含む)
k. 倫理観
l. 責任ある市民としての社会性
m. 国際化への対応力
n. 社会参加への行動力
o. その他

Q7. 直近5年間の貴社の新卒採用活動において、学部卒業者と大学院卒業(修了)者に、求める能力・態度等に違いはありますか。

[ある ・ ない]

違いがある場合、どのような能力・態度等をどちらに求められますか。
具体的な違いをご記入ください。

<学部卒業者と大学院卒業者に求める能力・態度等の具体的な違い>

Q8. 鳥取大学卒業生の印象として、何かイメージされる特徴はありますか。有無のどちらかに○をつけてください。

[ある ・ ない]

イメージされる特徴がある場合、どのようなものでしょうか。具体的な特徴をご記入ください。

<イメージされる具体的な特徴>

Q9. (1) 鳥取大学卒業生の印象として「身につけている」と感じられるDP能力を、以下の中から3つ選んでください。

DP能力	
a.	知識・理解(教養教育)
b.	知識・理解(専門教育)
c.	コミュニケーションスキル
d.	数量的スキル
e.	情報活用スキル
f.	論理的思考力・創造的表現力
g.	問題発見・課題解決力
h.	自己管理・実行力
i.	生涯学習力
j.	協働力(リーダーシップを含む)
k.	倫理観
l.	責任ある市民としての社会性
m.	国際化への対応力
n.	社会参加への行動力

(2) 大学での教育や研究指導等において、「もっと身につけておくべき」と感じられるDP能力があれば、以下の中から3つ選んでください。

a.	知識・理解(教養教育)
b.	知識・理解(専門教育)
c.	コミュニケーションスキル
d.	数量的スキル
e.	情報活用スキル
f.	論理的思考力・創造的表現力
g.	問題発見・課題解決力
h.	自己管理・実行力
i.	生涯学習力
j.	協働力(リーダーシップを含む)
k.	倫理観
l.	責任ある市民としての社会性
m.	国際化への対応力
n.	社会参加への行動力

Q10. 今後の鳥取大学における教育や学生支援の改善のために、ご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

～質問は以上です。アンケートへのご協力ありがとうございました。～

「鳥取大学の教育力」アンケート
報告書作成WG

理事（教育担当）, 教育支援・国際交流推進機構長		田村 文男
教育支援・国際交流推進機構 高等教育開発センター長		香川 敬生
高等教育開発センター	教 授	橋本 隆司
高等教育開発センター	教 授	武田 元有
高等教育開発センター	教 授	小林 昌博
高等教育開発センター	准教授	瀬戸 邦弘
高等教育開発センター	准教授	田鍋 良臣
教養教育センター	准教授	箕輪 茂
データサイエンス教育センター	教 授	井上 順子
キャリアセンター	准教授	長尾 博暢
大学評価室	教 授	大野 賢一
学生部教育支援課長		柴田 栄治
学生部教育支援課教務支援係長		松尾 陽輔